

I 令和6年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(宮城県分)」の結果について
〔令和7年10月29日公表〕

1 調査の趣旨(調査主体:文部科学省)

暴力行為やいじめ及び不登校等の生徒指導上の諸課題について、全国の状況を調査・分析することにより、教育現場における取組の一層の充実に資するとともに、実態把握により、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応につなげていく。

2 調査対象期間

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

3 調査対象(令和6年5月1日現在)

- 国公立 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校 在籍児童生徒 (仙台市を含む)
※学校数は休校も含む
- ・ 小学校数 363校(児童数 107, 511人)
- ・ 中学校数 204校(生徒数 57, 020人)
- ・ 高等学校 108校(生徒数 62, 743人)
- ・ 特別支援学校 30校(児童生徒数 2, 728人) ※いじめのみ

4 調査結果の概要
(1) 暴力行為

- 小・中・高等学校における、暴力行為の発生件数は 3,974件であり、児童生徒1,000人当たりの発生件数は17.5件(全国10.4件)である。
- 発生件数は、小学校においては前年度より減少し、中学校と高等学校においては増加している。
- 形態別発生状況では、小学校は、器物損壊以外が減少している。中学校は、全ての種別において増加している。高等学校は、対人暴力以外が増加している。

① 発生件数

校種	種別	R6発生件数 (件)	R5発生件数 (件)	前年度 比較	R6 1,000人当 たりの発生件数 (件)	R5 1,000人当 たりの発生件数 (件)	前年度 比較
	小学校	2,810	3,490	-680	26.1	31.8	-5.7
	中学校	1,064	953	+111	18.7	16.4	+2.3
	高等学校	100	77	+23	1.6	1.2	+0.4
	宮城県全体	3,974	4,520	-546	17.5	19.6	-2.1
	全国	128,859	108,987	+19,872	10.4	8.7	+1.7

② 形態別発生状況

校種	年度等	対教師暴力(件)			生徒間暴力(件)			対人暴力(件)			器物損壊(件)		
		R6	R5	前年度との 比較	R6	R5	前年度との 比較	R6	R5	前年度との 比較	R6	R5	前年度との 比較
	小学校	1,011	1,033	-22	1,508	2,200	-692	17	20	-3	274	237	+37
	中学校	112	73	+39	735	711	+24	13	9	+4	204	160	+44
	高等学校	4	2	+2	47	41	+6	2	3	-1	47	31	+16

③ 調査結果のポイントと今後の対応

【調査結果のポイント】

- 暴力行為の発生件数が高いことについては、以下の要因によるものと考えられる。
 - ・コロナ禍で制限されていた活動が再開されたことで、児童生徒の接触機会が増加したこと。
 - ・幼児期や小学校の時期に、コロナ禍で様々な活動が制限されたことにより、折り合いをつける経験が少ないまま成長した影響。
 - ・特定の児童が、感情を抑えられずに繰り返し行為に及ぶケースの増加。
- 小学校で、暴力行為の発生件数が減少したことについては、スクールカウンセラー（以下、SC）やスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）等の専門職を交えたケース会議*を開き、アセスメントに基づく個別の支援を組織的に行う学校が増えたことで、繰り返し行為に及ぶ児童生徒への適切な支援につなげることができたためと考えられる。

【今後の対応】

- ① 学校・学級づくりによる未然防止の推進
暴力行為が起らないよう、学級づくりや特別活動等を通して、**好ましい人間関係づくり**を推進する。
- ② 専門職や支援員による支援体制の充実
全公立小・中学校、県立学校にSCを配置するとともに、各市町村及び県立高等学校にSSWを配置（市町村については委託）する。
- ③ 県警機関との連携と組織的対応の推進
SCやSSWなど、専門職を交えた**ケース会議を行い**、適切な支援を行うことができるよう、**個別の支援計画**の作成を促すとともに**組織的対応**を推進する。

④ 外部機関との連携

学校と警察間における情報交換と連携強化や各関係機関及び学校種間での**連携・情報共有**を密接に行う。

⑤ 支援員の配置

生徒指導支援として**教員の加配及び警察・教員OB等支援員**の配置を行うとともに、問題行動の未然防止、早期解決のために**学校生活支援員**を配置する。

⑥ 相談体制の強化

特別支援学校のセンター的機能を活用した教育相談を実施するほか、24時間SOSダイヤルやSNS等を活用した相談業務を実施する。

* ケース会議：児童生徒の状況を多角的に分析し、具体的な支援方針や指導方法を確認する会議

(2) いじめ

- 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめ認知件数は11,766件であり、前年度より2,956件減少している。また、児童生徒1,000人当たりの認知件数は51.2件(全国61.3件)である。
- 中学校・高等学校及び特別支援学校の認知件数は前年度より増加し、小学校は減少している。
- 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの解消率は79.6%で、前年度より1.6ポイント増加している。
- 小・中・高等学校及び特別支援学校における重大事態の発生件数は69件であり、前年度より39件増加している。また、児童生徒1,000人当たりの発生件数は0.30件(全国0.11件)である。

① いじめの認知件数

校種	種別	R6認知件数 (件)	R5認知件数 (件)	前年度 比較	1,000人当たりの 発生件数(件)
小学校		9,326	12,405	-3,079	
中学校		2,060	1,989	+71	
高等学校		276	250	+26	
特別支援学校		104	78	+26	
宮城県全体		11,766	14,722	-2,956	
全国		769,022	732,568	+36,454	61.3

② いじめの解消率(小・中・高等学校及び特別支援学校)

区分	R6	R5	前年度比較
宮城県(%)	79.6	78.0	+1.6
全 国(%)	76.1	77.5	-1.4

③ いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数(小・中・高等学校及び特別支援学校)

区分		発生した 学校数(校)	発生件数(件)	法第28条第1項第 1号に規定する発 生件数(件)	法第28条第1項第 2号に規定する発 生件数(件)	1,000人当た りの発生件 数(件)
R 6	宮城県	63	69	28	53	0.30
	全 国	1,255	1,405	768	897	0.11
R 5	宮城県	28	30	15	22	0.13
	全 国	1,185	1,306	648	864	0.10

④ 調査結果のポイントと今後の対応

【調査結果のポイント】

- いじめの認知件数が減少したことについては、以下の要因が考えられる。
 - ・学校における早期対応と予防教育の取組が進み、早期にトラブルが解決され、いじめに発展する前に解消できている。
 - ・SCやSSWなど専門職による相談体制が充実し、「チーム学校」として組織的に対応する体制が強化されている。
 - ・特に、小学校で認知件数が減ったことについては、ケース会議の実施やスクールロイヤー等に相談しながら対応した結果と考えられる。
- 重大事態が増加したことについては、昨年、重大事態に関するガイドラインが改定され、保護者からの申立てや、事案の背景にいじめの「疑い」が生じた段階で調査を開始したケースが増えた結果と考えられる。

【今後の対応】

① 早期対応の徹底

定期的に生活アンケート等を実施し、複数の教員で情報を共有するとともに、積極的な認知と**早期の組織的な対応を徹底**する。また、早期の段階から保護者に連絡し、**児童生徒及び保護者の理解を得ながら対応を進める**。

② 未然防止の取組

スクールロイヤー等を活用したいじめ**予防教室**などを推進し、**児童生徒が自らいじめ防止や魅力ある学校づくりに取り組む意識を醸成する**。

③ 研修・啓発の充実

諸会議や研修会等において、**いじめの重大事態の調査に関するガイドラインや各校のいじめ防止対応マニュアルの確認**を行うよう、周知徹底する。また、県教委作成の「**いじめ対応研修テキスト**」の活用促進を図る。

④ SNSによる被害防止対策

SNS関係については、フィルタリング機能の普及促進、情報モラルの啓発とネットパトロールの実施により、**ネット被害の未然防止**に努める。

⑤ 専門的支援体制の強化

全小・中学校、県立学校に**SCを配置**するとともに、各市町村及び県立学校に**SSWを配置**(市町村については委託)する。

⑥ 相談体制の充実

各教育事務所に専門カウンセラー等を配置して**児童生徒・保護者・教職員からの相談に対応**するとともに、24時間SOSダイヤルやSNS等を活用した**相談業務**も実施する。

(3) 小・中・高等学校の長期欠席(不登校等)

- **不登校児童生徒数は、小学校3,002人、中学校4,723人、高等学校1,857人と全ての校種で減少している。**
- 小・中・高等学校とも、不登校出現率は全国と比べて高い状況である。
- 小・中・高等学校ともに、「欠席日数50日以上」の割合が、全国値より低くなっており、「出席日数が0日」の児童生徒の割合は、小・中学校では、全国より低い。欠席日数の長期化が一定程度抑えられている。

(注) 令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、長期欠席者の定義を新型コロナウイルス感染症流行前と同じ、「児童・生徒指導要録」の「欠席日数」により年度間に30日以上登校しなかった児童生徒について調査している。

① 理由別長期欠席者数

小学校 区分		在籍 児童数①	理由別長期欠席者数				長期欠席 総数	不登校 出現率 (%) ④÷①	不登校 児童数 前年度 比較
			病気 ②	経済的 理由③	不登校 ④	その他 ⑥			
R 6	宮城県	107,511	1,572	0	3,002	314	4,888	2.79	-7
	全 国	5,994,493	61,114	7	137,704	31,840	230,665	2.30	+7,334
R 5	宮城県	109,731	1,328	0	3,009	324	4,661	2.74	
	全 国	6,100,280	57,905	17	130,370	29,946	218,238	2.14	

中学校 区分		在籍 児童数①	理由別長期欠席者数				長期欠席 総数	不登校 出現率 (%) ④÷①	不登校 生徒数 前年度 比較
			病気 ②	経済的 理由③	不登校 ④	その他 ⑥			
R 6	宮城県	57,020	1,049	0	4,723	159	5,931	8.28	-108
	全 国	3,186,476	48,321	21	216,266	11,697	276,305	6.79	+154
R 5	宮城県	58,081	862	0	4,831	154	5,847	8.32	
	全 国	3,220,963	47,933	17	216,112	11,140	275,202	6.71	

高等学校 区分		在籍 児童数①	理由別長期欠席者数				長期欠席 総数	不登校 出現率 (%) ④÷①	不登校 生徒数 前年度 比較
			病気 ②	経済的 理由③	不登校 ④	その他 ⑥			
R 6	宮城県	53,508	744	1	1,857	128	2,730	3.47	-70
	全 国	2,914,578	26,488	313	67,782	9,025	103,608	2.33	-988
R 5	宮城県	53,843	830	5	1,927	104	2,866	3.58	
	全 国	2,925,515	26,268	385	68,770	9,391	104,814	2.35	

② 不登校の内訳

区分		不登校 児童生徒数	内 訳							
			欠席日数 50日以上		欠席日数 30日以上		出席日数 10日以上		出席日数 0日	
宮城県	小学校	3,002	2,068	68.9%	1,203	40.1%	219	7.3%	57	1.9%
	中学校	4,723	3,794	80.3%	2,758	58.4%	419	8.9%	65	1.4%
	高等学校	1,857	716	38.6%	291	15.7%	51	2.7%	14	0.8%
全国	小学校	137,704	97,148	70.5%	60,737	44.1%	10,773	7.8%	3,570	2.6%
	中学校	216,266	175,991	81.4%	131,221	60.7%	26,815	12.4%	7,286	3.4%
	高等学校	67,782	28,387	41.9%	10,088	14.9%	1,776	2.6%	466	0.7%

③ 調査結果のポイントと今後の対応

【調査結果のポイント】

- 不登校児童生徒数が高止まりしている要因については、コロナ禍を経て、児童生徒や保護者における登校に対しての意識が変化してきたことや不登校への理解が深まったことによる登校に対する意識の変化が考えられる。
- 不登校児童生徒数が、全校種で減少しており、各学校で実施している「魅力ある・行きたくなる学校づくり」の成果があらわれていると考えられる。

【今後の対応】

① 個別支援の充実

一人一人の子供の状況に応じた支援ができるよう、SCやSSWを交えたアセスメントの実施と個票活用による組織的・計画的な支援を充実させる。

② 児童生徒主体の学校づくり

新たに学校に登校しない児童生徒を生まないよう「魅力ある・行きたくなる学校づくり」を推進する。

③ 学びの多様化学校との連携

学びの多様化学校を設置する市町村との連携を更に進める。

④ 校内外の学習・自立支援体制の整備

校内教育支援センター(学び支援教室及び別室)の支援を充実させるとともに市町村の教育支援センターの運営支援を行うほか、訪問指導員によるアウトリーチ支援を実施し、学習支援と自立支援の充実を図る。

⑤ 教育相談体制の強化

各教育事務所に専門カウンセラー等を配置して児童生徒・保護者・教職員からの相談に対応するとともに、総合教育センターに設置している「不登校・発達支援相談室」においても公認心理師等による面談・電話相談を行う。

⑥ フリースクール等民間団体との連携

フリースクール等民間団体との連携強化による多様な学びの場や居場所の確保に努める。

(4) 高等学校の中途退学

- 中途退学率は1.8%(全国1.4%)であり、前年度より減少している。

中途退学者数及び中途退学率

区分		R6	R5	前年度比較
宮城県	中途退学者(人)	1,102	1,299	-197
	中途退学率(%)	1.8	2.1	-0.3
全国	中途退学者(人)	44,571	46,238	-1,667
	中途退学率(%)	1.4	1.5	-0.1

Ⅱ 令和6年度における宮城県の不登校児童生徒の現状と対応について(公立小・中学校)

不登校児童生徒(令和6年度宮城県長期欠席状況調査から)

県内公立小・中学校不登校児童生徒 (仙台市を除く)

- ・小学校 1, 771人
- ・中学校 2, 649人 計4, 420人

1 不登校児童生徒の現状

(1) 学年別不登校児童生徒数の前年度との比較について



【調査結果のポイント】

- すべての学年において新規不登校数は減少しており、各学校での取組の成果が表れていると考える。
- 今後も、新規の不登校児童生徒を生み出さないために、「魅力ある・行きたくなる学校づくり」を推進するとともに、アセスメントに基づいて、一人一人の状況に応じた支援を行っていく。

(2) 小学校不登校児童1,771人・中学校不登校生徒2,649人への支援状況

	不登校児童生徒数	学校内での支援			
		学校（月に3～5日程度欠席）	校内教育支援センター	放課後登校	合 計
小学校	1, 771	621	522	169	1, 312
中学校	2, 649	576	1, 024	269	1, 869
合計	4, 420	1, 197	1, 546	438	3, 181

	不登校児童生徒数	学校外での支援				
		ケアハウス	けやき教室	フリースクール	教員による家庭訪問	訪問指導員
小学校	1, 771	202	51	57	649	19
中学校	2, 649	341	53	70	876	24
合計	4, 420	543	104	127	1, 525	43

	不登校児童生徒数	支援の難しい児童生徒
小学校	1, 771	3
中学校	2, 649	6
合計	4, 420	9

※複数の支援を受けている児童生徒がいるため児童生徒数と一致しない

【調査結果のポイント】

- 仙台市を除く不登校児童生徒、小学校1,771人、中学校2,649人への支援を、学校内、学校外の様々な場所で行っている。
- 不登校児童生徒の内、支援の難しい児童生徒数は、小学校で3人、中学校で6人いる。児童生徒や保護者の理解を得られず、支援が難しい状況となった。
- 支援の難しい児童生徒に対しては、今後も学校及び市町村から働き掛けを継続して行っていく必要がある。

2 学校に登校していない児童生徒の支援について

学校に登校していない児童生徒の支援に係る取組全体図

重点

新たに学校に登校しない児童生徒を生まない
取組を推進するとともに、
多様な学びの場と居場所を確保する



主な取組

1 未然防止 ～魅力ある学校づくり～

- ▶みやぎ「魅力ある・行きたくなる学校づくり」推進事業
新たに学校に登校していない児童生徒を生まないための手法を研究
- ▶児童生徒の学習意欲を引き出す分かる授業づくり
＊学力向上の取組で対応



2 初期対応 ～早期発見・早期対応～

3 自立支援 ～事後の対応・ケア～

県教育委員会

企画・立案

▶施策立案機能の強化

未然防止 初期対応 自立支援



教育相談機関

▶相談体制の充実・強化

支援を必要とする児童生徒や保護者を適切な支援につなげるため、相談体制を充実・強化

▶スクールカウンセラー研修事業

スクールカウンセラーの資質向上

▶児童生徒支援ネットワーク事業

各教育事務所に「地域ネットワークセンター」を設置

▶スクールロイヤー活用事業

各教育事務所にスクールロイヤーを配置し、諸課題解決を支援



連携

各教育事務所が中心となり市町村教育委員会や学校の実情に合わせ

▶スクールカウンセラーの派遣・配置

すべての小・中・義務教育学校に配置

▶支援員の派遣・配置

学校に登校していない児童生徒をマンツーマン支援
校内教育支援センターや教育支援センターの取組を支援



▶学校に登校していない児童生徒の支援に関する連絡会・情報交換会

県教委・市町村教委・行政の福祉部門・フリースクール等と開催（年3回）

連携

フリースクール（民間施設・団体）

市町村教育委員会

学校

▶スクールソーシャルワーカー活用事業
すべての市町村にスクールソーシャルワーカーを配置

学びの多様化学校

- 加配教員の配置
- スクールカウンセラーの配置

校内教育支援センター

▶校内教育支援センター支援事業
学び支援教室と別室の取組を支援

学び支援教室

- 学び支援教室専任教員等の配置
- 学び支援教室施設整備費の補助

別室

- 市町村が配置する支援員への補助



教育支援センター

▶みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業
居場所・学びの場である「心のケアハウス」の運営を支援

▶アウトリーチ支援員配置事業
フリースクール等へのアウトリーチ支援



心のケアハウス

- 運営費補助
- アウトリーチ支援員の配置

連携

支援員派遣
アウトリーチ
自立支援

1 趣 旨

「全国学力・学習状況調査を、『結果を待つ』から、
『学びに生かす』取組へ

調査直後に「振り返り表」で自己採点を行うことで

- 主体的な学びに向かう態度の形成
- 学習意欲の向上

2 試行実施

- ・ 塩竈市、登米市において小学校2校、中学校1校を抽出し、実施する。対象は小5、中2とする。
- ・ 今年度の全国学力・学習状況調査の算数・数学の問題を活用して実施する。
- ・ 実施後の自己採点では、振り返り表やポイント解説、解説動画を活用する。
- ・ 教員は、児童生徒が記入した振り返り表を分析し、授業改善に役立てる。

3 今後の予定

児童生徒アンケートや教師の聞き取り結果を分析し、来年度4月の本格実施に向け検討する。

【 振り返り表のイメージ 】

全国学力・学習状況調査（令和7年度問題） 振り返り表（小学校算数）

5年 組 番 氏名

☐に○、×を書いて自己採点をし、振り返りましょう。

2	(1)	コンパスを開く長さ	針をさす場所	(1) は長さ2つとも合っていたら○	(1)
		3 c m	頂点 C		
	(2)	1	3	5	(3)
			ウ	(2) は3つとも合っていたら○	(2)
	番号 1 を選んだ場合			番号 2 を選んだ場合	
	求め方 【条件①】 三角形の面積の求め方を書いて いる。 (例) 三角形アイオの面積は $6 \times 2 \div 2$ で求めることができます。			求め方 【条件①】 三角形の面積の求め方を書いて いる。 (例) 三角形ウエオの面積は $2 \times 2 \div 2$ で求めることができます。	
	【条件②】 台形の面積の求め方を書いてい る。 (例) 台形イウエオの面積は $(6 + 2) \times 2 \div 2$ で求めることができま す。			【条件②】 ひし形の面積の求め方を書いて いる。 (例) ひし形アイウオの面積は $6 \times 4 \div 2$ で求めることができます。	
	番号			番号	
	条件①			条件②	
	(4)			(4)	

これを押さえれば
ばっちり

平行四辺形、ひし形、台形、
それぞれの性質をもう一度確認
しておこう！

番号、条件①、条件②、3つ全部に○
がついたら4に○

2	できた/できなかった理由	次に向けて

《振り返って確かめてみよう》

2	関連する単元名	教科書のページ
(1)	小4 垂直、平行と四角形	小4下 P.28
(2)	小4 垂直、平行と四角形	小4下 P.25～26
(3)	小4 角の大きさ	小4上 P.60
(4)	小5 四角形と三角形の面積	小5下 P.61

1 目的

- 生徒の学力状況及び学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導等の改善に役立てる。
- 学力状況については、第2学年における、学習指導要領に示された学習内容の定着状況を把握する。
- 学習状況等については、第1学年及び第2学年の授業理解度や家庭学習時間等の学習状況、睡眠や学校生活の満足度等の心身の健康状態、志教育に関する意識を把握する。

2 調査対象

公立(県立、仙台市立、石巻市立)
高校73校 中等教育学校1校
1年生 12,095人
2年生 12,165人

3 実施期間

令和7年6月30日(月)～7月7日(月)

4 調査項目等

- 学力状況に関する調査(国語、数学、英語):第2学年
各教科、共通問題に加え学校選択問題A・Bを設定
 - * A問題／基礎的・基本的な内容の問題
 - * B問題／基礎的・基本的な内容及び応用力をみる問題
- 学習状況等に関する質問調査:第1・2学年
 - ・生徒の学習状況
 - ・心の有り様
 - ・志教育に係る意識等

5 調査結果の分析

- 慶應義塾大学SFC研究所に運用と保守を委託している「みやぎ学力状況調査分析システム」を用いて、学力状況及び学習状況等に関する調査の回答を集計し、県全体の傾向を分析している。
- 調査結果については、2つ以上の設問を組み合わせることで集計すること(クロス集計)が可能であることから、単純な集計結果だけではわからない細かい傾向を見ることができるため、より深い分析ができる。
- 全教員が分析システムにアクセスできるため、学校ごとの分析だけでなく、学科、学年、クラス別の分析も可能となっていることから、学校運営やクラス経営、教科指導等、用途に応じた分析も可能である。

6 調査結果の活用

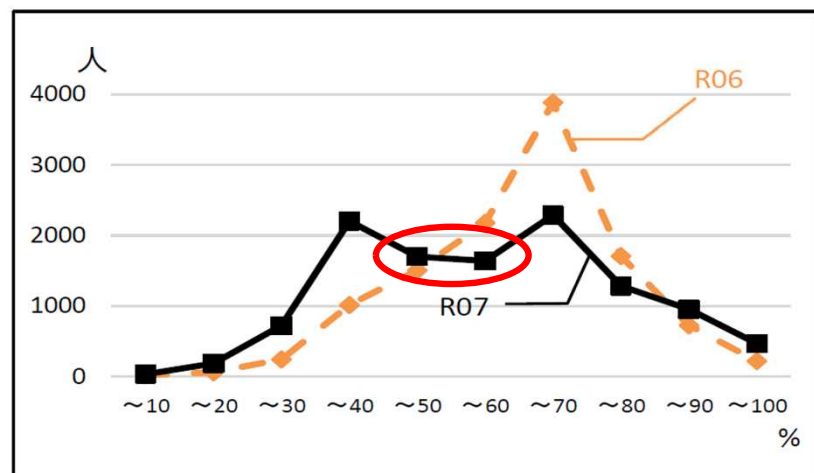
- 高校は、教育目標や生徒の学習・生活の実情等が学校ごとに異なることから、各校において指標となる数値を確認したり、経年度比較したりすることにより、学力状況及び学習状況等の現状を把握し、自校の学力状況及び学習状況等の分析を行い、授業改善、学習指導及び進路指導等の充実に向けた対策づくりに活かしている。
- 各校の分析状況や授業改善、学習指導及び進路指導等の充実に向けた対策の好事例については、教務主任会議等を通じて全校に紹介し、情報共有している。

令和7年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

7 学力状況調査結果の概要(2学年)

(1)国語

イ 概況



【共通問題・国語】正答率の度数分布

- 共通問題の正答率は、55.4%。(昨年度比 -4.7ポイント)
- 共通問題の度数分布は、正答率40~60%の中間層が薄く、M字型のグラフとなった。
- 文学的文章の表現の特色を捉える問題の正答率が、昨年度と同傾向問題と比較して19.9ポイント低下した。

□ 考察と課題 (◇比較的できている点、◆課題のある点)

◇ スピーチや質疑応答の場面における表現の工夫の仕方については、おおむね理解できていたといえる。

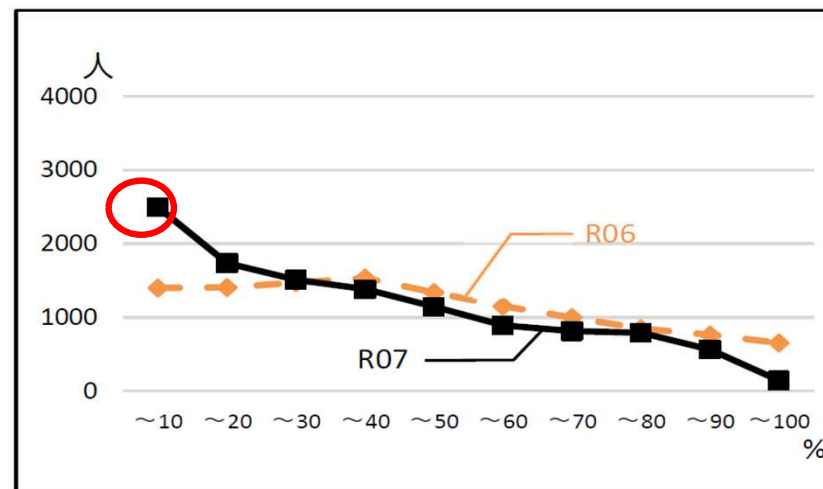
◆ 論理的文章を読んで、文章中の情報と情報との関係を適切に捉えることに課題がある。

◆ 文学的文章を読んで、作品の表現の仕方、特色を適切に捉え、評価することに課題がある。

【まとめ】 A問題選択者とB問題選択者とで、共通問題の正答率分布に差が見られた。特に、現代文、古典ともに内容把握の問題での差が顕著であり、下位層の生徒に対しては、本文中の叙述を根拠にしながら、考える力を育成する必要がある。

(2)数学

イ 概況



【共通問題・数学】正答率の度数分布

- 共通問題の正答率は、39.0%。(昨年度比 -4.5ポイント)
- 共通問題の度数分布は、正答率10%以下の生徒が最も多く、階級ごとの度数は単調減少する形となった。
- 昨年度と比較して、図形と計量で10ポイント以上の上昇が見られた一方で、二次不等式で12.6ポイントの低下が見られた。

□ 考察と課題 (◇比較的できている点、◆課題のある点)

◇ 因数分解を用いて二次方程式を解く問題では、たすきがけを用いた因数分解について定着がみられる。

◆ 数と式では、絶対値の求め方の理解に課題がある。

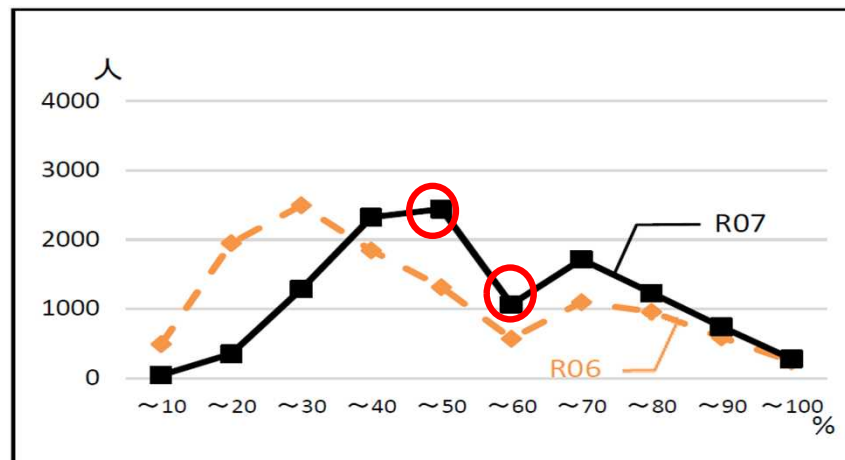
◆ 二次関数では、平方完成とグラフの活用に課題がある。

◆ データの分析では、仮説検定の考え方を理解していないことに課題がある。

【まとめ】 昨年度と比べて下位層の増加が顕著なことから、授業において、定期的に義務教育段階の学習内容と関連付けたり、発展的内容へ進む場合には振り返りの機会を多く設けたりするなど、学習内容を着実に身に付けられるよう、単元計画等を工夫する必要がある。

令和7年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

(3) 英語 イ 概況



【共通問題・英語】正答率の度数分布

- 共通問題の正答率は、51.2%。(昨年度比 +10.7ポイント)
- 共通問題の度数分布は、昨年度と同様にM字型となり、中間層を見ると正答率40～50%の生徒が最多となり、50～60%の生徒は少なくなっている。
- 昨年度と比較して、リスニング問題の正答率が最大45.8ポイント上昇した。

□ 考察と課題 (◇比較的できている点、◆課題のある点)

◇ 英語の文章を読んで、読み取る箇所が限定的である場合には、必要とする情報を探し出すことはできている。

◆ リスニングでは、発話の状況を考え、その状況を正しく捉えることに課題がある。

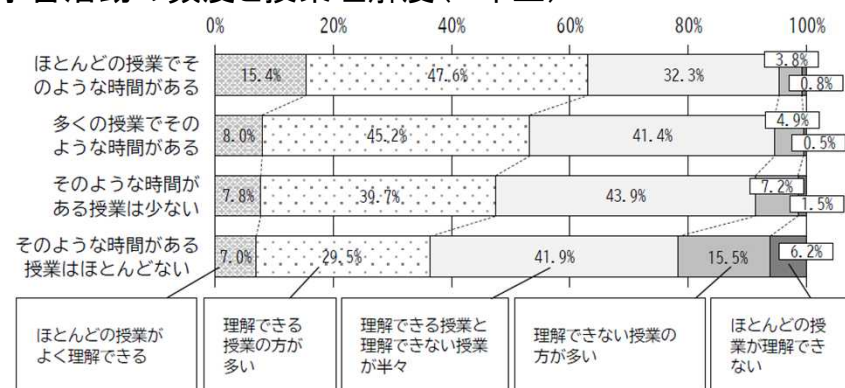
◆ 英語の文章を読んで、文章の構造を捉えながら理解することや、出来事を時系列に沿って整理し正しく読み取ることに課題がある。

【まとめ】 A問題選択者とB問題選択者とでは、社会的な話題についての文章を読み、概要や要点を捉える問題で正答率に大きな差が見られた。基礎・基本となる知識・技能を定着させる指導に加え、読んだ内容を図や表を用いてまとめる等、学習活動の工夫が必要である。

8 学習状況等に関する調査結果の概要(1学年・2学年)

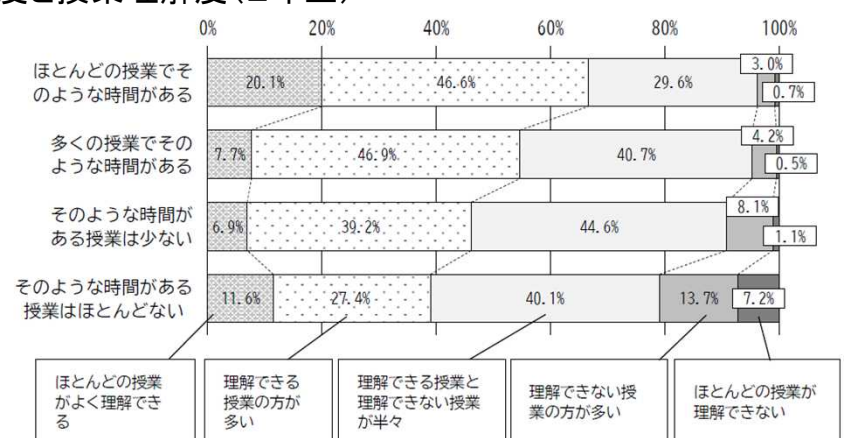
(1) 学習状況

イ 自分の考えを发表或し、ペアやグループで話し合ったりする学習活動の頻度と授業理解度(2年生)



【分析】 発表や話し合いの時間があると回答したグループほど、授業理解度が高い傾向があり、ペアやグループ活動に取り組ませることは、学習内容を理解させる一つの手立てとして効果的。

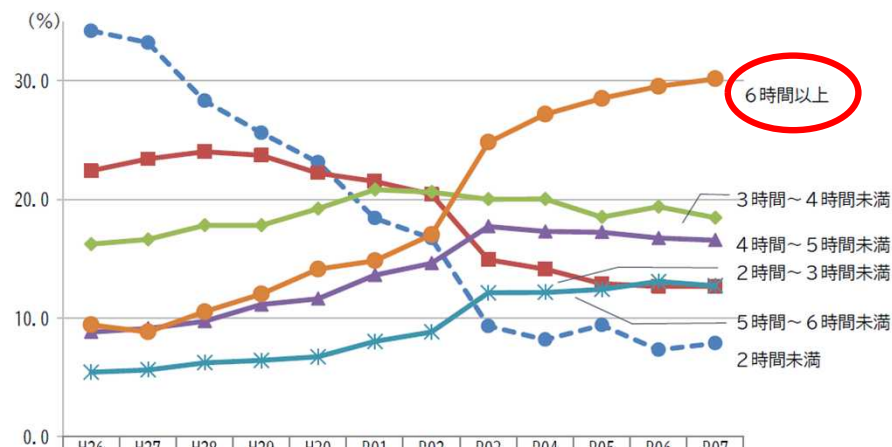
ロ 授業の中で、課題を見つけたり、解決したりする学習活動の頻度と授業理解度(2年生)



【分析】 生徒自身が課題を見つけたり、解決したりする学習活動を多く設定している授業ほど、授業理解度が高い傾向にある。

令和7年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

ハ 休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間 (2年生)



[分析]

- 令和2年度以降、長時間使用している生徒の割合が大きく増加し、特に「6時間以上」の増加の度合いが著しい。
- スマートフォン等の長時間使用割合が上昇したことにより、生徒の生活リズムの乱れや家庭学習時間の減少など、日常生活や学習面にも影響が及んでいると考えられる。

[まとめ]

生徒自身に日常を振り返らせ、自己の生活習慣を主体的に改善しようとする態度を養う必要がある。

今後、LHR等において、生徒が自己を振り返り、スマートフォンとの付き合い方や時間の使い方について考える機会を設ける等の対策を講じる。

令和 7 年度公立高等学校 みやぎ学力状況調査 分析結果報告書

Pick Up! 国語・数学・英語	P. 1
I 調査の概要	P. 7
II 学力状況に関する調査結果の分析	P. 8
1 国語	
(1) 調査問題の内容	P. 8
(2) 調査結果の分析	P. 8
(3) 分析結果から考える授業づくりのポイント	P. 11
【資料編】各設問の正答率 等	P. 13
2 数学	
(1) 調査問題の内容	P. 17
(2) 調査結果の分析	P. 17
(3) 分析結果から考える授業づくりのポイント	P. 22
【資料編】各設問の正答率 等	P. 24
3 英語	
(1) 調査問題の内容	P. 32
(2) 調査結果の分析	P. 32
(3) 分析結果から考える授業づくりのポイント	P. 35
【資料編】各設問の正答率 等	P. 37
III 学習状況等に関する調査結果の分析	P. 43
1 学習状況	P. 43
2 心身の健康、志教育等	P. 58
IV 学力向上に向けた今後の取組	P. 61
V 学習状況等に関する調査 設問ごとの結果	P. 62
VI 学習状況に関する調査の回答と 学力状況に関する調査の共通問題正答率の関係	P. 76

文章中の情報と情報との関係を捉えること

令和7年度調査問題

第2問（論理的な文章）

問1 ☒ 段落と ☒ 段落との関係を説明したものとして最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ① 言葉の持つ働きについて、☒ 段落で述べた内容に対し、☒ 段落では問題点を挙げながら反論している。
- ② 言葉の持つ働きについて、☒ 段落で述べた上で、☒ 段落でも異なる観点から説明している。
- ③ ☒ 段落で述べた言葉の持つ働きについて、☒ 段落では要点を整理して主張を述べている。
- ④ ☒ 段落で述べた言葉の持つ働きについて、☒ 段落では具体例を示しながら詳述している。

設問の
ねらい

情報と情報との関係について理解しているかをみる

正答率

56.0%

【表1】誤答の類型と選択

誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
		①	②	③	④
43.6	0.4	4.6	○	14.1	24.9

【表2】他問題との比較

令和7年度(R7) 第2問(論理的な文章)における問1～問4の正答率

	問1	問2	問3	問4
正答率(%)	56.0	67.9	59.8	59.8

分析と考察

平成30年改訂の学習指導要領において、「知識及び技能」の指導事項として「情報の扱い方に関する事項」が新設されたことを受け、情報と情報との関係についての理解をみる問いを新たに設定した。

生徒はどこでつまづいたのか？

☒ 段落の冒頭には、接続詞「また」があることから、前段と後段が並列的な関係にあることがわかる。ここでは、前段の ☒ 段落で言葉の持つ働きについて述べた上で、☒ 段落でも異なる観点から説明している。誤答の選択肢を選んだ生徒は、段落間の関係を把握する際に、接続詞の働きに着目することができていなかったと考えられる。特に誤答の選択肢である④を選んだ生徒は、2つの段落が抽象と具体の関係にあると捉えていたと考えられる。具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念を具体的な事例で説明したりするといった具体と抽象の概念の理解にも課題があるといえる。

情報と情報との関係を捉えることに課題

第2問のうち、情報と情報との関係についての理解をみる問1の正答率は、問2～問4と比較して下回っている【表2】。接続表現は、話や文章を構成する上で、大切な役割を果たしている。文章の構造や論理展開を把握し、要旨を的確に捉えるために、接続表現に着目することが大切である。

高校入試の結果分析から

説明的な文章において、文章の構成や論理展開を把握し、要旨を捉え、表現することに課題があることは、現2年生が受験した令和6年度高校入試の結果分析※でも指摘したとおり、継続的な課題といえる。

※令和6年度宮城県公立高等学校入学選抜学力検査「国語」第四問 問四（文脈に即して筆者のものの見方を捉え、適切に表現する問題）

課題への対応

「現代の国語」の「知識及び技能」(2)情報の扱い方に関する事項について指導する際には、「思考力、判断力、表現力等」の指導事項と関連付けることが重要である。例えば、「読むこと」の指導において、論理的な文章を読む際に、思考ツールを活用してキーワードや文、文章の関係性を図式化して情報を整理し、文章の構成や論理展開を把握した上で、その内容について要約をしたり、批評したりする活動を取り入れることも有効である。

「授業づくりのポイント」
P. 11

本文の表現の特色やその効果を捉えること

令和7年度調査問題

第3問（文学的な文章）

問4 本文の表現の特色を説明したものとして最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ① 陶土に初めて触ったシンシアが陶芸にのめり込んでいく様子の描写に倒置法を用いることで、シンシアがリーチの教えに従いながら自らの作風を打ち立てたことを強調している。
- ② 「ぱっくりと」や「ひゅっと」などの擬態語や擬音語を用いることで、窯から取り出した器の様子を具体的にイメージしながら、焼成の結果に対する亀乃介の心情を捉えやすくしている。
- ③ 「我孫子窯」が火事になってしまったときのエピソードを挿入することで、現在の状況に希望を持たせるとともに、苦難を乗り越えながら陶芸家として成長していく亀乃介の未来を想起させている。
- ④ 「呼吸をしているように」や「日だまりのような」などの直喩を用いることで、リーチが創る器の特徴や、亀乃介の創った器を温かな表情でみつめるリーチの様子を読者に印象付けている。

設問の
ねらい

本文の表現の特色を叙述に基づいて捉えられるかをみる

正答率

40.0%

【表1】誤答の類型と選択

誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
		①	②	③	④
59.1	0.9	9.5	19.4	30.2	○

【表2】他問題との比較

令和4年度(R4)～令和6年度(R6)に出題した同傾向問題との比較

	R4	R5	R6
正答率(%)	54.2	55.5	59.9

分析と考察

本文の表現の特色やその効果について、叙述に基づいて捉えられるかをみる問題である。

生徒はどこでつまづいたのか？

直喩などの比喩には、物事を他のものにたとえて表現することで、わかりやすく生き生きと伝えたり、印象深く描き出したりする効果がある。誤答の選択肢を選んだ生徒は、「呼吸をしているように」や「日だまりのような」などの比喩表現を用いる意味や効果を捉えることができなかったと考えられる。また、誤答の選択肢にある倒置法、擬態語や擬音語、エピソードの挿入は、本文中で用いられているものである。比喩表現だけではなく、その他の表現の特色がもたらす効果も、正しく捉えることができなかったといえる。

表現の特色を捉えることに課題

本文の表現の特色や内容の把握に関する問題の正答率は、過年度の調査における同傾向問題と比較して低下した【表2】。本文の表現の特色や用いられている表現技法が、作品や文章の中でどのような効果をもたらしているのかを、叙述に基づいて捉えることに課題があるといえる。登場人物の心情の変化や情景の描写などが、どのような表現で描かれているかに着目することが大切である。

高校入試の結果分析から

文学的な文章において、文章の表現の特徴を捉えることに課題があることは、現1年生が受験した令和7年度高校入試の結果分析※でも指摘したとおり、継続的な課題といえる。

※令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「国語」第三問 問六（文章の表現の特徴を捉えることができるかをみる問題）

課題への対応

学習指導要領解説に、国語科の課題として、「文章の内容や表現の仕方を評価し、目的に応じて適切に活用すること」が挙げられている。課題を解決するためには、語句の使い方や言い回しの特徴、表現技法など、その作品や文章における表現上の特色を捉えた上で、評価する活動が効果的である。例えば、表現の効果が適切なものであるか、自分の知識や経験に照らし合わせて優れた工夫といえるかなどについて検討し、批評文を書いたり議論したりする活動を取り入れることも有効である。生徒の実態に合わせて言語活動を工夫していきたい。

「授業づくりのポイント」
P. 12

二次関数のグラフを用いて、二次不等式の解を求めること

令和7年度調査問題

A-14/B-6

2次不等式 $x^2 \geq 9$ の解は ソ/キ である

- ソ/キ： ① $x = 3$ ② $x = \pm 3$ ③ $x = \frac{9}{2}$
- ④ $x \geq 3$ ⑤ $x \geq -3$ ⑥ $x \geq \frac{9}{2}$
- ⑦ $-3 \leq x \leq 3$ ⑧ $x \leq -3, 3 \leq x$

正答率

40.7%

設問の
ねらい

二次関数のグラフとx軸との位置関係から二次不等式を解くことができるかをみる

【表1】誤答の類型と選択

誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)				正答
		②	④	⑦	①、③、⑤、⑥	
58.7	0.6	17.5	16.6	12.4	12.2	⑧

【表2】過去問題との比較

出題年度	R4	R5	R6
正答率(%)	43.4	39.8	53.3
選択型	共通	共通	共通

分析と考察

二次関数のグラフとx軸との交点を調べ、二次不等式の解を求める問題である。

生徒はどこでつまづいたのか？

選択肢②は与式を $x^2 = 9$ とし、その解を求めたもの、選択肢④は $x^2 \geq 3^2$ の両辺の2乗を外したものである。いずれの誤答についても二次方程式 $x^2 = k^2$ の解法と混同していることがわかる。

また、選択肢⑦については二次方程式 $x^2 = 9$ を解くことはできているが、二次関数のグラフとx軸との位置関係から二次不等式が表す解を捉えられていないことが推察される。

グラフを活用し、二次不等式を解くことに課題

今年度の正答率は、令和6年度に出題した同分野の問題と比べ、12.6ポイント低下している。今年度は移項を行い、 $x^2 - k^2 > 0$ に直してから、因数分解をしなければならず、解くための手順が増えている。また、 $x^2 > k^2$ という形から、二次関数のグラフとx軸との交点を求め、それを用いて解くという解法の流れがイメージしにくいことも正答率が低下した要因と考えられる。 $x^2 > k^2$ 型の二次不等式を解く際に、必要な式変

形を行ったり、グラフを活用したりすることに課題がある。

高校入試の結果分析から

現2年生が受験した令和6年度高校入試※において、二次式の因数分解を扱う問題の正答率が82.7%と高く、二次式の計算上での扱い方についてはできている。

※令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「数学」第一問 5(因数分解をする力をみる問題)

課題への対応

二次不等式の学習においては、二次関数のグラフを図示し、x軸との関係を視覚化して考えさせることが重要である。二次方程式を解き、交点の値を求めるだけではなく、ICTを用いるなどして、グラフを積極的に活用して、理解を深める授業づくりが大切である。

「授業づくりのポイント」

P. 23

Pick Up!
数 学

改善・充実を図りたい事項②

二次関数のグラフを活用して、最大値を考察すること

令和7年度調査問題

B-14

$a < 2$ とする。二次関数 $y = -2(x - a)^2 + a + 3$ ($0 \leq x \leq 4$) の最大値が 2 であるとき、定数 a の値をすべて求めると、 $a =$ テ である。

- テ： ① 1 ② -1 ③ $-\frac{1}{2}$ ④ $-1, \frac{1}{2}$
- ⑤ -1, 1 ⑥ $-\frac{1}{2}, 1$ ⑦ $-1, -\frac{1}{2}$ ⑧ $-1, -\frac{1}{2}, 1$

正答率

8.9%

設問の
ねらい

放物線の軸の位置で場合分けを行い、二次関数の最大値から定数の値を求めることができるかをみる

【表1】誤答の類型と選択

誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)					正答
		⑥	④	⑦	②	①、⑤、⑧	
84.5	6.7	23.0	16.4	15.6	11.1	18.4	③

【表2】過去問題との比較

出題年度	R4	R5	R6
正答率(%)	25.3	14.7	13.2
選択型	B	B	B

分析と考察

放物線の軸の位置で場合分けを行い、二次関数の最大値について考察する問題である。

生徒はどこでつまづいたのか？

選択肢④と⑥は、最大値を求める際に、軸と定義域の位置関係を考慮せずに、 $x = 0$ を代入して計算したものと推察される。また、選択肢②は、頂点で最大値をとると考え、 $x = a$ を代入して計算したものと推察される。いずれの誤答も場合分けを行っていないことが推察される。

また、選択肢⑦は、場合分けはできているが、求めた定数 a が条件を満たすかを確認していない、または確認が不十分であったことが推察される。

グラフの活用と条件の確認に課題

場合分けをしていない誤答が多いことから、放物線のグラフの軸と二次関数の最大値が関連付けられていないことに課題がみられる。

加えて⑦の誤答から、計算によって求めた値が条件を満たしているかの確認が不十分であることにも課題がある。

高校入試の結果分析から

現2年生が受験した令和6年度高校入試※において、二次関数を扱う基本的な問題の正答率は71.0%であり、二次関数のグラフ上の点の座標を求めることについては定着がみられる。

※令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「数学」第二問3(1)(座標を求める力をみる問題)

課題への対応

定数 a の値によって、二次関数の最大値や最小値が変化することを、ICTを用いて、アニメーションなどで具体的に提示することが重要である。また、場合分けを行う際には、グラフをかくことで、軸と定義域の位置関係を視覚的に捉える活動や、計算によって得られた数値が条件を満たしているかを確認したり、自らの解答を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。

「授業づくりのポイント」

P. 23

Pick Up!
英語

改善・充実を図りたい事項①
テキストを読み、その要点を把握すること

令和7年度調査問題

9-A (5) (「読むこと」(社会的な話題)に関する問題)

あなたは、次の英文の内容について、メモ (Your Notes) にまとめようとしています。英文を読み、Your Notes の ホ ~ メ に入る最も適切なものを、(1)~(5)の指示にしたがって、1~4の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(5) Choose the best option for メ .

- 1 Do what you can do to make skilled workers' bonds stronger
- 2 Turn your local area into a center of business for the people living there
- 3 Try to improve the quality of products even when you cannot make money
- 4 Keep working alone to make good eyeglasses through determination

設問のねらい 社会的な話題に関して書かれたテキストについて、その要点を把握しているかをみる

正答率

27.0%

【表1】誤答の類型と選択

誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
		1	2	3	4
71.3	1.7	18.9	26.0	○	26.4

【表2】過去問題との比較

出題年度	R5	R6
正答率(%)	21.4	28.5

令和5年度(R5)、令和6年度(R6)に出題した「社会的な話題に関して書かれたテキストについて、その要点を把握する問題」の正答率(%)

分析と考察

9-A (5) は、社会的な話題に関して 300 語程度の英語で書かれたテキストを読み、その要点を把握する問題である。

生徒はどこでつまづいたのか？

(5) では、「主人公が伝えたかったメッセージは何か」が問われており、その発言や信条が書かれている部分に注目する必要がある。誤答の2や4を選んだ生徒は、要点が把握できていなかったため、本文と同じ表現やそれに近い表現が含まれている選択肢を選んだものと考えられる。正答の選択肢では、表現が言い換えられていることに気付かなかったものと推察される。

過去問題との比較

令和5年度、令和6年度も今年度と同程度の長さのテキストを読んで要点を問う問題を出題した。これらの正答率は、【表2】に示すとおり、令和5年度は21.4%、令和6年度は28.5%であった。近年、長めのテキストを読んで要点を捉える問題の正答率は低く、限られた時間の中でテキストを読み、その要点を的確に把握することに引き続き課題があると考えられる。

高校入試の結果分析から

要点を的確にとらえる問題の正答率は低く、その力を伸ばすことに課題があることは、現2年生が受験した令和6年度高校入試の結果分析※でも指摘したとおり、継続的な課題といえる。

※令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「英語」第四問4(2)(要点を捉えることができるかをみる問題)

課題への対応

学習の初期段階では、長めのテキストを読ませて要点を捉えさせるには、教師が目的を設定して、テキストを読ませ、主張文と支持文との関係など、英文の文章構造を指導することが大切である。テキストを読み終えた後に、自分自身の言葉で要点をまとめ、英語で話したり、書いたりするとともに、ペアやグループで自分の考えた要点を共有するなどの活動を通して、要点を的確に読み取れるようにすることが大切である。

「授業づくりのポイント」

P. 35

Pick Up!
英語

改善・充実を図りたい事項②
テキストを読み、その出来事の時系列を把握すること

令和7年度調査問題

9-B (4) (「読むこと」(社会的な話題)に関する問題)

あなたは、次の英文の内容について、メモ (Your Notes) にまとめようとしています。英文を読み、Your Notes の ホ ~ メ に入る最も適切なものを、(1)~(5)の指示にしたがって、1~4の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(4) For ム, you want to put the following events into the order in which they happened. Choose the correct order.

- [a] : She started protecting the environment.
[b] : She left an oxygen tank near the top of Everest.
[c] : She completed the summits of the seven continents.

- 1 [b] → [c] → [a]
2 [b] → [a] → [c]
3 [c] → [b] → [a]
4 [c] → [a] → [b]

設問のねらい 社会的な話題に関して書かれたテキストについて、その出来事の時系列を把握しているかをみる

正答率

20.4%

【表1】誤答の類型と選択

誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
		1	2	3	4
77.8	1.8	○	22.0	39.5	16.3

【表2】過去問題との比較

出題年度	R6
正答率 (%)	46.0

令和6年度 (R6) に出題した「社会的な話題に関して書かれたテキストについて、その出来事の時系列を把握する問題」の正答率 (%)

分析と考察

9-B (4) は、社会的な話題に関して 500 語程度の英語で書かれたテキストを読み、出来事の時系列を把握する問題である。

生徒はどこでつまづいたのか？

(4) は、9の他の問題と比較して正答率が著しく低かった。テキストに書かれている順番と実際の時系列が異なる仕立てであったため、各出来事がいつ起きたのかをよく読み取る必要があった。誤答の中で最も選択率が多かった3の選択肢を選んだ生徒は、テキスト中に書かれた順番で出来事の時系列を判断したため、実際の時系列と異なる選択肢を選んでしまったと考えられる。

過去問題との比較

【表2】のとおり、令和6年度の正答率は46.0%であり、今年度と同様、テキストに書いてある順番どおりの選択肢を選んだ誤答が最も多かった。令和7年度は、正答率が25.6ポイント低下しているが、その要因として、令和6年度はテキスト中に出来事の起こった年が明記されていた一方で、令和7年度はそれが明記されておらず、テキストの別箇所を参照して、その年を読み取る必要があったことが考えられる。

高校入試の結果分析から

複数の情報を整理して、情報を過不足なく読み取れるようになることに課題があることは現2年生が受験した令和6年度高校入試の結果分析※でも指摘したとおり、継続的な課題といえる。

※令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査「英語」第四問2 (情報を整理することができるかをみる問題)

課題への対応

時を表す表現や話の流れを示すディスコースマーカーに注意して内容を把握するように指導することが大切である。登場人物や出来事を図や表にまとめて整理する活動を取り入れるなどして、情報や内容、出来事の流れを把握できるように学習活動を工夫することが大切である。また、図表にまとめたものをペアやグループで共有するアウトプット活動も取り入れたい。

「授業づくりのポイント」
P. 35

I 調査の概要

1 学力状況に関する調査

- (1) 目的 生徒の学力状況を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 73校
中等教育学校 1校
2年生（中等教育学校は5年生） 12,165人
- (3) 実施期間 令和7年6月30日（月）から7月7日（月）までの間、各学校で実施
- (4) 実施内容
- ① 実施教科
- 国語、数学、英語の3教科
 - 該当教科の必修科目において学習した基礎的・基本的な内容を中心に出題し、平均正答率を50%と設定
 - 各教科、共通問題に加え学校選択問題を設定
 - ※ 学校選択型A用問題は基礎的・基本的な内容の問題を設定（数学及び英語の学校選択型A用問題は義務教育段階の内容も含む）
 - ※ 学校選択型B用問題は基礎的・基本的な内容の問題及び応用力をみる問題を設定
- ② 実施人数
- 国語 11,488人（A問題選択57校5,164人、B問題選択29校6,324人）
数学 11,468人（A問題選択58校5,409人、B問題選択28校6,059人）
英語 11,474人（A問題選択58校5,415人、B問題選択28校6,059人）
※ 複数課程を併置または分校を置く学校については、各課程・分校をそれぞれ1校として学校数を算出（全日制68校、定時制15校、分校3校 計86校）

2 学習状況に関する調査

- (1) 目的 生徒の学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 73校
中等教育学校 1校
1年生（中等教育学校は4年生） 12,095人
2年生（中等教育学校は5年生） 12,165人
- (3) 実施期間 令和7年6月30日（月）から7月7日（月）までの間、各学校で実施
- (4) 実施内容
- ① 調査内容
生徒の学習状況、心の有り様及び志教育に係る意識等に関する質問調査
- ② 実施人数
- 1年生（中等教育学校は4年生） 11,710人（回収率96.8%）
2年生（中等教育学校は5年生） 11,670人（回収率95.9%）

Ⅱ 学力状況に関する調査結果の分析

1 国語

(1) 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、高等学校第1学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を中心に出题した。なお、「現代の国語」及び「言語文化」の目標及び内容を踏まえて出题している。

(2) 調査結果の分析

(◇ 比較的できている点 ◆ 課題のある点)

〔知識及び技能〕 (言葉の特徴や使い方に関する事項)

『文脈に即して漢字を正しく読むことと書くことに課題』

◇ 相手や場に応じた表現についての知識や技能を活用できるかをみる問題では、2問ともに70%を超える正答率であった。スピーチや質疑応答の場面における表現の工夫の仕方については、おおむね理解できていたといえる。〔1〕 ク、ケ〕

◆ 文脈に即して漢字の正しい読み書きができるかをみる問題では、「成功をオサめる」の正しい漢字を選ぶ問題の正答率が26.1%であった。また、「造詣」の正しい読み方を選ぶ問題の正答率が38.2%、「著す」の正しい読み方を選ぶ問題の正答率が42.4%であった。文脈に即して漢字を正しく読むことと書くことに課題がみられる。〔1〕 ウ、エ、オ〕

〔知識及び技能〕 (情報の扱い方に関する事項)、〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」 (論理的な文章)

『文章中の情報と情報との関係を適切に捉えることに課題』

◇ 2つの文章を読み比べ、構成や内容の共通点を把握する問題では、正答率が59.8%であった。それぞれの文章の構成や要旨を捉え、比較して共通点を把握することは、おおむねできていたといえる。〔2〕 ス〕

◆ 情報と情報との関係について理解しているかをみる問題では、正答率が第2問で最も低い56.0%であった。「また、」でつながれた2つの段落の関係を、抽象と具体の関係であると捉えた誤答の選択肢④の選択率が24.9%と高かった。④を選択した生徒は、本文中の「具体化される」という表現に引きずられ、文章中の情報と情報との関係を適切に捉えることができなかったと考えられる。〔2〕 コ〕

〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」 （文学的な文章）

『作品の表現の仕方、表現の特色を適切に捉え、評価することに課題』

- ◆ 語句の意味や作品の内容、展開を踏まえ、登場人物の様子を捉えられるかをみる問題では、正答率が 59.3%であり、令和 6 年度実施の調査における同傾向問題と比較して、30.3 ポイント減少した。誤答のうちで選択率が最も高かったのは選択肢④であり、選択率は 16.5%であった。④を選択した生徒は、「亀乃介は、無言でうつむいた」という表現のみに着目し、「息をのむ」という言葉の意味を踏まえて登場人物の心情を把握することができなかったと考えられる。 [3] セ
- ◆ 本文の表現の特色を叙述に基づいて捉えられるかをみる問題では、正答率が 40.0%となり、令和 6 年度実施の調査における同傾向問題と比較して、19.9 ポイント減少した。誤答の選択肢は全て、本文で用いられている表現の特色について述べてはいるが、本文における効果を正しく説明していないものである。正答の選択肢で取り上げられた比喩表現だけではなく、本文で用いられているその他の表現の特色についても、どのような効果があるのかを正しく捉えることができなかったと考えられる。 [3] チ

〔知識及び技能〕 （我が国の言語文化に関する事項）、〔思考力、判断力、表現力等〕 「読むこと」 （古文・漢文）

○ 共通問題（古文）

『古文を読むために必要な知識を活用し、文章中に表れているものの見方、考え方を捉えることに課題』

- ◆ 文脈に即して古語の意味を捉えられるかをみる問題では、「さらに」の本文中での意味を選ぶ問題の正答率が 43.0%であった。誤答の選択肢①「そのうえ」の選択率が 37.4%と高かった。①を選んだ生徒は、現代語の「さらに」から語の意味を推測してしまい、文脈に即して古語の意味や用法を捉えることができていなかったと考えられる。また、「いらへ（いらふ）」の本文中での意味を選ぶ問題の正答率が 33.8%であった。誤答の選択肢②「指示に従う」の選択率が 36.8%であり、正答よりも高かった。②を選択した生徒は、古語の意味を踏まえず、文脈に当てはまりそうな選択肢を選んだと考えられる。 [4] テ、ト
- ◆ 本文に表れているものの見方、考え方を捉えられるかをみる問題では、正答率が 43.2%であった。誤答の選択肢①や③を選択した生徒は、狸が鍋をかぶって人の様子をうかがっていたという本文前半のエピソードに引きずられ、本文に表れているものの見方、考え方を的確に捉えることができなかったと考えられる。 [4] ヌ

○ 学校選択型A用問題（漢文）

『文脈に即して語句の意味を捉えることに課題』

◇ 漢文のきまり（返り点）を理解しているかをみる問題では、正答率が66.0%であった。「ㄟ点」のはたらきも含めて、訓読の基礎となる返り点については、おおむね理解できていたといえる。 [5]－A ノ]

◆ 漢文のきまり（語句の読み）を理解しているかをみる問題では、「与」の正しい読み方を選ぶ問題の正答率が39.9%であった。「与」には読み方が複数あるが、本文中での用いられ方から適切な読み方を判断できなかったと考えられる。文脈に即して語句の意味を捉え、どのような読み方が適切かを判断することに課題がある。 [5]－A ネ]

○ 学校選択型B用問題（漢文）

『漢文を読むために必要な知識を活用し、文章中に表れているものの見方、考え方を捉えることに課題』

◆ 漢文の決まり（語句の読み）を理解しているかをみる問題では、「安」の正しい読み方を選ぶ問題の正答率が34.5%であった。本文中では「いづくに」と読むことが適切であったが、誤答の選択肢①「いづくんぞ」の選択率が40.2%と高かった。「安」が疑問や反語を表す語であることは理解しているが、文脈に即して語句の意味を捉え、適切に読むことができなかったと考えられる。 [5]－B ネ]

◆ 本文に表れているものの見方、考え方を捉えられるかをみる問題では、正答率が51.5%であった。約半数の生徒が、登場人物がどのような考えを基に行動しているかを、叙述を基に捉えることができなかったと考えられる。 [5]－B ヒ]

(3) 分析結果から考える授業づくりのポイント

POINT1 - [知識及び技能] (言葉の特徴や使い方に関する事項)

文脈に即して正しく漢字を読んだり書いたりするために、漢字で書かれた語の意味を正しく理解し、文や文章の中で使う言語活動を多く取り入れましょう。

- 文脈に即して正しく漢字を読んだり書いたりできるようになるためには、語の正確な意味や適切な漢字を理解した上で、実際に文や文章の中で使う機会を多く設けることが大切です。言語活動の内容を工夫することで、生徒の漢字に対する学習意欲を高めることができます。
- たとえば、新聞記事を読み、その内容について意見文を書く活動が考えられます。辞書を使い、語の意味や漢字について調べた上で、新聞記事を読んで意見文を書くことで、正しく漢字を読み書きできるようになり、語彙を豊かにすることにもつながります。また、このように「読むこと」や「書くこと」の言語活動と組み合わせることで、漢字を学習することが、的確に文章を理解したり適切に自分の考えを表現したりすることの基礎であると気付くことも期待できます。さらに、文脈に即して正しい漢字が書けているか、読みやすい文章になるように漢字と仮名の使い分けができているかなどの観点も含めて、意見文を互いに評価し合うことで、他者の言葉の選び方や語彙を参考にすることが可能になり、自身の表現の工夫・改善につなげることができます。

POINT2 - [知識及び技能] (情報の扱い方に関する事項)、[思考力、判断力、表現力等]「読むこと」(論理的な文章)

情報と情報との関係に注意しながら、文章の内容を解釈したり、文章の構成や論理の展開を捉えたりする活動を取り入れましょう。

- 論理的な文章を読む際には、文章の構成や論理の展開、中心的な内容を捉えることが重要です。文章内の情報の関係性を意識しながら整理し、文章の構成や論理の展開を考察することが大切です。
- たとえば、文章内の情報を、矢印などの記号を用いて図式化したり、ベン図などの図表を用いて表したりするなど、視覚的に分かりやすく整理することが効果的です。このような活動を取り入れることで、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、文章の中心的な内容を把握することが期待できます。

POINT3 - 「思考力、判断力、表現力等」「読むこと」(文学的な文章)

文章の表現の仕方や特色について、評価したり、討論したりする活動を取り入れましょう。

- 文学的な文章を読む際には、何が書かれているかという内容だけではなく、内容がどのように表現されているかにも着目する必要があります。作品の構成や展開、修辞技法、語句の使い方や言い回しなど、作品における表現上の特徴を捉え、その表現が読者に与える印象、解釈に及ぼす影響などについて評価できるようにすることが大切です。
- たとえば、その作品の表現のどのような点が優れているか、課題とされる点はあるかなど、作品の表現を評価する活動を取り入れることで、作品の解釈を深めることができます。また、作品の表現の特色を踏まえ、その表現の効果について、自分で評価したことを基に討論する活動を取り入れることで、ものの見方、感じ方、考え方を深めることが期待できます。

POINT4 - 「知識及び技能」(我が国の言語文化に関する事項)、「思考力、判断力、表現力等」「読むこと」(古文・漢文)

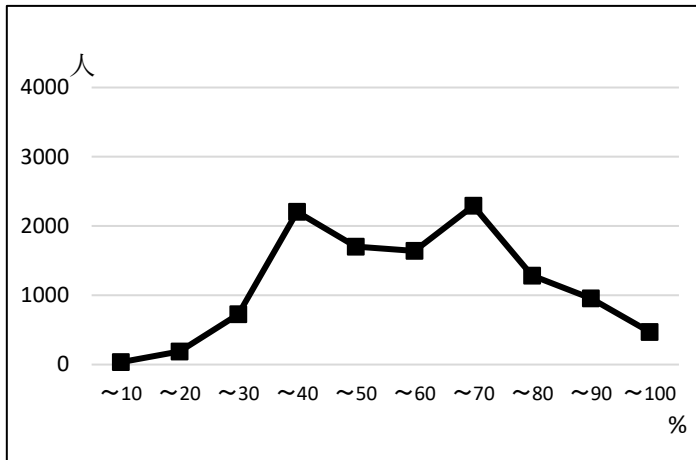
身に付けた知識を活用して古典を読み、ものの見方、感じ方、考え方を深める言語活動を工夫しましょう。

- 古典を読むために必要な知識については、「古典の世界に親しむため」という目的や、「読むこと」の資質・能力が確実に身に付けられるようにすることを意識して、学習する内容を精選することが大切です。
- 古文の学習では、文章の内容を解釈する際に、ある語について、辞書で意味を調べたり他の作品における用例と比較したりした上で、文脈の中でその語をどのような意味で捉えるのが適切かを話し合う活動が考えられます。また、漢文の学習では、漢文の基本構造を理解した上で、現代社会の中で使われている熟語について、その構成に着目して意味を類推する活動や、漢文特有の表現に着目しながら、登場人物の思いや筆者の考えを捉える活動が考えられます。このように、「読むこと」の学習活動に即して、古典を読むために必要な知識について学習することで、古典に表れた先人のものの見方、感じ方、考え方に触れるきっかけが生まれます。先人たちと自分を比較しながら考えることで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたり、古典に対する興味・関心を広げたりすることにもつながります。

【資料編】

① 共通問題の正答率（調査対象全体）

共通問題の正答率 **55.4%**（令和6年度 60.1%）

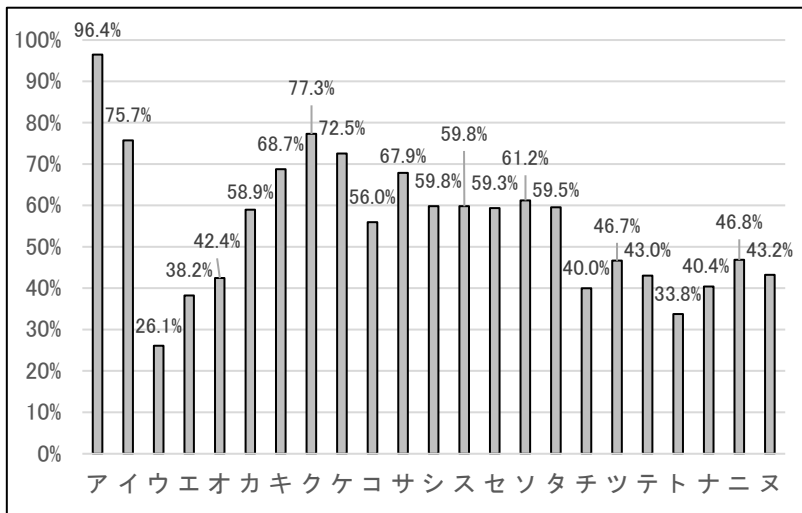


<概況>

度数分布は正答率 40%台から 50%台の中間層が薄く、M字型のグラフとなった。第2問では、問1の情報と情報との関係の理解をみる問題の正答率が、第2問の中で最も低かった。第3問では、問4の本文の表現の特色を捉える問題の正答率が、昨年度の同傾向問題と比較して 19.9 ポイント低下した。第4問では、問5の内容把握の問題の正答率が、昨年度の同傾向の問題と比較して 18.9 ポイント上昇した一方で、問1の文法の知識に関する問題の正答率は、昨年度と比較して 5.1 ポイント低下した。

図1 【共通問題・国語】正答率の度数分布

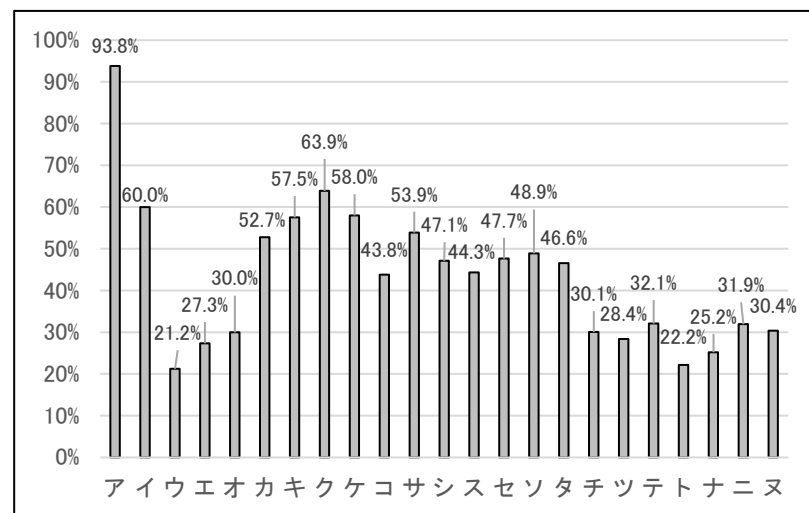
② 共通問題の小問ごと正答率（調査対象全体）



	解答記号	分類	内容
①	ア～オ	漢字・語句・文法等	漢字の読み書き
	カ	漢字・語句・文法等	敬語
	キ	漢字・語句・文法等	文法の知識
	ク	漢字・語句・文法等	話し方の工夫
	ケ	漢字・語句・文法等	話し手の意図
②	コ	論理的な文章	情報と情報との関係
	サ	論理的な文章	内容把握
	シ	論理的な文章	要旨把握
	ス	論理的な文章	読み比べ
③	セ	文学的な文章	内容把握
	ソ・タ	文学的な文章	心情把握
	チ	文学的な文章	表現の特色の把握
④	ツ	古文	文法の知識
	テ・ト	古文	古語の知識
	ナ～ヌ	古文	内容把握

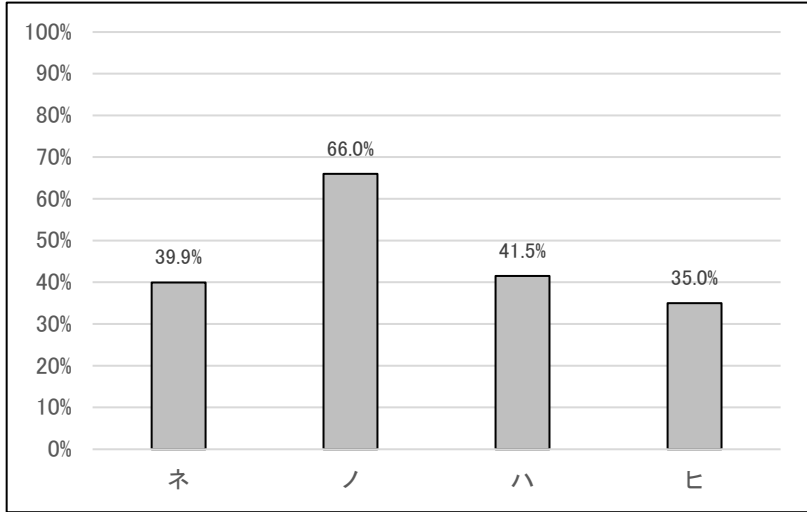
図2 【共通問題・国語】調査対象全体の小問ごと正答率

③ 学校選択型A用問題（A問題選択者）の小問ごと正答率



	解答記号	分類	内容
①	ア～オ	漢字・語句・文法等	漢字の読み書き
	カ	漢字・語句・文法等	敬語
	キ	漢字・語句・文法等	文法の知識
	ク	漢字・語句・文法等	話し方の工夫
	ケ	漢字・語句・文法等	話し手の意図
②	コ	論理的な文章	情報と情報との関係
	サ	論理的な文章	内容把握
	シ	論理的な文章	要旨把握
	ス	論理的な文章	読み比べ
③	セ	文学的な文章	内容把握
	ソ・タ	文学的な文章	心情把握
	チ	文学的な文章	表現の特色の把握
④	ツ	古文	文法の知識
	テ・ト	古文	古語の知識
	ナ～ヌ	古文	内容把握

図3 【共通問題・国語】A選択者の小問ごと正答率

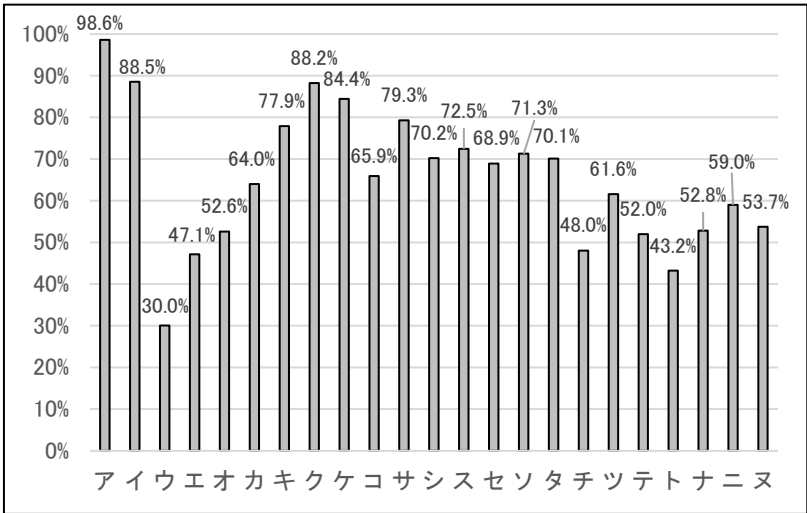


学校選択型A用問題

	解答記号	分類	内容
[5] A	ネ	漢文	基本語句の読み
	ノ	漢文	返り点の理解
	ハ・ヒ	漢文	内容把握

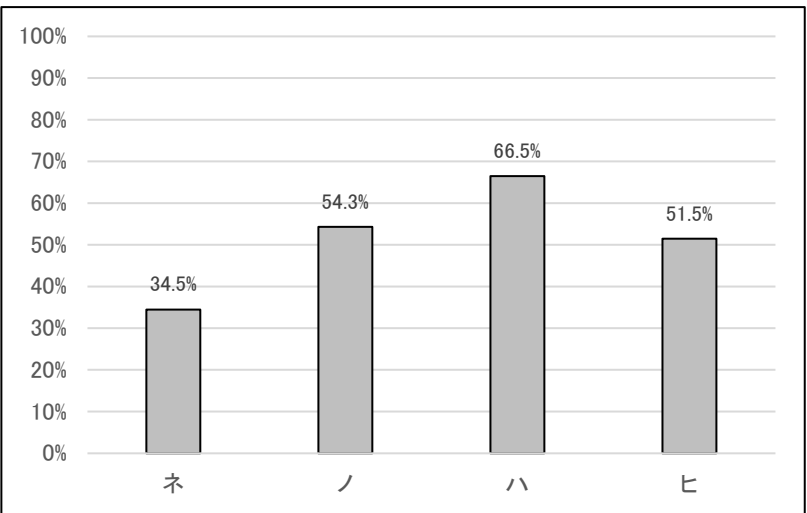
図4 【選択型A用問題・国語】小問ごと正答率

④ 学校選択型B用問題（B問題選択者）の小問ごと正答率



	解答記号	分類	内容
[1]	ア～オ	漢字・語句・文法等	漢字の読み書き
	カ	漢字・語句・文法等	敬語
	キ	漢字・語句・文法等	文法の知識
	ク	漢字・語句・文法等	話し方の工夫
	ケ	漢字・語句・文法等	話し手の意図
[2]	コ	論理的な文章	情報と情報との関係
	サ	論理的な文章	内容把握
	シ	論理的な文章	要旨把握
	ス	論理的な文章	読み比べ
[3]	セ	文学的な文章	内容把握
	ソ・タ	文学的な文章	心情把握
	チ	文学的な文章	表現の特色の把握
[4]	ツ	古文	文法の知識
	テ・ト	古文	古語の知識
	ナ～ヌ	古文	内容把握

図5 【共通問題・国語】B選択者の小問ごと正答率



学校選択型B用問題

	解答記号	分類	内容
[5] B	ネ	漢文	基本語句の読み
	ノ	漢文	句法の理解・解釈
	ハ・ヒ	漢文	内容把握

図6 【選択型B用問題・国語】小問ごと正答率

⑤ 設問ごとの正答率・誤答率・無答率 等

○ 共通問題

第1問 「知識及び技能」(言葉の特徴や使い方に関する事項)

問1は漢字の読み書き、問2は敬語、問3は文法の知識、問4は相手や場に応じた表現についての理解をみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
							①	②	③	④
問1	(1)	ア	③	96.4	3.5	0.1	2.3	0.9	○	0.3
	(2)	イ	④	75.7	24.2	0.1	13.5	3.8	6.9	○
	(3)	ウ	①	26.1	73.8	0.1	○	23.9	45.8	4.0
	(4)	エ	④	38.2	61.6	0.2	2.6	6.1	52.9	○
	(5)	オ	②	42.4	57.4	0.2	5.8	○	2.0	49.5
問2		カ	①	58.9	40.9	0.2	○	14.4	14.7	11.8
問3		キ	③	68.7	31.0	0.3	14.0	6.4	○	10.6
問4	(1)	ク	①	77.3	22.4	0.3	○	5.4	10.9	6.2
	(2)	ケ	②	72.5	27.1	0.3	13.6	○	8.0	5.5

第2問 「知識及び技能」(情報の扱い方に関する事項)、「思考力、判断力、表現力等」 「読むこと」(論理的な文章)

問1は情報と情報との関係、問2は内容把握、問3は要旨把握、問4は2つの文章の構成・内容の共通点の把握をみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
							①	②	③	④
問1		コ	②	56.0	43.7	0.4	4.6	○	14.1	24.9
問2		サ	③	67.9	31.7	0.4	6.5	15.1	○	10.1
問3		シ	①	59.8	39.7	0.5	○	10.1	15.4	14.1
問4		ス	③	59.8	39.6	0.6	17.7	14.3	○	7.5

第3問 「思考力、判断力、表現力等」「読むこと」(文学的な文章)

問1は内容把握、問2・問3は心情把握、問4は表現の特色の把握をみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
							①	②	③	④
問1		セ	③	59.3	40.1	0.6	14.0	9.5	○	16.5
問2		ソ	④	61.2	38.2	0.6	10.3	9.1	18.8	○
問3		タ	②	59.5	39.7	0.8	14.4	○	13.9	11.3
問4		チ	④	40.0	59.2	0.9	9.5	19.4	30.2	○

第4問 〔知識及び技能〕（我が国の言語文化に関する事項）、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（古文）

問1は文法の知識、問2は古語の知識、問3～5は内容把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
						①	②	③	④
問1	ツ	②	46.7	52.1	1.2	27.9	○	9.9	14.3
問2	a	テ	②	43.0	55.6	1.3	37.4	○	13.4
	b	ト	①	33.8	64.9	1.3	○	36.8	7.7
問3	ナ	①	40.4	58.2	1.4	○	29.5	19.6	9.1
問4	二	④	46.8	51.5	1.7	12.4	23.8	15.4	○
問5	ヌ	④	43.2	55.0	1.7	22.3	15.6	17.1	○

○ 学校選択型A用問題

第5問A 〔知識及び技能〕（我が国の言語文化に関する事項）、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（漢文）

問1は基本語句の読み、問2は返り点の理解、問3・問4は内容把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
						①	②	③	④
問1	ネ	②	39.9	58.4	1.7	6.5	○	46.5	5.4
問2	ノ	①	66.0	32.0	2.0	○	15.0	9.3	7.7
問3	ハ	④	41.5	56.2	2.3	16.1	20.7	19.4	○
問4	ヒ	③	35.0	62.6	2.4	15.8	27.2	○	19.6

○ 学校選択型B用問題

第5問B 〔知識及び技能〕（我が国の言語文化に関する事項）、〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」（漢文）

問1は基本語句の読み、問2は句法の理解・解釈、問3・問4は内容把握をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率(%)			
						①	②	③	④
問1	ネ	②	34.5	64.6	1.0	40.2	○	13.6	10.8
問2	ノ	①	54.3	44.5	1.2	○	12.3	24.0	8.2
問3	ハ	③	66.5	32.2	1.4	10.1	13.2	○	8.9
問4	ヒ	③	51.5	47.0	1.6	14.1	12.9	○	20.0

2 数学

(1) 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、高等学校第1学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を中心に出题した。なお、「数学Ⅰ」の目標及び内容を踏まえて出题している。また、学校選択型A用問題には、義務教育段階での学習内容の定着をみることをねらいとした問題を含んでいる。

(2) 調査結果の分析

(◇ 比較的できている点 ◆ 課題のある点)

〔数と式〕

○ 共通問題

『絶対値の求め方の理解に課題』

◇ 有理化ができるかをみる問題では、正答率 61.0%と一定の定着がみられる。誤答からも有理化の際に、分母と分子に同じ式をかけることは理解できていると考えられる。
[A-10 コ/ B-2 イ]

◆ 整式を整理する問題では、正答率が 63.3%と昨年度から 13.8 ポイント低下した。過去の出題では、 A 、 B を整式、 k を定数としたとき、 $kA - B$ の型は正答率が 60%台、 $A - kB$ の型では 70%台と、正答率に有意に差がみられる。 $-kB$ よりも $-B$ の方が分配法則を意識しにくく、計算を誤りやすいことが考えられ、分配法則を利用して特定の形式の整式を整理することに課題がある。
[A-9 ケ/ B-1 ア]

◆ 絶対値を求める問題では正答が 22.4%であった。 $\sqrt{5} - 7$ の絶対値を求める際に、 $\pm(\sqrt{5} - 7)$ とした誤答の合計が 28.3%であり、 $\sqrt{5} + 7$ とした誤答の合計が 25.6%であった。絶対値の求め方の理解に課題がある。
[A-11 サ/ B-3 ウ]

○ 学校選択型A用問題

『平方根を含む式の展開の理解と定着に課題』

◇ 整式の積の計算では、正答率が 72.7%と高く、整式を展開し、整理する技能の定着がみられる。
[A-3 ウ]

◆ 累乗の計算は正答率 51.5%で、昨年度の同傾向問題よりも 27.5 ポイント低下している。 -3^2 の計算を誤ったことが要因と考えられ、 $-3^2 = 9$ とした誤答選択肢③、⑤の合計は 39.7%であった。 $-a^2$ と $(-a)^2$ の区別ができていないことが考えられる。
[A-2 イ]

- ◆ 平方根を含む式の計算では、正答率が 37.0%と低かった。式の展開において、 $(a-b)^2 = a^2 - b^2$ と誤った選択肢①が 28.9%と多かった。昨年度も同様の傾向があり、公式を用いた式の展開の理解に課題がある。

[A-4 エ]

○ 学校選択型B用問題

『命題や条件の理解について課題』

- ◆ 一次不等式の問題については、昨年度の同傾向問題よりも文章中の情報量が減り、立式や計算がしやすい問題であった。正答率は昨年度と比べ、20.0 ポイント上昇したものの 33.4%であった。一方で、無答率は 8.9%と 3.6 ポイント低下したが、「数と式」の領域では最も高く、文章を読み取り立式することに苦手意識を持つ生徒が一定数いることがわかる。

[B-11 シスセ]

- ◆ 集合と命題の問題では、正答率が 13.6%であり、誤答選択肢も大きな偏りがなかった。命題や、必要条件・十分条件の学習を行う際に、集合の包含関係と関連付けた直感的な理解ができていないことが考えられる。また、具体的でない命題や条件に対し、命題の真偽の理解や、必要条件・十分条件の理解をもとにした正誤判定ができていないことに課題がある。

[B-12 ソ]

〔図形と計量〕

○ 共通問題

『正答率は上昇したものの正弦定理と余弦定理の活用には課題』

- ◆ 正弦定理を活用する問題では、昨年度の同傾向問題と同様に身近な題材を取り上げた。文章量を少なくし、式を立てやすくしたため、正答率は 33.9%と昨年度より 11.1 ポイント上昇したものの、正弦定理の定着には課題がある。

[A-17 ツ/B-9 コ]

- ◆ 余弦定理を活用する問題では、昨年度の同傾向問題より 14.4 ポイント上昇したが正答率は 33.5%であった。扱う角が鋭角であったことで計算しやすかったものと考えられるが、余弦定理の定着には課題がみられる。

[A-16 チ/B-8 ケ]

○ 学校選択型A用問題

『数学的根拠に基づいて考察することに課題』

- ◆ 三平方の定理の問題では 31.0%の正答率であった。図形を直角二等辺三角形と判断し、三平方の定理を用いずに三角比を用いて、解答したと思われる誤答が 32.2%と正答よりも多かった。見た目から判断をしてしまい、数学的な根拠に基づいて考察する力に課題がある。 [A-7 キ]

○ 学校選択型B用問題

『立体の見方を変えて、体積を複数の方法で求めることに課題』

- ◇ 三角比の相互関係を用いた解答の誤りを考察する問題において、正弦と余弦の相互関係について正しく述べている選択肢②、③、⑥、⑧の合計が 72.5%であり、正弦と余弦の相互関係の活用について一定の定着がみられる。 [B-16 ニ]
- ◆ 一方で、同問題の余弦と正接の相互関係について誤って述べている選択肢③、⑤、⑥、⑦の合計が、41.4%であり、余弦と正接の相互関係の活用については課題がある。 [B-16 ニ]
- ◆ 四面体の体積を求める問題の正答率が 20.9%、体積から高さを逆算する問題の正答率は 11.7%であった。特に、高さを求める問題では、無答率が 25.5%であり、立体の見方を変えて、体積を複数の方法で求めることに課題がある。 [B-17 ハヒ]

〔二次関数〕

○ 共通問題

『因数分解は定着しているが、平方完成とグラフの活用に課題』

- ◇ 因数分解を用いて二次方程式を解く問題は正答率が二次関数の分野で 60.3%と最も高く、たすきがけを用いた因数分解については定着がみられる。 [A-13 セ/B-5 カ]
- ◆ 平方完成をして頂点を求める問題では、正答率が 26.3%であり、昨年度より 1.5 ポイントの低下がみられる。平方完成せずに、係数や定数項の数値を代入した誤答の割合が高く、平方完成の技能の定着に課題がある。 [A-12 シス/B-4 エオ]
- ◆ 二次不等式を解く問題の正答率では、40.7%と昨年度より 12.6 ポイント低下している。 $x^2 > a^2$ を移項し、 $x^2 - a^2 > 0$ にして処理する必要がある、因数分解を意識しづらかったことが要因と考えられる。また、 $x = \pm a$ と解答した誤答が 17.5%と多く、二次不等式の解法と二次方程式の解法の混同がみられる。 [A-14 ソ/B-6 キ]

○ 学校選択型A用問題

『値域の範囲を正しく調べることに課題』

- ◆ 値域を求める問題では、正答率が 18.1%であった。 x の変域の両端の値を代入しただけの誤答が、正答より 10 ポイント以上高く、値域の範囲を正しく調べることに課題がある。 [A-6 カ]

○ 学校選択型B用問題

『二次不等式を二次関数のグラフに対応させ、条件を満たす判別式の範囲を確認することに課題』

- ◆ 二次関数のグラフの位置を考える問題の正答率は 13.6%と、昨年度から 3.5 ポイント低下している。今年度は、正答に至るまでの手順が多くなった分、正答率が下がったと考えられる。特に 2 乗の係数を求めることはできていたが、頂点の座標を表す数値を求めることができなかった誤答が多かった。無答率は 14.4%と高く、文章から対称移動や平行移動に関する情報を読み取ることに課題がある。 [B-13 タチツ]
- ◆ 二次関数の最大値から定数を求める問題の正答率は 8.9%であった。H27 年度以降で最も低い数値である。求めた値が場合分けした範囲に含まれているかの確認がされていない誤答が 23.0%であり、解の妥当性を確認することに課題がある。 [B-14 テ]
- ◆ 二次不等式の解から定数 a を求める問題では、正答率 17.4%で、昨年度より 10.5 ポイント低下している。二次不等式の不等号の向きと、判別式の不等号の向きを混同したことが要因と考えられる。判別式の数値の計算は正しいが範囲を誤ったものが 20.7%であった。二次不等式を二次関数のグラフに対応させ、条件を満たす判別式の範囲を確認することに課題がある。 [B-15 トナ]

〔データの分析〕

○ 共通問題

『仮説検定の考え方を理解していないことに課題』

- ◆ 仮説検定の正答率は 11.9%であった。69.9%が「帰無仮説が誤り⇒対立仮説を採択できない」か「帰無仮説が正しい⇒対立仮説を採択できる」としており、仮説検定の考え方を理解していないことに課題がある。 [A-18 テ/B-10 サ]

○ 学校選択型 A 用問題

『最頻値の定義の理解と定着に課題』

- ◆ 2つの度数分布表から読み取れる内容を比較する問題では正答率が 9.5%であった。最頻値の内容を正しく述べていない選択肢②、⑤、⑥、⑧を選んだ生徒の割合の合計が 66.8%であり、最頻値の定義の理解と定着に課題がある。
[A-8 ク]

○ 学校選択型 B 用問題

『データの変化を捉えることに課題』

- ◆ 相関係数を求める問題では、正答率は 53.2%と学校選択型 B 用問題の中では比較的高いものの、相関係数を求めることに課題がある。
[B-18 フヘ]
- ◆ 相関係数について考察する問題では、正答率が 14.2%であった。データを修正した際の相関係数の変化について捉えることに課題がある。
[B-18 フヘ]

(3) 分析結果から考える授業づくりのポイント

POINT1 - 数と式

数直線などの図を用いて、絶対値が示す値を視覚的に捉えましょう。

- 日常の事象を数学的に捉え、その数量関係を考察する場面の指導においては、大小関係を示唆する表現に注意しながら、図や表などを用いて視覚的に数量関係を捉え、整理することで、自ら立式できるようにすることが大切です。
- 絶対値の学習においては、絶対値記号の外し方を形式的に取り扱うだけでなく、数直線上の2点 $A(a)$ 、 $B(b)$ を用いて、 $a - b$ の絶対値が示す値を視覚的に捉えることも大切です。
- 集合や命題の学習においては、身近な例や具体的な例を取り上げることも重要ですが、それらの概念の理解を深め、一般化するために、抽象的な例を図などの補助的な表現を用いながら指導することも大切です。

POINT2 - 図形と計量

三角比の相互関係を活用して問題を解決する活動では、問題解決の過程を振り返って、解決の方法を見直しましょう。

- 三角比の相互関係を活用して問題を解決する場面においては、複数の解決方法を提示し比較するなど、問題解決の過程を振り返って、解決の方法を見直すことが重要です。
- 日常生活の事象を三角比の知識を用いて数学的に考察し、問題を解決するためには、それぞれの問題において、どの定理や公式を用いたらよいかの判断が重要です。根拠を互いに確認したり、説明したりする場面を設け、理解を深める時間を設定しましょう。

二次方程式や二次不等式を解く際は、二次関数のグラフを用いて、視覚的に捉えるようにしましょう。

- 二次方程式の解を判別する際や二次不等式を解く際には、二次関数のグラフを用いて、二次方程式の解の存在する範囲や二次不等式の示す範囲を視覚的に捉えることが重要です。また、求めた解が問題の条件を満たしているか、計算過程や結果を振り返って確認することが大切です。
- 二次関数の最大値・最小値や係数を考察する問題では、二次関数のグラフを用いて、頂点と x 軸との位置関係などを把握しながら考えることが重要です。実際にグラフをかくことを通して、二次関数の特徴や値の変化などを視覚的に捉え、見通しをもって問題を解決できるように指導することが大切です。

適切な統計量や手法などを選択し、データの特徴を捉えて分析を行うとともに、分析についての考え方を振り返るようにしましょう。

- データを読み取る際は、用語の意味や図表の読み方などの基本的な知識・技能の定着を図るとともに、複数のデータの特徴を比較しながら批判的に考察し、多様な視点から分析できるようにすることが大切です。
- 仮説検定の学習においては、身近なテーマを用いて仮説検定の原理を理解し、立てた仮説の正誤を判断できるようになることが大切です。有意水準と比較する確率を考える際にコンピュータでシミュレーションを行うなど、他教科と関連させて考察することも考えられます。また、データの特徴を分析した結果を互いに説明し合う活動などを取り入れて、分析についての考え方を振り返り、理解を深めることが大切です。

【資料編】

① 共通問題の正答率（調査対象全体）

共通問題の正答率 **39.0%**（令和6年度 43.5%）

<概況>

今年度の正答率は昨年度よりも 4.5 ポイント低下した。度数分布は正答率 10%以下の階級の度数が最大であり、階級ごとの度数は単調減少する形となった。正答率 80%以上の割合は全体の 6.1%であり、前年度の 12.1%から 6.0 ポイント低下している。小問ごとにみると、昨年度と比較して、共通問題では図形と計量（余弦定理）、図形と計量（正弦定理）で 10 ポイント以上、B問題では一次不等式が 20 ポイントの上昇が見られた。それ以外の問題の正答率については、A問題では累乗の減法と乗法が 27.5 ポイントの低下、データの整理が 24.3 ポイントの低下、共通問題の二次不等式で 12.6 ポイントの低下が見られた。

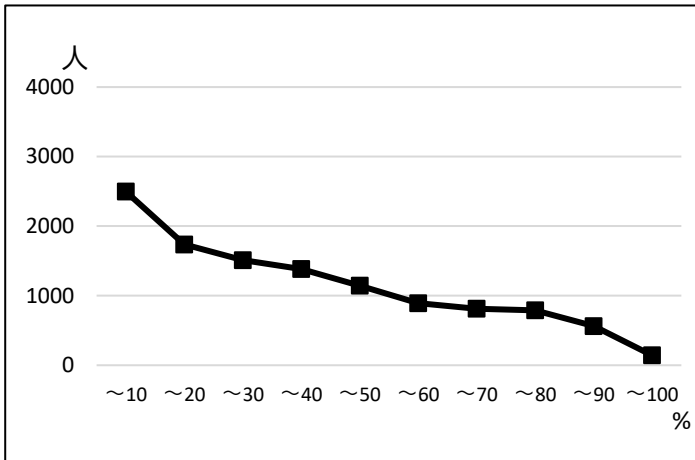
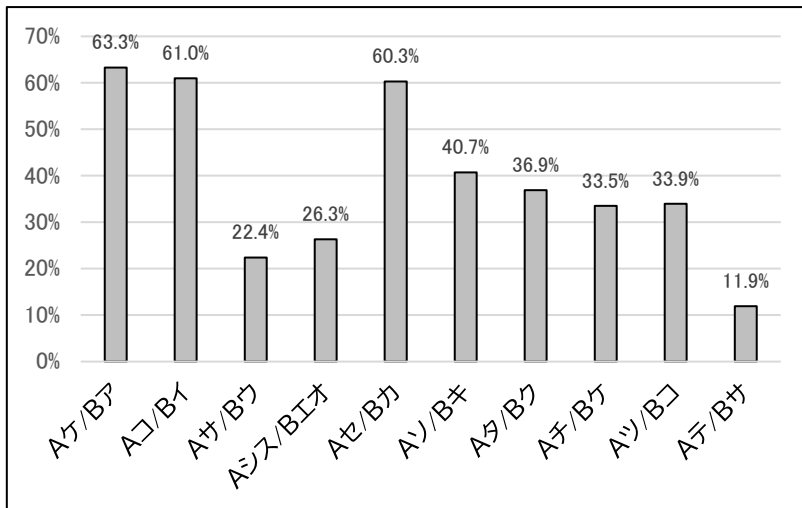


図1 【共通問題・数学】正答率の度数分布

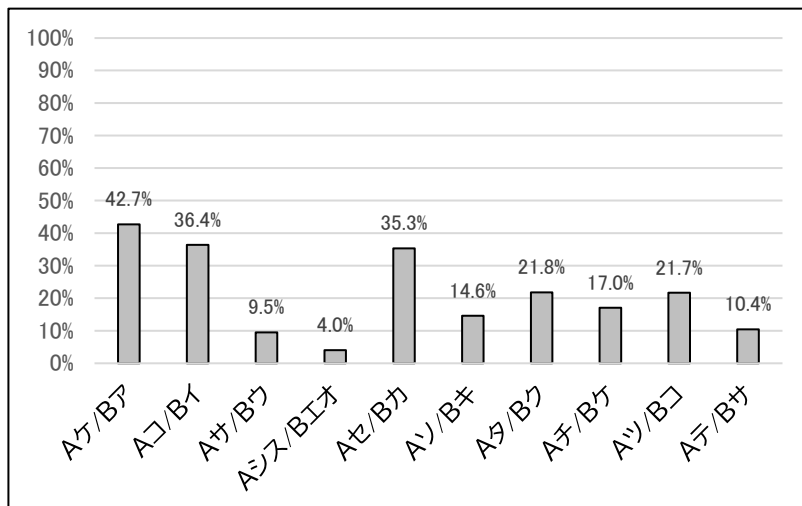
② 共通問題の小問ごと正答率（調査対象全体）



解答記号	分類	内容
Aケ/Bア	数と式	整式の計算
Aコ/Bイ	数と式	分母の有理化
Aサ/Bウ	数と式	絶対値
Aシス/Bエオ	二次関数	二次関数のグラフ
Aセ/Bカ	二次関数	二次方程式の解法
Aソ/Bキ	二次関数	二次不等式の解法
Aタ/Bク	図形と計量	三角比の値
Aチ/Bケ	図形と計量	余弦定理
Aツ/Bコ	図形と計量	正弦定理
Aテ/Bサ	データの分析	仮説検定の考え方

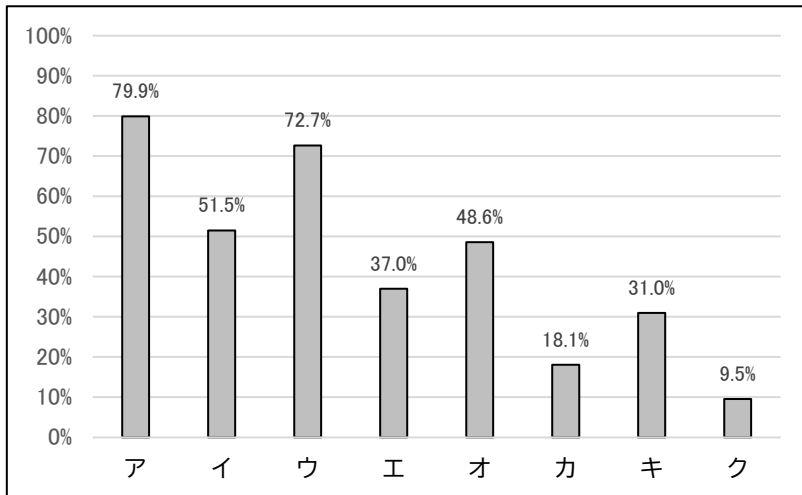
図2 【共通問題・数学】調査対象全体の小問ごと正答率

③ 学校選択型A用問題（A問題選択者）の小問ごと正答率



解答記号	分類	内容
Aケ/Bア	数と式	整式の計算
Aコ/Bイ	数と式	分母の有理化
Aサ/Bウ	数と式	絶対値
Aシス/Bエオ	二次関数	二次関数のグラフ
Aセ/Bカ	二次関数	二次方程式の解法
Aソ/Bキ	二次関数	二次不等式の解法
Aタ/Bク	図形と計量	三角比の値
Aチ/Bケ	図形と計量	余弦定理
Aツ/Bコ	図形と計量	正弦定理
Aテ/Bサ	データの分析	仮説検定の考え方

図3 【共通問題・数学】A選択者の小問ごと正答率

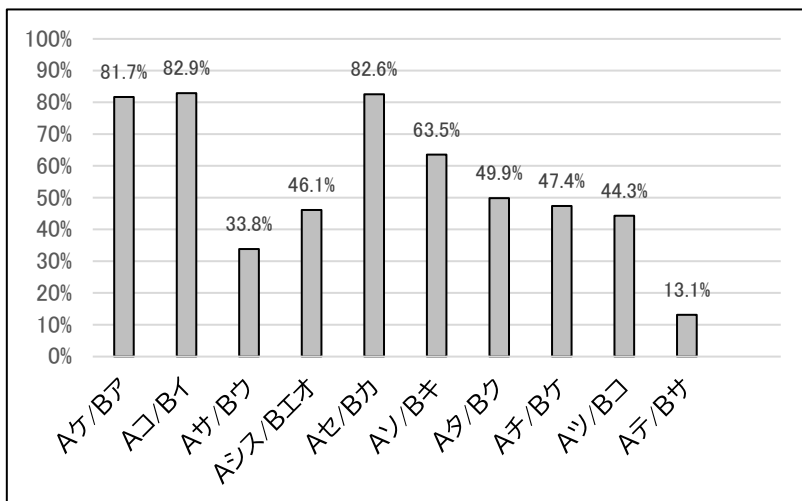


学校選択型A用問題

解答記号	分類	内容
ア	数と計算(小)	分数の計算
イ	数と式(中)	整数の計算
ウ	数と式(中)	整式の展開
エ	数と式(中)	平方根の計算
オ	数と式(中)	一次方程式の解法
カ	関数(中)	関数の値域
キ	図形(中)	三平方の定理
ク	データの活用(中)	度数分布表

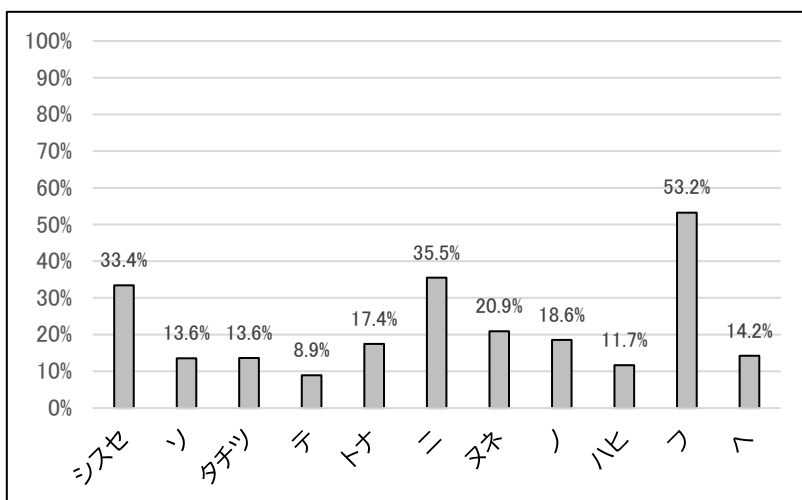
図4 【選択型A用問題・数学】小問ごと正答率

④ 学校選択型B用問題（B問題選択者）の小問ごと正答率



解答記号	分類	内容
アケ/Bア	数と式	整式の計算
アコ/Bイ	数と式	分母の有理化
アサ/Bウ	数と式	絶対値
アシス/Bエオ	二次関数	二次関数のグラフ
アセ/Bカ	二次関数	二次方程式の解法
アソ/Bキ	二次関数	二次不等式の解法
アタ/Bク	図形と計量	三角比の値
アチ/Bケ	図形と計量	余弦定理
アツ/Bコ	図形と計量	正弦定理
アテ/Bサ	データの分析	仮説検定の考え方

図5 【共通問題・数学】B選択者の小問ごと正答率



学校選択型B用問題

解答記号	分類	内容
シスセ	数と式	一次不等式の応用
ソ	数と式	集合と命題
タチツ	二次関数	二次関数の決定
テ	二次関数	二次関数の最大最小
トナ	二次関数	二次不等式
ニ	図形と計量	三角比の相互関係
ヌネ	図形と計量	空間図形と三角比
ノ	図形と計量	空間図形と三角比
ハヒ	図形と計量	空間図形と三角比
フ	データの分析	データの相関
ヘ	データの分析	データの相関

図6 【選択型B用問題・数学】小問ごと正答率

⑤ 設問ごとの正答率・誤答率・無答率 等

	数と式	図形と計量	二次関数	データの活用
共通問題	A-9～A-11 B-1～B-3	A-15～A-17 B-7～B-9	A-12～A-14 B-4～B-6	A-18 B-10
学校選択型A用問題	A-1～A-5	A-7	A-6	A-8
学校選択型B用問題	B-11、B-12	B-16、B-17	B-13～B-15	B-18

〔数と式〕

○ 共通問題

A-9／B-1 整式を整理して計算することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-9 B-1	ケ ア	⑥	63.3	36.3	0.4	①(16.5%), ④(4.3%), ②(4.0%) など

A-10／B-2 分母の有理化ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-10 B-2	コ イ	①	61.0	38.6	0.4	②(11.6%), ⑥(7.3%), ⑤(7.1%) など

A-11／B-3 絶対値の意味を理解し、実数の絶対値の大小を判断できるか、及び、絶対値を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-11 B-3	サ ウ	⑦	22.4	77.0	0.6	④(17.0%), ②(13.8%), ③(13.0%), ⑥(11.8%), ⑧(10.3%) など

○ 学校選択型A用問題

A-1 通分して分数の加法ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-1	ア	⑥	79.9	19.9	0.2	⑤(10.8%), ⑦(2.3%), ①(1.9%) など

A-2 累乗の計算及び減法と乗法が混じった式の計算ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-2	イ	⑥	51.5	48.3	0.2	③(37.3%), ⑤(2.4%), ③(2.3%) など

A－3 整式の展開・整理ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A－3	ウ	④	72.7	27.0	0.3	⑤(8.8%), ①(6.8%), ②(3.4%) など

A－4 平方根を含む式の計算ができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A－4	エ	⑧	37.0	62.6	0.4	①(28.9%), ②(9.0%), ⑥(8.1%) など

A－5 分数を含む一次方程式を解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A－5	オ	③	48.6	50.6	0.8	⑤(16.5%), ⑦(8.8%), ④(8.5%) など

○ 学校選択型B用問題

B－11 問題文の内容を読み取り、数量関係を不等式で立式して解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B－11	シ	2	33.4	57.7	8.9	120(3.9%), 270(3.5%), 240(3.1%) など
	ス	5				
	セ	5				

B－12 必要条件であるときの命題、集合の包含関係の意味、及び逆の命題の反例の意味を捉えることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B－12	ソ	⑧	13.6	84.6	1.8	②(16.6%), ③(13.8%), ⑦(12.9%), ①(12.5%), ⑥(10.3%) など

〔図形と計量〕

○ 共通問題

A-15/B-7 鋭角の三角比を用いて辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-15 B-7	タ ク	③	36.9	61.7	1.4	⑦(11.0%), ⑥(11.0%), ④(9.7%) など

A-16/B-8 余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-16 B-8	チ ケ	⑤	33.5	64.8	1.7	④(16.0%), ⑥(13.5%), ③(12.4%), ①(11.1%) など

A-17/B-9 正弦定理を用いて三角形の外接円の半径を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-17 B-9	ツ コ	⑥	33.9	62.5	3.6	⑦(16.2%), ④(15.4%), ③(9.9%) など

○ 学校選択型 A 用問題

A-7 三平方の定理を用いて直角三角形の一辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-7	キ	⑤	31.0	68.2	0.8	①(32.2%), ④(9.3%), ②(8.2%) など

○ 学校選択型 B 用問題

B-16 三角比の相互関係の式を用いて得られた結果に対して、問題解決の過程を振り返って評価・改善しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B-16	ニ	②	35.5	60.8	3.7	⑥(17.6%), ③(11.9%), ⑤(8.6%) など

B-17 立体を考察し、三角比を用いて面積を求め、三角錐の体積を求めることができるか、及び、余弦定理と三角比の相互関係を用いて、三角形の面積を求めることができるか、及び、三角錐の高さを求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B-17	ヌ	3	20.9	62.9	16.2	3-2 (10.9%), 2-3 (9.7%), 2-2 (4.7%) など
	ネ	3				
	ノ	6	18.6	58.9	22.5	5 (16.2%), 3 (14.8%), 2 (10.2%) など
	ハ	2	11.7	62.8	25.5	3-2 (8.9%), 2-3 (5.1%), 3-3 (3.8%) など
	ヒ	2				

〔二次関数〕

○ 共通問題

A-12/B-4 二次関数の式を適切に変形して、グラフの頂点の座標を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-12 B-4	シ エ	⑤	26.3	72.3	1.4	③-④ (10.8%), ④-④ (6.5%), ⑤-③ (5.0%) など
	ス オ	②				

A-13/B-5 二次方程式を解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-13 B-5	セ カ	⑥	60.3	38.8	0.9	⑤ (11.2%), ② (5.9%), (5.5%) など

A-14/B-6 二次不等式を解くことができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-14 B-6	ソ キ	⑧	40.7	58.7	0.6	② (17.5%), ④ (16.6%), ⑦ (12.4%) など

○ 学校選択型A用問題

A-6 関数 $y=2x^2$ で、 x の変域に対応する y の変域を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-6	カ	③	18.1	81.2	0.7	⑥ (29.2%), ① (13.4%), ⑤ (12.7%) など

○ 学校選択型B用問題

B-13 文やグラフから必要な情報を読み取り、二次関数の式を求めることができるかを
みる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B-13	タ	2	13.6	72.0	14.4	2-2-2 (3.7%), 2-1-3 (3.4%), 2-3-4 (2.7%) など
	チ	2				
	ツ	1				

B-14 定義域と放物線の軸の位置関係を捉え、場合分けして二次関数の最大値から定数の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B-14	テ	③	8.9	84.4	6.7	⑥(23.0%), ④(16.4%), ⑦(15.6%), ②(11.1%) など

B-15 二次不等式の解の条件から定数の値の範囲を求めることができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B-15	ト	④	17.4	78.9	3.7	②-②(20.7%), ③-②(7.1%), ①-②(7.0%) など
	ナ	②				

【データの分析】

○ 共通問題

A-18/B-10 仮説検定の考え方について理解しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-18 B-10	テ サ	②	11.9	86.7	1.4	①(25.3%), ④(20.3%), ⑧(13.7%), ⑤(10.6%) など

○ 学校選択型A用問題

A-8 度数分布表からデータの最頻値、相対度数、累積相対度数を求め、正誤を判断することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
A-8	ク	⑦	9.5	89.8	0.7	⑥(23.2%), ②(17.9%), ⑤(16.8%), ④(10.9%) など

○ 学校選択型B用問題

B－18 相関係数を求めること、及び、データの修正と追加による相関係数の値の変化を
考察することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答例
B－18	フ	③	53.2	38.7	8.1	②(22.3%), ①(9.2%), ④(7.1%)など
	ヘ	①	14.2	76.3	9.5	⑦(16.0%), ③(12.9%), ⑥(11.0%) など

3 英語

(1) 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、高等学校第1学年までに十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を中心に出題した。なお、「英語コミュニケーションⅠ」の「聞くこと」及び「読むこと」の領域の内容を踏まえて出題している。

(2) 調査結果の分析

(◇ 比較的できている点 ◆ 課題のある点)

〔聞くこと〕

○ 共通問題

『英文を聞き取り、発話の状況を考え、その状況を正しく捉えることに課題』

◇ 基本的な語彙や表現を用いた短い英文を聞き、その状況を適切に表す絵を選択する問題では、正答率が 97.1%と高かった。基礎的な語彙や表現は聞き取れているといえる。 [1] ア]

◇ 簡単な会話の概要を把握する問題では、正答率が 78.6%と高かった。概要を把握するのに必要な情報を聞き取ることはできると考えられる。

[3] オ]

◆ 短い発話を聞き、その内容をもとに、現在の時刻を適切に表す絵を選択する問題では、正答率が 26.0%とリスニング問題の中で最も低かった。「今家を出れば、8時30分の電車に間に合うでしょう。」という内容から、8時30分より前の時刻を選ぶ必要があったが、誤答選択肢②の「8:30AM」を選んだ割合が 71.1%で、最後に聞こえた「8:30」を選んだものと考えられる。聞こえたものを安易に選ぶのではなく、発話の状況を考え、その状況を正しく捉えることに課題がある。 [1] イ]

〔読むこと〕 (日常的な話題)

○ 学校選択型A用問題

『資料中の複数の情報を処理することに課題』

◇ テキストの一部分から必要な情報を取り出す問題では、正答率が 62.7%だった。読み取る箇所が限定的である場合には、必要とする情報を探し出すことはできている。 [8]A ハ]

◆ テキスト内の複数の情報を処理する問題では、正答率が 30.4%と低かった。複数の必要な情報を読み取り、読み取った条件をもとに処理することに課題が見られる。 [8]A フ]

○ 学校選択型 B 用問題

『事実と意見を区別することに課題』

◇ テキストの一部分から必要な情報を取り出す問題では、正答率は 87.0% だった。読み取る箇所が限定的である場合は、必要とする情報を探し出すことはできている。 [8]B ハ]

◆ テキスト内の情報から事実と意見を区別し、内容に合致する事実を選ぶ問題では、正答率は 41.7% だった。意見が書いてある誤答選択肢 1 と 4 を選んだ生徒が合わせて 41.5% おり、事実と意見を正しく区別することができず、「利用者の感想」に書かれた情報は個人の意見であるにもかかわらず、「資料に書いてあれば事実である」と判断した生徒が多かったと考えられる。 [8]B ヘ]

〔読むこと〕（社会的な話題）

○ 学校選択型 A 用問題

『長めのテキストを読んで、文章の構造を捉えながら、理解することに課題』

◆ 長めのテキストを読む問題では、最も正答率が高かった設問でも 27.0% と低く、限られた時間の中で、長めのテキストと各設問の内容を正確に理解し、解答できた生徒が少なかったと推察される。テキスト内にある単語と同じ単語が使われた選択肢を安易に選択してしまう傾向がみられた。長めのテキストを、文章の構造を捉えながら、最後まで読み通して理解することに課題がある。 [9]A]

○ 学校選択型 B 用問題

『読み取った出来事を時系列に沿って整理し、正しく読み取ることに課題』

◇ 概要を捉える問題では、正答率が 72.3%、要点を捉える問題においては、62.3% だった。テキストの概要や要点を把握することはおおむねできていたといえる。 [9]B ホ、メ]

◆ テキストの出来事を時系列に沿って把握する問題では、正答率が 20.4% となり、他の問題と比べて著しく低かった。テキストに書かれている順番と実際の時系列が異なる仕立てであったが、テキスト中に書かれた順番で捉えてしまった生徒が多く、情報を整理しながら正しく読み取ることに課題がみられる。 [9]B ム]

【コミュニケーションを支える文法・語法】

○ 共通問題

『動詞の語法や比較級に関する表現に課題』

- ◆ <動詞の語法>の正答率は 18.6%と低かった。動名詞を目的語にとる動詞に関する問題であったが、mind のうしろの目的語には動名詞が続くという基本的な知識が定着していないと考えられる。〔6〕A ツ／〔6〕B ス
- ◆ <比較級の差を強調する表現>の正答率は 20.8%にとどまった。生徒の多くは比較級 cheaper があるにも関わらず、more を選択していた。比較級を強調する表現 much は中学校で学習しているが、その知識が定着していないと推察される。〔6〕A ト／〔6〕B ソ

○ 学校選択型 A 用問題

『基本的な構文に関する知識の定着に課題』

- ◇ <動詞 show を使った依頼の文>では、正答率が63.7%であった。<show + O (人) + O (もの)>という目的語を 2 つとる動詞の基礎的な知識はおおむね定着している。〔7〕A ヌ
- ◆ <so ～ that を用いた構文>では、正答率が 33.8%と低かった。多くの生徒は、<so + that + S + V ～>と<so + 形容詞・副詞 + that + S + V>を混同してしまったと考えられる。基本的な構文に関する知識の定着に課題がある。〔7〕A ネ

○ 学校選択型 B 用問題

『分詞構文を適切に活用することに課題』

- ◆ <分詞構文>は、正答率が 24.5%にとどまった。同様の問題を出題した令和 5 年度調査よりも、正答率は 4.0 ポイントほど高かったものの、誤答選択肢 2 の“seeing”を選んだ生徒の割合は、ほぼ同じであった。従属節の動詞と主節の主語との関係が能動であるか、受動であるのかを理解して、分詞構文を適切に活用することに、引き続き課題がある。〔6〕B ト

(3) 分析結果から考える授業づくりのポイント

POINT1 - 聞くこと(日常的・社会的な話題のリスニング)

様々な状況や場面の発話において、話し手の意図を把握したり、聞き取るべき内容を確認したりしながら、単語ではなく、意味のかたまりで理解できるようにしましょう。

- 日常生活によくある場面や状況を設定し、聞こえてくる英語から、その情報だけでなく、話し手の意図を的確に捉えることができるようにすることが大切です。
- 聞き取った内容の背景にある条件や因果関係について適切に理解するためには、単語レベルではなく、文レベルの理解が求められます。日々のリスニング活動でも、文全体の意味のかたまりを生徒が理解できているか確かめましょう。

POINT2 - 読むこと(日常的な話題)

身近な話題に関するテキストの目的や書き手の意図に留意して、情報を的確に読み取り、読み取った情報を処理できるようにしましょう。

- チラシやポスター、エッセイ、紹介文などの生徒にとって身近な話題について書かれたテキストを読む際に、「誰が」「何のために書いたのか」というテキストの目的や書き手の意図を把握できるようにすることが大切です。
- 読むことの活動の中に、事実と意見を分けて整理する活動も取り入れ、書き手の意図を把握し、情報を的確に読み取れるようにすることが大切です。

POINT3 - 読むこと(社会的な話題)

テキストを読み、概要や要点を書いてまとめたり、意見を出し合ったりしながら、情報を整理できるようにしましょう。

- 長めのテキストを読む際に、主張文と支持文との関係など、英文の文章構造を指導し、概要や要点を的確に捉えられるようにすることが大切です。
- テキストを時系列や論理展開にもとづいて整理して理解するために、読んだ内容を要約したり、図や表などを用いてまとめたりする機会を増やしましょう。

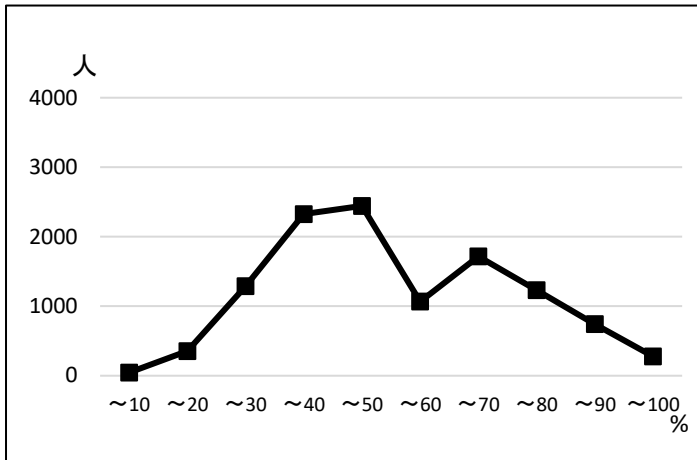
文法・語法の知識を実際のコミュニケーションの場面で運用できるように、実際のコミュニケーションを意識した表現活動の中で、学んだ知識を活用する機会を増やしましょう。

- 文法・語法の知識を身に付けるだけでなく、「話す・書く」といった表現活動の中でその知識を使う機会を多く取り入れることが重要です。
- 生徒同士が英語で考えや気持ちを伝え合う活動を積極的に取り入れ、既習の文法項目を実際の場面で活用できるようにしましょう。また、よく見られる誤りを把握し、クラス全体へのフィードバックを通じて「共通の課題」として共有することで、学び合いの機会を増やすことが大切です。

【資料編】

① 共通問題の正答率（調査対象全体）

共通問題の正答率 **51.2%**（令和6年度 40.5%）

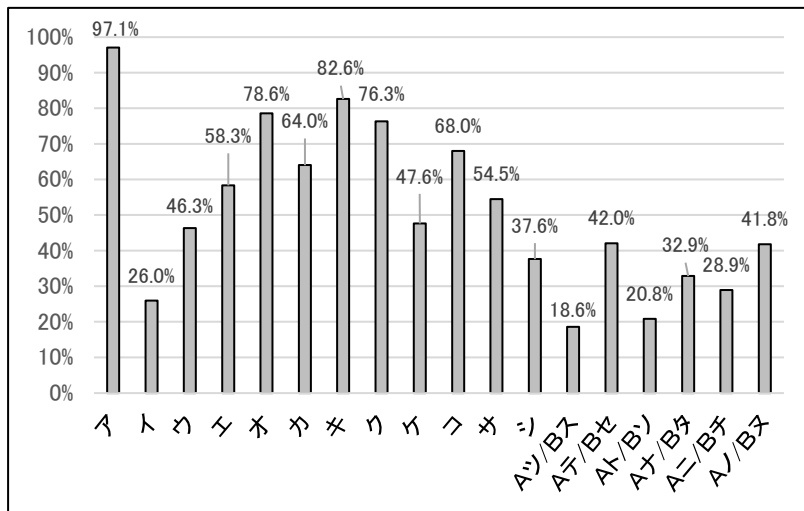


<概況>

昨年度同様、正答率 50%台の中間層が薄いM字型のグラフとなった。昨年度は、20%～30%の階級の度数が最大であったが、今年度は 40%～50%の階級の度数が最大となり、平均正答率においても、昨年度から 10.7 ポイント上昇した。「読むこと（社会的な話題）」においては、A問題選択者では、概要や要点を捉える問題に課題がみられ、B問題選択者では、概要や要点を捉える問題の正答率が 70%を超えた一方、テキスト内の情報を時系列に整理して解答する問題に課題がみられた。

図1 【共通問題・英語】正答率の度数分布

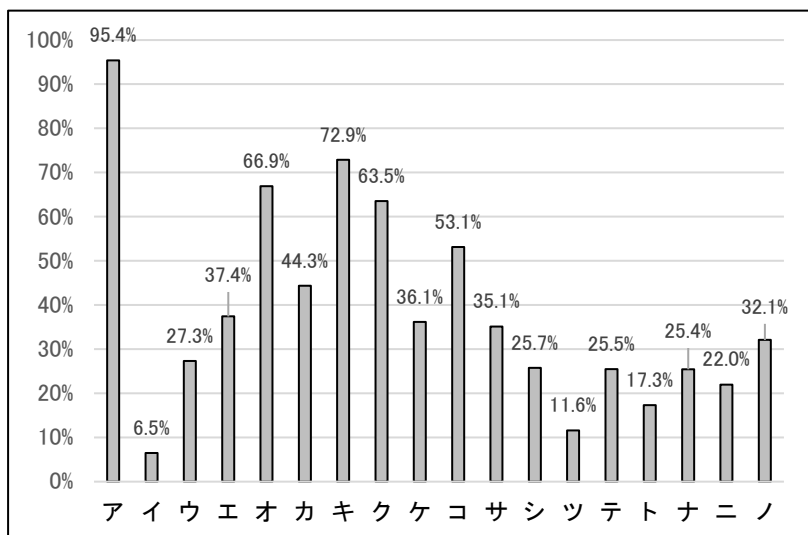
② 共通問題の小問ごと正答率（調査対象全体）



	解答記号	分類	内容
①	ア・イ	聞くこと(リスニング)	短い発話(イラスト付き)
②	ウ・エ	聞くこと(リスニング)	短い発話
③	オ・カ	聞くこと(リスニング)	短い対話(場面の情報付き)
④	キ～コ	聞くこと(リスニング)	長めの説明
⑤	サ・シ	聞くこと(リスニング)	長めの対話
⑥	Aツ/Bス	コミュニケーションを支える文法・語法	動名詞
	Aテ/Bセ	コミュニケーションを支える文法・語法	前置詞
	Aト/Bソ	コミュニケーションを支える文法・語法	比較
	Aナ/Bタ	コミュニケーションを支える文法・語法	時制(副詞節)
	Aニ/Bチ	コミュニケーションを支える文法・語法	使役動詞
⑦	Aノ/Bヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序

図2 【共通問題・英語】調査対象全体の小問ごと正答率

③ 学校選択型A用問題（A問題選択者）の小問ごと正答率



	解答記号	分類	内容
①	ア・イ	聞くこと(リスニング)	短い発話(イラスト付)
②	ウ・エ	聞くこと(リスニング)	短い発話
③	オ・カ	聞くこと(リスニング)	短い対話(場面の情報付)
④	キ～コ	聞くこと(リスニング)	長めの説明
⑤	サ・シ	聞くこと(リスニング)	長めの対話
⑥	Aツ/Bス	コミュニケーションを支える文法・語法	動名詞
	Aテ/Bセ	コミュニケーションを支える文法・語法	前置詞
	Aト/Bソ	コミュニケーションを支える文法・語法	比較
	Aナ/Bタ	コミュニケーションを支える文法・語法	時制(副詞節)
	Aニ/Bチ	コミュニケーションを支える文法・語法	使役動詞
⑦	Aノ/Bヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序

図3 【共通問題・英語】A選択者の小問ごと正答率

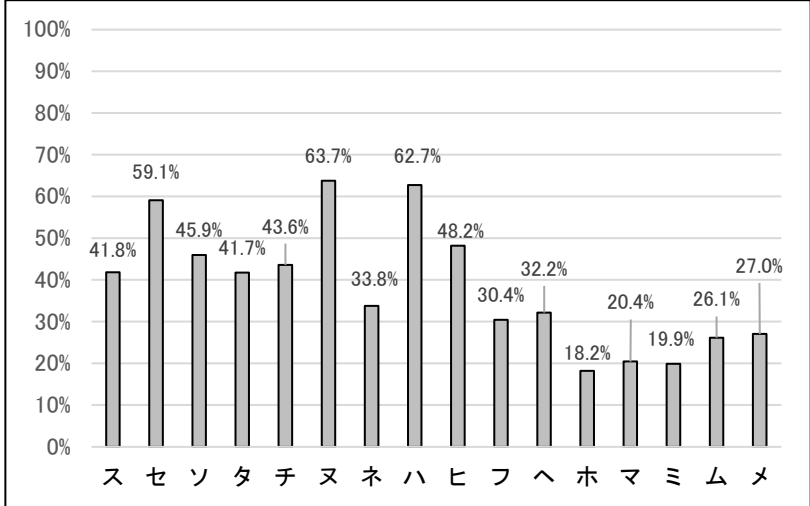


図4 【選択型A用問題・英語】小問ごと正答率

学校選択型A用問題

	解答記号	分類	内容
⑥	ス	コミュニケーションを支える文法・語法	時制(過去形)
	セ	コミュニケーションを支える文法・語法	分詞(後置修飾)
	ソ	コミュニケーションを支える文法・語法	関係代名詞(主格)
	タ	コミュニケーションを支える文法・語法	代名詞(目的格)
	チ	コミュニケーションを支える文法・語法	不定詞(副詞用法)
⑦	ヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序
	ネ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序
⑧	ハ～ヘ	読むこと(日常的な話題)	情報検索
⑨	ホ～メ	読むこと(社会的な話題)	内容理解

④ 学校選択型B用問題（B問題選択者）の小問ごと正答率

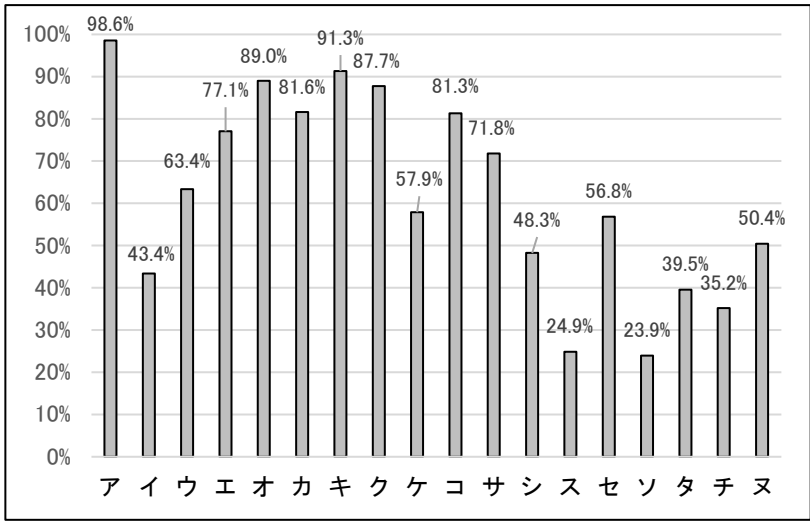


図5 【共通問題・英語】B選択者の小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
①	ア・イ	聞くこと(リスニング)	短い発話(イラスト付き)
②	ウ・エ	聞くこと(リスニング)	短い発話
③	オ・カ	聞くこと(リスニング)	短い対話(場面の情報付き)
④	キ～コ	聞くこと(リスニング)	長めの説明
⑤	サ・シ	聞くこと(リスニング)	長めの対話
⑥	Aツ/Bス	コミュニケーションを支える文法・語法	動名詞
	Aテ/Bセ	コミュニケーションを支える文法・語法	前置詞
	Aト/Bソ	コミュニケーションを支える文法・語法	比較
	Aナ/Bタ	コミュニケーションを支える文法・語法	時制(副詞節)
	Aニ/Bチ	コミュニケーションを支える文法・語法	使役動詞
⑦	Aノ/Bヌ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序

学校選択型B用問題

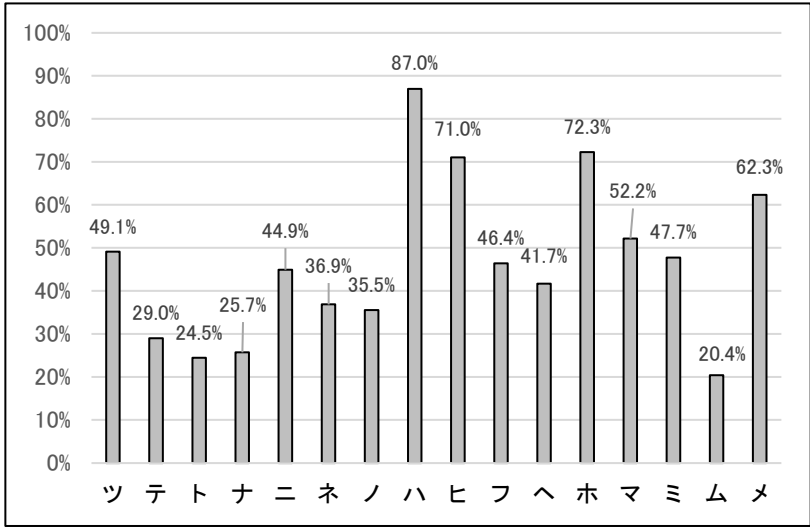


図6 【選択型B用問題・英語】小問ごと正答率

	解答記号	分類	内容
⑥	ツ	コミュニケーションを支える文法・語法	助動詞
	テ	コミュニケーションを支える文法・語法	否定語
	ト	コミュニケーションを支える文法・語法	分詞構文
	ナ	コミュニケーションを支える文法・語法	慣用表現
	ニ	コミュニケーションを支える文法・語法	副詞
⑦	ネ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序
	ノ	コミュニケーションを支える文法・語法	整序
⑧	ハ～ヘ	読むこと(日常的な話題)	情報検索
⑨	ホ～メ	読むこと(社会的な話題)	内容理解

⑤ 設問ごとの正答率・誤答率・無答率 等

○ 共通問題

〔聞くこと〕(リスニング)

① 短い発話を聞き、対応するイラストを選ぶことを通じて、発話の状況を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
1	(1)	ア	4	97.1	2.8	0.1	0.6	1.3	0.9	○
	(2)	イ	1	26.0	73.8	0.2	○	71.1	2.4	0.3

② 短い発話を聞き、話し手の状況を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
2	(1)	ウ	2	46.3	53.3	0.4	32.3	○	17.6	3.4
	(2)	エ	3	58.3	41.4	0.3	4.9	15.6	○	20.9

③ 場面に関する説明を参考にしながら短い対話を聞き、概要や要点を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
3	(1)	オ	3	78.6	21.1	0.3	5.9	3.0	○	12.2
	(2)	カ	2	64.0	35.7	0.3	8.9	○	23.6	3.2

④ 長めの説明を聞き、表を完成させることを通じて、必要な情報を整理し、内容を把握することができるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
						1	2	3	4
④	キ	1	82.6	17.0	0.4	○	4.5	3.5	9.0
	ク	4	76.3	23.2	0.5	7.5	8.9	6.8	○
	ケ	4	47.6	51.7	0.7	8.5	26.4	16.8	○
	コ	3	68.0	31.4	0.6	6.7	15.3	○	9.4

⑤ 長めの対話を聞き、必要な情報を整理して要点を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
5	(1)	サ	3	54.5	45.1	0.4	15.0	21.6	○	8.5
	(2)	シ	2	37.6	61.9	0.5	24.8	○	11.4	25.7

〔読むこと〕（日常的な話題）

○ 学校選択型 A 用問題

8-A 日常的な話題について書かれたテキストを読み、目的に応じて必要な情報を読み取り、書き手の意図を捉えることができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
8	(1)	ハ	2	62.7	36.4	0.9	10.9	○	15.5	9.9
	(2)	ヒ	1	48.2	50.8	1.0	○	11.9	26.4	12.5
	(3)	フ	3	30.4	68.7	0.9	13.4	34.7	○	20.5
	(4)	ヘ	4	32.2	66.7	1.1	20.8	20.7	25.2	○

○ 学校選択型 B 用問題

8-B 日常的な話題に関して書かれたテキストについて、目的に応じて必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
8	(1)	ハ	2	87.0	12.6	0.5	2.7	○	8.3	1.6
	(2)	ヒ	1	71.0	28.5	0.5	○	4.7	13.9	9.9
	(3)	フ	2	46.4	52.9	0.7	6.9	○	14.2	31.9
	(4)	ヘ	3	41.7	57.6	0.7	28.6	16.1	○	12.9

〔読むこと〕（社会的な話題）

○ 学校選択型 A 用問題

9-A 社会的な話題について書かれたテキストを読み、その概要や要点を的確に把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
9	(1)	ホ	3	18.2	80.6	1.3	54.1	19.5	○	7.0
	(2)	マ	1	20.4	78.1	1.5	○	20.6	30.4	27.1
	(3)	ミ	1	19.9	78.5	1.6	○	29.5	29.7	19.2
	(4)	ム	4	26.1	72.2	1.7	17.3	32.8	22.1	○
	(5)	メ	3	27.0	71.3	1.7	18.9	26.0	○	26.4

○ 学校選択型B用問題

9-B 社会的な話題に関して書かれたテキストについて、その概要や要点を的確に把握することができるかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
9	(1)	ホ	1	72.3	26.9	0.8	○	8.0	11.4	7.6
	(2)	マ	4	52.2	46.7	1.1	11.5	16.2	19.0	○
	(3)	ミ	1	47.7	50.9	1.3	○	14.9	15.8	20.2
	(4)	ム	1	20.4	77.8	1.8	○	22.0	39.5	16.3
	(5)	メ	3	62.3	35.7	2.0	7.5	15.5	○	12.7

〔コミュニケーションを支える文法・語法〕

○ 共通問題

6 (文法・語法)

英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文法事項に関する知識が定着しているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
6	A(6) B(1)	ツ ス	4	18.6	81.1	0.3	28.4	23.6	29.2	○
	A(7) B(2)	テ セ	1	42.0	57.6	0.4	○	15.5	9.0	33.1
	A(8) B(3)	ト ソ	3	20.8	78.8	0.4	20.0	13.4	○	45.4
	A(9) B(4)	ナ タ	2	32.9	66.8	0.3	10.7	○	13.0	43.1
	A(10) B(5)	ニ チ	2	28.9	70.6	0.4	20.1	○	31.6	18.9

7 (整序)

英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文構造に関する知識と、それを適切に運用する技能が身に付いているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
7	A(3) B(1)	ノ ヌ	3	41.8	57.6	0.6	9.1	15.1	○	33.4

○ 学校選択型A用問題

6 (文法・語法)

英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文法事項に関する知識が定着しているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率（％）			
							1	2	3	4
6	(1)	ス	2	41.8	57.8	0.4	27.5	○	25.4	4.9
	(2)	セ	4	59.1	40.5	0.4	21.0	10.5	9.1	○
	(3)	ソ	1	45.9	53.7	0.4	○	22.8	12.3	18.5
	(4)	タ	3	41.7	57.9	0.4	19.5	29.1	○	9.2
	(5)	チ	3	43.6	55.9	0.5	10.9	27.9	○	17.1

7 (整序)

英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文構造に関する知識と、それを適切に運用する技能が身に付いているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
7	(1)	ヌ	2	63.7	35.6	0.6	19.1	○	11.6	4.9
	(2)	ネ	2	33.8	65.5	0.7	17.0	○	32.5	16.0

○ 学校選択型B用問題

6 (文法・語法)

英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文法事項に関する知識が定着しているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)	誤答の選択肢の選択率 (%)			
							1	2	3	4
6	(6)	ツ	4	49.1	50.6	0.3	17.5	16.0	17.1	○
	(7)	テ	3	29.0	70.8	0.2	32.4	20.0	○	18.4
	(8)	ト	3	24.5	75.2	0.3	20.9	37.6	○	16.6
	(9)	ナ	4	25.7	74.0	0.3	3.9	63.0	7.1	○
	(10)	ニ	1	44.9	54.7	0.3	○	9.9	21.8	23.0

7 (整序)

英語によるコミュニケーションを支える基礎的・基本的な文構造に関する知識と、それを適切に運用する技能が身に付いているかをみる問題

問題番号		解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答の選択肢の選択率（％）			
							1	2	3	4
7	(2)	ネ	1	36.9	62.8	0.3	○	10.1	43.2	9.5
	(3)	ノ	2	35.5	63.8	0.6	8.4	○	10.8	44.6

Ⅲ 学習状況等に関する調査結果の分析

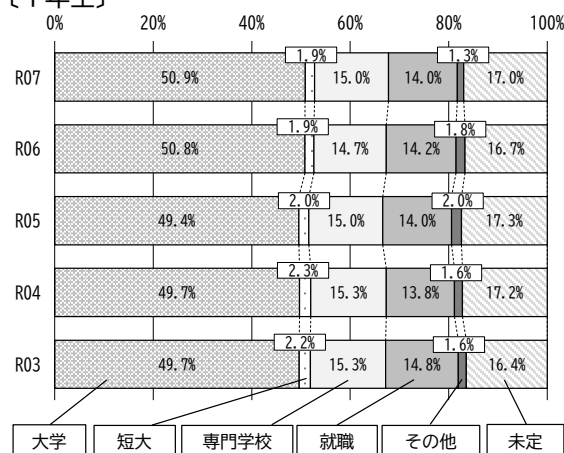
※ R 7から学習状況等に関する調査をオンライン方式で実施し、Q 1～Q 7は学校名・学年・組・出席番号・氏名などの情報である。なお、R 7の質問内容は、R 6以前と変更はない。

1 学習状況

(1) 高校卒業後の進路希望について

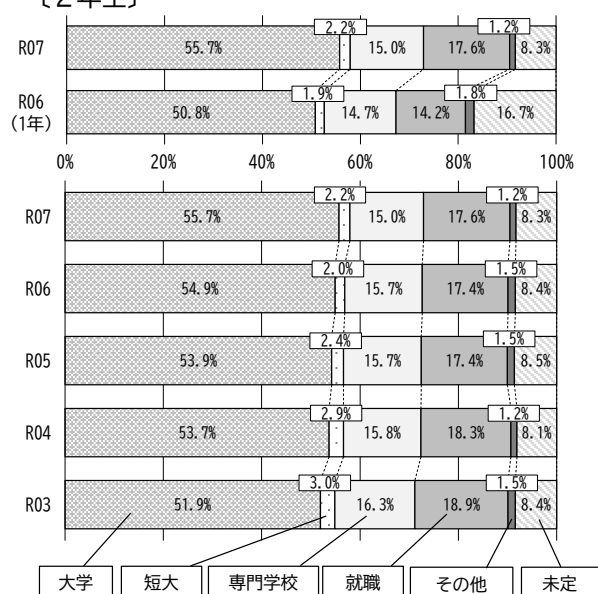
- ① 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在、最も強く希望しているものを1つ選んでください【Q 8】

〔1年生〕



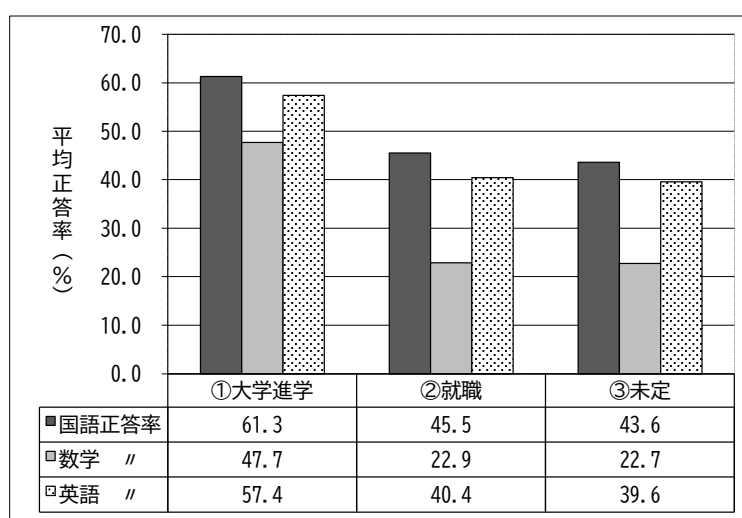
- 進学を希望する生徒の割合は6割を超える。大学への進学希望者が5割を超えた。
- R 3以降、増加していた進路希望未定者の割合がR 6で一度減少に転じたが、再び増加した。

〔2年生〕



- 未定の割合が1年時に比べ、大きく減少しているが、全体の傾向は、過去5年間で大きな変化はみられない。
- 進学希望の割合は年々増加し、R 3以降7割を超えている。中でも、大学への進学希望者が増加している。

② 進路希望別正答率



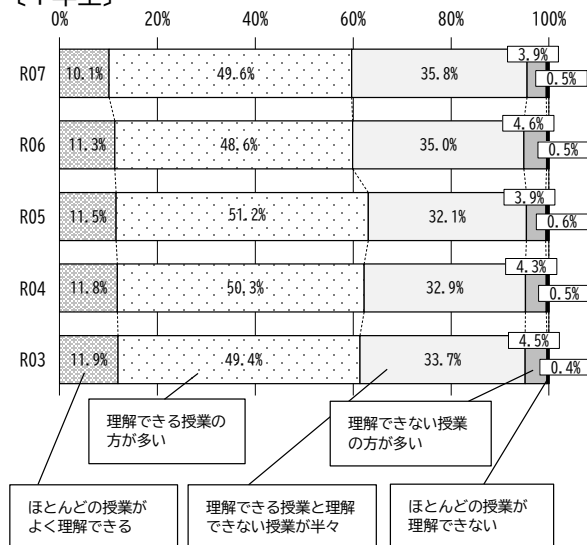
- ① 大学進学
国公立の4年制大学への進学を希望している生徒
- ② 就職
民間及び公務員への就職を希望している生徒
- ③ 未定

- いずれの教科も、大学進学希望者と就職希望者・進路希望未定者の正答率に大きな開きがある。就職希望者と進路希望未定者の正答率には、大きな差はみられない。

(2) 授業理解度と家庭学習の仕方について

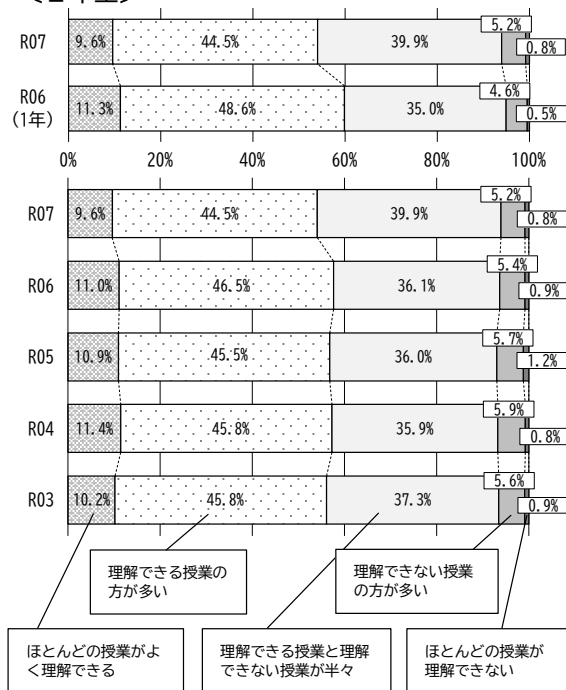
① 授業の内容がどの程度理解できますか【Q11】

〔1年生〕



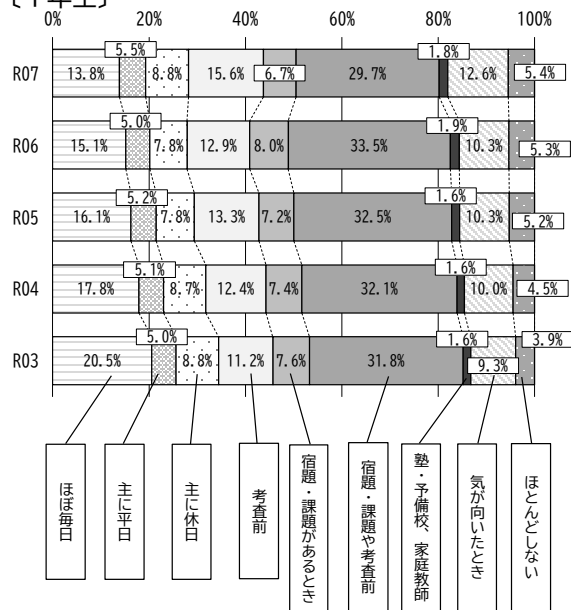
- 1年生は、R5では授業理解に肯定的な回答をした生徒の割合が6割を超えていたが、R6から6割を切っている。
- 2年生では、肯定的な回答が1年時と比較して減少している。肯定的な回答の割合は、R7は減少し、過去5年間で一番低くなった。

〔2年生〕



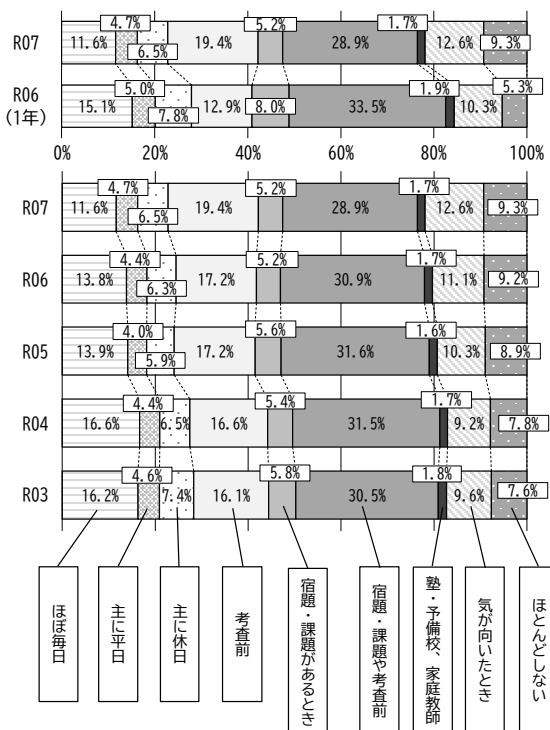
② 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか【Q23】

〔1年生〕



- 1年生は、「ほぼ毎日」の割合が減少傾向。一方で、「考査前」が増加傾向であることから、「考査前」しか家庭学習をしない生徒が増加傾向にあることが懸念される。
- 2年生は、「気が向いたとき」「ほとんどしない」が年々増加傾向にあり、引き続き注意が必要である。

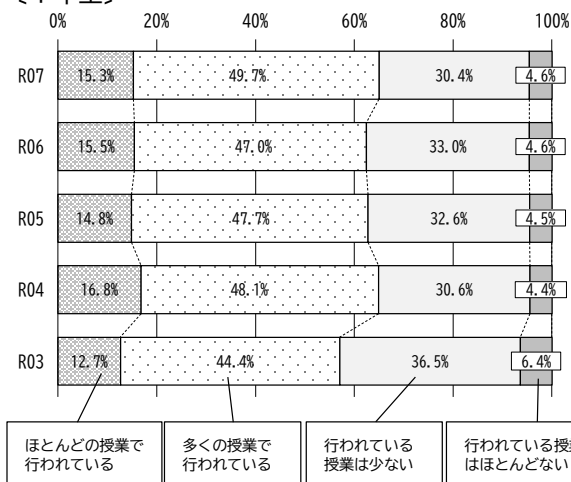
〔2年生〕



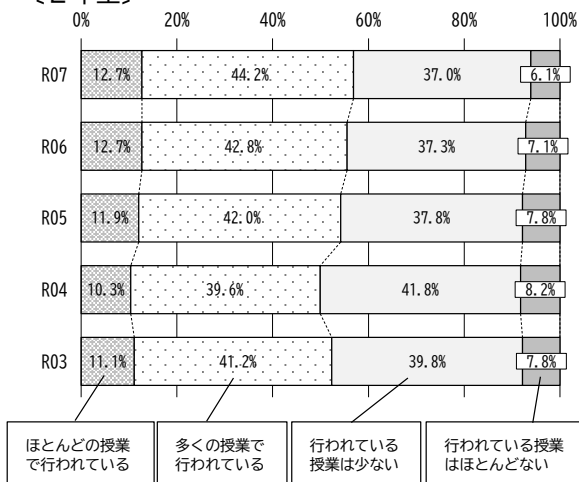
(3) 授業における学習目標の提示や振り返りについて

- ① 授業のはじめに学習の目標が示されたり、授業の終わりに学習のまとめや振り返りが行われたりしていますか【Q13】

〔1年生〕

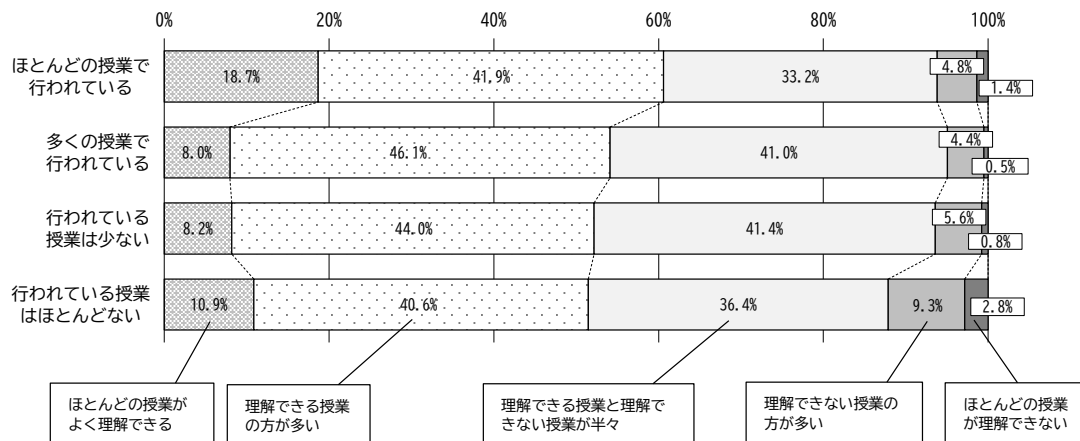


〔2年生〕



○ 1年生では、「ほとんどの授業で行われている」「多くの授業で行われている」と肯定的な回答をした生徒の割合が6割を超えている。2年生では、肯定的な回答の割合が6割近くであるが、R4から増加傾向にある。生徒の主体的な学びを意識した授業改善が行われてきていることがうかがえる。

- ② 授業での学習目標の提示や振り返りと授業理解度（2年生）【Q11】【Q13】

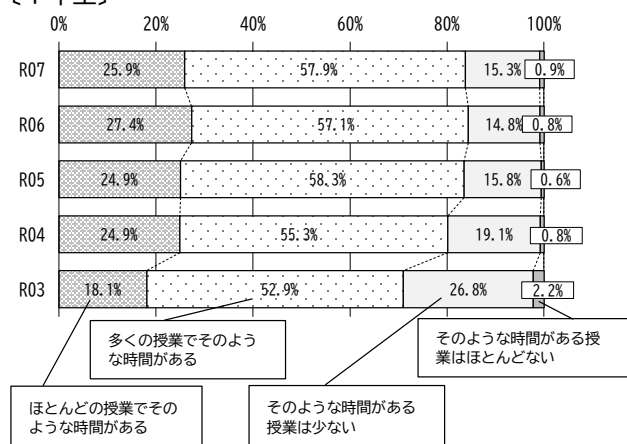


- 「ほとんどの授業で学習目標の提示や振り返りが行われている」と回答したグループほど、授業理解度が高い傾向がみられる。
- 「行われている授業がほとんどない」と回答したグループでは、「理解できない授業の方が多い」と「ほとんどの授業が理解できない」を合わせた割合は約12%である。これは、学習目標の提示や振り返りの有無に対して肯定的な回答をしたグループで、同様の回答をした割合の約2倍である。
- 学習目標の提示や学習のまとめ、振り返りの場面を設定し、工夫することによって、生徒が見通しをもって粘り強く取り組んだり、学習したことを捉え直したりし、学習内容の理解が促進されることが考えられる。

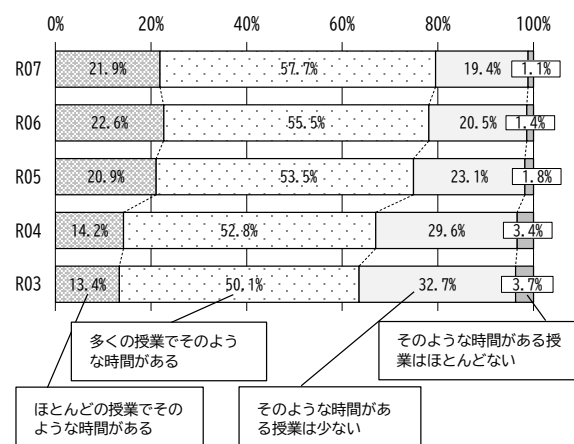
(4) 自分の考えを发表或したり、ペアやグループで話し合ったりする学習活動について

- ① 授業の中で、自分の考えを发表或し、考えたことをペアや小グループで話し合ったりする時間がありますか【Q14】

〔1年生〕

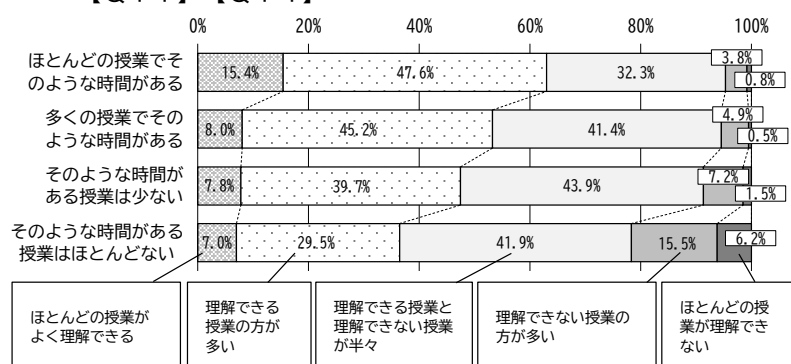


〔2年生〕



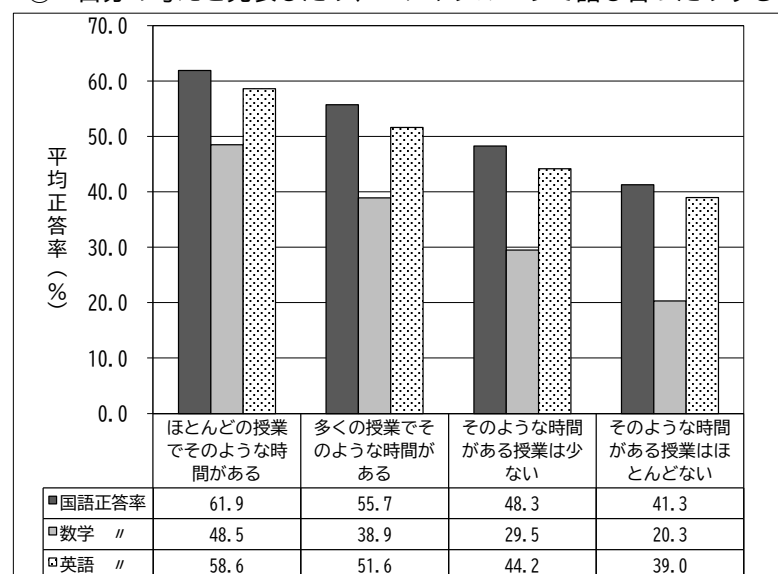
○ 年度を追って見ていくと、2年生では肯定的回答の割合が増加しているが、1年生は減少に転じている。しかし、1年生は8割を超え、2年生はほぼ8割になった。学習指導要領で求められている資質・能力の育成を図る授業改善に、各校が取り組んでいる様子がうかがえる。

- ② 自分の考えを发表或し、ペアやグループで話し合ったりする学習活動と授業理解度（2年生）【Q11】【Q14】



○ 「ほとんどの授業で発表や話し合いの時間がある」と回答したグループほど、授業理解度が高い傾向がある。「そのような時間がある授業はほとんどない」と回答したグループと比較すると、授業理解度に肯定的な回答の割合は、約2倍弱である。生徒にペアやグループ活動に取り組ませることは、授業の学習内容を理解させるの一つの手立てとして効果的であると考えられる。

- ③ 自分の考えを发表或し、ペアやグループで話し合ったりする学習活動と正答率



○ 発表や話し合いの活動が行われる授業が多いほど、正答率が高くなる傾向が見られる。

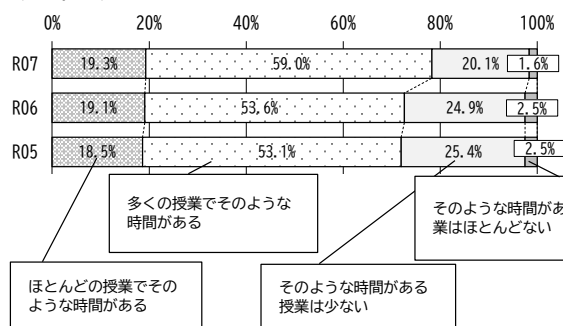
○ 発表や話し合いの活動を効果的に設定することにより、生徒が他者の意見に触れ、自らの考えを広げ深めることができ、学習内容の定着に寄与することが期待できる。

○ 対話的な学びを充実させることで、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成につながり、深い学びにつながっていくと考えられる。

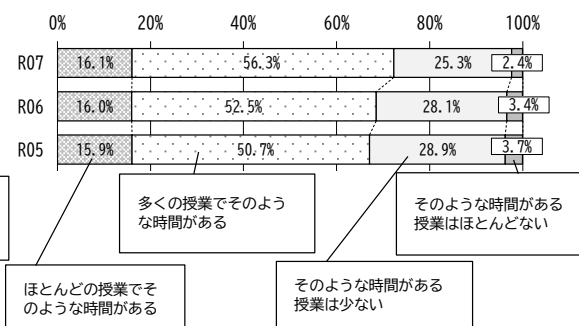
(5) 課題を見つたり、解決したりする学習活動について

① 授業の中で、あなたが課題を見つたり、解決したりする時間がありますか【Q15】

〔1年生〕

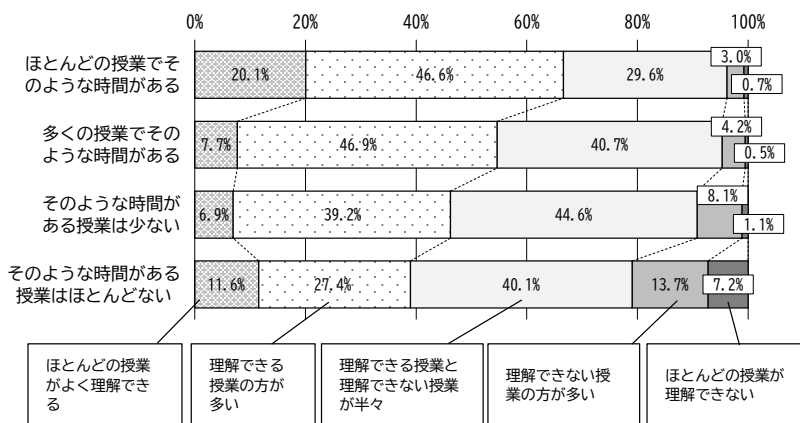


〔2年生〕



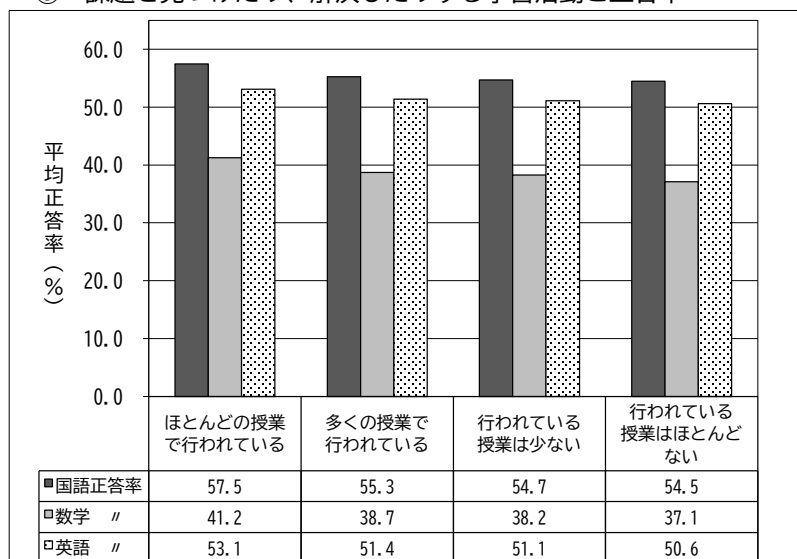
- 1、2年生ともに、授業中に課題を見つたり、解決したりする時間があると回答した割合は年々増加している。各校で課題発見・解決を意識した授業が展開されている様子がうかがえる。
- 1年生と2年生を比較すると、2年生の方が肯定的回答の割合が低い。

② 課題を見つたり、解決したりする学習活動と授業理解度（2年生）【Q11】【Q15】



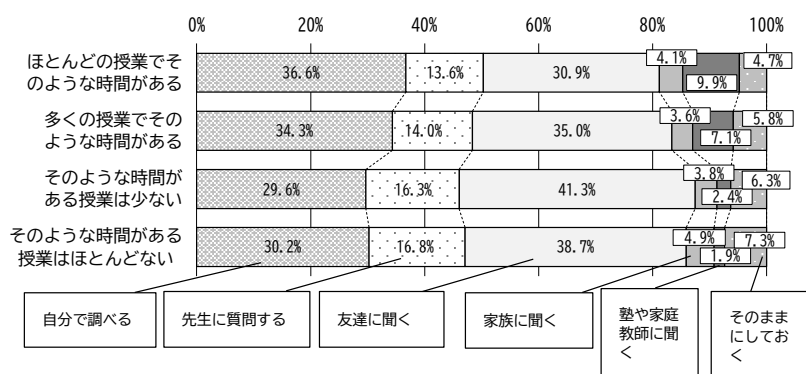
- 生徒が探究的な学習をするほど、また、主体的に学ぶほど、授業理解度が高くなる。
- 「ほとんどの授業でそのような時間がある」と回答し、「理解できない授業が多い」と認識している割合は、「そのような時間がある授業はほとんどない」と回答し、「理解できない授業が多い」と認識している割合の4分の1程度である。課題を見つたり、解決したりする学習活動を取り入れることで、生徒が主体的に学び、学習内容の理解を深めることができる。

③ 課題を見つたり、解決したりする学習活動と正答率



- 課題を見つたり、解決したりする学習活動を行う時間を設定している授業が多いほど、正答率が高い傾向が見られる。
- 課題を見つたり、解決したりする学習活動をすることで、授業の理解度が高まり、習得した各教科の知識や技能が着実に定着していくと考えられる。

④ 課題を見つけたり、解決したりする学習活動と分からないことがあるときの行動（2年生）
【Q12】【Q15】

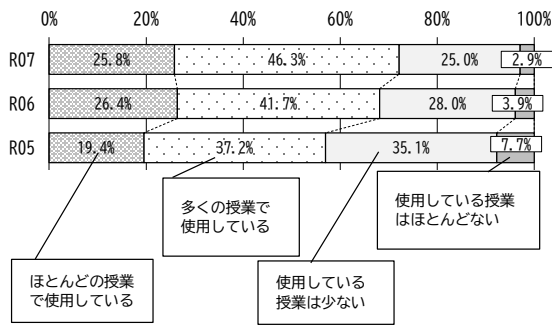


- 「課題を見つけたり、解決したりする学習活動が多い」と回答したグループほど、分からないことがあるときに、自分で調べたり、誰かに聞いたりして解決しようとする傾向がみられる。
- 「そのような時間を設定している授業が少ない」と回答したグループでも誰かに聞いて解決しようとする生徒が6割を超えている。
- 課題を見つけたり、解決したりする学習活動を通じて、生徒が解決に向けて必要な方法や手段を見つけ、適切に選択することができるようにしていくことが重要である。

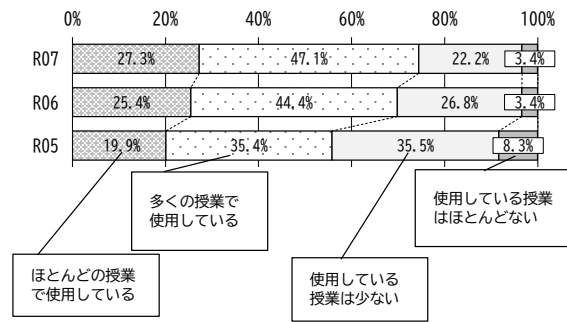
(6) 授業におけるICT機器の使用について

① 授業の中で、生徒がタブレットやパソコンなどのICT機器を使用していますか【Q16】

〔1年生〕



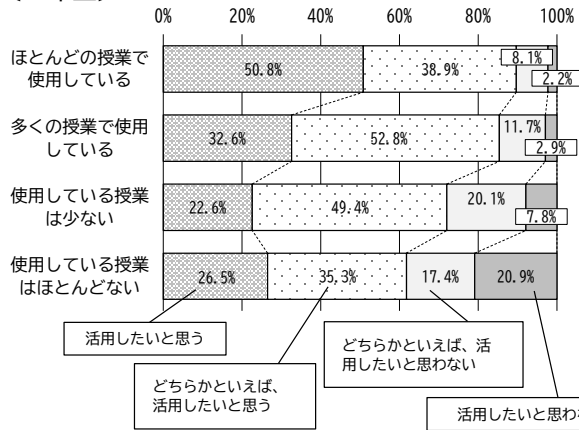
〔2年生〕



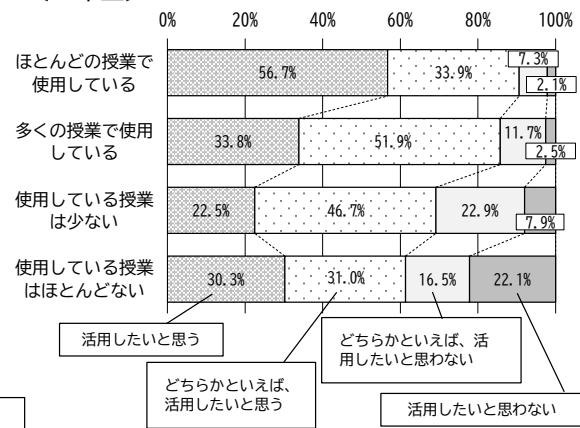
- ほとんどの授業や多くの授業の中で、生徒がICT機器を使用していると回答した割合が、1年生、2年生ともに7割を超え、この3年間で、最も高くなった。
- 1人1台端末など使用環境の整備が完了し、様々な授業でICT機器を活用していることが推察できる。

② ICT機器の使用と授業でよりICT機器を活用することへの意識【Q16】【Q17】

〔1年生〕



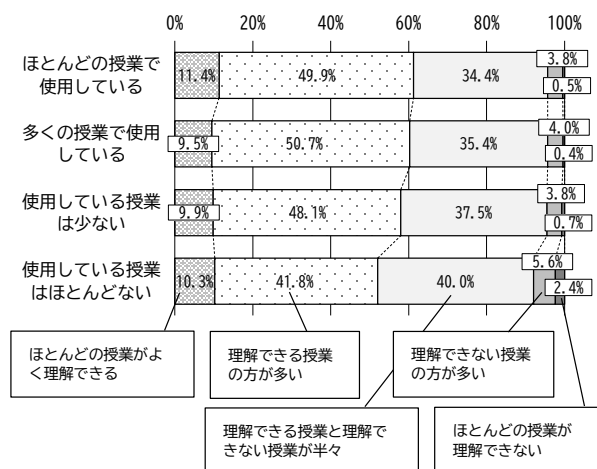
〔2年生〕



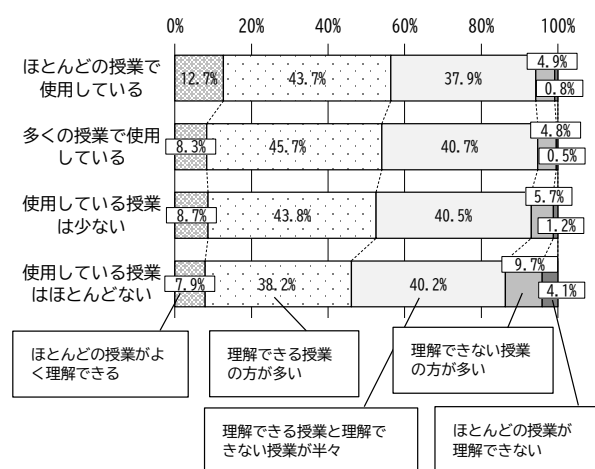
- 授業でICT機器を多く使用するほど、生徒が授業でよりICT機器を活用したいという意識が高まる傾向がある。
- 情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力の一つであり、各教科等の授業において、それぞれの特質に応じてICT機器を適切に活用して、情報活用能力の育成を図ることが必要である。

③ ICT機器の使用と授業理解度【Q11】【Q16】

〔1年生〕



〔2年生〕

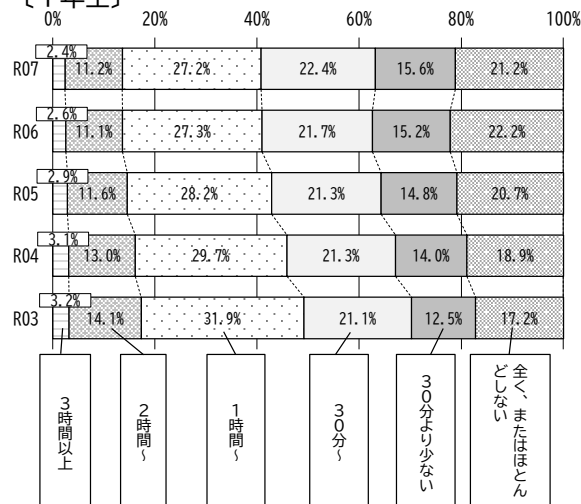


- ICT機器の使用頻度が高い授業は、授業理解度が高い傾向がある。ICT機器を十分に活用することで、生徒の学習が主体的・対話的で深い学びとなるよう、今後一層、授業改善を進める必要がある。

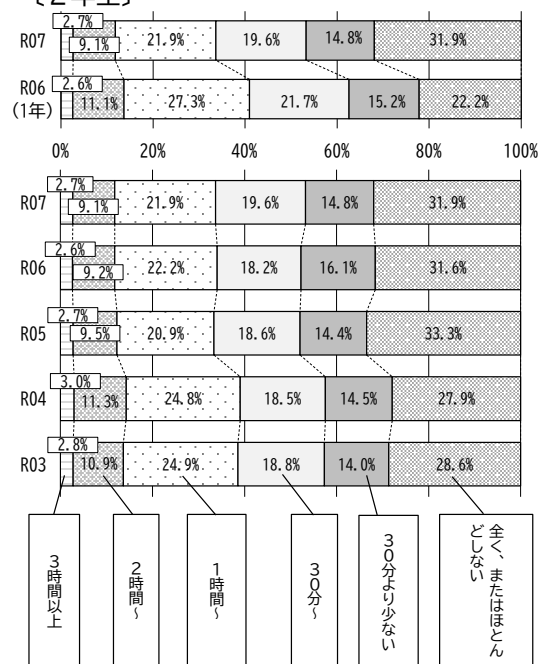
(7) 平日の家庭学習時間について

① 平日、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか【Q21】

〔1年生〕

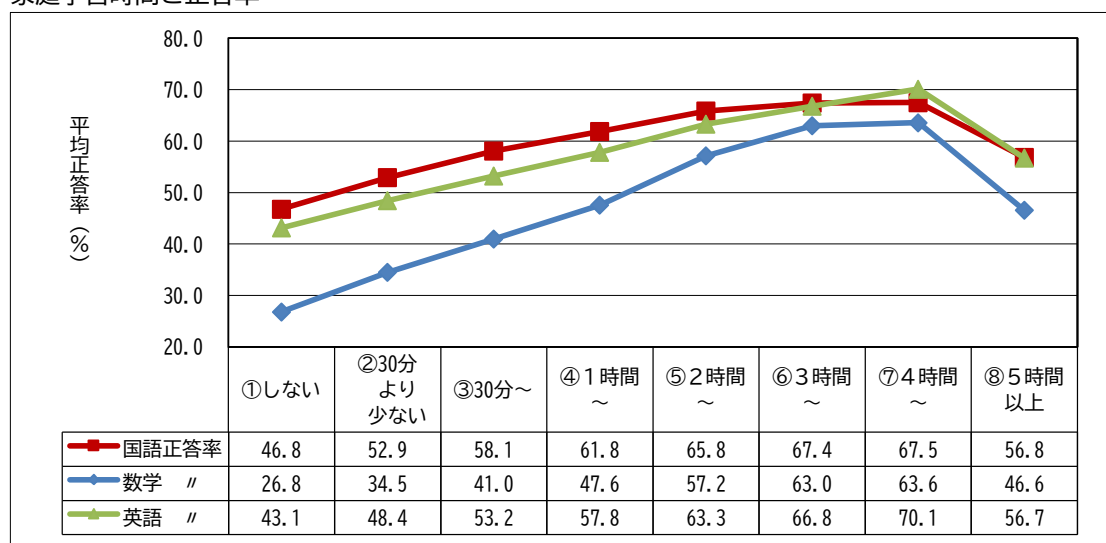


〔2年生〕



- 1年生は、1時間以上学習している生徒の割合が減少傾向であるが、「全く、またはほとんど勉強しない」生徒の割合がR6よりもわずかに減少した。
- 2年生は、「全く、またはほとんど勉強しない」生徒の割合は微増した。1年時と比較すると、この割合が増加する傾向は例年と同様である。

② 家庭学習時間と正答率

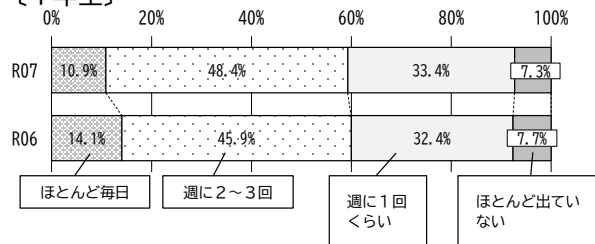


- 平日に家庭学習時間が2～4時間確保できている生徒は、平均正答率が高く、学習内容を身に付けていることがうかがえる。平日の学習習慣が定着するような工夫が必要である。

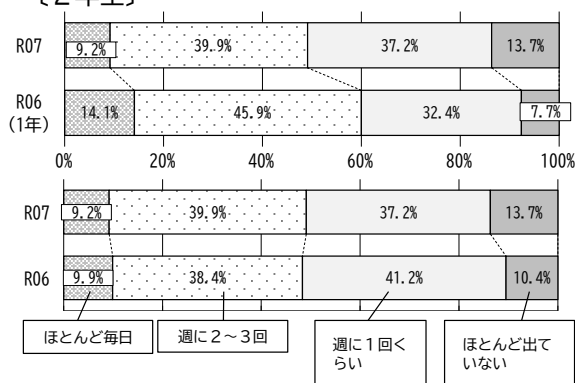
(8) 宿題・課題の頻度について

① 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか【Q18】

〔1年生〕



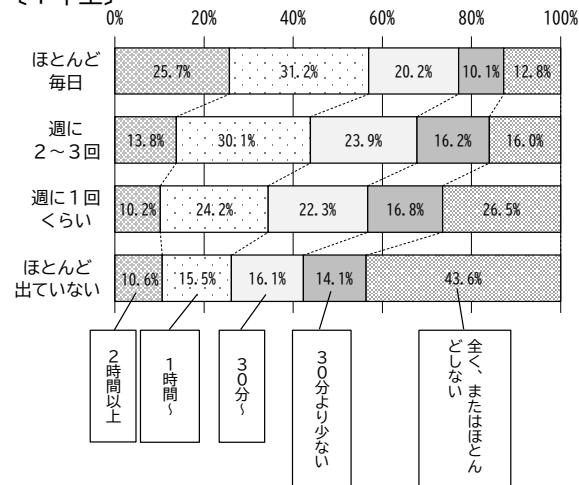
〔2年生〕



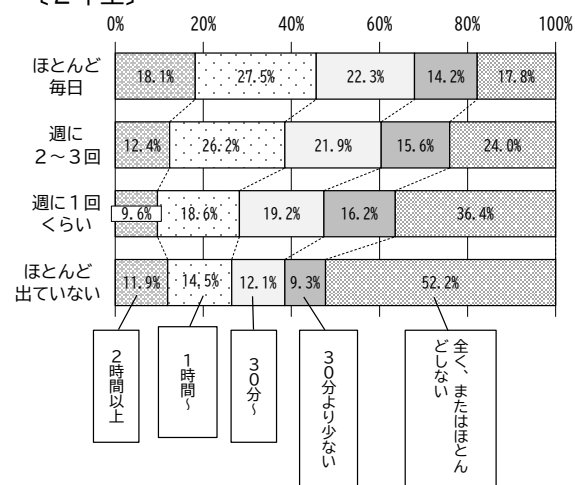
- 「ほぼ毎日」宿題・課題が出されている割合は、昨年度と比較すると、1年生では減少し、2年生でもわずかに減少した。
- 2年生においては、昨年度と比較すると、宿題・課題がほとんど出ていない割合が増加している。

② 宿題・課題が課される頻度と平日の家庭学習時間【Q18】【Q21】

〔1年生〕

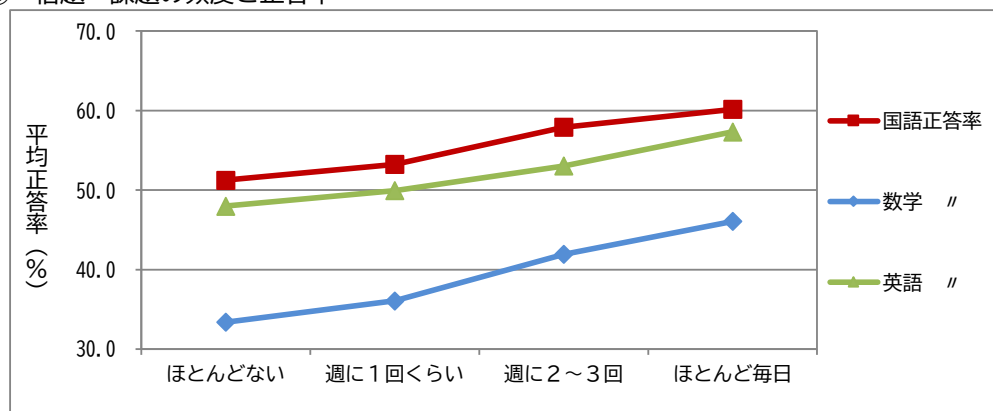


〔2年生〕



- 1、2年生ともに、宿題・課題が課される頻度が高いほど家庭学習時間が長くなっている。
- 宿題・課題の頻度が、家庭学習時間の確保につながっている。宿題・課題がほとんど出ていない場合、家庭学習を全く、またはほとんど行っていないことが分かる。家庭学習の時間確保と学習内容の定着に向けて、宿題・課題の効果的な課し方を工夫する必要がある。

③ 宿題・課題の頻度と正答率

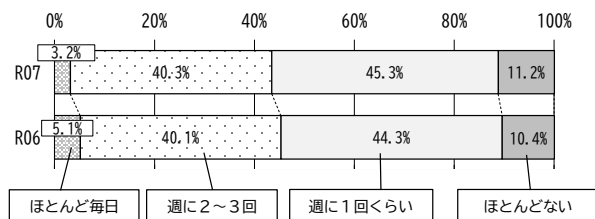


- 宿題・課題の頻度が多くなるにつれ、どの教科も教科の平均正答率が高くなっている。宿題・課題を適切に課すことは、望ましい学習習慣や学習した内容の定着に一定の効果があると考えられる。

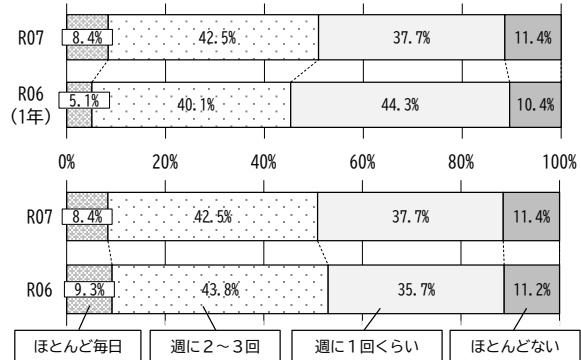
(9) テストの頻度について

① 学校ではどのくらいの割合でテスト（小テストや確認テストを含む）がありますか【Q19】

〔1年生〕



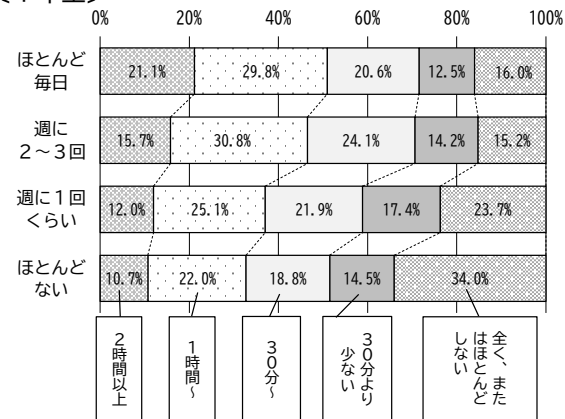
〔2年生〕



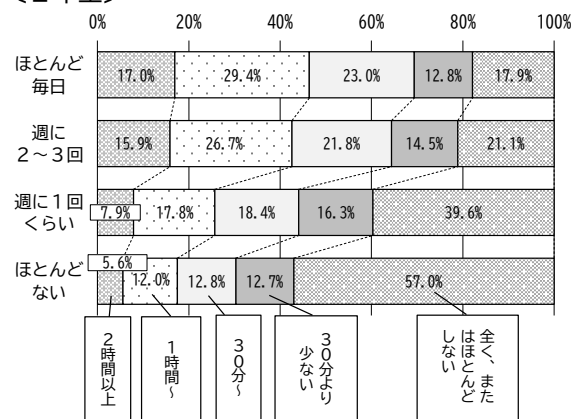
- 「週に2～3回」以上と回答した生徒の割合は、R6と比較すると1年生、2年生ともに減少している。

② テストの頻度と平日の家庭学習時間【Q19】【Q21】

〔1年生〕

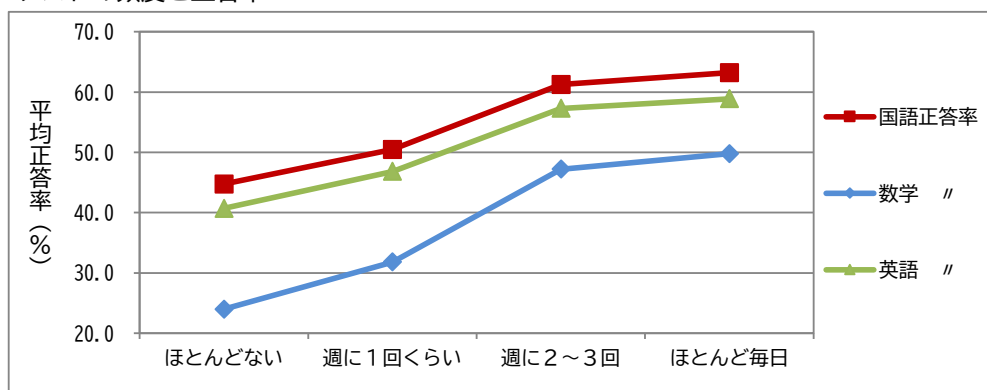


〔2年生〕



- 1、2年生ともに、テストの頻度が高いと、家庭学習時間が長くなっている。「テストがほとんどない」と回答したグループでは、家庭学習時間が「30分以下」と答えた生徒が、1年生では7割に近く、2年生では8割を超える。
- 1年生から2年生に学年が上がると平日学習時間は大きく減少する傾向が続いている。宿題の頻度は、1年生では減少し、2年生では増加しているが、テストの頻度はともに減少している。テストの回数が減ったことで家庭学習時間が減少している可能性がある。宿題同様、家庭学習を定着させるための手立てとして、テストを効果的に活用することが考えられる。

③ テストの頻度と正答率

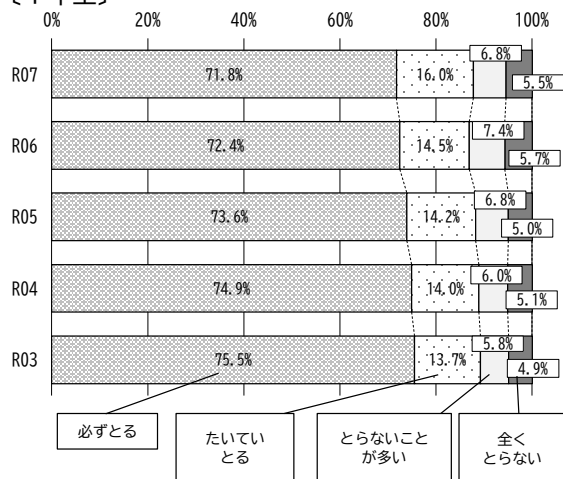


- テストの頻度について「ほとんど毎日」「週に2～3回」と回答したグループと、「週に1回くらい」「ほとんどない」と回答したグループを比較すると、各教科の正答率に大きな開きがみられる。
- テストの実施によって、学習内容の定着が図られ、自己の学習状況の把握にもつながっていると考えられることから、学習効果を高めるために、定期考査だけでなく、単元末などにテストを適切に設定し実施することが有効であると考えられる。

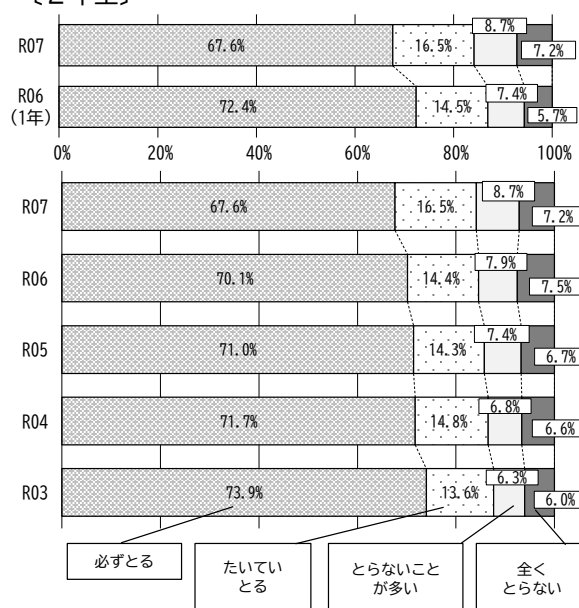
(10) 朝食摂取の習慣

① 学校に行く前に朝食をとりますか【Q27】

〔1年生〕

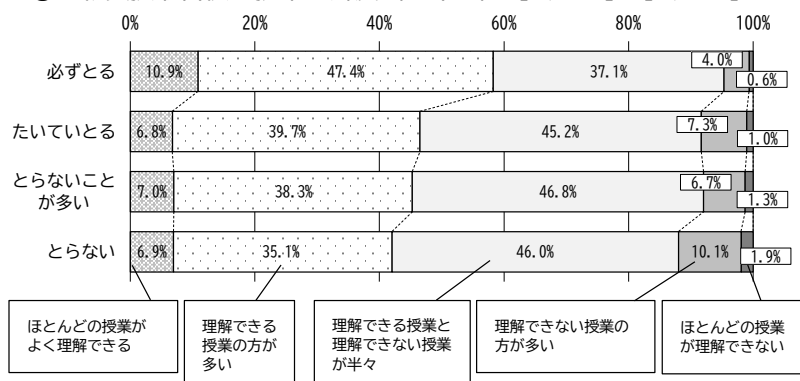


〔2年生〕



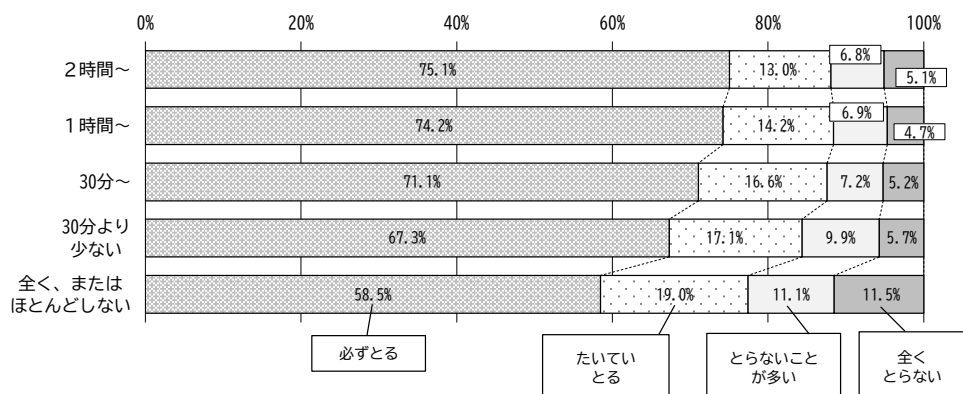
- 1、2年生ともに、8割以上の生徒に朝食摂取の習慣が身に付いているが、「必ずとる」の割合が減少傾向にあるので、注意が必要である。
- 「必ずとる」の割合が、1年生から2年生にかけて減少している。

② 朝食摂取習慣と授業理解度（2年生）【Q11】【Q27】



- 「必ずとる」と回答したグループでは、約6割が授業理解度について肯定的回答をしている。
- 朝食をとることで、基本的な生活リズムが整い、授業理解度が高くなる可能性がある。

③ 平日の学習時間と朝食摂取習慣（2年生）【Q21】【Q27】

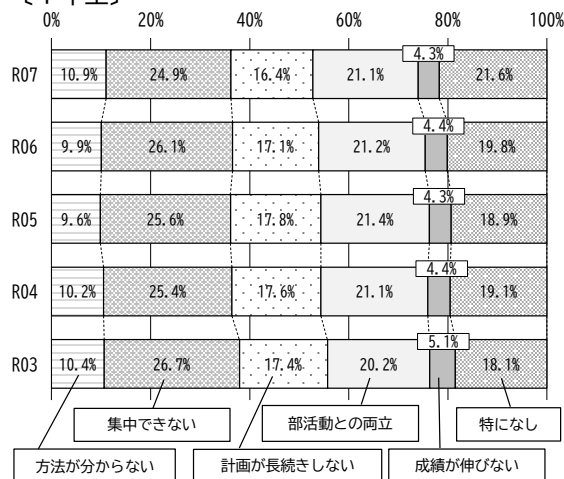


- 平日に1時間以上学習していると回答した生徒のうち、約7割が朝食を「必ずとる」と回答している。しかし、過年度のデータと比較してみると、その数が減少傾向にあることに留意したい。

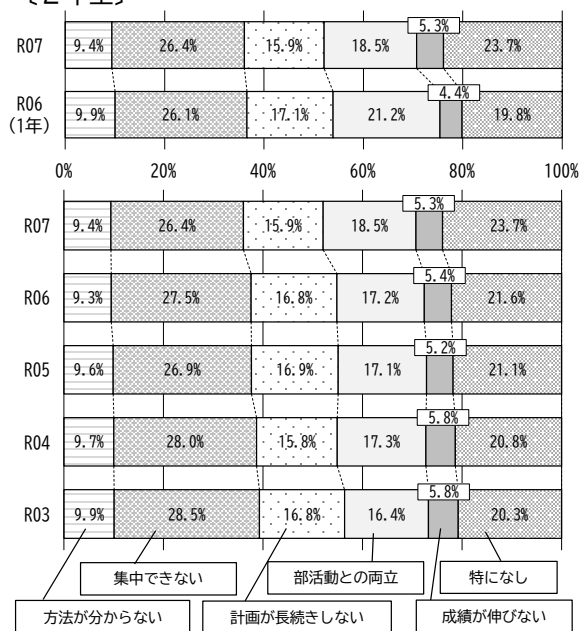
(11) 家庭学習をする上での悩みと平日の生活について

① 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか【Q25】

〔1年生〕



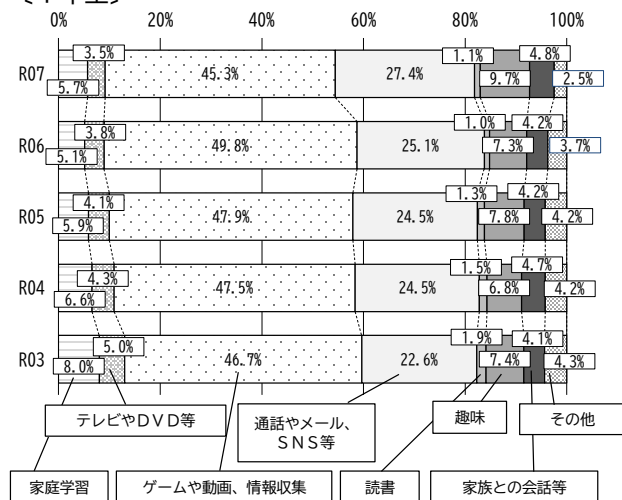
〔2年生〕



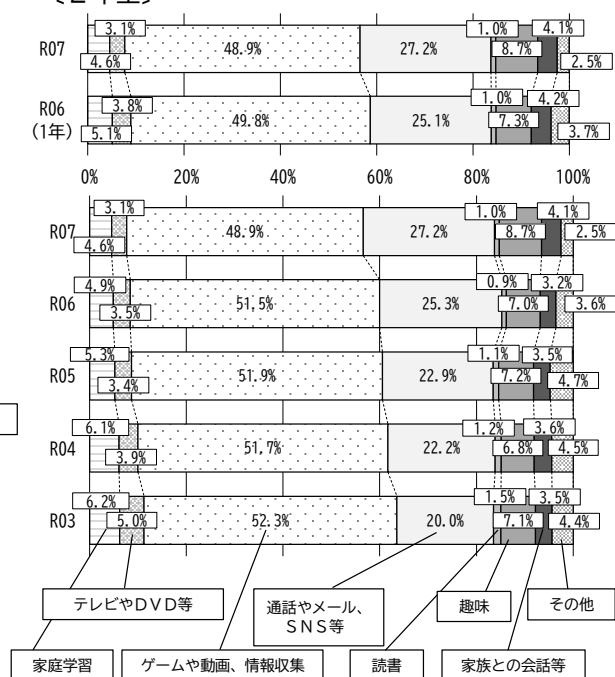
- 1、2年生ともに、「集中できない」と回答した生徒の割合が最も大きく、次いで「部活動との両立」が大きくなっているが、「集中できない」の割合が減少傾向にある。
- 1、2年生ともに、「方法が分からない」と回答した生徒の割合がやや増加傾向にある。

② 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか【Q29】

〔1年生〕



〔2年生〕

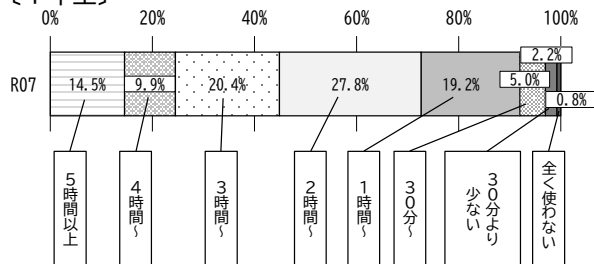


- 1、2年生ともに、「ゲームや動画、情報収集」、「通話やメール、SNS等」に時間を費やす生徒の割合が、合わせて約7割を超えている。その中でも「通話やメール、SNS等」が増加している。

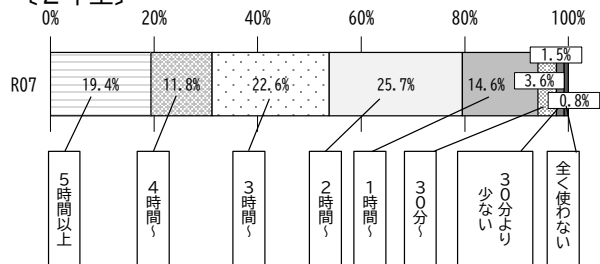
(12) スマートフォンや携帯電話の使用時間と使用する場面について

① 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか【Q30】

〔1年生〕



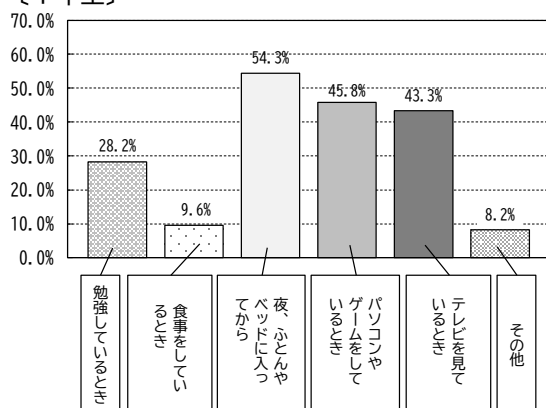
〔2年生〕



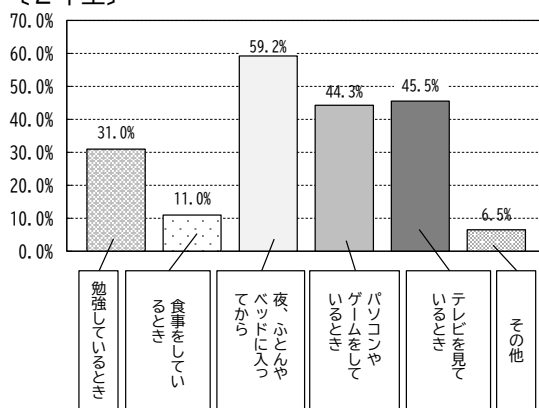
○ スマートフォンや携帯電話を平日に3時間以上使用している生徒は、2年生では5割を超える。

② 普段、次のような時に、スマートフォンや携帯電話でメールやメッセージ（LINE等）のやりとりをすることがありますか【Q37】

〔1年生〕

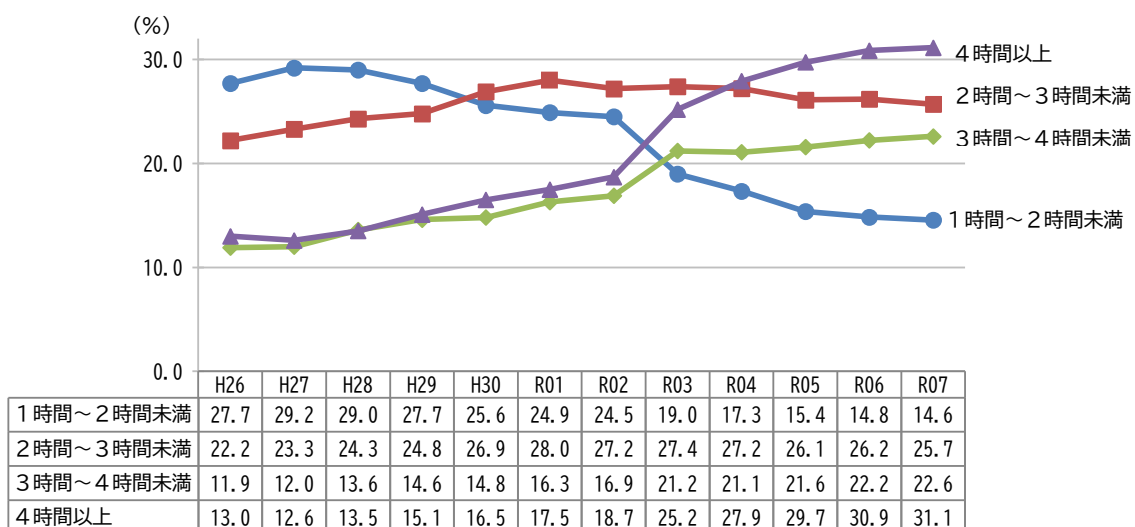


〔2年生〕



○ 1、2年生ともに、「夜、ふとんやベッドに入ってから」の割合が5割を超えており、2年生では、6割に迫っている。年々、増加傾向にある。

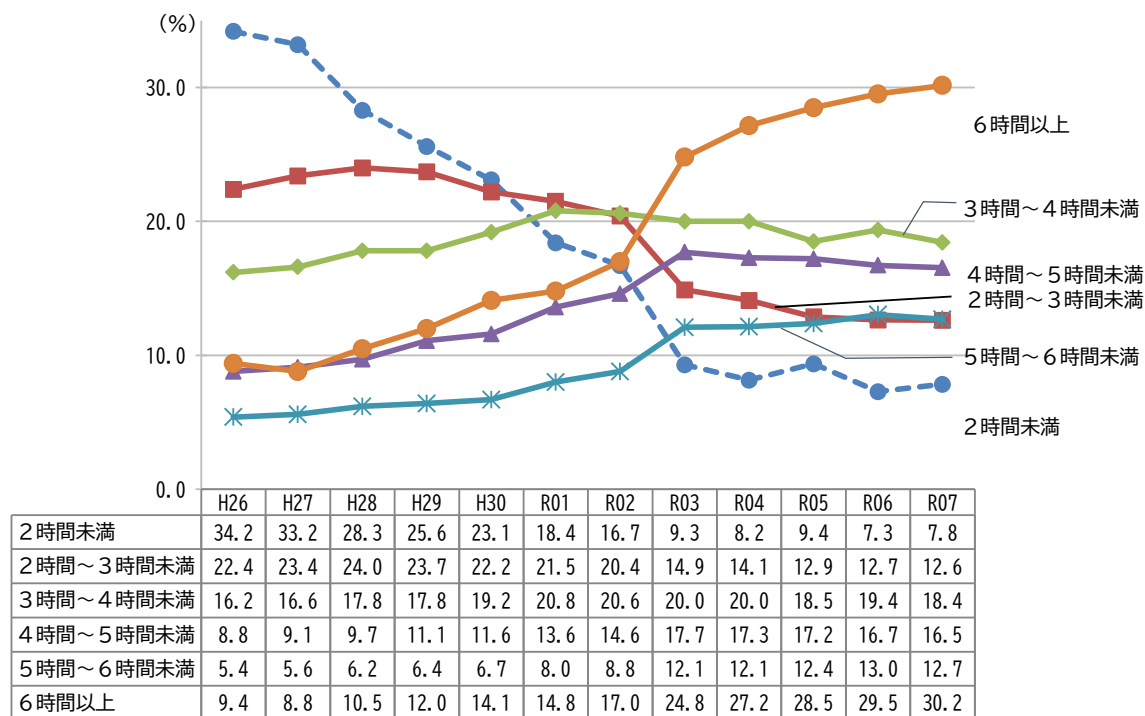
③ 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか（2年生）【Q30】
※本項目の統計開始年度からの推移



○ スマートフォンの使用時間は長期的にみて増加の一途にある。特に、感染予防措置としての休校があったR2を境に、「1時間～2時間未満」が大きく減少し、一方、「4時間以上」が大きく増加し、高止まりしている。

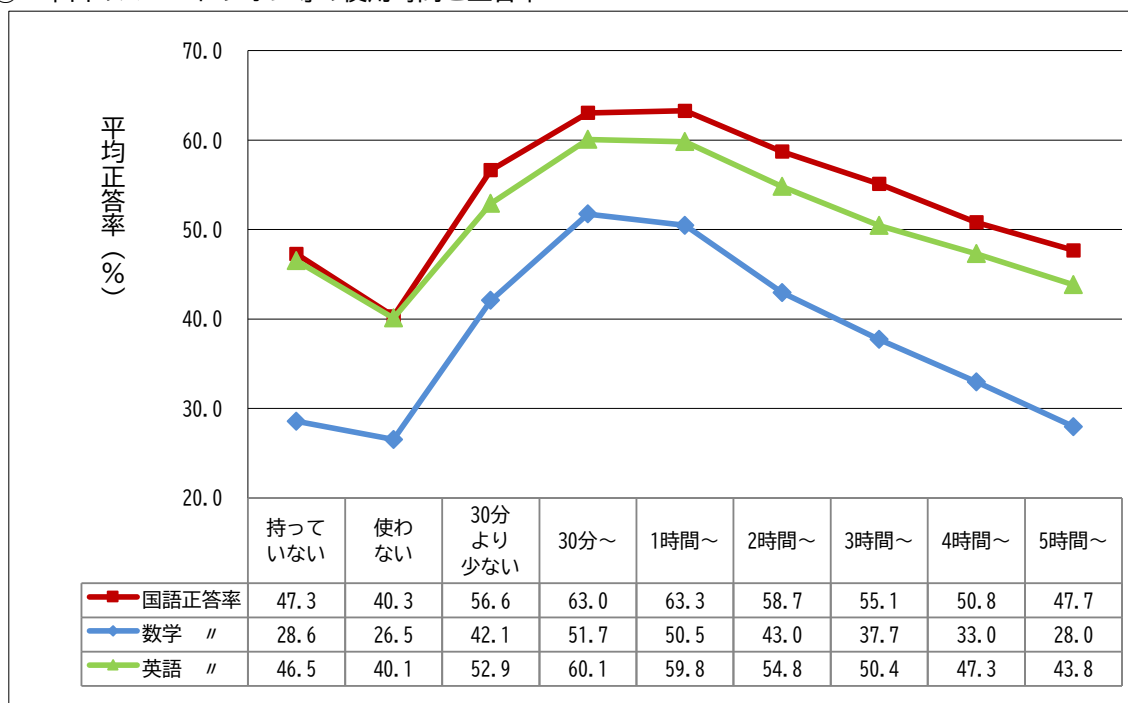
○ 「4時間以上」「3時間～4時間未満」スマートフォンを使っている生徒の割合が、増加傾向にある。

④ 休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間はどのくらいですか（2年生）【Q34】
※本項目の統計開始年度からの推移



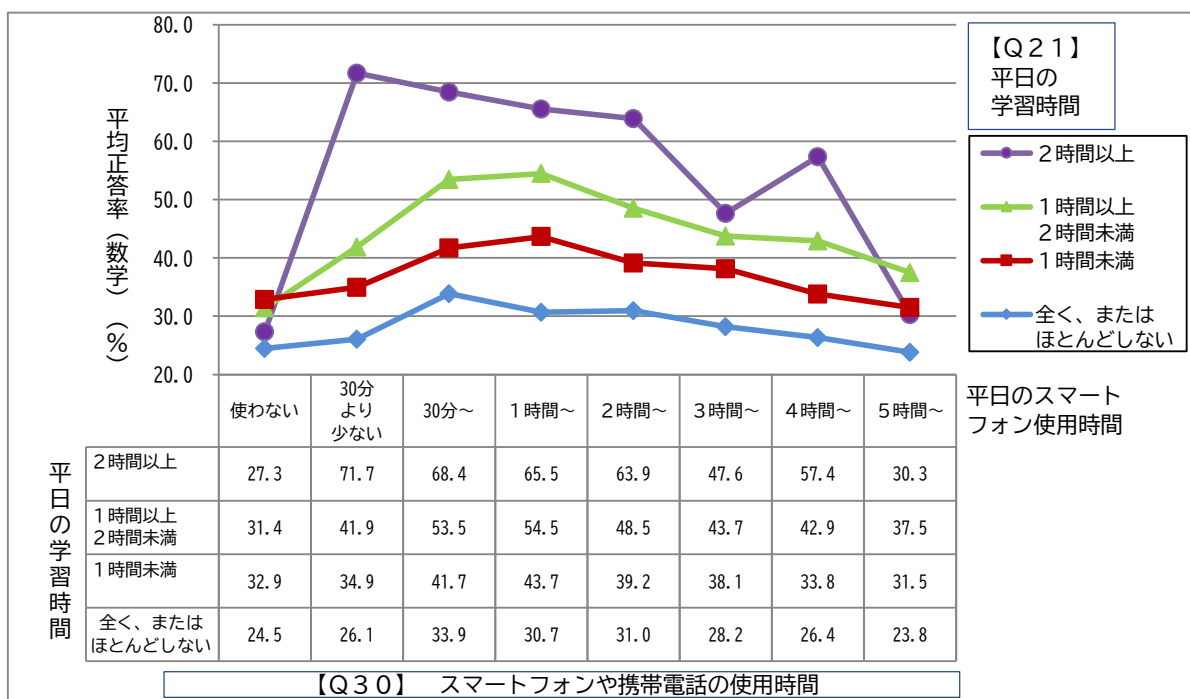
○ 休日も平日と同様に、R2を境に、長時間スマートフォンを使用している生徒が大きく増加し、高止まりしている。特に、「6時間以上」の増加の度合は著しく、「5時間～6時間未満」も増加傾向にある。一方で、「2時間未満」「2時間～3時間未満」が減少し、極めて長時間スマートフォンを使う習慣が定着つつあり、引き続き十分な注意が必要である。

⑤ 平日のスマートフォン等の使用時間と正答率



○ スマートフォン等を使用していると回答した中では、「30分～」「1時間～」と回答したグループの正答率が高い。「2時間～」を超えると正答率は減少している。また、使用時間が長いグループほど正答率が低いことがみと取れる。

⑥ 学習時間とスマートフォンや携帯電話の使用時間、数学の正答率



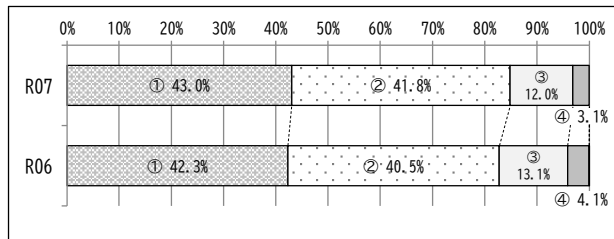
- スマートフォン等の使用時間が同じならば、学習時間が長いほど正答率が高い傾向がみられるが、使用時間が長くなるにつれて、学習時間による違いが小さくなっていることが分かる。5時間以上使用しているグループの平均正答率は、2時間以上勉強していても、1時間未満に近い正答率となっている。このことから、使用時間が学習効果を打ち消している可能性がある。
- この傾向は、国語、英語の正答率をみた場合においても同様である。
- スマートフォンの使用については、長時間使用することは避け、使用時間を決めて使用するなど、節度を持って使用するというルール作りが大切で、そのためには、家庭との協力が重要である。

2 心身の健康、志教育等

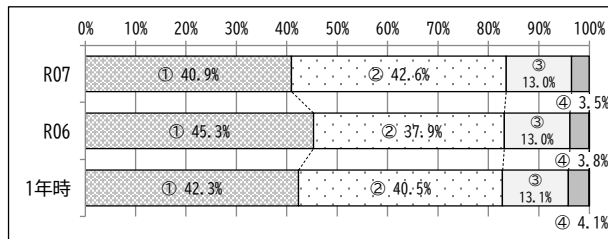
(1) 心と体の安定について

① 毎日同じくらいの時刻に寝ている(生活習慣について)【Q40】

〔1年生〕



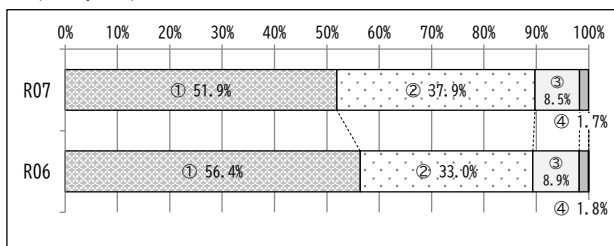
〔2年生〕



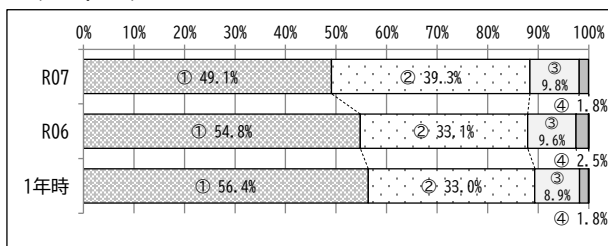
○ 1、2年生ともに回答の内訳に大きな変化はないが、2年生の「①当てはまる」が減少している。

② 体調はよい(生活習慣について)【Q41】

〔1年生〕



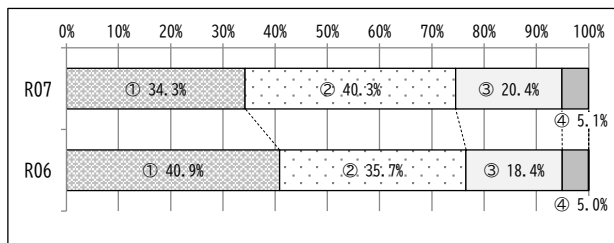
〔2年生〕



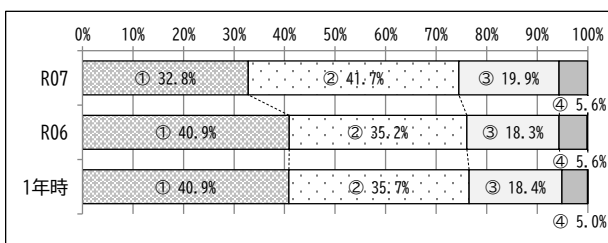
○ 1、2年生ともに回答の内訳に大きな変化はないが、いずれの学年も「①当てはまる」が減少している。

③ 熟睡ができていない(睡眠について)【Q42】

〔1年生〕



〔2年生〕

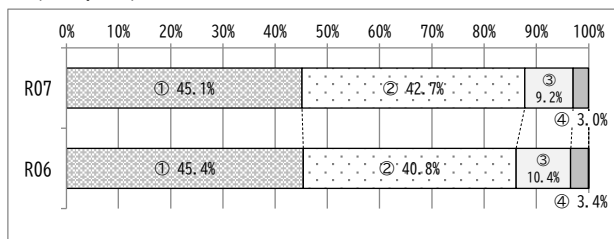


○ 1、2年生とも、肯定的回答の割合が減少し、中でも「①当てはまる」の回答が減少している。

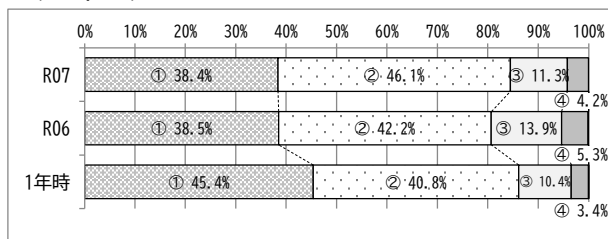
(2) 学校生活について

① 学校生活に充実感や満足感を感じている(学校生活について)【Q43】

〔1年生〕



〔2年生〕



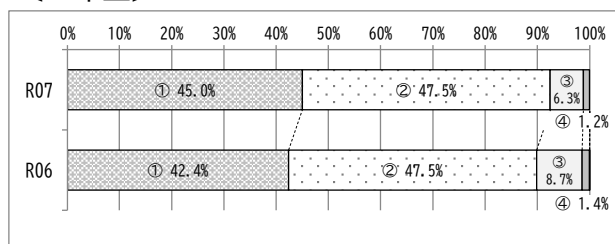
○ 1、2年生ともに、肯定的回答の割合が増加している。一方で、2年生は、1年時と比較して、肯定的回答が減少しており、この傾向が長期的に続いている。

(3) 「志教育」に係る意識について 1

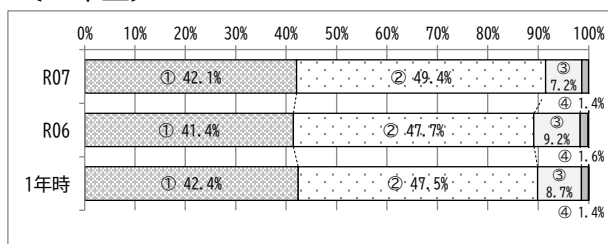
選択肢の内容（各設問共通）			
① 当てはまる	② どちらかといえば、当てはまる	③ どちらかといえば、当てはまらない	④ 当てはまらない
無回答（割合の表示は割愛している）			

① 人が困っている時は、進んで助けるようにしている〈かわかる〉（他者理解について）【Q46】

〔1年生〕



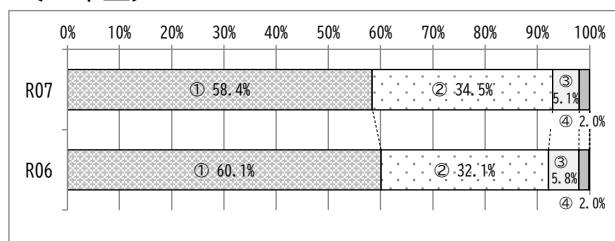
〔2年生〕



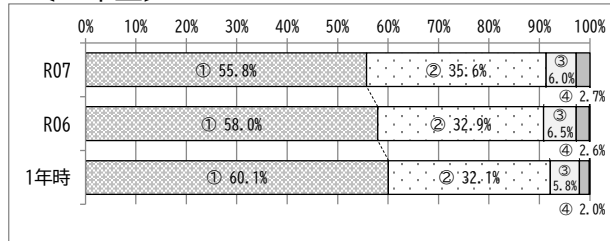
○ 1、2年生ともに、肯定的回答が約9割である。2年生は、1年時と比較して、肯定的回答の割合が増加している。

② 人の役に立つ人間になりたいと思っている〈もとめる〉（志について）【Q53】

〔1年生〕



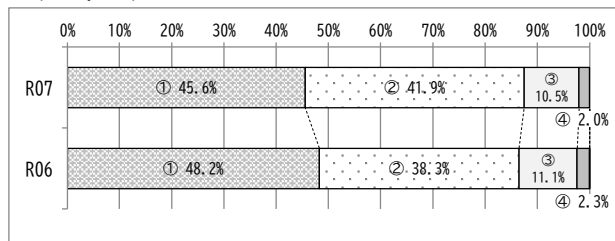
〔2年生〕



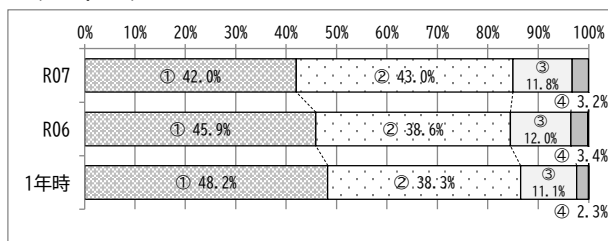
○ 1、2年生ともに、肯定的回答が9割を超える。2年生は、1年時と比較して、「①当てはまる」の割合が減少している。

③ クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる〈はたす〉（学校行事について）【Q65】

〔1年生〕



〔2年生〕

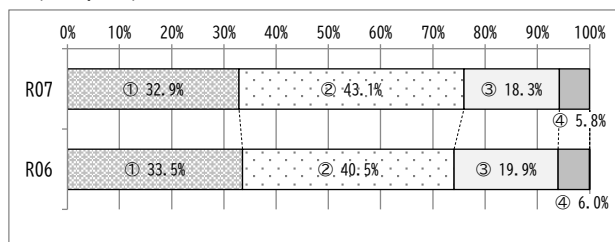


○ 1年生、2年生ともに、「①当てはまる」の回答が減少した。2年生は、昨年度との比較では肯定的回答の割合が微増したが、1年時との比較では、やや減少している。

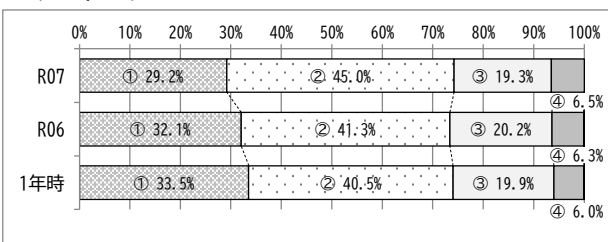
(4) 「志教育」に係る意識について 2

① 自分の個性や適性が分かっている〈もとめる〉（自己理解について）【Q56】

〔1年生〕



〔2年生〕

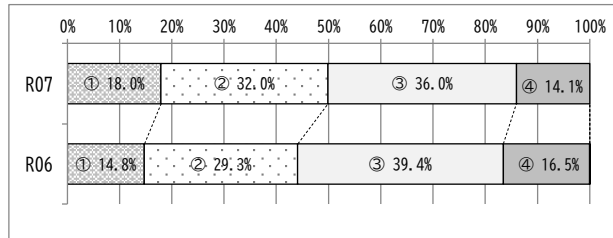


○ 1、2年生ともに、「①当てはまる」と回答した生徒の割合は減少したが、肯定的な回答は増加している。

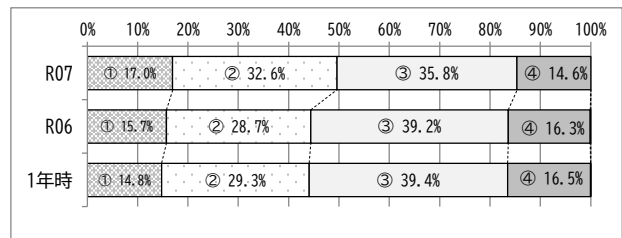
選択肢の内容（各設問共通）			
① 当てはまる	② どちらかといえば、当てはまる	③ どちらかといえば、当てはまらない	④ 当てはまらない
無回答（割合の表示は割愛している）			

- ② 自分の個性や適性が、学校や社会でどのように生かせるかをイメージできている〈もとめる・はたす〉（有用感について）【Q57】

〔1年生〕



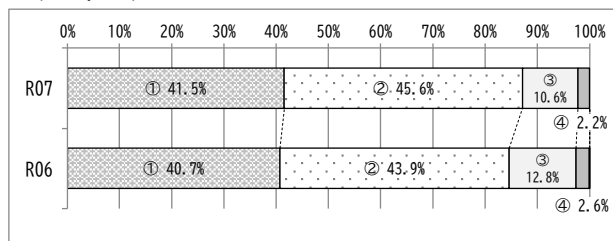
〔2年生〕



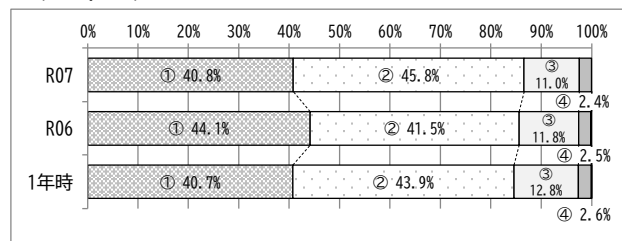
○ 1、2年生ともに、肯定的回答は5割程度である。Q56と比較すると、肯定的回答の割合が小さいが、5年前からは肯定的回答が各学年とも1割程度上昇していることから、志教育の推進もあり、社会において自分の個性や適性をどのように生かせるかイメージできる生徒が増えてきたといえる。

- ③ 働くことの意義を理解している〈もとめる・はたす〉（勤労観・職業観について）【Q62】

〔1年生〕



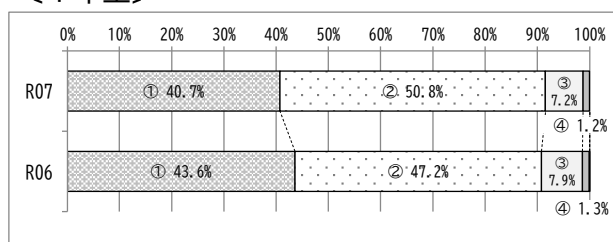
〔2年生〕



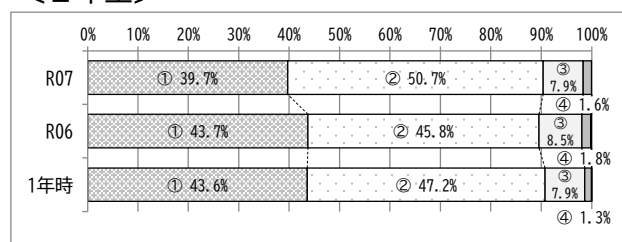
○ 1年生では、「①当てはまる」と回答した生徒が微増した。2年生では「①当てはまる」と回答した割合は減少したが、1年時の割合から変化していない。

- ④ 自分の役割に責任を持って行動している〈もとめる・はたす〉（有用感について）【Q64】

〔1年生〕



〔2年生〕



○ 1年生、2年生ともに、「①当てはまる」の割合が減少しているが、2年生は、1年時との比較すると、肯定的回答の割合はほぼ変わっていない。

IV 学力向上に向けた今後の取組

急激に変化している社会の中で、一人一人の生徒が課題を見だし、学び、考え、判断、行動し、持続可能な社会の創り手となるために、次の3つの資質・能力の育成を目指す。

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

そのために、以下の取組を行う。

○ 「主体的・対話的で深い学び」と「目標や振り返りを意識した授業」の実践

ICT を効果的に活用して、これまで以上に個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることにより、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。また、各単元の開始時などに、単元の目標や評価規準を生徒に示し、「目標や振り返りを意識した授業」を実践するとともに、学んだことを次の学びや生活に生かす力を育み、生徒が自己調整しながら、粘り強く学習に取り組む姿勢を養う。

○ 「探究的な学び」の充実

総合的な探究の時間のみならず、各教科・科目の授業においても「探究的な学び」の充実を図る。生徒が良質な問いをつくることができるように問いの焦点を示し、シンキングツール等の考えるための技法を活用しながら問いと向き合い、「探究のスパイラル」を経ることで、思考を深めることを目指す。

○ 家庭と学校が連携し、基本的生活習慣を確立する力の育成、情報モラル教育の充実

スマートフォンや SNS は利便性が高い一方で、長時間使用や依存により学習時間や睡眠時間が減少するなど、負の影響を及ぼす場合もある。日常生活を振り返り、生活習慣を主体的に改善しようとする態度を養うことが必要となる。また、フィルターバブル現象など、情報を検索した際に自分の好む情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなるなどの課題もある。他者の意見に触れ、自分の考えを広げる機会を意図的に設けるとともに、家庭と学校が連携して情報モラル教育を充実させることも大切である。

○ 「志教育」の充実

自身の特性や長所を、社会や集団の中でどのように生かせるか把握できていない生徒もいるため、社会人講師を招いての講演会や、地域と連携した活動等をととして社会性や勤労観を養い、社会や集団の中で果たすべき自己の役割を考えながら、将来のよりよい生き方を主体的に求めていく姿勢を養う。

学 力 向 上

主体的・対話的で深い学び

充実した探究活動

学習意欲の喚起

< 各学校 >

- 学力・学習状況等の把握、生徒との面談
- 指導力・授業力向上研修
- 指導の手引き、事例集等の活用
- 「志教育」の推進
- 家庭、県教委や関係機関との連携

< 家庭 >

- 生活習慣の改善を促す
 - ☐ 状況の把握と情報共有
 - ☐ 家庭内での話合い
 - ☐ 家庭学習時間の確保
- 学校、県教委との連携

< 県教育委員会 >

- | | | |
|---------------|-------------------|---------------|
| ○ 学力・学習状況等調査 | ○ 高大連携事業 | ○ クラフトマン21事業 |
| ○ 授業力向上支援 | ○ 地域に開かれた高校魅力化 | ○ 進路達成支援 |
| ○ 学びの基礎づくり支援 | ○ 専門教育次世代人材育成 | ○ 高校生マナーアップ運動 |
| ○ 地域進学重点校改革推進 | ○ SSH、IB、DXハイスクール | ○ 高校生フォーラム開催 |
| ○ みやぎ高校生異文化交流 | ○ 理系人材育成支援 | ○ ネットパトロール |

V 学習状況等に関する調査 設問ごとの結果

※ 表中の数値は選択割合(%)
(無回答・マークミス等の割合は示していない)

Q8 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在、最も強く希望しているものはどれですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	22.3	22.3	43.3	43.3	47.3	45.9	25.1	25.1	21.4	20.6	37.1	36.4	① 4年制国公立大学
R06	23.8	23.1	43.5	43.3	47.0	45.1	26.8	27.3	21.7	22.0	37.4	36.6	
R07	10.5	15.3	14.7	21.2	16.7	22.0	9.7	14.0	11.0	17.9	13.8	19.3	② 4年制私立大学
R06	9.0	16.1	15.1	18.6	16.9	21.1	7.9	13.5	9.9	17.7	13.4	18.3	
R07	1.6	2.3	1.6	1.7	1.5	2.1	3.1	2.9	2.5	2.7	1.9	2.2	③ 短期大学
R06	1.7	1.8	1.7	1.9	1.5	1.5	2.4	2.7	2.8	2.8	1.9	2.0	
R07	16.2	20.5	14.2	10.0	12.4	13.9	18.9	17.6	18.1	20.7	15.0	15.0	④ 専修学校(専門学校等)・各種学校
R06	13.9	18.3	11.5	13.0	13.6	14.1	18.0	17.8	20.0	21.1	14.7	15.7	
R07	17.0	22.5	10.7	13.7	5.6	7.4	14.4	22.6	12.5	14.9	10.2	13.9	⑤ 民間就職
R06	16.8	20.6	10.2	13.7	5.9	8.4	16.8	20.0	11.9	17.1	10.6	14.0	
R07	5.2	6.4	2.3	2.2	2.4	2.1	7.1	6.4	5.4	5.5	3.7	3.7	⑥ 公務員就職
R06	6.3	3.8	2.2	2.1	2.3	2.2	6.1	6.8	5.2	5.3	3.6	3.5	
R07	0.6	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	0.4	0.1	0.4	0.5	0.3	0.2	⑦ 家業
R06	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	
R07	24.8	9.6	12.5	6.8	13.2	5.5	20.3	10.3	27.1	15.5	17.0	8.3	⑧ 未定
R06	22.9	11.9	14.8	6.5	11.6	6.3	20.4	10.7	25.8	12.5	16.7	8.4	
R07	1.9	0.8	0.6	0.8	0.9	1.0	1.0	0.9	1.6	1.8	1.0	1.0	⑨ その他
R06	5.3	4.3	0.8	0.6	1.1	1.2	1.3	0.8	2.2	1.3	1.6	1.3	

Q9 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	53.6	60.0	63.0	69.9	61.0	70.2	54.9	63.0	50.5	57.5	58.6	66.4	① 卒業までに達成しようと思っている
R06	49.5	57.7	59.2	67.1	59.5	67.8	52.1	59.9	45.9	58.9	55.6	64.2	
R07	10.8	8.8	7.0	6.6	7.8	5.3	11.2	8.6	14.6	10.1	9.3	7.1	② 達成するまで、卒業後1、2年かかってしまわないと思っている
R06	11.3	10.9	9.0	7.1	8.9	7.7	12.9	10.4	14.8	9.7	10.6	8.6	
R07	17.4	15.0	18.6	13.7	17.8	14.2	19.4	16.5	19.2	16.1	18.4	14.8	③ 達成が困難な場合、卒業までに他の進路に変えてもいいと思っている
R06	18.7	13.8	17.6	12.7	18.4	13.6	18.5	15.8	18.6	15.5	18.2	14.0	
R07	11.1	12.1	8.7	7.2	9.7	7.7	10.4	8.8	10.5	10.7	9.8	8.5	④ 何とかなるだろうと思っている
R06	14.4	12.9	10.8	10.1	10.5	8.0	11.9	10.1	13.7	11.6	11.6	9.8	
R07	7.1	4.1	2.7	2.7	3.6	2.6	4.0	3.0	5.2	5.6	4.0	3.2	⑤ あまり考えないようにしている
R06	6.1	4.7	3.4	2.9	2.8	2.8	4.6	3.8	7.0	4.2	4.1	3.3	

Q10 普段どんな気持ちで勉強していますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	11.4	10.6	13.4	11.0	13.9	10.7	14.9	12.4	13.6	9.6	13.7	10.9	① わからないことでも自分の力で答えを見つけれられるようになりたい
R06	8.3	7.6	10.2	9.2	10.7	7.7	12.9	9.4	9.5	7.6	10.6	8.4	
R07	13.0	11.3	10.8	10.6	11.8	9.7	13.3	10.9	13.1	11.4	12.1	10.5	② 多くのことを知り、社会に出て役立つ力を身に付けたい
R06	13.1	9.9	10.6	9.9	10.6	9.3	11.1	9.6	10.0	10.1	10.8	9.7	
R07	14.0	15.6	17.7	19.7	17.4	19.7	12.3	13.7	13.4	12.8	15.8	17.4	③ 入学試験や就職試験に備えたい
R06	13.8	15.9	17.9	19.5	16.5	18.4	12.0	16.5	11.8	14.2	15.3	17.6	
R07	2.1	2.4	3.2	2.4	3.3	2.1	2.9	2.3	2.9	2.8	3.0	2.3	④ 親や先生にほめられたい
R06	2.2	2.0	2.9	2.7	3.2	2.1	2.5	2.0	4.2	2.5	3.1	2.3	
R07	36.5	35.6	37.1	36.7	36.5	37.7	39.2	37.4	36.3	37.8	37.1	37.2	⑤ 成績を上げたい
R06	37.9	35.6	37.6	34.7	38.1	38.2	37.7	37.0	38.3	36.9	37.9	36.7	
R07	2.9	3.9	3.5	3.0	3.3	3.5	2.9	2.9	3.8	3.3	3.3	3.3	⑥ 先生や家族に言われているから勉強している
R06	4.3	2.9	3.9	3.3	3.3	3.7	4.2	3.2	3.8	4.2	3.8	3.5	
R07	19.2	20.1	13.6	15.6	13.0	15.7	14.1	19.9	16.2	21.4	14.3	17.5	⑦ 特に考えていない
R06	18.7	24.4	15.1	18.6	15.8	19.2	18.4	20.9	20.6	22.5	16.9	20.2	
R07	0.8	0.6	0.7	0.9	0.8	0.9	0.3	0.4	0.7	0.8	0.7	0.8	⑧ その他
R06	1.7	1.7	1.8	1.9	1.8	1.3	1.2	1.4	1.7	1.9	1.7	1.6	

Q11 授業の内容がどの程度理解できますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	9.3	7.7	10.4	10.8	10.6	8.8	8.3	10.8	11.2	9.1	10.1	9.6	① ほとんどの授業がよく理解できる
R06	11.5	9.6	11.8	11.1	10.2	11.2	12.7	11.3	11.2	11.1	11.3	11.0	
R07	45.8	42.4	48.1	46.5	52.1	44.5	47.3	43.7	51.3	42.5	49.6	44.5	② 理解できる授業の方が多い
R06	46.9	44.2	50.8	48.8	49.2	47.3	47.2	43.8	45.4	45.0	48.6	46.5	
R07	39.3	40.5	37.2	37.6	33.3	40.5	39.3	40.1	33.1	42.1	35.8	39.9	③ 理解できる授業と理解できない授業が半分以上ある
R06	36.8	39.4	33.4	33.8	35.3	34.9	34.9	39.2	36.2	37.5	35.0	36.1	
R07	4.8	8.0	3.9	4.4	3.4	5.3	4.8	4.8	3.7	5.2	3.9	5.2	④ 理解できない授業の方が多い
R06	4.2	5.4	3.8	5.3	4.9	5.7	4.6	5.0	6.0	5.7	4.6	5.4	
R07	0.7	1.3	0.5	0.7	0.6	0.8	0.3	0.7	0.7	1.1	0.5	0.8	⑤ ほとんどの授業が理解できない
R06	0.5	1.4	0.2	0.9	0.4	0.9	0.5	0.7	1.3	0.6	0.5	0.9	

Q12 授業でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	59.9	60.5	68.4	69.4	70.6	69.2	69.0	65.6	67.4	62.5	68.4	67.0	ア 自分で調べる
R06	63.3	65.9	70.4	72.7	70.4	74.5	62.4	66.9	60.9	66.8	67.2	71.0	
R07	35.8	40.2	30.4	27.4	32.5	27.6	40.9	34.0	41.1	35.3	34.7	30.7	イ 学校の先生に質問する
R06	35.2	37.7	32.6	30.1	33.1	31.7	35.3	34.5	38.4	39.6	34.2	33.4	
R07	72.5	73.2	71.7	67.1	74.7	69.7	73.8	71.3	73.4	70.4	73.4	69.7	ウ 友達に聞く
R06	75.7	69.2	72.7	71.3	76.4	73.4	74.0	74.4	73.8	72.8	74.7	72.6	
R07	11.9	6.4	14.8	8.2	15.5	8.8	11.8	8.4	13.2	6.6	14.1	8.1	エ 家族に聞く
R06	11.4	8.3	15.2	11.8	16.7	11.3	11.2	7.7	12.4	8.4	14.4	10.2	
R07	10.5	8.3	15.9	14.1	16.1	12.8	12.9	10.6	12.5	9.7	14.6	12.0	オ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する
R06	9.9	7.8	16.4	13.5	15.1	13.1	9.1	10.1	12.5	11.7	13.6	12.0	
R07	12.5	13.6	11.4	11.8	10.6	13.0	10.9	11.8	9.5	15.1	10.9	12.8	カ そのままにしておく
R06	12.5	14.9	11.1	14.2	11.5	13.0	9.9	11.6	13.0	12.1	11.4	13.1	
R07	0.3	0.3	0.3	0.5	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5	キ その他
R06	1.3	0.7	1.3	1.4	1.1	1.4	0.8	0.9	1.4	1.8	1.1	1.3	

Q13 授業のはじめに学習の目標が示されたり、授業の終わりに学習のまとめや振り返りが行われたりしていますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	16.0	14.6	13.4	11.8	14.5	11.2	19.0	16.4	16.4	12.0	15.3	12.7	① ほとんどの授業で行われている
R06	17.9	14.0	12.9	11.4	13.9	11.5	20.2	15.6	17.0	14.0	15.5	12.7	
R07	51.6	45.5	45.7	41.4	51.0	43.3	50.5	48.4	52.2	46.2	49.7	44.2	② 多くの授業で行われている
R06	48.9	48.1	43.3	40.1	45.1	40.4	51.8	44.8	51.9	48.3	47.0	42.8	
R07	28.0	35.8	34.5	39.5	30.6	38.6	26.9	30.6	27.4	37.0	30.4	37.0	③ 行われている授業は少ない
R06	29.6	33.2	37.1	39.1	35.9	40.0	25.6	34.5	28.5	32.9	33.0	37.3	
R07	4.3	4.1	6.4	7.3	3.9	6.8	3.6	4.6	4.0	4.9	4.6	6.1	④ 行われている授業はほとんどない
R06	3.5	4.6	6.6	9.3	5.0	8.1	2.3	5.1	2.6	4.7	4.6	7.1	

Q14 授業の中で、自分の考えを発表したり、考えたことをペアや小グループで話し合ったりする時間がありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	22.4	12.2	23.2	20.6	33.0	27.5	22.1	20.3	18.9	17.9	25.9	21.9	① ほとんどの授業でそのような時間がある
R06	18.0	14.7	25.6	19.1	32.6	30.0	26.4	18.0	24.2	21.0	27.4	22.6	
R07	62.1	57.9	60.6	59.7	53.7	56.5	62.5	58.8	54.9	55.1	57.9	57.7	② 多くの授業でそのような時間がある
R06	63.1	60.2	55.6	59.1	55.4	51.4	62.2	57.7	53.9	53.2	57.1	55.5	
R07	14.5	28.2	15.6	18.8	12.4	15.1	14.4	20.0	24.8	25.1	15.3	19.4	③ そのような時間がある授業は少ない
R06	18.3	23.5	17.7	20.6	11.5	17.4	11.0	22.6	20.4	24.1	14.8	20.5	
R07	1.0	1.7	0.6	0.9	0.8	0.9	1.0	0.9	1.4	1.9	0.9	1.1	④ そのような時間がある授業はほとんどない
R06	0.6	1.6	1.2	1.2	0.6	1.1	0.4	1.8	1.5	1.7	0.8	1.4	

Q15 授業の中で、あなたが課題を見つけたら、解決したりする時間がありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	19.0	14.0	17.8	15.5	20.0	16.3	20.5	17.9	19.0	15.5	19.3	16.1	① ほとんどの授業でそのような時間がある
R06	17.6	15.4	17.3	14.6	19.0	16.5	22.0	17.2	20.1	16.0	19.1	16.0	
R07	59.2	58.1	58.4	55.9	59.6	55.6	58.9	57.7	58.2	55.7	59.0	56.3	② 多くの授業でそのような時間がある
R06	54.5	53.1	53.6	52.1	53.5	52.2	54.6	54.4	51.8	51.6	53.6	52.5	
R07	20.3	25.2	21.9	25.9	19.0	25.8	18.8	22.8	20.9	25.9	20.1	25.3	③ そのような時間がある授業は少ない
R06	25.9	28.1	26.0	29.3	25.3	27.8	21.2	25.4	25.2	29.6	24.9	28.1	
R07	1.5	2.7	1.9	2.7	1.3	2.2	1.7	1.7	1.9	2.8	1.6	2.4	④ そのような時間がある授業はほとんどない
R06	1.9	3.4	3.1	4.0	2.2	3.4	2.2	3.0	2.8	2.7	2.5	3.4	

Q16 授業の中で、生徒がタブレットやパソコンなどのICT機器を使用していますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	31.0	27.6	16.8	17.7	33.2	32.6	29.5	33.5	15.4	23.7	25.8	27.3	① ほとんどの授業で使用している
R06	28.1	23.5	16.6	15.4	34.3	32.9	27.1	29.1	22.1	24.2	26.4	25.4	
R07	45.8	45.0	45.2	50.8	47.6	45.6	50.0	47.6	40.5	42.2	46.3	47.1	② 多くの授業で使用している
R06	44.2	45.9	43.1	40.6	41.5	44.8	43.2	47.0	36.0	46.0	41.7	44.4	
R07	20.8	22.6	34.3	27.9	17.5	19.4	19.6	16.0	36.4	26.1	25.0	22.2	③ 使用している授業は少ない
R06	25.0	28.3	37.2	37.8	20.8	19.9	26.7	24.4	33.1	25.6	28.0	26.8	
R07	2.5	4.8	3.7	3.6	1.6	2.3	0.9	0.9	7.7	8.0	2.9	3.4	④ 使用している授業はほとんどない
R06	2.7	2.3	3.1	6.1	3.4	2.3	3.0	1.6	8.7	4.1	3.9	3.4	

Q17 授業でもっとタブレットやパソコンなどのICT機器を活用したいと思いますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	37.3	35.2	32.0	33.4	35.2	39.3	36.7	42.0	33.9	36.3	34.6	37.4	① 活用したいと思う
R06	39.1	37.9	33.5	36.6	37.6	44.1	39.4	41.9	35.1	42.1	36.7	41.0	
R07	47.5	48.5	48.4	45.0	47.2	43.4	48.5	45.9	48.0	46.8	47.8	45.1	② どちらかといえば、活用したいと思う
R06	47.3	45.7	47.0	41.2	45.5	39.9	47.8	44.0	47.7	44.1	46.7	42.0	
R07	11.8	12.4	14.1	15.6	13.5	13.7	11.3	9.3	12.7	12.0	13.0	13.2	③ どちらかといえば、活用したいと思わない
R06	10.9	12.5	14.8	15.9	13.2	11.9	9.5	11.5	12.1	10.3	12.6	12.7	
R07	3.4	3.9	5.5	6.0	4.1	3.6	3.6	2.7	5.5	4.8	4.5	4.3	④ 活用したいと思わない
R06	2.8	3.8	4.7	6.2	3.6	4.1	3.3	2.6	5.2	3.4	4.0	4.3	

Q18 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	12.2	6.0	13.2	9.5	12.9	12.5	5.4	5.9	6.5	6.1	10.9	9.2	① ほとんど毎日出ている
R06	13.3	9.9	15.4	11.5	18.2	11.3	9.9	5.4	5.9	9.1	14.1	9.9	
R07	38.7	30.8	50.4	41.8	49.5	42.4	47.0	39.9	50.2	35.6	48.4	39.9	② 週に2～3回出ている
R06	40.4	31.5	49.6	44.4	43.3	37.4	47.7	33.4	47.3	40.3	45.9	38.4	
R07	39.3	40.4	30.0	36.9	31.3	32.8	40.9	43.8	32.5	39.6	33.4	37.2	③ 週に1回くらい出ている
R06	40.3	42.6	29.2	36.3	29.3	40.7	37.0	53.3	35.9	36.1	32.4	41.2	
R07	9.8	22.8	6.5	11.9	6.3	12.3	6.8	10.4	10.8	18.8	7.3	13.7	④ ほとんど出していない
R06	6.1	16.0	5.8	7.8	9.2	10.6	5.5	7.9	11.0	14.4	7.7	10.4	

Q19 学校ではどのくらいの割合でテスト（小テストや確認テストを含む。）がありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	2.1	2.1	2.9	12.0	4.0	6.7	2.6	7.9	2.8	10.8	3.2	8.4	① ほとんど毎日ある
R06	1.7	1.9	9.5	12.4	5.1	11.0	2.4	8.0	2.4	5.2	5.1	9.3	
R07	21.8	20.9	41.9	42.7	45.1	52.8	34.9	29.0	43.8	46.7	40.3	42.5	② 週に2～3回ある
R06	23.1	19.2	45.4	45.4	43.1	51.0	32.2	39.5	43.4	44.0	40.1	43.8	
R07	57.0	60.1	43.5	35.4	42.7	33.1	52.5	46.5	38.9	27.8	45.3	37.7	③ 週に1回くらいある
R06	56.0	52.2	36.6	34.4	44.3	29.9	53.9	40.4	39.3	36.6	44.3	35.7	
R07	19.2	16.9	11.7	10.0	8.3	7.4	10.0	16.6	14.5	14.7	11.2	11.4	④ ほとんどない
R06	19.3	26.6	8.5	7.8	7.5	8.1	11.5	12.1	14.9	14.2	10.4	11.2	

Q20 あなたが受けた授業はどんな授業ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	39.0	40.5	41.9	39.0	38.5	41.4	43.3	39.0	43.2	38.5	40.8	39.9	① 基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる授業
R06	34.7	33.1	37.7	37.0	36.7	34.7	37.8	35.4	34.7	38.8	36.7	35.8	
R07	5.2	7.2	9.4	9.2	10.7	8.2	7.2	8.0	6.4	7.1	8.7	8.2	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
R06	8.3	5.8	10.5	9.8	9.7	9.3	8.7	6.5	8.7	7.2	9.5	8.4	
R07	14.6	10.8	11.2	10.9	13.4	9.5	12.1	12.1	13.4	9.5	12.7	10.4	③ ペアやグループで自分の考えを発表したり、話し合ったりする授業
R06	15.5	11.9	11.3	9.0	12.3	12.4	14.2	13.9	14.0	10.4	12.9	11.5	
R07	25.7	24.2	24.1	25.9	25.0	25.3	23.3	25.2	23.5	25.3	24.4	25.3	④ 興味や関心がもてるような授業
R06	26.7	31.4	27.3	28.5	28.4	28.8	27.4	29.5	28.5	26.1	27.8	28.7	
R07	10.2	12.5	9.8	11.4	9.9	13.0	9.4	11.2	8.4	12.8	9.6	12.2	⑤ 進路希望達成につながる授業
R06	9.6	12.7	9.7	12.7	10.4	12.6	8.6	11.5	9.4	12.0	9.7	12.4	
R07	5.4	4.7	3.5	3.6	2.5	2.6	4.6	4.5	5.0	6.8	3.7	3.9	⑥ 資格取得につながる授業
R06	5.2	5.1	3.6	3.0	2.4	2.2	3.3	3.2	4.8	5.4	3.4	3.3	

Q21 平日（テスト期間や長期休業中などを除く、通常の月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	29.3	42.2	21.1	29.9	19.3	28.2	20.1	32.3	22.4	38.6	21.2	31.9	① 全く、またはほとんどしない
R06	27.2	41.0	19.7	28.7	22.2	30.7	19.3	29.6	26.9	35.8	22.2	31.6	
R07	19.3	14.8	16.3	14.4	15.1	15.0	14.0	16.1	15.1	13.6	15.6	14.8	② 30分より少ない
R06	19.9	18.5	14.1	15.8	14.3	16.1	17.3	16.0	14.3	15.1	15.2	16.1	
R07	20.0	18.7	22.7	20.6	21.5	19.8	25.2	20.0	22.5	16.8	22.4	19.6	③ 30分～
R06	18.3	17.5	21.5	18.4	21.9	17.3	24.1	19.8	20.5	18.7	21.7	18.2	
R07	22.2	16.8	26.4	22.6	28.4	22.8	28.1	22.0	27.5	21.5	27.2	21.9	④ 1時間～
R06	23.9	15.3	29.2	22.8	27.4	23.3	27.1	24.9	25.7	19.9	27.3	22.2	
R07	7.5	6.1	11.0	9.5	12.9	10.9	10.5	8.3	10.5	6.9	11.2	9.1	⑤ 2時間～
R06	9.2	6.2	12.5	11.0	11.2	9.9	10.6	8.1	10.1	7.3	11.1	9.2	
R07	0.9	1.1	2.0	2.3	2.2	2.5	1.6	0.8	1.8	1.5	1.9	1.9	⑥ 3時間～
R06	1.1	1.2	2.6	2.7	2.4	2.1	1.2	1.2	1.9	2.3	2.1	2.0	
R07	0.4	0.1	0.5	0.5	0.3	0.6	0.4	0.4	0.1	0.7	0.3	0.5	⑦ 4時間～
R06	0.2	0.1	0.4	0.5	0.4	0.6	0.5	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	
R07	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.5	0.2	0.3	⑧ 5時間以上
R06	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	

Q22 休日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	28.6	40.5	20.2	29.3	17.5	25.4	19.1	31.1	23.4	37.4	20.2	30.3	① 全く、またはほとんどしない
R06	25.8	39.5	18.6	27.0	19.2	27.7	18.7	27.6	27.1	34.2	20.6	29.5	
R07	13.6	12.2	11.1	10.7	10.8	10.8	10.9	11.0	12.3	9.8	11.3	10.8	② 30分より少ない
R06	15.4	13.5	11.9	12.0	10.6	11.3	12.8	11.6	11.9	12.5	11.9	11.9	
R07	14.6	12.2	14.1	13.1	13.4	12.7	15.1	15.2	15.1	11.7	14.2	13.1	③ 30分～
R06	15.1	13.4	13.4	13.2	12.7	12.6	16.4	12.5	12.7	12.5	13.7	12.8	
R07	23.1	17.8	21.6	19.3	21.3	19.6	23.9	19.2	23.2	18.3	22.2	19.1	④ 1時間～
R06	23.8	17.4	20.8	17.6	21.7	18.0	24.2	23.6	21.8	18.3	22.1	18.8	
R07	11.9	9.9	16.7	13.5	16.8	15.1	19.1	13.7	16.1	13.1	16.6	13.8	⑤ 2時間～
R06	13.0	9.6	17.5	15.1	18.3	14.1	17.1	14.5	15.5	11.9	17.1	13.7	
R07	5.2	4.3	9.5	7.8	10.8	8.5	7.9	6.1	6.7	5.3	9.0	7.1	⑥ 3時間～
R06	5.0	4.5	10.2	7.8	9.2	8.8	6.6	6.9	7.4	5.6	8.4	7.4	
R07	1.5	1.7	3.8	3.2	4.9	4.0	2.5	1.7	1.3	2.6	3.5	3.0	⑦ 4時間～
R06	1.3	1.3	4.5	3.9	4.6	3.9	2.7	2.1	2.5	2.7	3.7	3.2	
R07	0.8	0.9	1.9	1.5	2.6	2.1	0.7	1.1	1.1	0.8	1.8	1.5	⑧ 5時間～
R06	0.6	0.5	1.7	1.9	2.3	1.7	1.0	0.6	0.6	0.8	1.5	1.4	
R07	0.2	0.1	0.6	0.7	1.2	0.9	0.4	0.5	0.3	0.5	0.7	0.7	⑨ 6時間～
R06	0.0	0.3	0.7	0.7	0.9	1.0	0.4	0.2	0.3	0.8	0.6	0.7	
R07	0.5	0.4	0.5	0.9	0.5	0.8	0.3	0.3	0.5	0.5	0.5	0.7	⑩ 7時間以上
R06	0.0	0.2	0.7	0.9	0.5	0.7	0.1	0.3	0.1	0.6	0.4	0.6	

Q23 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	6.0	7.2	14.4	11.9	18.2	14.3	10.2	9.3	10.4	9.2	13.8	11.6	① ほぼ毎日している
R06	7.2	6.9	18.0	15.3	18.3	17.2	11.7	9.8	10.1	11.4	15.1	13.8	
R07	5.3	4.7	6.0	5.2	5.2	4.7	5.4	4.1	5.3	4.2	5.5	4.7	② 主に平日にしている
R06	4.9	3.7	5.3	4.8	4.3	4.2	6.5	4.6	4.1	4.4	5.0	4.4	
R07	10.5	5.9	8.4	6.7	8.6	6.6	10.3	6.4	7.4	6.7	8.8	6.5	③ 主に休日にしている
R06	8.1	5.2	7.1	6.1	7.8	5.5	8.7	9.5	7.6	5.7	7.8	6.3	
R07	18.1	21.4	16.2	20.9	14.7	18.3	14.4	18.9	16.4	18.8	15.6	19.4	④ 主に定期考査前にしている
R06	14.8	20.5	12.2	17.3	12.5	15.8	13.5	16.6	13.8	19.4	12.9	17.2	
R07	6.7	5.9	6.3	5.3	6.4	4.6	8.1	6.1	6.7	5.0	6.7	5.2	⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている
R06	7.8	5.3	7.5	5.5	7.1	4.6	9.6	6.0	9.2	4.9	8.0	5.2	
R07	27.2	28.4	29.9	27.5	29.3	29.5	31.1	31.0	30.2	28.0	29.7	28.9	⑥ 主に宿題・課題のあるときと定期考査前にしている
R06	35.0	32.2	34.3	30.3	33.6	30.7	32.8	31.7	31.7	30.6	33.5	30.9	
R07	2.6	1.2	2.0	1.8	1.7	1.8	1.1	1.7	1.8	1.3	1.8	1.7	⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生が来るときにしている
R06	2.7	1.5	2.0	1.9	1.8	1.6	1.2	1.4	2.0	1.8	1.9	1.7	
R07	14.3	12.9	11.6	11.7	11.5	12.1	14.1	14.1	14.2	13.7	12.6	12.6	⑧ 気が向いたときにしている
R06	11.4	12.9	9.0	10.6	9.5	10.7	11.4	12.2	12.6	10.4	10.3	11.1	
R07	9.1	12.4	5.1	8.8	4.2	8.0	5.1	8.3	7.6	12.8	5.4	9.3	⑨ 家庭学習はほとんどしない
R06	7.9	11.6	4.3	8.1	4.7	9.4	4.2	8.0	8.5	10.7	5.3	9.2	
R07	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	⑩ その他
R06	0.1	0.3	0.1	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	0.5	0.3	0.3	

Q24 学習塾等（家庭教師の先生に教わっている場合も含む。）で、どのように勉強していますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	4.5	2.5	8.9	8.0	7.9	6.6	3.7	2.6	3.1	3.6	6.6	5.5	① 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している
R06	3.6	3.2	8.4	7.6	7.4	7.1	3.9	3.2	4.0	4.3	6.3	5.8	
R07	10.8	10.3	11.1	11.8	10.5	11.1	12.9	9.0	12.5	11.6	11.3	10.9	② 学校の勉強でよくわからなかった内容を勉強している
R06	12.0	8.1	10.8	10.9	9.8	9.4	10.5	11.9	12.1	10.5	10.7	10.2	
R07	8.7	5.5	9.1	9.3	10.5	8.1	7.1	7.6	8.5	7.1	9.2	8.0	③ 上記①、②の両方の内容を勉強している
R06	7.4	5.1	9.5	8.6	8.9	8.9	7.1	5.5	8.7	8.3	8.6	7.8	
R07	0.8	1.1	1.5	1.6	1.4	2.1	1.1	1.5	1.6	2.2	1.4	1.8	④ 上記①、②の内容のどちらともいえない
R06	1.1	1.8	1.9	2.4	1.6	2.0	2.1	1.8	1.8	1.7	1.7	2.0	
R07	75.2	80.6	69.4	69.4	69.7	72.1	75.2	79.2	74.3	75.5	71.6	73.8	⑤ 学習塾等に通っていない
R06	75.9	81.9	69.4	70.6	72.3	72.6	76.3	77.5	73.4	75.1	72.7	74.1	

Q25 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	13.3	11.5	10.6	8.4	9.9	8.8	12.7	9.8	10.9	10.8	10.9	9.4	① 家庭学習の方法が分からない
R06	11.4	10.9	8.8	8.8	9.1	8.5	10.8	10.4	12.0	9.7	9.9	9.3	
R07	19.2	23.6	25.3	27.3	27.3	28.1	23.1	24.8	24.1	24.1	24.9	26.4	② 家庭学習に集中できない
R06	23.2	24.9	26.1	27.0	28.2	29.4	25.0	27.4	23.3	25.1	26.1	27.5	
R07	15.1	17.4	16.4	14.4	15.1	15.8	18.9	17.6	17.9	16.5	16.4	15.9	③ 学習の計画を立てても長続きしない
R06	18.7	17.2	16.8	17.1	15.8	16.4	19.3	17.0	17.2	17.0	17.1	16.8	
R07	19.8	16.5	22.6	19.3	23.9	21.2	17.3	15.9	15.6	14.0	21.1	18.5	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい
R06	17.1	14.8	24.6	18.4	24.2	19.0	15.8	15.8	15.5	13.1	21.2	17.2	
R07	3.1	5.1	4.1	5.4	4.6	5.6	4.2	5.6	4.6	4.2	4.3	5.3	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない
R06	4.5	4.1	4.1	5.5	4.5	5.7	4.4	5.1	4.2	5.5	4.4	5.4	
R07	28.8	25.1	20.3	24.2	18.4	19.9	22.8	25.9	26.2	29.7	21.6	23.7	⑥ 特に悩みはない
R06	23.7	26.3	17.8	20.4	16.7	18.8	22.8	22.5	25.8	27.1	19.8	21.6	
R07	0.8	0.9	0.8	1.0	0.8	0.7	1.1	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	⑦ その他
R06	1.4	1.9	1.7	2.6	1.4	2.1	1.8	1.8	1.9	2.3	1.6	2.2	

Q26 自宅でICT機器やオンラインを用いた学習を実施する（した）場合に、自分にとって不都合なこと（不都合だったこと）は何ですか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	2.2	2.4	1.9	2.9	1.7	1.8	1.9	2.3	3.7	3.2	2.1	2.4	ア パソコンやタブレット、スマホなどの機器がない（使用できない）
R06	2.1	1.5	1.9	2.0	1.7	1.6	1.8	3.1	3.5	2.6	2.0	2.1	
R07	14.9	18.2	14.7	13.8	14.6	14.0	15.9	16.6	15.0	17.7	14.9	15.2	イ 課題を印刷する機器がない（印刷できない）
R06	18.9	17.5	16.4	17.2	16.0	16.2	17.9	19.8	19.9	20.7	17.2	17.8	
R07	16.1	12.7	17.0	14.1	15.5	12.7	14.7	14.2	15.3	15.9	15.8	13.7	ウ 通信速度が遅い
R06	11.8	12.8	12.5	12.6	13.7	12.2	12.8	12.8	14.8	13.1	13.2	12.6	
R07	5.5	3.8	5.4	5.2	4.6	3.7	4.7	4.1	5.8	5.8	5.1	4.4	エ 通信料金が高額になる
R06	5.9	5.2	5.5	5.0	5.3	4.4	5.2	5.7	7.1	6.2	5.6	5.1	
R07	4.4	4.2	3.5	3.4	3.5	2.4	4.5	3.3	5.5	4.3	4.0	3.2	オ セキュリティが心配
R06	5.7	4.4	4.6	4.1	3.8	3.4	4.8	5.3	6.0	5.7	4.6	4.3	
R07	11.7	11.0	11.4	10.7	12.2	9.3	12.2	9.9	11.5	10.8	11.9	10.1	カ 操作の方法が分からない
R06	15.4	10.8	15.2	13.6	15.2	11.7	14.8	11.8	13.9	13.6	15.0	12.4	
R07	26.4	27.8	26.1	26.7	29.0	27.3	22.9	23.1	22.5	23.8	26.2	26.1	キ 集中できない、やる気が起きない
R06	24.2	20.8	24.0	25.8	26.4	25.6	21.0	21.9	21.9	22.9	24.1	24.2	
R07	45.2	45.9	43.8	46.2	43.5	47.7	50.1	48.5	48.6	45.7	45.4	47.0	ク 不都合なことはない
R06	44.6	50.1	43.9	44.5	43.1	47.0	45.6	46.9	41.8	43.9	43.7	46.2	
R07	0.9	0.9	1.2	1.8	1.4	1.6	1.6	1.0	1.6	1.1	1.4	1.4	ケ その他
R06	2.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.6	2.6	3.2	4.0	3.8	3.2	3.5	

Q27 学校に行く前に朝食をとりますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	64.8	61.1	74.2	69.6	74.3	69.6	69.3	66.2	67.4	64.6	71.8	67.6	① 必ずとる
R06	63.7	62.9	74.8	72.3	75.2	71.9	70.4	68.8	68.6	67.8	72.4	70.1	
R07	19.0	17.6	14.8	15.8	14.7	15.7	16.9	17.7	19.1	17.7	16.0	16.5	② たいていとる
R06	18.7	16.3	13.4	13.9	13.5	14.3	15.7	13.9	15.3	15.0	14.5	14.4	
R07	8.2	11.6	6.3	8.2	6.1	8.1	7.7	8.4	7.5	10.0	6.8	8.7	③ とらないことが多い
R06	10.5	10.5	6.6	6.8	6.2	7.3	7.9	9.1	9.4	8.3	7.4	7.9	
R07	8.0	9.8	4.7	6.4	4.9	6.6	6.1	7.7	6.0	7.7	5.5	7.2	④ 全く、またはほとんどとらない
R06	7.1	10.3	5.2	6.9	5.1	6.4	6.0	8.2	6.7	8.8	5.7	7.5	

Q28 平日の睡眠時間は1日当たり、どのくらいですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	1.3	0.6	0.2	0.5	0.4	0.7	0.4	0.6	0.5	1.2	0.4	0.7	① 3時間より少ない
R06	0.5	1.2	0.4	0.9	0.7	0.6	0.4	0.6	0.6	1.0	0.5	0.8	
R07	1.8	2.7	1.7	2.4	1.7	2.3	2.7	2.1	2.4	3.8	1.9	2.5	② 3時間～4時間未満
R06	2.6	3.6	2.1	2.6	2.0	2.4	1.7	2.9	3.5	2.8	2.2	2.7	
R07	8.3	8.0	6.9	9.4	7.8	9.4	8.8	9.3	8.9	6.9	7.9	8.9	③ 4時間～5時間未満
R06	7.2	8.7	7.7	8.8	7.9	8.4	7.3	9.5	9.2	10.0	7.9	8.9	
R07	24.5	24.9	27.5	27.6	25.3	28.8	25.0	24.8	22.2	26.7	25.4	27.2	④ 5時間～6時間未満
R06	24.7	28.2	25.6	29.9	25.2	29.4	23.9	26.8	23.0	26.1	24.8	28.5	
R07	38.0	40.2	39.8	39.8	40.3	40.0	37.9	40.2	39.0	37.0	39.4	39.6	⑤ 6時間～7時間未満
R06	37.8	38.1	39.6	38.0	40.9	39.5	38.6	37.1	35.5	38.1	39.2	38.4	
R07	20.3	20.0	19.8	17.3	20.5	16.2	18.9	18.1	21.5	19.5	20.1	17.6	⑥ 7時間～8時間未満
R06	21.8	16.7	20.6	16.5	19.0	17.3	21.9	18.6	22.7	17.0	20.6	17.2	
R07	4.9	3.1	3.5	2.5	3.2	2.2	5.1	4.0	4.5	4.0	3.9	2.9	⑦ 8時間～9時間未満
R06	4.5	3.1	3.5	2.8	3.7	2.1	5.4	3.5	4.3	4.2	4.1	2.9	
R07	0.8	0.7	0.7	0.5	0.9	0.5	1.2	0.8	1.1	0.9	0.9	0.6	⑧ 9時間以上
R06	1.0	0.4	0.4	0.5	0.6	0.4	0.9	1.2	1.2	0.8	0.7	0.6	

Q29 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	3.1	2.0	5.8	5.0	8.1	6.0	3.5	3.6	3.3	2.9	5.7	4.6	① 家庭学習
R06	1.8	1.6	6.5	5.9	6.7	6.5	3.8	2.8	2.1	4.0	5.1	4.9	
R07	2.3	3.0	4.0	3.4	3.4	3.6	3.0	1.8	4.0	3.0	3.5	3.1	② テレビ（録画を含む）やDVD等
R06	3.9	3.3	4.3	3.5	4.4	3.6	2.7	3.3	2.7	3.5	3.8	3.5	
R07	28.7	27.8	27.8	23.7	26.6	28.8	26.5	27.6	29.3	28.7	27.4	27.2	③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、SNS等
R06	26.6	25.8	22.3	23.1	25.0	26.2	26.6	26.3	27.8	25.7	25.1	25.3	
R07	41.1	46.3	39.1	44.3	38.4	40.3	42.4	44.4	39.5	43.9	39.6	43.0	④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
R06	45.7	46.2	44.6	45.5	40.3	41.9	44.2	46.8	44.5	46.0	43.1	44.6	
R07	7.8	6.2	5.7	6.2	5.2	5.3	5.6	6.5	5.5	5.9	5.7	5.9	⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
R06	7.2	7.9	6.8	7.8	6.2	6.2	6.6	6.5	7.4	7.1	6.7	6.9	
R07	0.9	1.1	1.3	1.2	1.0	0.6	1.0	0.9	1.5	1.5	1.1	1.0	⑥ 読書
R06	0.6	1.0	1.2	0.8	0.9	1.1	1.0	1.1	1.5	0.6	1.0	0.9	
R07	10.2	8.3	9.0	9.0	9.5	8.2	10.0	9.5	11.1	8.7	9.7	8.7	⑦ 趣味（①～⑥を除く）
R06	7.6	6.8	6.8	7.1	6.9	6.9	7.9	7.0	8.5	7.4	7.3	7.0	
R07	3.9	3.2	4.7	4.0	5.2	4.5	5.6	3.9	4.0	3.9	4.8	4.1	⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
R06	3.6	3.7	3.7	3.1	4.9	3.4	4.2	3.3	3.4	2.7	4.2	3.2	
R07	2.0	2.0	2.6	3.2	2.7	2.7	2.4	1.8	1.8	1.5	2.5	2.5	⑨ その他
R06	3.1	3.7	3.9	3.2	4.8	4.3	2.8	3.0	2.1	3.0	3.7	3.6	

Q30 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は1日当たりどのくらいですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	1.3	0.4	0.8	0.9	0.8	0.6	0.7	0.8	0.5	1.5	0.8	0.8	① 全く使わない
R06	0.2	1.2	0.7	0.8	0.7	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	
R07	1.7	1.3	2.2	1.7	2.6	1.4	2.0	1.5	1.8	1.3	2.2	1.5	② 30分より少ない
R06	1.4	0.9	2.0	1.3	1.7	1.4	1.5	1.5	1.2	1.5	1.6	1.4	
R07	2.6	2.6	5.0	3.3	6.4	4.5	4.6	3.5	3.5	2.6	5.0	3.6	③ 30分～1時間未満
R06	3.6	1.8	4.7	3.2	6.7	4.6	3.9	3.3	3.0	3.4	5.0	3.6	
R07	12.5	12.0	18.8	13.3	23.1	17.9	17.5	12.8	16.3	12.0	19.2	14.6	④ 1時間～2時間未満
R06	14.1	9.9	18.0	13.9	22.1	17.6	15.9	15.7	13.3	11.8	18.2	14.8	
R07	24.8	22.8	27.9	25.6	28.4	28.3	29.1	24.7	25.9	22.2	27.8	25.7	⑤ 2時間～3時間未満
R06	25.9	21.7	28.4	26.8	28.4	28.3	25.7	25.0	25.2	23.9	27.3	26.2	
R07	23.6	24.6	21.0	22.8	18.8	21.4	21.3	23.2	20.0	23.4	20.4	22.6	⑥ 3時間～4時間未満
R06	21.6	25.5	21.4	22.7	19.7	21.8	23.3	21.2	21.0	21.5	21.1	22.2	
R07	12.8	13.6	11.0	12.7	8.1	10.0	9.1	12.0	11.8	13.0	9.9	11.8	⑦ 4時間～5時間未満
R06	13.4	14.5	11.1	13.2	9.3	10.9	12.1	12.7	13.4	13.3	11.1	12.4	
R07	20.7	22.5	13.2	19.7	11.7	15.8	15.4	21.5	20.0	23.9	14.5	19.4	⑧ 5時間以上
R06	19.7	24.4	13.6	17.8	11.3	14.6	16.8	19.9	21.9	23.9	14.9	18.4	
R07	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1	0.2	0.0	0.2	0.1	⑨ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R06	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.4	0.1	0.2	0.2	

Q31 平日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	7.1	5.0	3.6	3.7	4.0	3.5	5.1	4.9	7.5	7.6	4.8	4.4	① 相手との通話
R06	4.5	6.5	3.6	3.2	3.6	3.4	5.7	5.7	7.1	6.8	4.5	4.5	
R07	3.6	2.4	4.0	2.4	3.4	3.0	3.8	2.2	3.7	2.3	3.7	2.5	② メール
R06	2.2	2.0	2.9	1.9	3.0	2.0	2.9	2.5	3.4	2.5	2.9	2.1	
R07	36.6	36.6	40.4	37.8	39.3	41.9	35.8	34.4	36.5	34.1	38.4	38.1	③ SNS（LINE、X [旧ツイッター]、インスタグラム等）
R06	36.0	33.1	35.8	35.2	39.5	38.6	34.3	32.6	34.7	31.2	36.8	35.2	
R07	25.7	31.3	26.4	30.7	28.2	30.6	28.5	30.5	26.4	32.3	27.3	30.9	④ 動画サイト
R06	28.2	30.2	32.2	34.8	29.5	33.5	30.4	33.1	27.8	37.9	30.0	34.0	
R07	12.5	11.2	12.1	10.8	12.5	10.9	12.9	12.0	12.4	9.7	12.5	10.9	⑤ 音楽サイトや音楽プレイヤー
R06	10.9	11.9	11.4	10.5	11.5	11.0	9.7	10.8	11.1	10.3	11.1	10.8	
R07	12.5	12.2	12.0	12.5	10.7	8.9	12.3	14.5	11.4	12.8	11.6	11.6	⑥ オンラインゲーム
R06	16.7	14.4	11.9	12.1	10.8	9.9	15.3	14.0	14.2	9.7	12.8	11.5	
R07	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	0.3	0.2	⑦ ブログや掲示板
R06	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	
R07	1.1	0.8	1.0	1.5	1.3	0.8	0.9	1.1	1.4	0.5	1.2	1.0	⑧ 情報・ニュース等の検索
R06	1.1	1.4	1.6	1.7	1.5	1.1	1.4	0.7	0.8	0.8	1.4	1.2	
R07	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	⑨ 静止画や動画の撮影
R06	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	
R07	0.0	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R06	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.4	0.1	0.2	0.2	

Q32 平日に、1日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	62.2	68.2	61.7	68.2	62.9	69.7	56.7	60.4	58.5	64.9	61.0	67.0	① 全く、またはほとんどしない
R06	59.3	67.3	64.3	70.1	63.1	70.7	55.3	62.1	62.3	67.0	61.7	68.3	
R07	20.6	17.0	22.2	17.1	21.2	17.0	23.6	23.5	21.7	17.1	21.8	18.1	② 30分より少ない
R06	25.6	15.5	20.0	17.6	21.9	15.8	25.3	21.2	19.7	17.2	22.0	17.3	
R07	12.2	8.6	10.7	9.1	10.5	8.9	12.7	10.6	12.3	10.8	11.3	9.5	③ 30分～1時間未満
R06	9.3	9.9	9.9	7.8	10.1	8.4	13.6	10.7	11.7	10.3	10.8	9.0	
R07	4.0	4.1	3.3	3.0	3.5	3.0	4.8	3.3	4.4	3.7	3.8	3.2	④ 1時間～2時間未満
R06	3.9	5.3	4.1	3.2	3.7	3.5	3.9	3.8	3.8	3.6	3.9	3.6	
R07	0.4	1.4	1.0	1.5	1.3	0.8	1.5	1.0	1.6	1.9	1.2	1.2	⑤ 2時間～3時間未満
R06	1.7	1.2	1.2	0.6	0.8	0.9	1.4	1.4	1.3	1.4	1.1	1.0	
R07	0.3	0.4	0.6	0.6	0.4	0.3	0.3	0.6	0.7	0.9	0.5	0.5	⑥ 3時間～4時間未満
R06	0.3	0.6	0.1	0.3	0.2	0.3	0.5	0.4	0.6	0.3	0.3	0.4	
R07	0.2	0.1	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.2	0.2	0.2	⑦ 4時間～5時間未満
R06	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0	0.3	0.3	0.0	0.1	0.2	
R07	0.3	0.3	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4	0.4	0.2	0.3	⑧ 5時間以上
R06	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	

Q33 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	2.4	1.4	5.3	4.9	6.3	5.5	3.4	2.5	2.5	2.7	4.7	4.1	① 家庭学習
R06	1.8	1.4	5.7	4.8	5.7	4.6	2.4	2.0	1.9	3.1	4.3	3.7	
R07	3.6	4.0	4.8	4.1	4.8	4.5	3.5	3.6	4.4	4.1	4.4	4.1	② テレビ（録画を含む）やDVD等
R06	4.7	4.3	5.4	4.8	5.9	5.2	4.2	4.7	4.6	4.8	5.2	4.9	
R07	23.2	21.8	21.1	20.2	21.8	22.7	21.7	21.9	23.8	23.3	22.0	21.9	③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、SNS等
R06	21.1	19.9	17.0	17.0	18.8	19.4	20.5	19.3	23.5	20.5	19.4	19.0	
R07	37.1	45.5	37.4	40.8	35.6	37.4	38.6	41.8	36.0	40.1	36.7	40.1	④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
R06	42.1	41.7	38.7	42.1	37.7	39.7	41.9	41.5	39.2	41.5	39.3	41.0	
R07	6.8	6.7	6.8	7.4	5.9	6.6	7.7	7.5	6.4	7.1	6.6	7.0	⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
R06	7.7	8.9	8.7	8.8	7.5	7.5	8.0	7.5	7.1	9.5	7.8	8.2	
R07	0.6	0.2	0.9	0.9	0.9	0.6	0.8	1.0	0.9	1.2	0.9	0.8	⑥ 読書
R06	0.7	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.4	2.0	0.5	1.1	1.0	
R07	17.5	13.0	16.7	14.3	16.1	15.0	17.3	15.4	18.6	14.4	16.9	14.6	⑦ 趣味（①～⑥を除く）
R06	12.2	13.0	13.9	12.0	13.3	11.9	12.6	14.2	13.7	11.4	13.3	12.4	
R07	5.3	3.7	4.0	3.8	5.0	4.2	4.4	3.3	4.8	3.5	4.6	3.8	⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
R06	3.8	3.8	3.8	3.3	4.0	3.7	4.3	3.4	3.0	3.1	3.8	3.5	
R07	3.6	3.8	3.1	3.7	3.6	3.4	2.6	3.0	2.7	3.6	3.2	3.5	⑨ その他
R06	5.9	6.0	5.8	6.1	6.0	6.9	5.0	6.0	5.2	5.7	5.7	6.3	

Q34 休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は1日当たりどのくらいですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	1.6	1.3	1.2	2.0	1.2	1.4	0.8	1.4	1.3	1.9	1.2	1.6	① 全く使わない
R06	0.6	1.6	1.2	1.3	1.0	0.9	0.5	0.8	0.7	1.4	0.9	1.1	
R07	2.3	1.1	1.8	1.8	1.9	1.3	1.8	1.1	1.8	2.2	1.9	1.5	② 30分より少ない
R06	1.0	1.3	1.6	1.2	1.5	1.2	1.6	1.2	1.4	1.7	1.5	1.3	
R07	1.7	1.3	2.1	1.5	3.0	2.3	2.1	1.7	2.0	1.2	2.3	1.8	③ 30分～1時間未満
R06	2.2	1.6	1.6	1.6	2.4	1.6	1.6	1.4	1.7	1.8	2.0	1.6	
R07	4.2	3.9	7.0	4.6	7.6	5.8	5.6	3.0	5.5	3.6	6.5	4.6	④ 1時間～2時間未満
R06	4.3	2.3	6.0	4.8	7.0	5.3	4.7	3.6	3.6	3.7	5.7	4.4	
R07	11.5	10.2	17.3	12.3	18.9	14.9	14.8	11.3	13.1	10.5	16.4	12.6	⑤ 2時間～3時間未満
R06	13.4	8.6	16.3	11.8	17.3	15.5	13.0	12.3	11.5	10.1	15.2	12.7	
R07	19.2	17.2	19.3	18.6	20.7	20.4	19.6	16.2	18.5	16.3	19.8	18.4	⑥ 3時間～4時間未満
R06	16.4	16.2	21.6	20.1	21.8	20.8	17.9	19.2	17.3	16.4	20.1	19.4	
R07	16.5	15.5	15.8	16.8	15.7	16.7	16.4	17.4	15.7	15.0	15.9	16.5	⑦ 4時間～5時間未満
R06	16.1	16.7	16.6	17.9	17.4	16.9	16.7	15.7	15.7	15.3	16.7	16.7	
R07	12.8	14.9	11.7	12.2	10.3	11.6	11.8	13.3	12.7	14.4	11.4	12.7	⑧ 5時間～6時間未満
R06	14.4	14.7	11.5	12.9	10.6	13.2	13.0	12.5	14.7	12.5	12.1	13.0	
R07	30.2	34.4	23.8	30.1	20.6	25.4	26.7	34.4	29.3	34.9	24.4	30.2	⑨ 6時間以上
R06	31.5	36.6	23.4	28.2	20.8	24.3	30.5	33.1	32.7	36.7	25.6	29.5	
R07	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R06	0.0	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.5	0.2	0.7	0.2	0.3	0.2	

Q35 休日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	4.9	5.3	3.7	2.8	3.0	3.2	5.0	4.6	6.2	5.9	4.1	3.9	① 相手との通話
R06	4.6	5.8	3.4	2.9	3.1	3.0	4.9	4.6	6.4	5.1	4.0	3.8	
R07	3.5	1.7	2.2	1.9	2.6	1.9	2.3	1.4	3.3	2.4	2.6	1.9	② メール
R06	2.7	1.1	2.1	1.4	2.1	1.4	1.7	1.5	2.1	1.8	2.1	1.4	
R07	35.1	32.2	38.0	35.0	37.7	38.5	32.7	31.8	34.4	30.9	36.3	34.9	③ SNS (LINE、X [旧ツイッター]、インスタグラム等)
R06	30.9	28.9	31.2	30.1	35.6	33.1	31.4	29.2	29.6	28.8	32.6	30.8	
R07	31.2	39.0	33.5	38.4	35.0	37.4	35.6	37.5	32.5	38.6	34.0	38.0	④ 動画サイト
R06	35.6	38.4	39.8	43.4	37.6	43.6	36.6	40.4	36.0	44.8	37.6	42.7	
R07	8.6	7.1	6.8	7.0	7.3	6.5	8.7	7.2	8.1	6.7	7.6	6.8	⑤ 音楽サイトや音楽プレイヤー
R06	7.8	8.1	7.1	6.4	6.9	6.2	7.5	7.7	8.7	6.4	7.3	6.7	
R07	15.0	13.4	14.0	13.1	12.8	11.1	14.5	16.4	13.6	14.4	13.7	13.1	⑥ オンラインゲーム
R06	16.9	15.5	14.2	13.6	12.9	10.8	16.3	15.5	15.8	11.2	14.5	12.8	
R07	0.4	0.1	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2	0.3	0.2	⑦ ブログや掲示板
R06	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	
R07	0.9	0.7	1.1	1.1	1.0	0.8	0.5	0.9	1.2	0.5	1.0	0.8	⑧ 情報・ニュース等の検索
R06	1.0	0.9	1.4	1.4	1.1	1.1	0.8	0.3	0.7	0.7	1.1	1.0	
R07	0.4	0.3	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.3	0.3	0.2	0.2	⑨ 静止画や動画の撮影
R06	0.2	0.6	0.3	0.3	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	0.4	0.2	0.3	
R07	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R06	0.0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	

Q36 休日に、1日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	64.4	70.6	65.7	70.1	64.5	70.4	63.6	68.0	63.3	68.7	64.5	69.7	① 全く、またはほとんどしない
R06	68.4	71.0	68.4	73.5	67.5	72.2	63.8	69.3	66.1	69.9	67.0	71.6	
R07	15.5	13.1	15.8	13.7	17.4	13.7	15.7	14.6	16.2	12.6	16.4	13.7	② 30分より少ない
R06	14.5	10.8	14.2	12.0	14.9	12.5	14.9	12.2	13.3	12.1	14.5	12.1	
R07	12.3	8.4	9.6	7.4	8.8	8.5	10.3	9.2	10.2	8.3	9.7	8.3	③ 30分～1時間未満
R06	8.2	8.4	8.9	6.8	9.5	7.5	9.8	8.8	10.8	8.3	9.4	7.7	
R07	4.9	4.4	5.5	4.8	5.6	4.2	6.0	4.0	5.3	4.8	5.5	4.4	④ 1時間～2時間未満
R06	4.3	5.1	4.7	4.8	4.6	4.0	7.5	5.3	4.7	5.3	5.1	4.7	
R07	1.7	1.8	2.0	1.9	1.9	1.5	2.6	2.2	2.3	2.2	2.1	1.8	⑤ 2時間～3時間未満
R06	2.6	2.3	1.7	1.7	2.3	1.9	2.2	2.7	2.6	2.3	2.2	2.1	
R07	0.5	0.9	0.6	0.9	0.7	0.7	0.7	0.8	1.5	1.7	0.8	0.9	⑥ 3時間～4時間未満
R06	1.3	1.1	1.1	0.5	0.6	0.8	1.2	0.7	1.2	0.6	1.0	0.7	
R07	0.2	0.3	0.4	0.4	0.5	0.3	0.5	0.3	0.3	0.6	0.4	0.4	⑦ 4時間～5時間未満
R06	0.1	0.6	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3	0.5	0.3	0.6	0.3	0.4	
R07	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.1	0.5	0.2	0.3	⑧ 5時間～6時間未満
R06	0.2	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.3	0.4	0.2	0.1	0.3	
R07	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	⑨ 6時間～7時間未満
R06	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	
R07	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4	0.5	0.3	0.3	0.3	⑩ 7時間以上
R06	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.4	0.2	0.2	0.1	

Q37 普段、次のような時に、スマートフォンや携帯電話でメールやメッセージ（LINE等）のやりとりをすることがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	23.0	26.0	28.0	31.2	29.6	31.0	29.7	33.9	26.2	30.1	28.2	31.0	ア 家庭で勉強しているとき
R06	23.5	28.9	28.9	33.1	28.9	32.1	28.7	31.1	28.7	32.6	28.4	32.0	
R07	9.0	8.6	10.3	11.5	9.2	11.6	10.0	10.5	9.3	10.8	9.6	11.0	イ 家族と一緒に食事をしているとき
R06	8.6	10.2	10.5	10.1	9.8	9.5	9.4	9.5	11.0	9.6	10.0	9.7	
R07	60.7	61.0	52.2	55.9	50.6	59.1	59.3	61.2	58.6	62.4	54.3	59.2	ウ 夜、ふとんやベッドに入ってから
R06	58.3	60.6	49.1	54.0	51.0	57.6	55.4	59.5	58.2	60.4	52.8	57.7	
R07	47.6	45.0	46.2	45.5	45.9	42.5	42.9	46.2	47.1	43.9	45.8	44.3	エ パソコンやゲームをしているとき
R06	42.1	42.8	46.6	45.2	43.3	41.6	42.2	43.3	44.6	45.5	44.1	43.4	
R07	38.3	38.2	45.0	47.3	47.6	51.0	37.4	38.5	38.7	40.8	43.3	45.5	オ テレビを見ているとき
R06	36.3	39.9	45.5	47.3	48.2	48.4	35.2	39.6	38.6	38.8	43.0	44.6	
R07	0.1	0.5	0.5	0.8	0.4	0.6	0.6	0.5	0.4	0.7	0.4	0.6	カ スマートフォンや携帯電話を持っていない
R06	0.5	0.7	0.5	0.7	0.6	0.4	0.4	0.3	1.0	0.5	0.6	0.5	
R07	7.4	6.3	8.2	7.0	9.1	6.7	7.0	6.1	7.8	5.6	8.2	6.5	キ その他
R06	22.5	23.1	27.0	23.7	25.7	22.7	22.8	20.8	22.2	20.2	24.8	22.3	

Q38 インターネットの利用に関して、どのような経験をしたことがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	78.5	78.3	80.1	77.7	80.9	81.6	78.8	80.7	77.1	78.4	79.7	79.7	ア
R06	79.8	80.6	82.0	84.2	83.9	84.1	80.9	81.7	78.8	78.5	81.9	82.7	
R07	35.3	33.4	35.1	35.8	37.4	39.6	33.7	35.1	31.5	33.4	35.2	36.5	イ
R06	33.0	29.9	37.1	38.0	38.1	39.1	33.1	33.7	36.9	33.2	36.4	36.3	
R07	14.6	16.9	16.3	21.2	17.5	21.1	14.2	16.2	13.5	14.8	15.9	19.1	ウ
R06	16.4	15.6	17.8	20.7	17.7	21.5	14.1	16.9	17.2	16.9	17.0	19.4	
R07	30.2	34.2	31.5	35.6	33.3	36.9	33.6	35.0	29.6	32.7	32.1	35.5	エ
R06	32.0	29.7	33.0	36.1	33.8	35.9	30.3	33.4	34.3	34.8	33.0	34.8	
R07	18.4	14.9	15.4	15.3	14.4	15.3	16.6	15.1	19.6	17.8	16.1	15.5	オ
R06	18.9	19.4	17.0	17.1	18.3	17.8	16.7	16.6	21.1	18.5	18.1	17.7	
R07	19.8	20.8	25.6	25.0	28.0	28.4	23.0	21.9	22.4	22.2	25.1	25.0	カ
R06	21.4	15.8	26.2	25.2	25.9	26.0	18.8	19.7	21.8	19.6	23.9	23.0	
R07	4.5	6.0	7.9	7.9	7.2	7.3	5.9	5.1	6.2	5.0	6.8	6.7	キ
R06	4.6	5.8	8.1	7.0	8.2	7.9	4.9	5.3	6.9	6.0	7.1	6.8	
R07	2.5	3.4	3.4	3.5	3.3	3.2	3.0	2.9	4.1	2.6	3.3	3.2	ク
R06	2.8	2.0	3.3	3.6	2.8	2.8	1.9	3.1	3.7	2.9	2.9	3.0	
R07	5.6	6.4	5.8	7.1	5.4	6.6	6.5	6.6	7.1	6.7	5.9	6.7	ケ
R06	7.3	6.3	7.0	7.9	5.9	6.9	5.8	6.7	8.1	8.2	6.6	7.3	
R07	23.2	24.9	24.2	25.9	25.9	28.5	20.9	24.3	23.7	24.7	24.1	26.3	コ
R06	25.2	28.8	28.7	31.4	29.4	31.7	22.2	26.6	26.1	27.8	27.2	30.0	
R07	8.5	8.6	7.4	7.2	7.4	6.4	9.0	7.8	9.0	7.1	7.9	7.1	サ
R06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

Q39 毎日同じくらいの時刻に起きている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	68.4	64.0	69.3	68.4	68.4	65.6	66.4	68.3	65.4	63.6	68.0	66.4	① 当てはまる
R06	68.1	72.2	71.2	74.7	72.8	74.9	71.9	73.5	67.1	69.8	71.1	73.7	
R07	28.0	32.1	26.6	27.8	27.3	30.2	30.6	28.7	29.7	31.7	28.0	29.7	② どちらかといえば、当てはまる
R06	27.3	25.0	24.8	22.3	23.6	21.0	24.8	23.1	28.0	25.4	25.0	22.6	
R07	2.6	3.0	3.3	3.0	3.3	3.2	2.2	2.2	4.0	3.0	3.2	2.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	3.4	1.9	3.1	2.3	2.5	2.8	2.4	2.7	3.6	3.4	2.9	2.7	
R07	0.9	0.9	0.7	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	1.0	1.7	0.9	1.0	④ 当てはまらない
R06	1.1	0.7	0.8	0.8	1.0	1.3	1.0	0.7	1.2	1.3	1.0	1.0	

Q40 毎日同じくらいの時刻に寝ている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	42.3	41.1	45.1	43.4	43.7	39.8	40.7	41.2	40.6	38.4	43.0	40.9	① 当てはまる
R06	40.3	41.1	42.6	47.7	45.1	46.2	41.6	44.7	36.4	41.8	42.3	45.3	
R07	41.2	41.6	41.0	42.0	41.3	44.0	43.8	41.8	42.9	41.9	41.8	42.6	② どちらかといえば、当てはまる
R06	42.1	39.8	41.4	36.6	39.4	37.4	40.0	39.2	41.3	38.5	40.5	37.9	
R07	13.0	14.5	10.7	11.8	12.0	12.7	12.9	13.7	13.0	14.2	12.0	13.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	13.9	15.4	12.1	11.9	11.6	12.6	14.8	13.0	16.4	14.7	13.1	13.0	
R07	3.5	2.8	3.2	2.8	3.0	3.5	2.7	3.4	3.5	5.4	3.1	3.5	④ 当てはまらない
R06	3.8	3.7	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.1	5.8	4.8	4.1	3.8	

Q41 体調はよい。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	49.7	46.6	54.5	51.7	52.2	48.4	50.7	49.1	48.8	47.4	51.9	49.1	① 当てはまる
R06	50.5	52.2	57.1	54.9	58.1	55.0	56.6	55.2	53.9	55.3	56.4	54.8	
R07	40.3	40.5	35.4	37.1	37.2	39.9	39.4	39.8	41.0	40.5	37.9	39.3	② どちらかといえば、当てはまる
R06	37.4	34.8	32.4	33.1	31.6	32.4	32.9	34.1	35.1	33.1	33.0	33.1	
R07	8.3	10.8	8.4	9.3	8.6	9.8	8.3	9.4	8.9	10.3	8.5	9.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	9.9	10.6	8.6	9.4	8.7	9.9	8.9	8.8	9.0	9.3	8.9	9.6	
R07	1.7	2.1	1.6	1.8	2.0	1.9	1.6	1.6	1.3	1.7	1.7	1.8	④ 当てはまらない
R06	2.2	2.4	1.8	2.6	1.7	2.8	1.6	1.8	1.9	2.2	1.8	2.5	

Q42 熟睡ができています。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	32.7	29.4	36.2	35.1	34.3	32.1	32.6	32.4	33.5	33.2	34.3	32.8	① 当てはまる
R06	37.8	36.4	40.9	41.7	42.1	41.5	41.6	40.0	38.5	42.0	40.9	40.9	
R07	41.2	43.7	39.1	40.4	38.9	41.3	41.9	42.5	43.8	42.9	40.3	41.7	② どちらかといえば、当てはまる
R06	36.6	39.1	34.1	34.7	35.3	34.1	36.7	36.0	37.9	35.3	35.7	35.2	
R07	21.5	21.4	19.2	19.4	21.5	20.4	20.8	19.8	18.1	18.2	20.4	19.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	20.6	18.2	19.8	18.3	17.6	18.5	16.8	18.2	18.3	17.9	18.4	18.3	
R07	4.5	5.6	5.4	5.0	5.3	6.2	4.7	5.3	4.7	5.7	5.1	5.6	④ 当てはまらない
R06	5.1	6.3	5.2	5.2	4.9	5.9	5.0	5.8	5.3	4.7	5.0	5.6	

Q43 学校生活に充実感や満足感を感じている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	42.7	31.7	47.6	40.9	45.0	38.6	42.9	39.5	45.0	36.2	45.1	38.4	① 当てはまる
R06	40.4	30.7	46.6	39.2	46.5	40.7	44.9	36.7	43.7	39.0	45.4	38.5	
R07	45.1	50.9	39.9	43.6	42.5	45.4	45.5	46.1	43.4	49.8	42.7	46.1	② どちらかといえば、当てはまる
R06	43.8	44.5	39.6	41.7	39.6	40.4	41.9	44.1	42.8	44.0	40.8	42.2	
R07	9.2	12.3	9.2	11.3	9.4	11.9	9.2	10.9	8.9	9.7	9.2	11.3	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	11.5	18.5	10.1	13.5	10.6	13.8	10.0	13.7	10.6	12.2	10.4	13.9	
R07	2.9	5.1	3.3	4.2	3.1	4.2	2.4	3.5	2.7	4.3	3.0	4.2	④ 当てはまらない
R06	4.2	6.3	3.7	5.5	3.3	5.1	3.1	5.5	2.8	4.6	3.4	5.3	

Q44 友達とよく話をする。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	75.8	67.9	73.5	70.0	73.0	70.0	73.1	71.8	71.5	67.6	73.2	69.8	① 当てはまる
R06	74.1	70.6	74.5	70.9	75.5	74.0	76.1	73.1	75.0	73.4	75.2	72.7	
R07	19.3	26.4	21.4	24.6	22.1	24.4	22.5	23.8	23.7	27.3	21.9	24.9	② どちらかといえば、当てはまる
R06	20.2	23.4	20.2	22.3	19.5	20.2	18.6	21.9	20.4	21.1	19.7	21.4	
R07	3.7	4.5	4.0	4.1	3.8	4.3	3.4	3.4	3.3	3.6	3.7	4.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	4.2	4.7	3.9	5.3	3.9	4.4	4.1	3.9	3.1	4.0	3.8	4.5	
R07	1.1	1.1	1.1	1.3	1.1	1.3	1.1	1.0	1.5	1.5	1.2	1.3	④ 当てはまらない
R06	1.5	1.3	1.4	1.5	1.1	1.3	1.2	1.0	1.5	1.4	1.3	1.3	

Q45 周りの人は、自分の良いところをよく認めてくれていると感じる。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	38.1	34.5	45.1	41.6	43.3	40.5	36.6	39.0	40.9	38.8	41.9	39.8	① 当てはまる
R06	32.4	29.6	39.7	39.0	39.6	40.1	34.0	33.8	39.1	38.3	38.0	37.6	
R07	51.3	51.2	45.1	47.0	46.1	48.7	52.6	51.5	48.1	51.6	47.6	49.3	② どちらかといえば、当てはまる
R06	51.2	49.9	45.6	45.3	46.6	45.4	52.3	50.5	47.3	47.6	47.8	47.0	
R07	8.2	11.6	7.8	8.3	8.2	8.4	8.6	7.3	8.3	6.7	8.2	8.3	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	12.7	16.1	11.5	11.9	11.2	11.3	10.6	11.9	10.9	10.6	11.3	11.9	
R07	2.4	2.7	2.0	3.0	2.4	2.3	2.2	2.2	2.7	2.8	2.3	2.6	④ 当てはまらない
R06	3.7	4.4	3.3	3.7	2.6	3.1	3.1	3.7	2.7	3.3	3.0	3.5	

Q46 人が困っている時は、進んで助けるようにしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	42.9	37.6	47.2	43.3	44.4	44.0	44.5	39.2	44.0	41.2	45.0	42.1	① 当てはまる
R06	39.5	36.6	41.1	40.4	44.7	43.6	41.9	42.7	41.2	39.6	42.4	41.4	
R07	48.9	51.7	45.4	48.2	48.2	48.1	48.3	52.7	47.6	49.3	47.5	49.4	② どちらかといえば、当てはまる
R06	48.2	51.9	48.1	49.4	45.5	45.2	48.9	48.2	49.4	47.6	47.5	47.7	
R07	6.2	8.8	6.4	7.2	6.4	6.7	6.0	6.9	6.7	7.4	6.3	7.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	10.7	9.9	9.0	8.3	8.6	9.4	8.1	8.3	7.8	10.7	8.7	9.2	
R07	2.0	1.9	1.0	1.2	1.0	1.2	1.1	1.2	1.6	2.2	1.2	1.4	④ 当てはまらない
R06	1.6	1.5	1.7	1.8	1.2	1.9	1.1	0.8	1.6	1.9	1.4	1.6	

Q47 新聞やテレビのニュースなどに関心がある。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	16.4	17.2	21.4	24.8	21.9	21.5	17.3	19.5	18.5	18.1	20.1	21.2	① 当てはまる
R06	14.4	14.5	20.5	21.6	21.1	20.7	15.4	17.9	14.0	16.7	18.5	19.3	
R07	41.0	42.0	42.4	41.4	40.8	41.2	41.5	41.3	42.6	39.6	41.6	41.1	② どちらかといえば、当てはまる
R06	35.6	39.0	37.8	38.4	36.8	37.6	38.4	39.0	33.9	38.2	36.8	38.2	
R07	27.5	27.2	25.9	23.1	25.9	26.0	28.5	26.6	25.5	27.2	26.4	25.6	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	33.8	31.0	29.5	27.4	29.8	28.5	33.2	29.9	34.0	31.6	31.2	29.1	
R07	15.0	13.5	10.3	10.7	11.4	11.3	12.7	12.6	13.4	15.1	11.9	12.0	④ 当てはまらない
R06	16.2	15.6	12.2	12.5	12.3	13.2	13.0	13.3	18.1	13.3	13.5	13.3	

Q48 心配なことがあり、学校生活に集中できない。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	5.5	5.4	4.7	6.7	4.6	4.7	3.6	5.4	4.4	5.6	4.5	5.5	① 当てはまる
R06	4.8	6.0	5.0	6.2	4.8	5.8	3.8	5.1	4.9	5.4	4.7	5.8	
R07	14.8	14.6	12.8	15.0	14.0	14.9	12.2	13.6	12.1	13.5	13.2	14.5	② どちらかといえば、当てはまる
R06	15.2	17.0	14.2	14.9	14.0	14.4	13.0	15.2	14.8	14.6	14.1	14.9	
R07	33.5	40.5	37.5	38.6	37.8	40.8	34.2	34.5	36.4	39.2	36.6	38.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	35.5	35.4	35.0	34.8	35.1	36.1	32.2	32.6	35.6	37.6	34.7	35.3	
R07	46.2	39.5	45.0	39.7	43.6	39.7	50.0	46.5	47.0	41.7	45.7	41.1	④ 当てはまらない
R06	44.5	41.6	45.8	43.9	46.0	43.6	51.0	47.1	44.6	42.3	46.4	43.9	

Q49 つまらなく過ごすことが多い。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	8.9	11.0	7.0	10.1	7.2	8.6	6.7	9.3	8.4	10.9	7.4	9.6	① 当てはまる
R06	8.5	12.2	6.5	9.7	6.3	9.0	6.8	9.3	7.4	10.9	6.8	9.8	
R07	17.7	21.6	17.5	19.3	17.6	20.7	17.6	19.4	18.8	21.6	17.7	20.3	② どちらかといえば、当てはまる
R06	19.6	23.2	16.6	18.7	16.8	20.0	16.1	19.1	18.7	20.3	17.1	19.9	
R07	39.2	40.9	37.9	39.0	38.3	39.3	38.7	37.3	38.4	40.2	38.4	39.1	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	40.1	37.1	38.2	38.5	37.7	37.3	34.7	37.3	38.4	36.3	37.7	37.5	
R07	34.2	26.5	37.6	31.6	36.9	31.3	36.9	34.0	34.4	27.4	36.5	30.9	④ 当てはまらない
R06	31.9	27.6	38.6	32.8	39.1	33.7	42.4	34.3	35.3	32.4	38.4	32.9	

Q50 感情の起伏を抑えられないことがある。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	7.6	9.4	7.5	9.5	7.1	6.8	5.6	8.1	6.9	7.6	7.0	8.1	① 当てはまる
R06	6.7	8.3	6.8	8.6	7.2	7.8	5.3	6.8	7.2	8.3	6.7	8.0	
R07	17.5	20.3	18.5	20.0	17.6	20.9	15.0	17.1	16.6	20.4	17.3	19.9	② どちらかといえば、当てはまる
R06	17.4	18.6	17.2	17.0	16.1	17.7	15.3	18.3	16.2	15.3	16.4	17.4	
R07	35.1	35.5	33.9	33.1	34.5	34.5	32.2	32.0	32.3	32.5	33.8	33.5	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	32.2	35.1	31.6	31.2	32.3	30.4	30.3	31.5	31.6	33.3	31.7	31.6	
R07	39.7	34.8	40.0	37.5	40.8	37.8	47.2	42.8	44.2	39.5	41.9	38.5	④ 当てはまらない
R06	43.7	38.0	44.3	43.1	44.5	44.0	49.1	43.4	44.9	42.9	45.2	43.0	

Q51 一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	26.5	28.5	29.8	28.8	28.7	27.0	30.3	28.0	27.3	27.1	28.9	27.8	① 当てはまる
R06	31.1	26.5	31.4	28.9	32.8	29.4	32.1	34.0	28.0	30.2	31.5	29.9	
R07	56.6	55.8	54.0	54.5	55.2	55.7	55.3	56.8	56.2	54.1	55.1	55.4	② どちらかといえば、当てはまる
R06	52.9	54.1	49.8	53.0	49.4	51.1	52.1	50.2	53.1	50.7	50.7	51.7	
R07	15.2	13.1	13.8	14.1	13.9	14.6	12.6	12.3	14.1	15.1	13.8	14.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	13.4	16.0	16.1	14.6	15.4	16.1	14.2	13.2	15.2	15.3	15.2	15.1	
R07	1.7	2.7	2.4	2.6	2.2	2.7	1.8	2.8	2.4	3.7	2.2	2.8	④ 当てはまらない
R06	2.6	3.3	2.7	3.4	2.3	3.2	1.6	2.6	3.6	3.4	2.5	3.2	

Q52 難しいことでも挑戦することが多い。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	20.8	18.4	22.5	22.3	23.0	20.1	21.1	18.4	18.9	17.9	21.9	20.0	① 当てはまる
R06	17.8	17.5	20.0	18.8	21.2	18.1	17.0	16.9	17.1	18.2	19.4	18.1	
R07	46.6	47.8	47.3	45.4	46.4	46.0	44.3	46.7	49.8	44.6	46.8	45.9	② どちらかといえば、当てはまる
R06	41.9	40.7	41.5	43.0	41.6	42.2	45.1	44.7	41.1	39.4	42.1	42.3	
R07	27.7	28.6	25.9	26.9	26.7	29.0	30.6	29.8	26.6	31.6	27.2	28.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	33.2	33.9	32.9	31.7	31.8	32.7	33.0	32.5	35.0	35.0	32.8	32.8	
R07	4.8	5.2	4.3	5.4	3.9	4.9	4.1	5.1	4.7	5.9	4.2	5.2	④ 当てはまらない
R06	7.0	7.9	5.5	6.2	5.3	7.0	4.7	5.9	6.7	7.1	5.6	6.7	

Q53 人の役に立つ人間になりたいと思っている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	57.4	55.6	58.5	54.5	58.7	58.3	58.7	54.4	57.6	53.1	58.4	55.7	① 当てはまる
R06	58.9	54.7	58.6	56.6	63.1	60.3	58.3	57.2	57.8	57.3	60.1	58.0	
R07	35.8	36.2	34.6	36.8	34.0	33.2	34.5	37.2	35.0	37.1	34.5	35.6	② どちらかといえば、当てはまる
R06	34.9	35.8	32.1	34.0	29.5	30.7	33.8	33.7	35.0	33.2	32.1	32.9	
R07	4.5	5.8	4.9	5.7	5.2	5.9	4.8	5.9	5.9	7.3	5.1	6.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	4.0	6.4	7.0	6.4	5.5	6.2	5.9	6.9	5.2	7.1	5.8	6.5	
R07	2.4	2.5	1.9	3.0	2.1	2.6	1.9	2.6	1.5	2.6	2.0	2.7	④ 当てはまらない
R06	2.2	3.1	2.3	2.8	1.8	2.7	1.8	2.1	1.9	2.1	2.0	2.6	

Q54 勉強と部活動の両立を目指している。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	38.7	35.5	49.5	42.5	50.3	42.9	44.3	37.4	40.4	32.5	46.8	39.9	① 当てはまる
R06	45.6	37.6	54.3	47.9	56.2	48.5	49.7	45.3	43.0	42.5	52.0	46.0	
R07	34.2	31.4	35.1	34.4	33.0	31.7	34.6	38.0	34.8	33.3	34.2	33.6	② どちらかといえば、当てはまる
R06	30.7	29.6	29.7	28.8	27.5	27.4	33.6	30.5	30.3	28.2	29.7	28.6	
R07	9.9	11.9	9.0	9.0	8.3	8.8	10.0	10.9	10.8	11.1	9.2	9.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	10.6	13.6	9.5	11.6	8.8	11.1	10.9	13.7	13.6	14.9	10.1	12.4	
R07	6.8	6.3	4.6	7.6	3.7	5.6	5.8	7.1	8.0	10.2	5.1	7.0	④ 当てはまらない
R06	13.1	19.2	6.5	11.5	7.5	12.9	5.8	10.5	13.0	14.0	8.2	12.9	
R07	10.4	14.9	1.9	6.4	4.8	11.1	5.3	6.5	6.0	13.0	4.8	9.7	⑤ 部活動に所属していない (R07より)
R06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

Q55 部活動に集中できている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	47.2	38.2	52.6	42.6	52.6	43.0	49.7	41.9	45.7	37.8	50.8	41.6	① 当てはまる
R06	48.3	38.6	52.1	44.4	56.6	47.0	54.5	47.4	48.6	43.3	53.3	45.1	
R07	27.8	28.6	32.9	33.7	31.4	32.0	32.8	35.8	32.7	28.8	31.9	32.3	② どちらかといえば、当てはまる
R06	27.3	27.5	30.6	31.4	27.9	28.1	32.0	30.2	26.4	29.0	29.0	29.3	
R07	8.0	9.7	8.9	10.0	7.7	8.4	8.6	9.1	9.5	9.6	8.4	9.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	8.6	14.2	10.6	12.3	7.8	11.1	8.4	11.8	10.9	11.5	9.1	11.9	
R07	5.8	8.0	3.6	6.9	3.4	5.0	3.5	6.3	6.1	9.7	4.0	6.6	④ 当てはまらない
R06	15.8	19.8	6.6	11.8	7.6	13.8	5.1	10.6	14.0	15.9	8.5	13.6	
R07	11.1	15.6	2.0	6.9	4.9	11.7	5.4	6.9	6.1	14.0	4.9	10.3	⑤ 部活動に所属していない (R07より)
R06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

Q56 自分の個性や適性がかかっている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	32.3	26.4	36.1	32.3	32.7	29.4	28.8	26.6	32.4	27.6	32.9	29.2	① 当てはまる
R06	29.5	26.3	35.8	34.0	34.4	34.0	30.7	28.4	33.0	31.6	33.5	32.1	
R07	42.5	45.2	42.6	44.1	43.1	45.8	42.8	45.2	44.9	44.6	43.1	45.0	② どちらかといえば、当てはまる
R06	44.6	44.6	40.2	41.9	39.8	39.3	40.8	42.7	40.0	41.7	40.5	41.3	
R07	19.9	21.6	16.4	17.6	18.4	18.6	21.3	21.5	16.9	20.1	18.3	19.3	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	19.5	21.7	18.7	17.9	20.1	20.5	21.8	23.0	19.9	19.6	19.9	20.2	
R07	5.4	6.8	5.0	6.1	5.8	6.1	7.1	6.7	5.9	7.8	5.8	6.5	④ 当てはまらない
R06	6.4	7.3	5.3	6.1	5.7	6.2	6.6	5.9	7.1	6.8	6.0	6.3	

Q57 自分の個性や適性が、学校や社会でどのように生かせるかをイメージできている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	16.5	16.8	20.7	19.6	17.7	16.4	15.8	15.5	16.8	15.1	18.0	17.0	① 当てはまる
R06	11.8	12.2	15.6	16.5	16.3	17.1	13.2	14.5	12.6	14.7	14.8	15.7	
R07	33.7	28.5	32.4	32.5	31.1	33.9	32.2	32.0	32.2	33.4	32.0	32.6	② どちらかといえば、当てはまる
R06	29.6	29.6	29.3	29.1	28.7	28.2	30.1	27.7	29.8	29.8	29.3	28.7	
R07	36.9	39.9	33.5	34.0	37.2	35.8	36.4	36.9	36.9	34.9	36.0	35.7	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	42.3	39.8	39.1	38.9	38.9	38.4	39.2	41.9	39.3	38.5	39.4	39.2	
R07	12.9	14.9	13.5	13.9	14.0	14.0	15.6	15.6	14.1	16.7	14.1	14.6	④ 当てはまらない
R06	16.3	18.4	15.8	15.4	16.0	16.4	17.4	15.9	18.2	16.8	16.5	16.3	

Q58 自分の長所を伸ばそうとしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	40.8	35.9	41.3	38.7	42.2	37.7	39.3	36.1	41.4	36.4	41.3	37.4	① 当てはまる
R06	39.4	33.2	41.2	37.7	42.8	39.5	37.8	37.2	38.4	37.8	40.7	37.8	
R07	44.2	45.9	42.1	42.7	40.5	43.9	43.6	44.6	43.4	43.7	42.1	43.9	② どちらかといえば、当てはまる
R06	41.0	43.0	40.1	40.8	37.9	39.3	42.0	42.6	42.5	42.8	40.0	41.0	
R07	11.5	13.3	12.9	14.0	13.7	14.1	13.6	14.6	11.5	15.2	13.0	14.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	15.1	19.5	14.3	16.8	15.5	16.3	16.0	16.0	14.7	14.6	15.1	16.5	
R07	3.5	4.9	3.7	4.6	3.6	4.4	3.5	4.6	3.7	4.8	3.6	4.6	④ 当てはまらない
R06	4.5	4.3	4.3	4.5	3.8	4.8	4.0	4.3	4.4	4.5	4.1	4.5	

Q59 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	54.9	50.9	59.1	57.2	59.9	57.7	57.6	55.1	55.9	52.3	58.3	55.8	① 当てはまる
R06	58.2	55.8	61.8	59.9	64.3	61.6	61.8	59.9	59.6	58.5	62.0	60.0	
R07	41.1	44.8	37.8	39.9	37.5	39.4	39.8	42.5	40.4	43.8	38.6	41.1	② どちらかといえば、当てはまる
R06	38.7	40.6	35.0	36.8	33.0	35.3	36.4	36.1	37.4	37.7	35.2	36.6	
R07	3.4	3.7	2.7	2.4	2.3	2.3	2.5	2.1	2.8	3.2	2.6	2.6	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	2.7	2.7	2.7	2.5	2.2	2.5	1.7	3.4	2.5	2.9	2.3	2.7	
R07	0.6	0.7	0.3	0.5	0.3	0.5	0.2	0.3	0.9	0.7	0.4	0.5	④ 当てはまらない
R06	0.5	0.8	0.5	0.6	0.5	0.6	0.1	0.6	0.4	0.5	0.4	0.6	

Q60 自分の考えを相手に的確に伝えている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	24.1	22.0	27.9	28.3	27.5	25.8	25.9	26.2	23.0	21.6	26.5	25.6	① 当てはまる
R06	22.7	21.2	27.2	27.8	28.6	28.2	23.4	25.4	20.8	24.8	25.8	26.5	
R07	48.3	45.7	49.2	49.1	49.3	51.0	49.9	48.8	51.7	51.7	49.6	49.8	② どちらかといえば、当てはまる
R06	50.6	49.6	48.7	47.2	48.7	46.8	52.0	49.5	53.0	50.2	50.0	48.1	
R07	24.1	27.2	19.7	19.0	19.8	19.8	20.8	21.3	22.3	22.3	20.6	20.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	22.3	25.0	21.0	20.9	19.4	21.4	21.1	21.4	22.1	21.8	20.7	21.7	
R07	3.6	5.1	3.2	3.6	3.3	3.5	3.4	3.7	3.1	4.4	3.3	3.8	④ 当てはまらない
R06	4.3	4.2	3.0	3.8	3.2	3.5	3.5	3.8	3.9	2.9	3.4	3.6	

Q61 校則や公共のルール・マナーを守っている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	58.5	50.7	59.0	54.3	60.1	55.2	61.1	54.7	59.7	50.5	59.8	53.8	① 当てはまる
R06	61.3	57.8	62.8	59.0	66.0	62.5	64.7	58.8	61.6	59.3	64.0	60.1	
R07	37.1	43.8	37.7	40.5	37.4	40.5	35.9	41.2	37.1	43.9	37.2	41.4	② どちらかといえば、当てはまる
R06	34.3	36.0	33.3	36.0	30.8	32.9	32.3	35.7	34.7	35.2	32.5	34.7	
R07	4.1	4.7	2.7	4.4	2.1	3.7	2.7	3.4	2.7	4.5	2.6	4.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	3.3	4.8	3.2	4.1	2.8	3.9	2.4	4.5	3.0	4.3	2.9	4.2	
R07	0.4	0.9	0.6	0.8	0.4	0.6	0.3	0.7	0.5	1.1	0.5	0.8	④ 当てはまらない
R06	1.1	1.4	0.5	0.7	0.4	0.6	0.6	1.1	0.6	0.9	0.6	0.8	

Q62 働くことの意義を理解している。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	40.7	36.8	44.2	42.7	41.5	42.3	40.2	38.1	38.3	38.9	41.5	40.8	① 当てはまる
R06	36.6	38.9	42.6	44.9	41.5	46.4	40.5	41.9	38.0	43.1	40.7	44.1	
R07	46.7	48.4	44.1	44.4	45.3	44.2	46.3	48.9	47.8	47.4	45.6	45.8	② どちらかといえば、当てはまる
R06	47.0	46.0	41.3	41.1	43.6	39.1	44.7	43.8	46.4	42.8	43.9	41.5	
R07	10.3	12.6	9.2	10.3	11.0	10.8	11.5	11.0	11.5	11.6	10.6	11.0	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	13.9	12.4	12.9	10.9	12.7	12.0	12.4	11.9	12.6	12.2	12.8	11.8	
R07	2.4	2.2	2.4	2.6	2.2	2.7	1.9	2.0	2.5	2.1	2.2	2.4	④ 当てはまらない
R06	2.5	2.7	3.0	2.8	2.2	2.5	2.3	2.4	2.9	1.7	2.6	2.5	

Q63 インターンシップ（職業体験）をしたいと考えている。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	38.7	37.2	37.4	35.7	36.4	33.4	37.9	38.8	31.4	32.1	36.5	35.1	① 当てはまる
R06	35.5	31.4	33.8	37.3	34.9	33.7	36.8	39.2	32.1	32.5	34.6	35.2	
R07	40.8	38.3	40.1	36.2	39.4	38.8	42.5	41.4	44.3	39.4	40.8	38.6	② どちらかといえば、当てはまる
R06	40.7	36.6	37.6	32.0	36.4	35.3	38.1	37.3	35.7	36.4	37.3	35.1	
R07	15.8	16.3	16.9	18.2	18.3	18.7	15.0	13.4	17.0	19.8	17.0	17.6	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	17.5	20.4	21.5	21.1	21.9	22.2	18.9	17.5	24.0	21.6	21.2	20.9	
R07	4.8	8.2	5.6	10.0	5.9	9.0	4.6	6.4	7.3	8.7	5.7	8.7	④ 当てはまらない
R06	6.2	11.5	7.0	9.3	6.8	8.7	6.2	6.0	8.1	9.2	6.9	8.8	

Q64 自分の役割に責任を持って行動している。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	40.7	38.0	42.6	42.3	40.0	39.6	40.8	38.7	38.6	37.4	40.7	39.7	① 当てはまる
R06	39.4	40.3	44.1	44.4	46.1	44.4	42.7	44.7	39.9	41.8	43.6	43.7	
R07	51.1	52.0	49.7	48.5	51.0	50.2	51.3	52.8	52.0	52.9	50.8	50.7	② どちらかといえば、当てはまる
R06	51.3	48.8	46.1	45.2	44.6	45.1	48.9	46.1	51.2	46.5	47.2	45.8	
R07	6.9	8.6	6.5	7.9	7.5	8.4	7.1	7.0	8.2	7.6	7.2	7.9	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	7.9	9.0	8.3	8.2	8.1	8.5	7.2	7.9	7.2	9.6	7.9	8.5	
R07	1.3	1.4	1.1	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.2	2.2	1.2	1.6	④ 当てはまらない
R06	1.3	1.9	1.4	1.9	1.3	1.9	1.1	1.3	1.6	1.8	1.3	1.8	

Q65 クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	44.1	37.4	47.0	42.4	45.3	42.4	45.7	43.0	44.2	41.9	45.6	42.0	① 当てはまる
R06	42.8	40.3	48.5	44.6	50.0	47.4	48.6	46.3	46.1	47.3	48.2	45.9	
R07	43.3	45.5	41.4	43.2	42.1	41.5	41.5	43.8	42.1	44.0	41.9	43.0	② どちらかといえば、当てはまる
R06	41.1	40.9	38.3	39.3	36.2	37.5	39.5	40.2	40.3	36.6	38.3	38.6	
R07	10.9	13.0	9.7	11.7	10.6	12.5	10.6	10.6	11.6	10.6	10.5	11.8	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	13.6	14.5	10.8	12.2	11.4	11.6	10.0	10.8	10.8	12.3	11.1	12.0	
R07	1.7	4.2	1.9	2.7	2.0	3.6	2.2	2.6	2.1	3.6	2.0	3.2	④ 当てはまらない
R06	2.5	4.4	2.3	3.6	2.4	3.4	1.8	2.6	2.7	3.4	2.3	3.4	

Q66 ボランティア活動に進んで参加している（参加したいと思っている）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	12.8	14.0	16.4	17.4	17.0	18.6	16.0	18.8	13.4	14.7	15.8	17.4	① 当てはまる
R06	13.7	14.6	17.9	19.5	19.2	21.1	17.7	25.2	12.1	17.5	17.2	20.3	
R07	29.2	28.4	33.3	31.2	33.1	34.0	34.8	34.4	29.9	31.9	32.7	32.6	② どちらかといえば、当てはまる
R06	31.3	31.6	32.8	31.3	34.5	33.5	35.5	34.7	33.7	29.8	33.8	32.4	
R07	33.2	31.2	30.9	29.3	30.8	26.8	27.9	26.3	32.7	30.3	30.8	28.2	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	36.6	32.1	32.4	30.8	31.7	28.8	33.7	27.4	35.5	33.5	33.2	30.0	
R07	24.7	26.4	19.4	22.1	19.2	20.6	21.4	20.5	24.1	23.1	20.7	21.8	④ 当てはまらない
R06	18.5	21.7	16.7	18.2	14.6	16.6	13.0	12.7	18.5	18.9	15.8	17.2	

Q67 地域の行事に進んで参加している（参加したいと思っている）。

	南部		中部南		中部北		北部		東部		全体		選択肢
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	
R07	14.8	13.4	16.8	17.0	16.2	14.7	15.7	14.1	13.0	12.2	15.7	14.8	① 当てはまる
R06	14.2	12.1	16.2	16.0	17.1	15.9	16.1	17.6	13.6	15.7	16.0	15.8	
R07	31.6	29.5	34.1	29.4	33.3	33.0	32.5	32.6	33.4	30.7	33.3	31.4	② どちらかといえば、当てはまる
R06	32.3	33.1	33.6	30.2	34.0	32.3	35.5	34.1	32.1	30.7	33.7	31.9	
R07	30.5	31.2	28.7	29.9	29.1	29.1	30.9	29.9	28.8	29.7	29.4	29.7	③ どちらかといえば、当てはまらない
R06	34.3	30.1	32.3	32.7	31.8	31.3	32.2	32.3	35.0	32.3	32.6	31.8	
R07	23.1	25.9	20.4	23.7	21.4	23.2	20.9	23.3	24.7	27.4	21.6	24.2	④ 当てはまらない
R06	19.2	24.7	17.9	20.9	17.1	20.4	16.1	16.0	19.3	20.9	17.6	20.3	

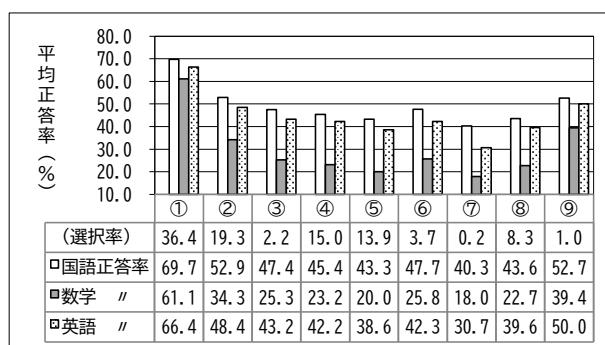
VI 学習状況に関する調査の回答 と 学力状況に関する調査の共通問題正答率 の関係

※ 質問調査各設問（Q8～38）について、回答（マークした選択肢）群ごとに学力状況調査（教科に関する調査）共通問題の正答率をみたもの。ただし、無回答・マークミス群については、表示を省略している。

Q8 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在、最も強く希望しているものはどれですか。

<選択肢>

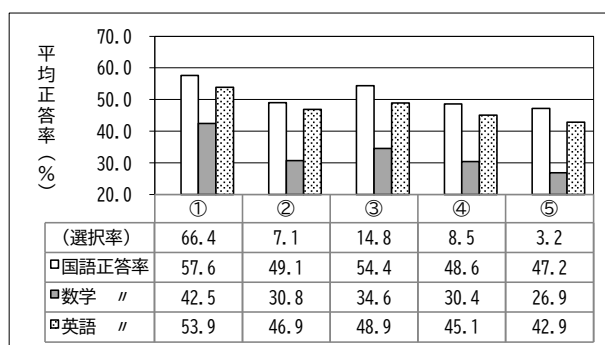
- ① 4年制国公立大学
- ② 4年制私立大学
- ③ 短期大学
- ④ 専修学校（専門学校等）・各種学校
- ⑤ 民間就職
- ⑥ 公務員就職
- ⑦ 家業
- ⑧ 未定
- ⑨ その他



Q9 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

<選択肢>

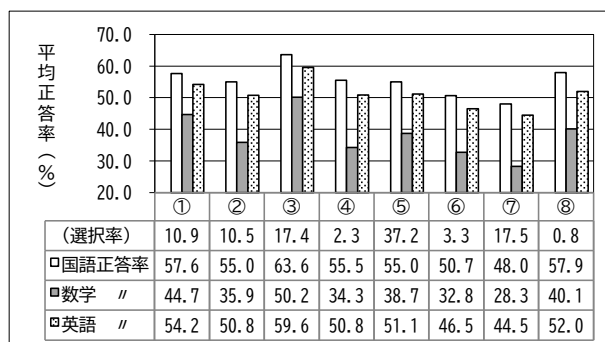
- ① 卒業までに達成しようと思っている
- ② 達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている
- ③ 達成が困難な場合、卒業までに他の進路に変えてもいいと思っている
- ④ 何とかなるだろうと思っている
- ⑤ あまり考えないようにしている



Q10 普段どんな気持ちで勉強していますか。

<選択肢>

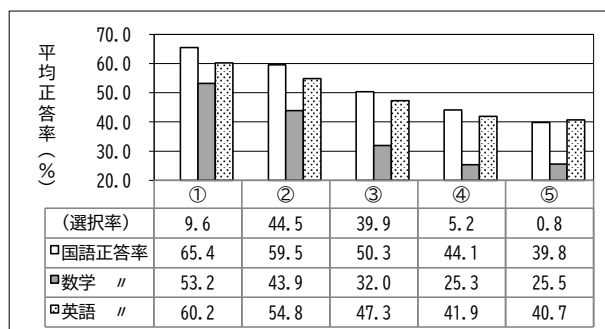
- ① わからないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい
- ② 多くのことを知り、社会に出て役立つ力を身に付けたい
- ③ 入学試験や就職試験に備えたい
- ④ 親や先生にほめられたい
- ⑤ 成績を上げたい
- ⑥ 先生や家族に言われているから勉強している
- ⑦ 特に考えていない
- ⑧ その他



Q11 授業の内容がどの程度理解できますか。

<選択肢>

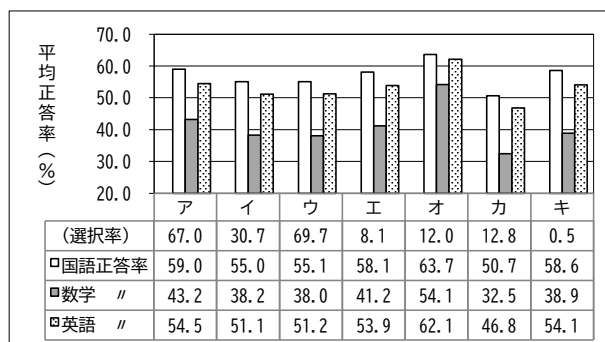
- ① ほとんどの授業がよく理解できる
- ② 理解できる授業の方が多い
- ③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある
- ④ 理解できない授業の方が多い
- ⑤ ほとんどの授業が理解できない



Q12 授業でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。（該当するものをすべて選んでください。）

<選択肢>

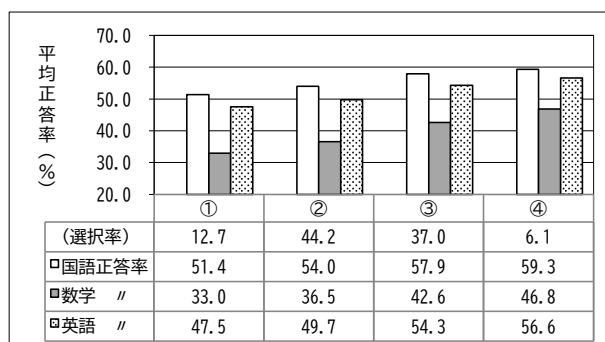
- ア 自分で調べる
- イ 学校の先生に質問する
- ウ 友達に聞く
- エ 家族に聞く
- オ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する
- カ そのままにしておく
- キ その他



Q13 授業のはじめに学習の目標が示されたり、授業の終わりに学習のまとめや振り返りが行われたりしていますか。

<選択肢>

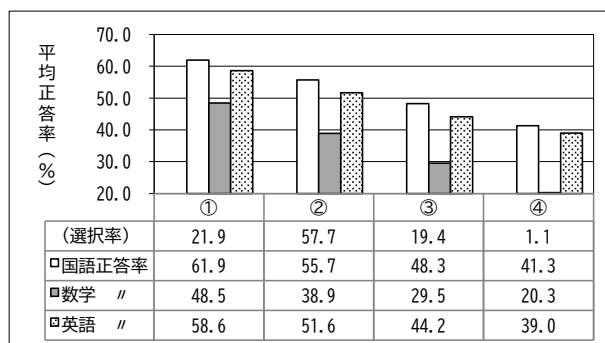
- ① ほとんどの授業で行われている
- ② 多くの授業で行われている
- ③ 行われている授業は少ない
- ④ 行われている授業はほとんどない



Q14 授業の中で、自分の考えを発表したり、考えたことをペアや小グループで話し合ったりする時間がありますか。

<選択肢>

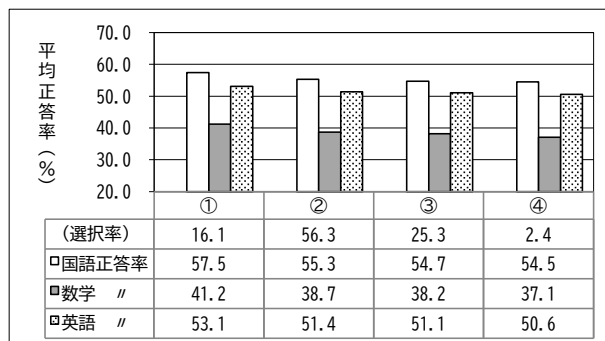
- ① ほとんどの授業でそのような時間がある
- ② 多くの授業でそのような時間がある
- ③ そのような時間がある授業は少ない
- ④ そのような時間がある授業はほとんどない



Q15 授業の中で、あなたが課題を見つけたり、解決したりする時間がありますか。

<選択肢>

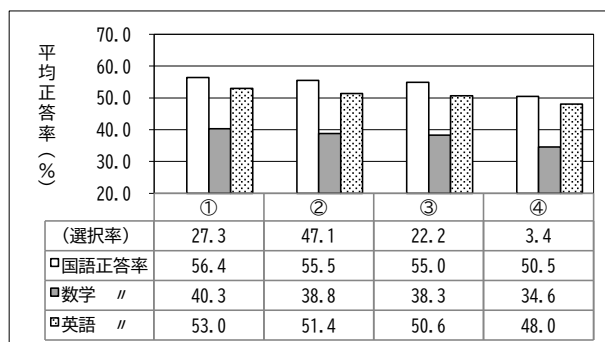
- ① ほとんどの授業でそのような時間がある
- ② 多くの授業でそのような時間がある
- ③ そのような時間がある授業は少ない
- ④ そのような時間がある授業はほとんどない



Q16 授業の中で、生徒がタブレットやパソコンなどのICT機器を使用していますか。

<選択肢>

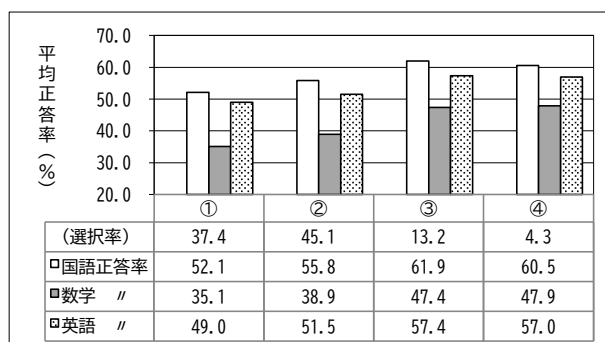
- ① ほとんどの授業で使用している
- ② 多くの授業で使用している
- ③ 使用している授業は少ない
- ④ 使用している授業はほとんどない



Q17 授業でもっとタブレットやパソコンなどのICT機器を活用したいと思いますか。

<選択肢>

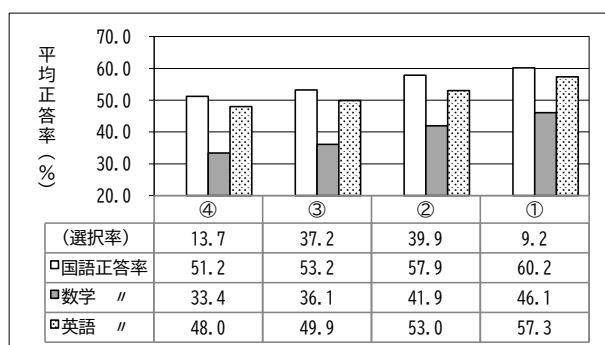
- ① 活用したいと思う
- ② どちらかといえば、活用したいと思う
- ③ どちらかといえば、活用したいと思わない
- ④ 活用したいと思わない



Q18 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

<選択肢>

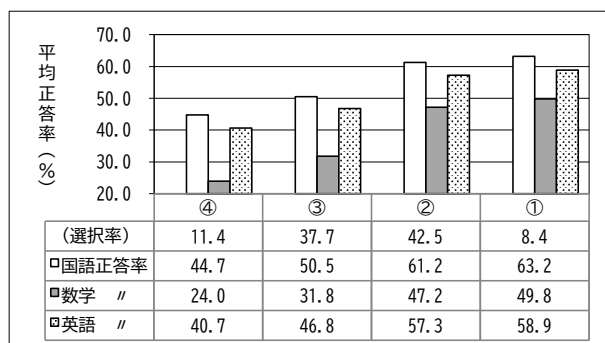
- ① ほとんど毎日出ている
- ② 週に2～3回出ている
- ③ 週に1回くらい出ている
- ④ ほとんど出ていない



Q19 学校ではどのくらいの割合でテスト（小テストや確認テストを含む。）がありますか。

<選択肢>

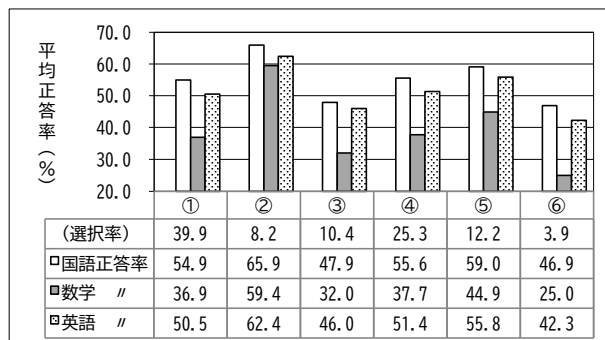
- ① ほとんど毎日ある
- ② 週に2～3回ある
- ③ 週に1回くらいある
- ④ ほとんどない



Q20 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。

<選択肢>

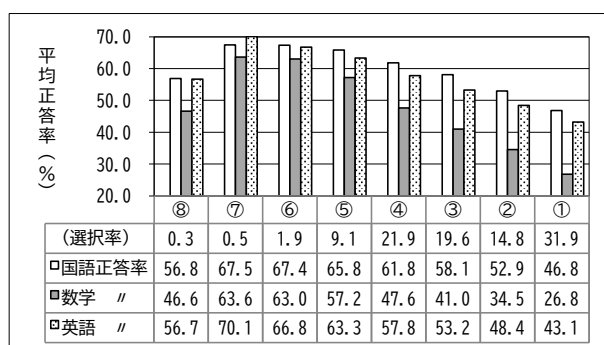
- ① 基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる授業
- ② 発展的な内容まで教えてくれる授業
- ③ ペアやグループで自分の考えを発表したり、話し合ったりする授業
- ④ 興味や関心がもてるような授業
- ⑤ 進路希望達成につながる授業
- ⑥ 資格取得につながる授業



Q21 平日（テスト期間や長期休業中などを除く、通常の月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

<選択肢>

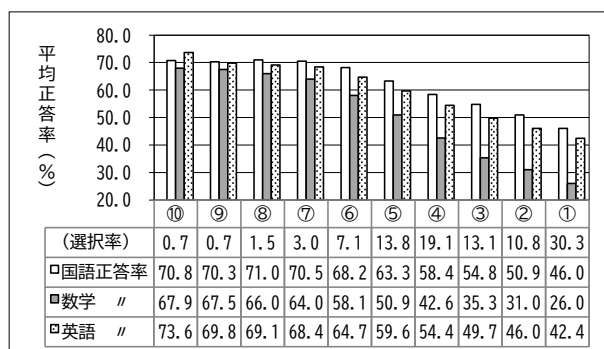
- ① 全く、またはほとんどしない
- ② 30分より少ない
- ③ 30分～
- ④ 1時間～
- ⑤ 2時間～
- ⑥ 3時間～
- ⑦ 4時間～
- ⑧ 5時間以上



Q22 休日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）。

<選択肢>

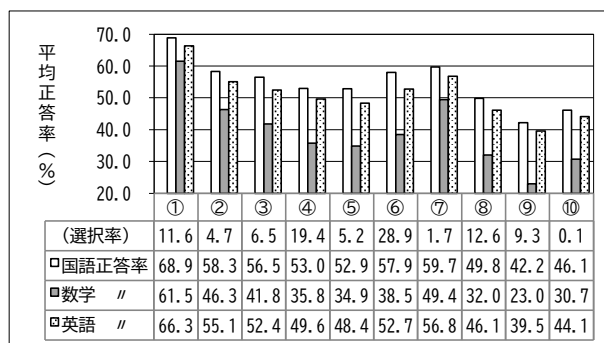
- ① 全く、またはほとんどしない
- ② 30分より少ない
- ③ 30分～
- ④ 1時間～
- ⑤ 2時間～
- ⑥ 3時間～
- ⑦ 4時間～
- ⑧ 5時間～
- ⑨ 6時間～
- ⑩ 7時間以上



Q23 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

<選択肢>

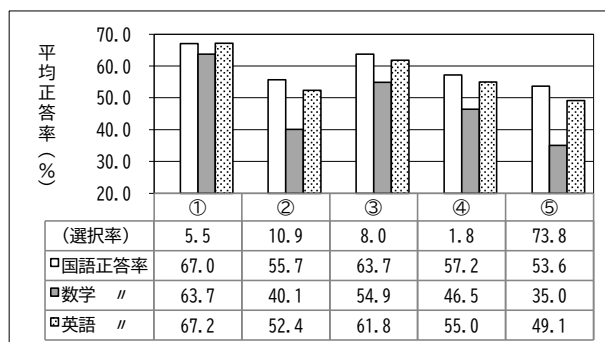
- ① ほぼ毎日している
- ② 主に平日にしている
- ③ 主に休日にしている
- ④ 主に定期考査前にしている
- ⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている
- ⑥ 主に宿題・課題のあるときと定期考査前にしている
- ⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生が来るときにしている
- ⑧ 気が向いたときにしている
- ⑨ 家庭学習はほとんどしない
- ⑩ その他



Q24 学習塾等（家庭教師の先生に教わっている場合も含む。）で、どのように勉強していますか。

<選択肢>

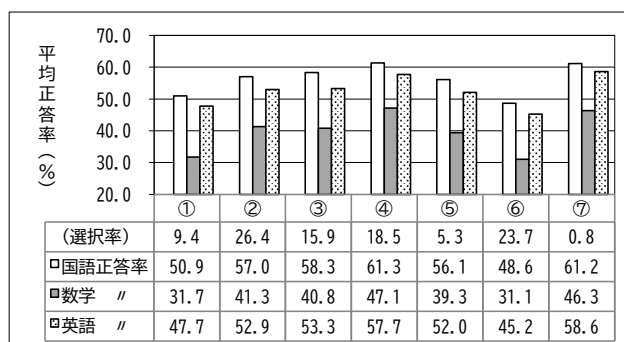
- ① 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している
- ② 学校の勉強でよくわからなかった内容を勉強している
- ③ 上記①、②の両方の内容を勉強している
- ④ 上記①、②の内容のどちらともいえない
- ⑤ 学習塾等に通っていない



Q25 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。

<選択肢>

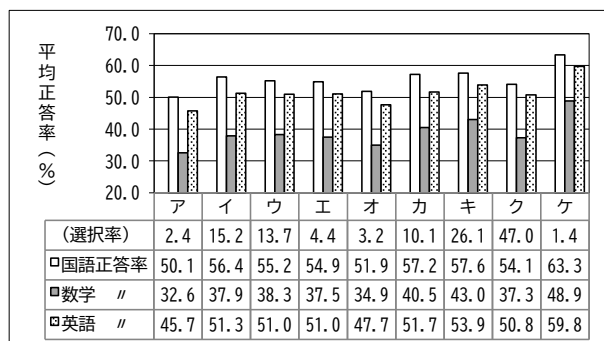
- ① 家庭学習の方法が分からない
- ② 家庭学習に集中できない
- ③ 学習の計画を立てても長続きしない
- ④ 家庭学習と部活動の両立が難しい
- ⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない
- ⑥ 特に悩みはない
- ⑦ その他



Q26 自宅でICT機器やオンラインを用いた学習を実施する（した）場合に、自分にとって不都合なこと（不都合だったこと）は何ですか。（該当するものをすべて選んでください。）

<選択肢>

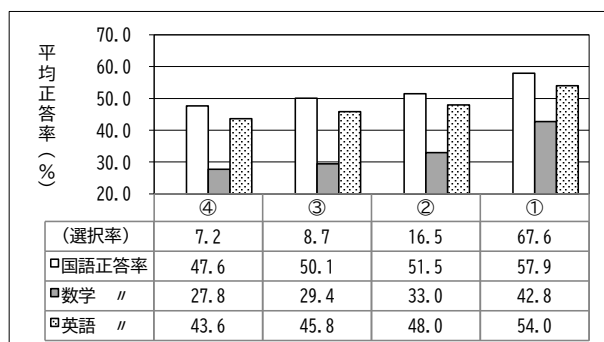
- ア パソコンやタブレット、スマホなどの機器がない（使用できない）
- イ 課題を印刷する機器がない（印刷できない）
- ウ 通信速度が遅い
- エ 通信料金が高額になる
- オ セキュリティが心配
- カ 操作の方法がわからない
- キ 集中できない、やる気が起きない
- ク 不都合なことはない
- ケ その他



Q27 学校に行く前に朝食をとりますか。

<選択肢>

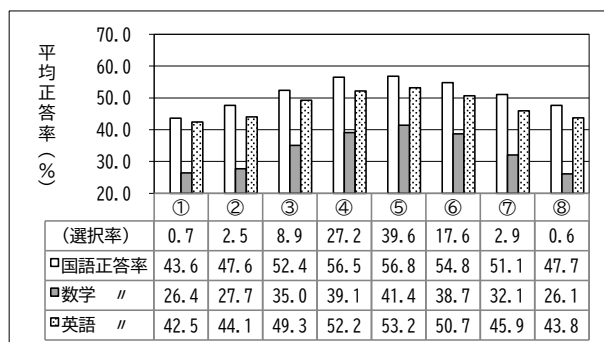
- ① 必ずとる
- ② たいていとる
- ③ とらないことが多い
- ④ 全く、またはほとんどとらない



Q28 平日の睡眠時間は1日当たり、どのくらいですか。

<選択肢>

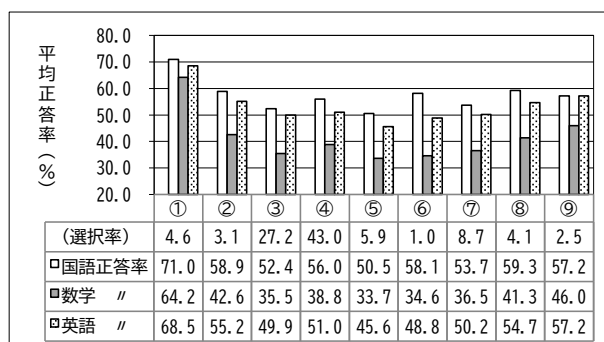
- ① 3時間より少ない
- ② 3時間～4時間未満
- ③ 4時間～5時間未満
- ④ 5時間～6時間未満
- ⑤ 6時間～7時間未満
- ⑥ 7時間～8時間未満
- ⑦ 8時間～9時間未満
- ⑧ 9時間以上



Q29 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

<選択肢>

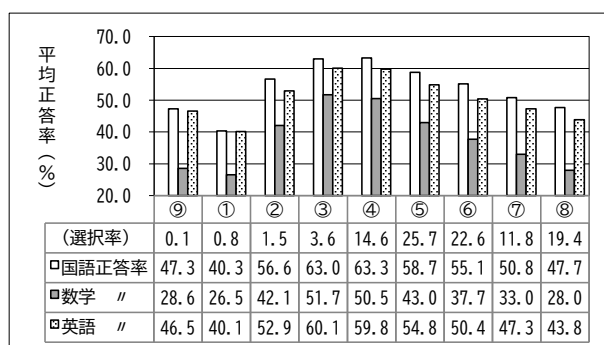
- ① 家庭学習
- ② テレビ（録画を含む）やDVD等
- ③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、SNS等
- ④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
- ⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
- ⑥ 読書
- ⑦ 趣味（①～⑥を除く）
- ⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
- ⑨ その他



Q30 平日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は1日当たりどのくらいですか。

<選択肢>

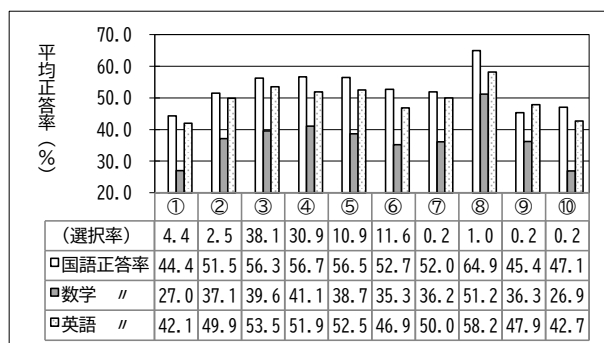
- ① 全く使わない
- ② 30分より少ない
- ③ 30分～1時間未満
- ④ 1時間～2時間未満
- ⑤ 2時間～3時間未満
- ⑥ 3時間～4時間未満
- ⑦ 4時間～5時間未満
- ⑧ 5時間以上
- ⑨ スマートフォンや携帯電話を持っていない



Q31 平日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

<選択肢>

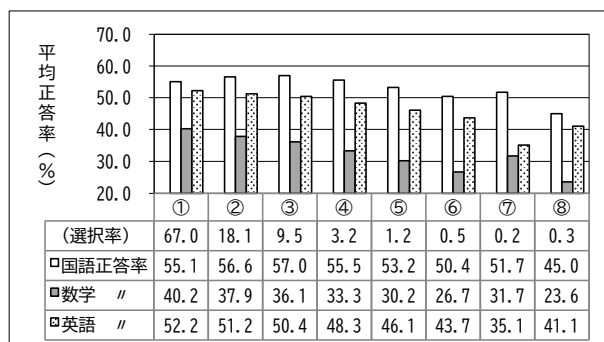
- ① 相手との通話
- ② メール
- ③ SNS（LINE、X【旧ツイッター】、インスタグラム等）
- ④ 動画サイト
- ⑤ 音楽サイトや音楽プレイヤー
- ⑥ オンラインゲーム
- ⑦ ブログや掲示板
- ⑧ 情報・ニュース等の検索
- ⑨ 静止画や動画の撮影
- ⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない



Q32 平日に、1日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

<選択肢>

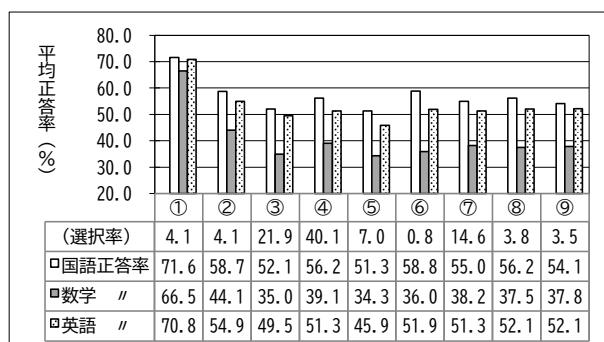
- ① 全く、またはほとんどしない
- ② 30分より少ない
- ③ 30分～1時間未満
- ④ 1時間～2時間未満
- ⑤ 2時間～3時間未満
- ⑥ 3時間～4時間未満
- ⑦ 4時間～5時間未満
- ⑧ 5時間以上



Q33 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

<選択肢>

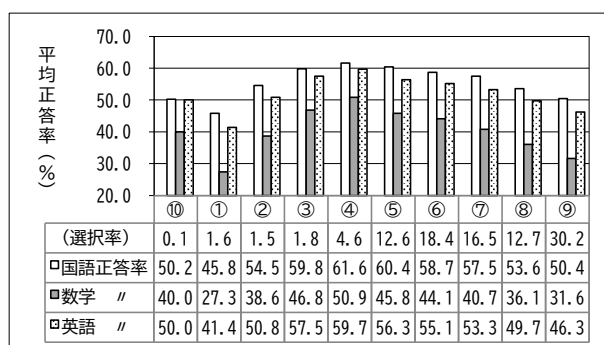
- ① 家庭学習
- ② テレビ（録画を含む）やDVD等
- ③ スマートフォンや携帯電話での通話やメール、SNS等
- ④ スマートフォンや携帯電話でのゲームや動画、情報収集
- ⑤ スマートフォンや携帯電話以外でのゲームや動画、情報収集
- ⑥ 読書
- ⑦ 趣味（①～⑥を除く）
- ⑧ 家族との会話や家事等の手伝い
- ⑨ その他



Q34 休日に、スマートフォンや携帯電話を勉強以外で使う時間は1日当たりどのくらいですか。

<選択肢>

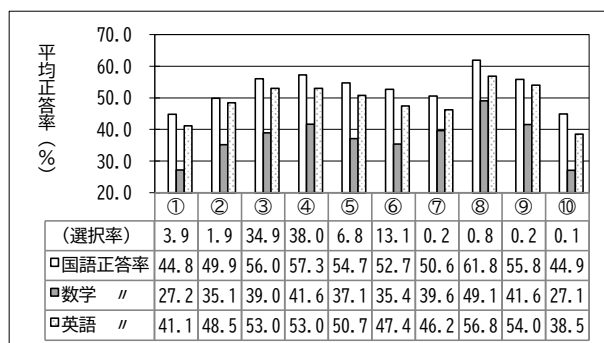
- ① 全く使わない
- ② 30分より少ない
- ③ 30分～1時間未満
- ④ 1時間～2時間未満
- ⑤ 2時間～3時間未満
- ⑥ 3時間～4時間未満
- ⑦ 4時間～5時間未満
- ⑧ 5時間～6時間未満
- ⑨ 6時間以上
- ⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない



Q35 休日に、勉強以外でスマートフォンや携帯電話を最も多く使用する用途は何ですか。

<選択肢>

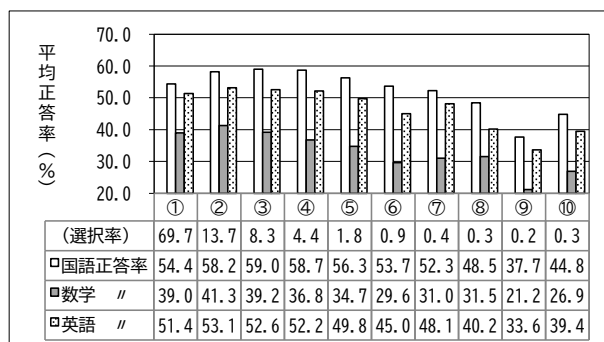
- ① 相手との通話
- ② メール
- ③ SNS（LINE、X【旧ツイッター】、インスタグラム等）
- ④ 動画サイト
- ⑤ 音楽サイトや音楽プレイヤー
- ⑥ オンラインゲーム
- ⑦ ブログや掲示板
- ⑧ 情報・ニュース等の検索
- ⑨ 静止画や動画の撮影
- ⑩ スマートフォンや携帯電話を持っていない



Q36 休日に、1日当たりどのくらいの時間、読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）をしますか。

<選択肢>

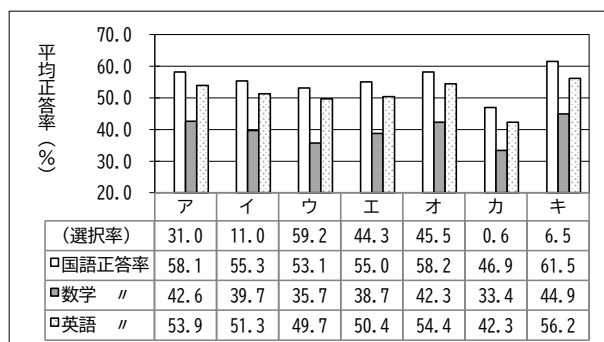
- ① 全く、またはほとんどしない
- ② 30分より少ない
- ③ 30分～1時間未満
- ④ 1時間～2時間未満
- ⑤ 2時間～3時間未満
- ⑥ 3時間～4時間未満
- ⑦ 4時間～5時間未満
- ⑧ 5時間～6時間未満
- ⑨ 6時間～7時間未満
- ⑩ 7時間以上



Q37 普段、次のような時に、スマートフォンや携帯電話でメールやメッセージ（LINE等）のやりとりをすることがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

<選択肢>

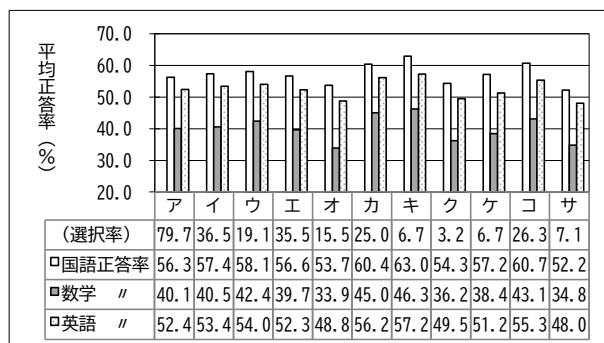
- ア 家庭で勉強しているとき
- イ 家族と一緒に食事をしているとき
- ウ 夜、ふとんやベッドに入ってから
- エ パソコンやゲームをしているとき
- オ テレビを見ているとき
- カ スマートフォンや携帯電話を持っていない
- キ その他



Q38 インターネットの利用に関して、どのような経験をしたことがありますか。（該当するものをすべて選んでください。）

<選択肢>

- ア 気がつくと、思ったより長い時間ネットをしていることがある
- イ やるべき事があっても、まず先にSNSサイトやメールをチェックする
- ウ ネットが原因で、勉強に悪影響が出て成績が下がった
- エ 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている
- オ ネットで新しく知り合いを作ることがある
- カ ネットをする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある
- キ ネットをする時間や回数、内容を家族や先生に隠そうとすることがある
- ク ネットをしていない時はイライラしたり憂鬱な気持ちになったりする
- ケ 家族や友人と外出するよりもネットを利用することを選ぶことがある
- コ 様々な問題から気をそらすためにネットで時間を過ごすことがある
- サ 該当する選択肢はない



ジュンブラナ国立第二専門高等学校との学校間交流について

1 概要

宮城丸に乗船する予定の水産を学ぶ県内2校の代表生徒をインドネシア共和国のバリ州に派遣し、現地の学校において、学校間交流を実施したものの。

2 学校間交流

- 訪問日時：令和7年11月4日(火)
- 訪 問 先：ジュンブラナ国立第二専門高等学校
(インドネシア共和国バリ州ジュンブラナ県ヌガラ市)
- 訪 問 者：教育長、気仙沼向洋高校生徒2名、水産高校生徒2名、
教員2名、教育庁職員3名、
インドネシア友好議員連盟3名(守屋議員、佐々木(幸)議員、
柚木議員)
- 交流生徒：ジュンブラナ国立第二専門高等学校 生徒25名
- 交流内容：
 - ・ 現地生徒3名によるバリ舞踊披露
 - ・ 生徒同士の記念品交換
 - ・ 本県の生徒による動画を使った学校紹介
 - ・ 現地生徒による学校紹介
 - ・ 双方からの質疑応答
 - ・ 現地の楽器体験などの交流

3 現地関係機関への協力依頼

現地関係機関を訪問し、今後、宮城丸がバリへ寄港する際の協力体制の構築等について依頼。

訪問には、高橋議長をはじめ、インドネシア友好議員連盟の県議会議員も同行。



バリ州知事公邸



在デンパサール日本国総領事館

学 校 間 交 流 の 様 子



現地校の入口



現地生徒による司会



現地生徒によるバリ舞踊



生徒同士の記念品交換



生徒発表の様子



現地生徒による発表



質疑応答の様子



現地生徒からの質問



現地の楽器体験



現地生徒と記念撮影



代表生徒と記念撮影

基本理念

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していく。

- (1) 高校教育の創造的再構築
- 各圏域に必要な学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い全ての生徒の可能性を最大限引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造する。
- (2) 生徒を主語にした高校教育の実現
- 生徒が学びに対してより高い意欲を持ち、自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現する。
- (3) 質の高い高校教育の実現
- 全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

基本方針

- (1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
- (2) スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供する。
- (3) 少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
- (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
- (5) 地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
- (6) 多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

学校配置の考え方

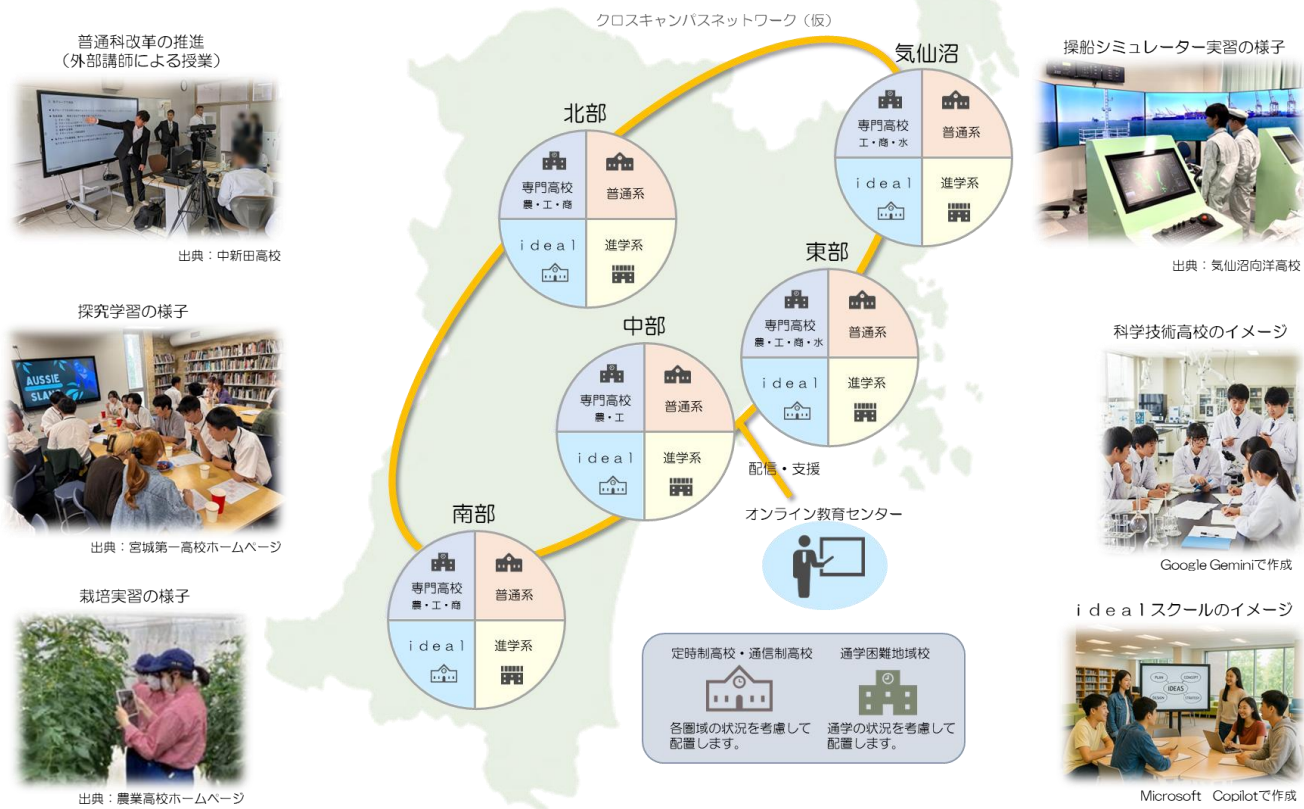
- (1) 圏域の考え方
- 圏域の見直し(7⇒5圏域(南部、中部、北部、東部、気仙沼))と学校間連携・オンラインによる教育空間の拡張
- (2) 普通科の特色強化と進学支援の充実
- 普通科の改革の推進や拠点校、進学系高校での進学に対応した教育支援の充実
- (3) 専門学科における学科横断的な学びの推進
- 学科間の知識や技術を横断的に学べる学習機会の設定
 - 農業、工業や水産業に関わる基幹校における、先端技術を含む必要な教育の提供
- (4) 多様な学びに対応した高校配置
- 生徒の多様な生活・学習スタイルに対応したidealスクールや、多部制定時制高校、通信制高校の配置
- (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備
- 生徒が安心して学ぶことができるよう、通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保の検討

学校規模の考え方

- 1学年当たりの規模の目安は定めないものの、人口減少を見据えながら、圏域ごとに必要な学級数を設定し、学びの質の確保の観点から一定の学校規模を確保する。
- 必要学級数の設定に当たっては、公私立における経済的負担の状況変化や各校の特色を踏まえた生徒の志望動向を考慮しながら検討する。

創造的再構築後のイメージ

- 宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整える。



県立高校教育の質の向上の方向性

志教育の一層の推進	確かな学力の育成	多様なニーズに対応した教育の推進	教育DXの推進	地域と学校の連携・協働体制の推進
社会性や勤労観の涵養によるより良い生き方の主体的な探求	基礎的・基本的な知識・技能の習得と多面的な学力の育成	将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成と共生社会の実現に向けた教育活動の推進	AI等デジタル技術の活用とリアルな学びの融合	全国募集などを通じた魅力ある学校づくり

時代のニーズに対応した高校の魅力化

○オンライン授業の活用や協働学習体制の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要がある。

興味・関心や適性に合わせて学びたい	大学進学に向け切磋琢磨しながら学びたい	先端技術などの専門知識を学びたい	社会に出た時に役に立つ知識を学びたい
多様なニーズに対応し、可能性を広げるための学習環境の整備が必要			
大学や企業と連携した専門的な学び	地域の特性に応じた学科横断的な学び	実社会と結び付いた知識の習得	
オンラインを活用した他校と連携した学習	ピアグループの形成による学習	地域資源の活用など特色あるカリキュラム	

学校・家庭・地域の協働の必要性

- 将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、学校・家庭・地域が役割分担をしながら連携・協働する。
- 地域の実情や生徒の教育的ニーズに即した魅力ある高校教育の実現に向けて、市町村との連携・協働を一層推進する。

持続可能な学校教育の推進

- (1) 社会に開かれた教育課程の推進 (2) 外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保 (3) 教職員の支援体制 (4) 生徒の相談・支援体制の構築 (5) 教育環境の充実

入学者選抜の在り方

- 入学者選抜について、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する。

将来構想の推進に向けた適正な進行管理

- (1) 社会情勢の変化に応じた進行管理 (2) 適正な進行管理
- 市町村や企業、こどもなどの多様な関係者の意見を伺いながら、実施計画の策定などを立案・推進する体制を構築し、各施策の進捗状況や課題を把握しながら進行管理を行う。

【概要】（仮称）第4期県立高校将来構想答申中間案について

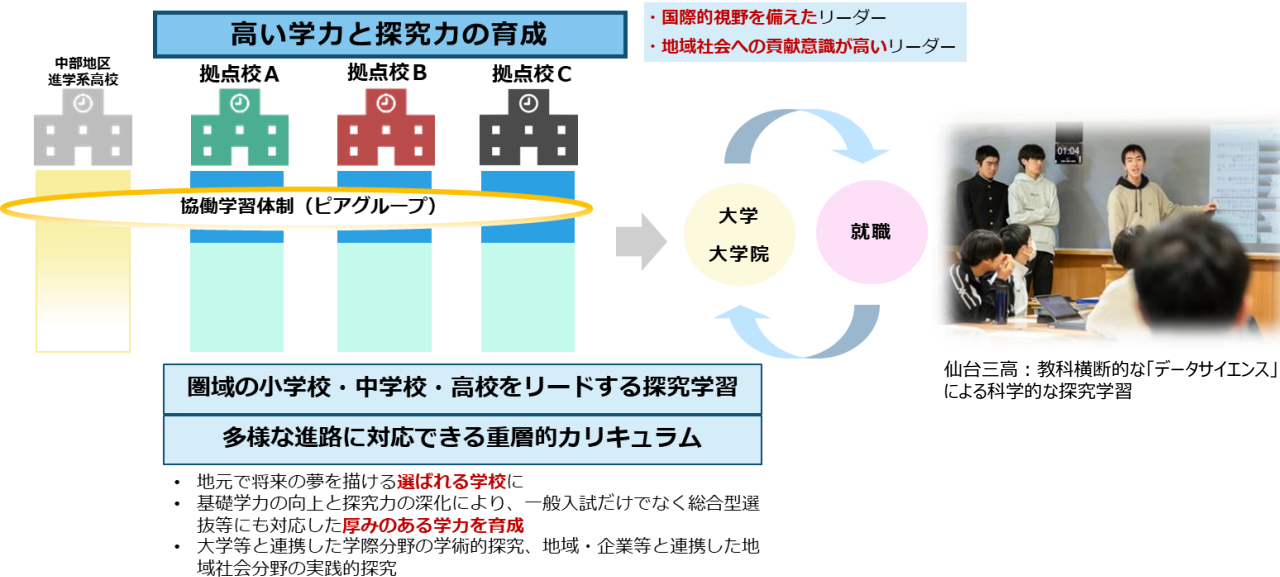
高校教育の創造的再構築に向けた柱となる取組について

1 学力と探究を極め進学力も向上させる環境の整備

- ◆ 圏域ごとに**高い学力と探究力**を身に付けることを目指す**拠点校等**を配置し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。

<拠点校のイメージ>

学際・地域社会分野の探究



仙台三高：教科横断的な「データサイエンス」による科学的な探究学習

- ◆ **普通科の改革の推進**により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、**地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。**

3 多様な学びのニーズへの対応

- ◆ 生徒の多様な生活・学習スタイルに応じて**フレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の i d e a l スクール**の柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討する。

- ◆ 定時制高校の現状を踏まえながら、i d e a l スクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況に対応できる教育の在り方を検討する。

- ◆ 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、安心して学びを継続できる環境を整備する。

- ◆ 障がいの有無にかかわらず、互いを尊重し協働できる環境の整備として、高校と特別支援学校の併置や連携等による、生徒の交流及び共同学習を通じて、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の推進を図る。



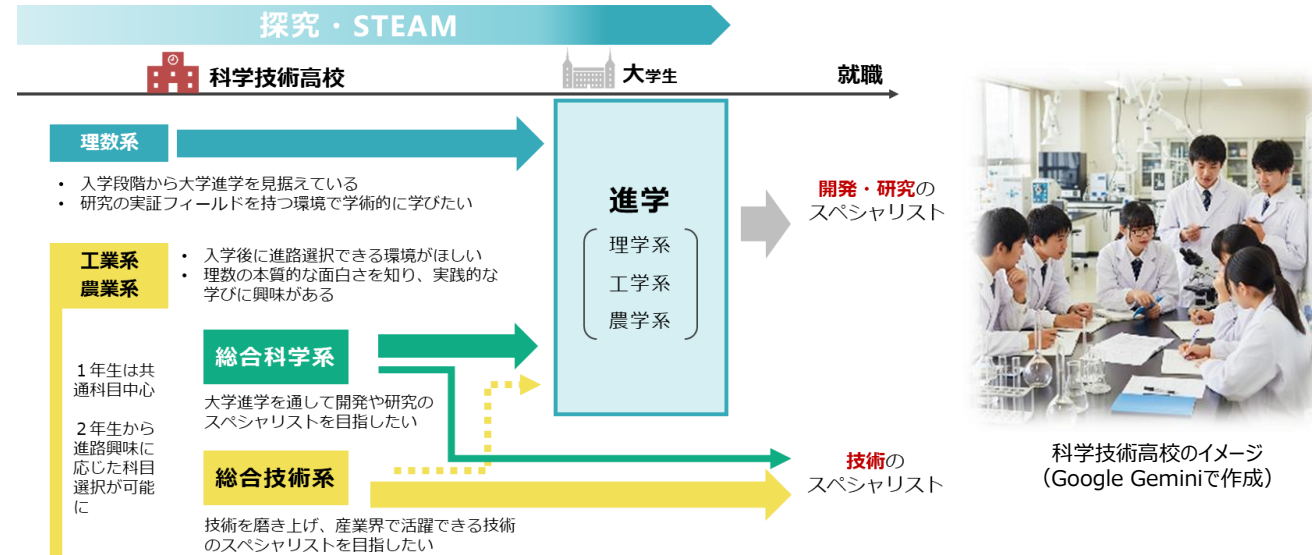
i d e a l スクールのイメージ図
(ChatGPTで作成)

2 専門学科における実践的な学び

- ◆ 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を活用し、その成果を学校間で共有する。

- ◆ 工業系及び農業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、**先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討する。**

<科学技術高校のイメージ>



科学技術高校のイメージ
(Google Geminiで作成)

- ◆ 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供する。

4 オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張

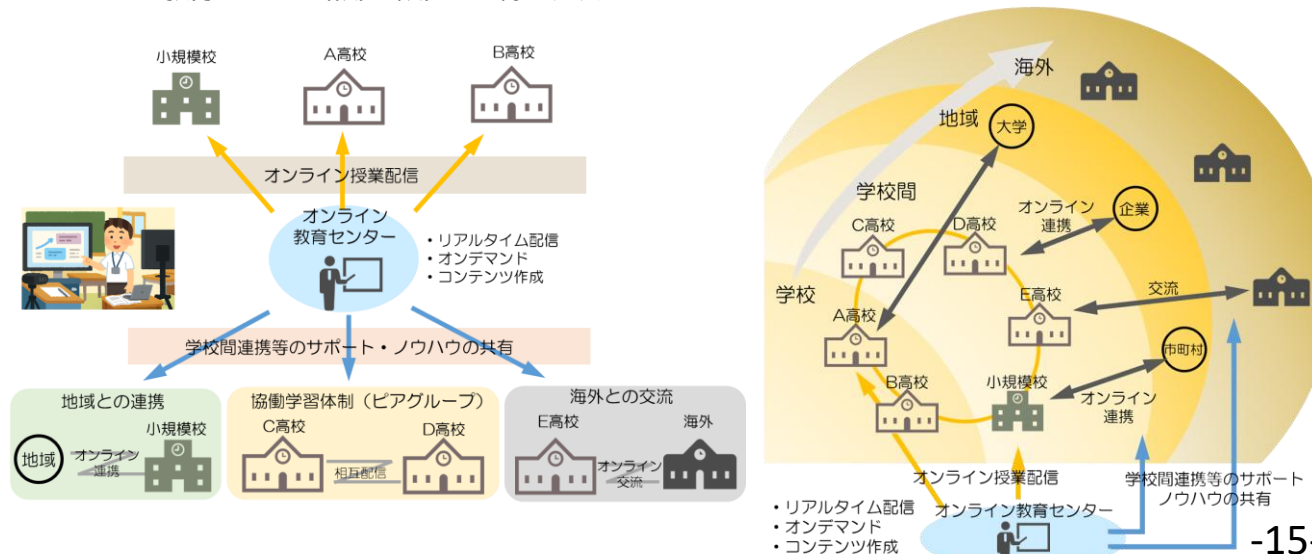
- ◆ 小規模校においては、人間関係の固定化により多様な価値観に触れる機会が少ないことや、教職員数など教育資源に限りがあるため、オンラインや地域連携などを活用し、教育環境を整える必要がある。

- ◆ 希望する進路等が同じ生徒同士で構成される協働学習体制（ピアグループ）を形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校等と連携した授業等の相互配信による充実した学習環境を整備する。

- ◆ **オンライン教育センター（仮）の設置**により、**学びの質を確保するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備する。**

<オンライン教育センター（仮）を設置した際の運用のイメージ>

<教育空間の拡張のイメージ>



【概要】（仮称）第４期県立高校将来構想答申中間案について

策定の趣旨

- 急速な少子化の進行
- 高校教育に対するニーズの変化
 - ・生徒一人一人のウェルビーイングの実現
 - ・地域に貢献できる人材育成

構想の期間

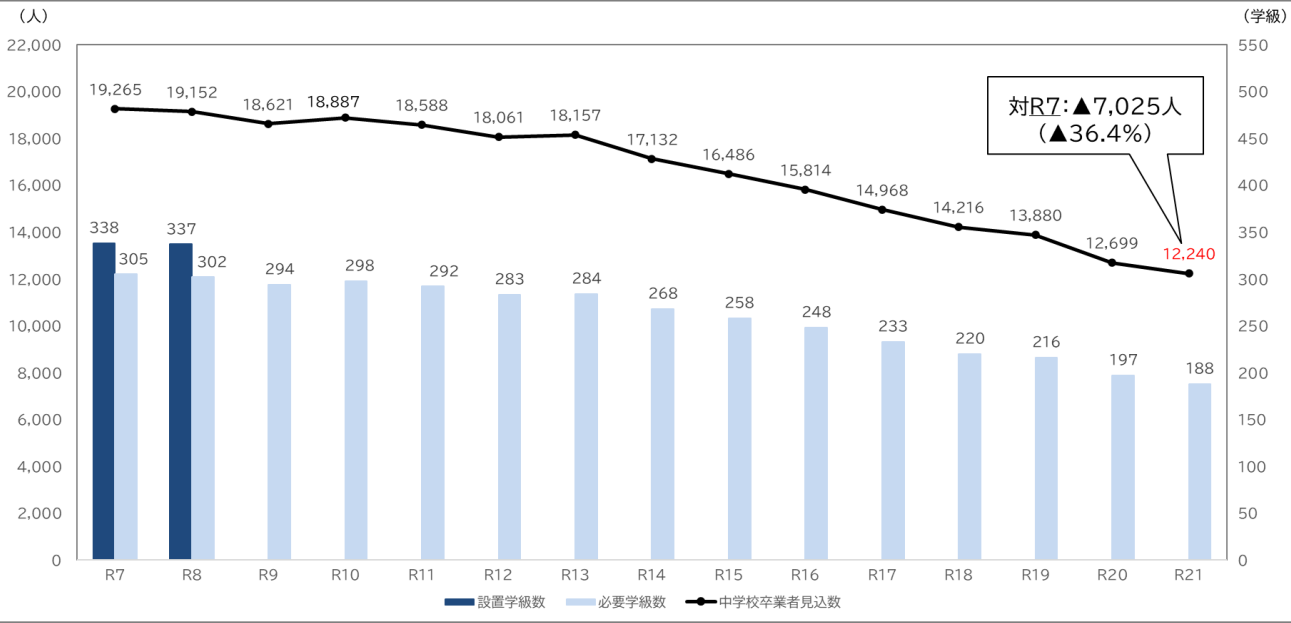
- 構想策定時点で１４年先までの中学校卒業生数について見通しが立つことから、令和８年度から令和２１年度までの１４年間を対象期間として設定する。
- 本構想を踏まえて、次の期間で別に実施計画を策定する。
 - １次 令和９年度～令和１３年度／２次 令和１４年度～令和１７年度／３次 令和１８年度～令和２１年度

高校教育を取り巻く現状と課題

- | | |
|---|---|
| （１）社会経済環境の変化 <ul style="list-style-type: none">○少子化ペースの加速化○デジタル・グローバル化等、必要となる知識・能力の変化○成年年齢の引き下げ | （２）県立高校の現状と課題 <ul style="list-style-type: none">○生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化による高校教育の役割の複雑化・高度化○学校に登校していない生徒・中途退学者の増加○地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保 |
|---|---|

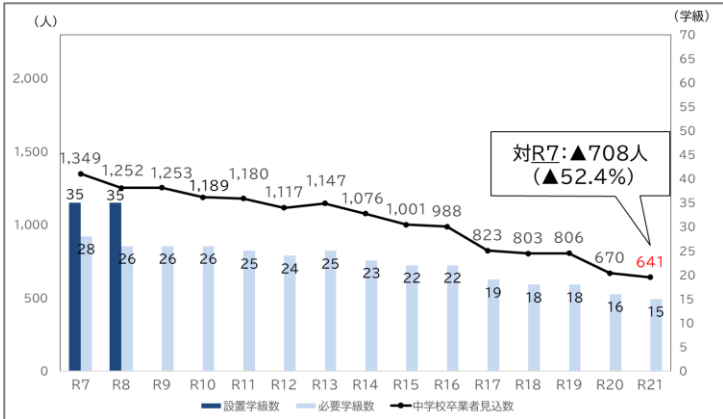
全県・圏域ごとの今後の必要学級数の推移及び再構築後の姿

- <全県>
- | | |
|-------------------|-------------------|
| 【現状】令和７年度 | 【令和２１年度の姿】 |
| 中学校卒業生見込数 １９,２６５人 | 中学校卒業生見込数 １２,２４０人 |
| 設置学級数 全日制３３８学級 | 必要学級数 １８８学級 |



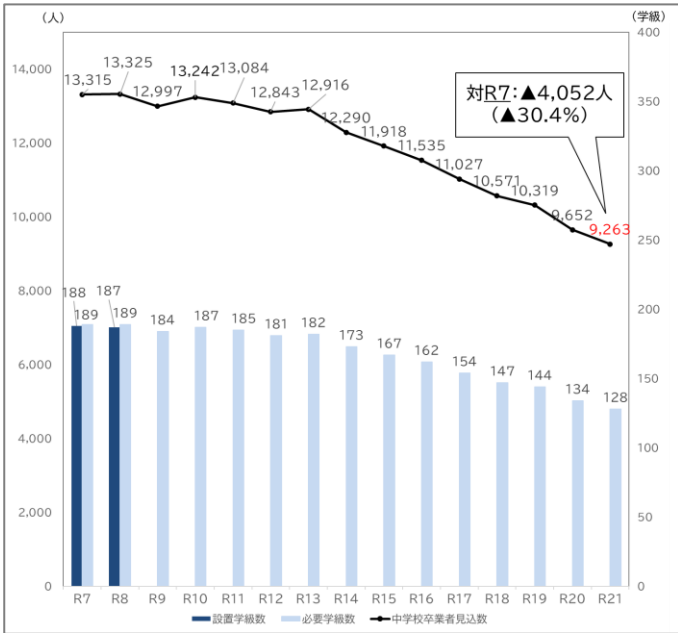
①南部地区

- 【現状】令和７年度
- 中学校卒業生見込数 １,３４９人
- 設置学級数 全日制３５学級
- 【令和２１年度の姿】
- 中学校卒業生見込数 ６４１人
- 必要学級数 全日制１５学級
- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びの確保。



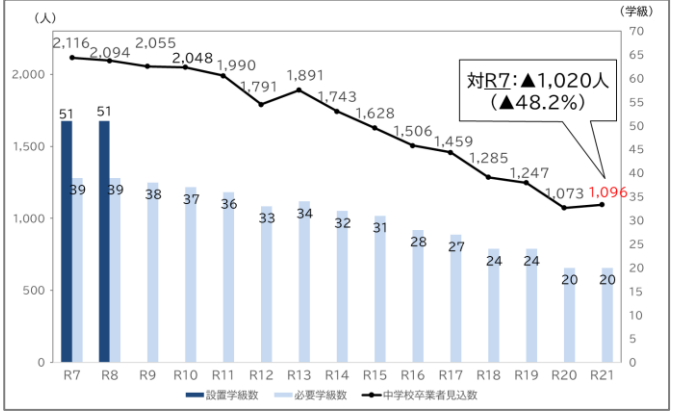
②中部地区

- 【現状】令和７年度
- 中学校卒業生見込数 １３,３１５人
- 設置学級数 全日制１８８学級
- 【令和２１年度の姿】
- 中学校卒業生見込数 ９,２６３人
- 必要学級数 全日制１２８学級
- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学びの確保。
- 大学や企業との連携による先端技術を学べる農業系、工業系の専門学科の基幹校の配置。



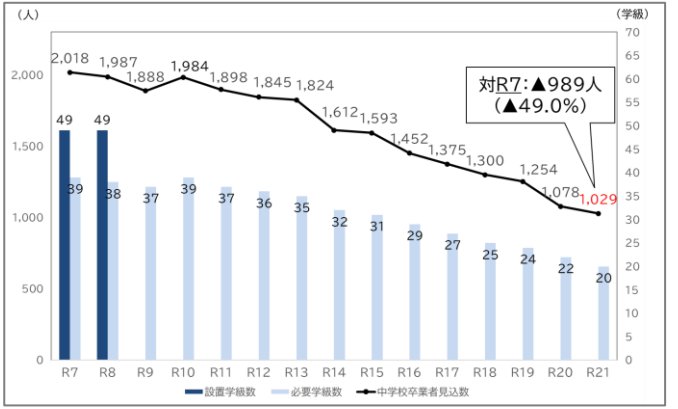
③北部地区（大崎地区＋栗原地区）

- 【現状】令和７年度
- ・大崎地区 中学校卒業生見込数 １,６６９人
- 設置学級数 全日制４０学級
- ・栗原地区 中学校卒業生見込数 ４４７人
- 設置学級数 全日制１１学級
- 【令和２１年度の姿】
- 中学校卒業生見込数 １,０９６人
- 必要学級数 全日制２０学級
- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びの確保。



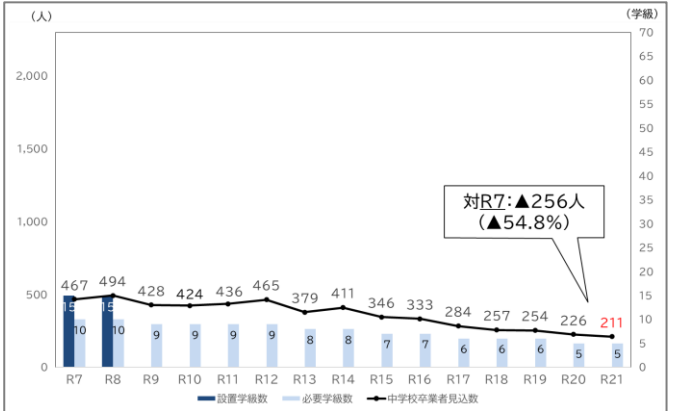
④東部地区（登米地区＋石巻地区）

- 【現状】令和７年度
- ・登米地区 中学校卒業生見込数 ６１５人
- 設置学級数 全日制１４学級
- ・石巻地区 中学校卒業生見込数 １,４０３人
- 設置学級数 全日制３５学級
- 【令和２１年度の姿】
- 中学校卒業生見込数 １,０２９人
- 必要学級数 全日制２０学級
- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系、商業系や水産系の学びの確保。



⑤気仙沼地区

- 【現状】令和７年度
- 中学校卒業生見込数 ４６７人
- 設置学級数 全日制１５学級
- 【令和２１年度の姿】
- 中学校卒業生見込数 ２１１人
- 必要学級数 全日制５学級
- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、工業系、商業系や水産系の学びの確保。



(仮称) 第4期県立高校将来構想答申中間案

目 次

第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

- 1 策定の趣旨
- 2 構想の位置付け
- 3 構想の期間

第2章 高校教育を取り巻く現状と課題

- 1 第3期県立高校将来構想に基づく取組の実施状況
 - (1) 人づくりに向けた取組
 - (2) 学校づくりに向けた取組
- 2 高校教育を取り巻く現状と課題
 - (1) 社会経済環境の変化
 - (2) 県立高校の現状と課題

第3章 高校教育の創造的再構築に向けた考え方

- 1 基本理念
 - (1) 高校教育の創造的再構築
 - (2) 生徒を主語にした高校教育の実現
 - (3) 質の高い高校教育の実現
- 2 基本方針
- 3 学校配置の考え方
 - (1) 圏域の考え方
 - (2) 普通科の特色強化と進学支援の充実
 - (3) 専門学科における学科横断的な学びの推進
 - (4) 多様な学びに対応した高校配置
 - (5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備
- 4 学校規模の考え方
- 5 各圏域における再構築後の姿

第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

- (1) 志教育の一層の推進
- (2) 確かな学力の育成
- (3) 多様なニーズに対応した教育の推進
- (4) 教育D×の推進
- (5) 地域と学校の連携・協働体制の推進

2 時代のニーズに対応した高校の魅力化

- (1) 普通科系の学び
- (2) 専門学科系の学び

3 多様な学びの在り方

- (1) i d e a l スクール
- (2) 定時制・通信制の在り方
- (3) 特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

4 小規模校の学びの在り方

- (1) オンラインの効果的な活用推進
- (2) 地域連携や学校間連携の取組

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

第5章 将来構想の推進

1 学校・家庭・地域の協働の必要性

2 持続可能な学校教育の推進

- (1) 社会に開かれた教育課程の推進
- (2) 外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保
- (3) 教職員の支援体制
- (4) 生徒の相談・支援体制の構築
- (5) 教育環境の充実

3 入学者選抜の在り方

4 将来構想の推進に向けた適正な進行管理

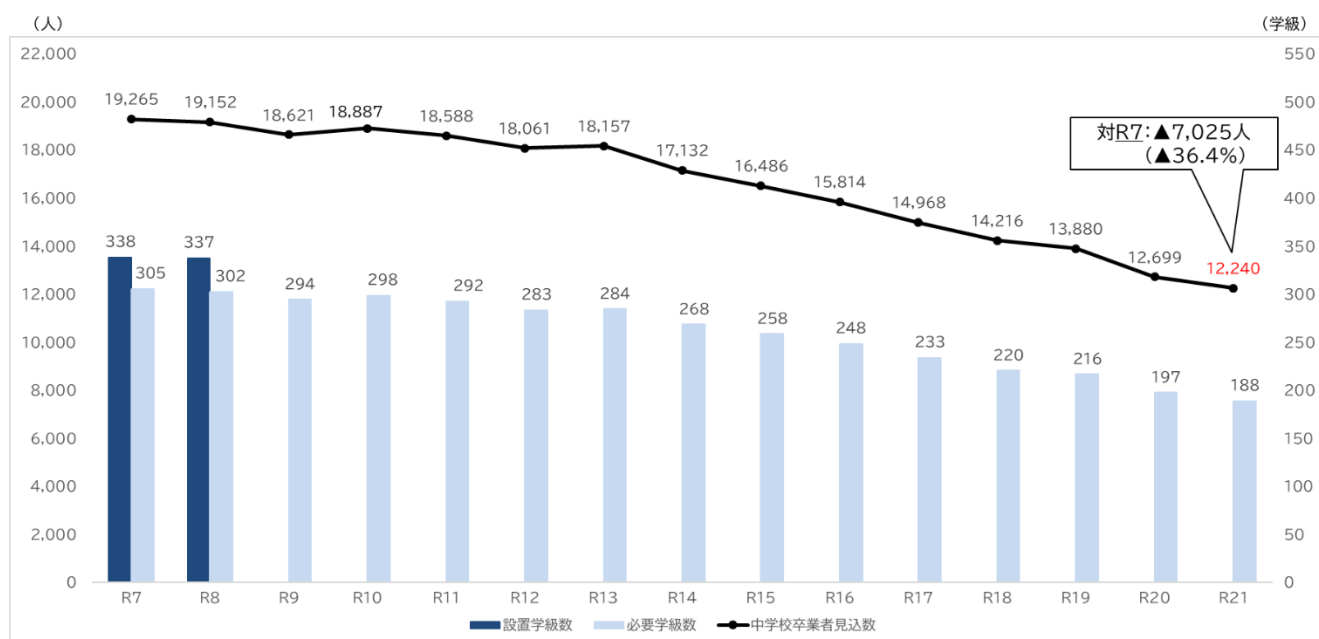
- (1) 社会情勢の変化に応じた進行管理
- (2) 適正な進行管理

第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

1 策定の趣旨

- 本県では、平成31年2月に策定した「第3期県立高校将来構想」（平成31年度～令和10年度）に基づき、少子化の影響や小規模校の増加に伴う教育環境の整備・充実など、高校教育を取り巻く環境の変化に対応した教育改革を進めてきました。しかしながら、14年後の令和21年度における中学校卒業生数は、現在より約7,000人、約4割少なくなると見込まれ、構想策定当時の想定を上回る急速な少子化の進行を踏まえ、人口減少局面に対応した教育環境の整備について早期に検討を進める必要があります。
- 近年の教育環境を巡る状況は目まぐるしく変化しており、生徒の多様な教育的ニーズに応じた学びの必要性や、グローバル化、デジタル社会の進展を背景に、生徒の興味・関心や将来の進路希望に応じた、柔軟に学びを選択できる環境や、生徒自身の将来の可能性を広げるための学習環境の整備が必要となってきています。
- 今後、更に先行きが不透明で予測困難な社会情勢となっていく中では、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むとともに、生徒一人一人の個性や背景を尊重し、学力の向上だけでなく、心身の健康、社会的つながり、自己実現の観点を踏まえ、誰一人取り残されずに、生徒が安心して自己表現できる学校づくりを通して、生徒一人一人のウェルビーイングを実現することが求められています。
- さらに、生産年齢人口の減少が見込まれる中、これまで以上に地域の特色を踏まえた学びを充実させるとともに、地域との連携を深め、より実社会と結び付いた学びの機会を提供することにより、地元の産業を支えるなど、地域に貢献できる人材を育てることが、高校教育に求められています。
- こうした急速な少子化の進展やそれに伴う高校教育に対するニーズの変化を踏まえ、構想の期間を前倒しし、従来の考え方にとらわれない、生徒を主語にした新たな視点から高校教育を創造的に再構築することを目指し、新たな県立高校将来構想を策定することとしました。

＜本県の中学校卒業生見込数及び必要学級数の推移＞



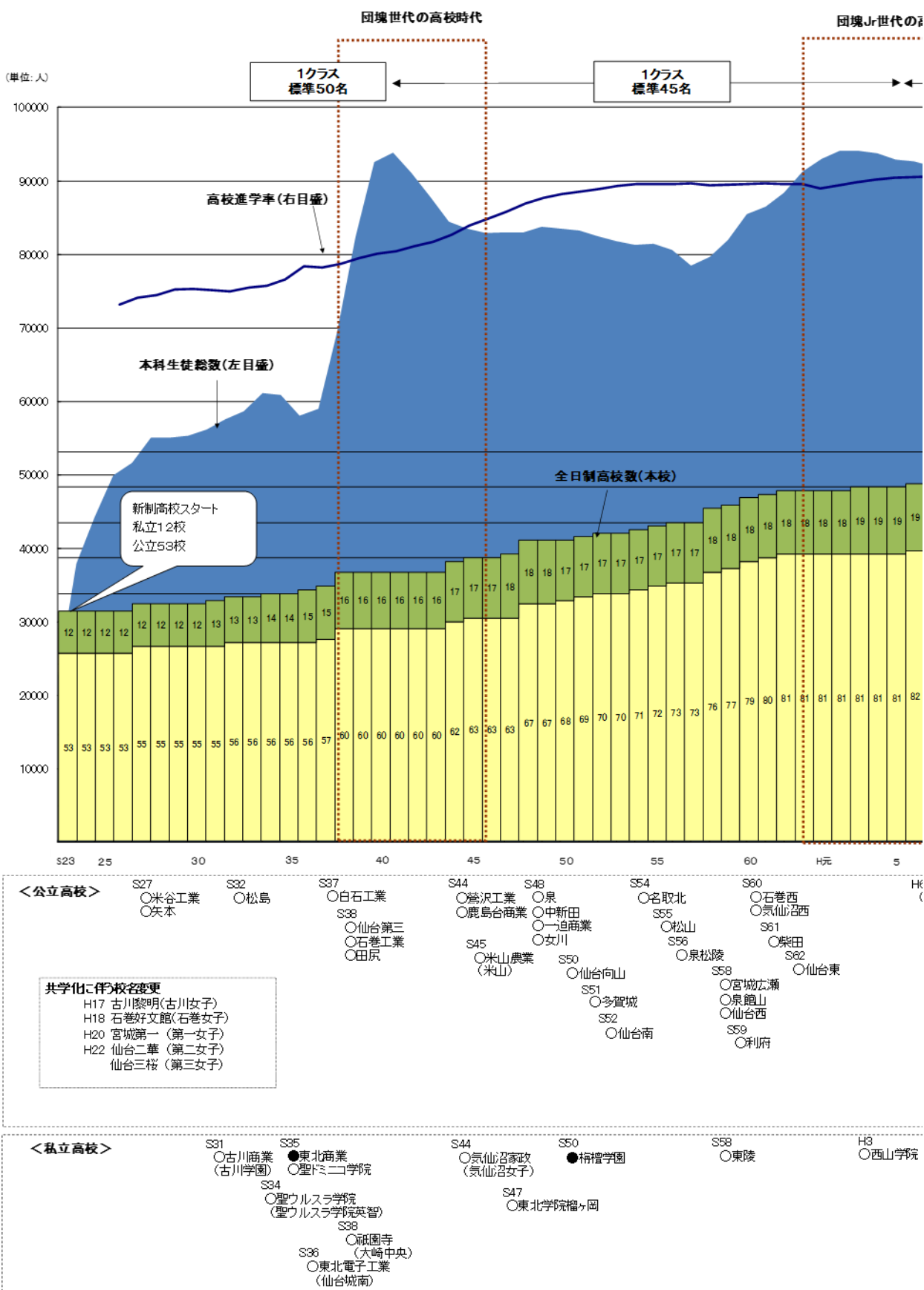
2 構想の位置付け

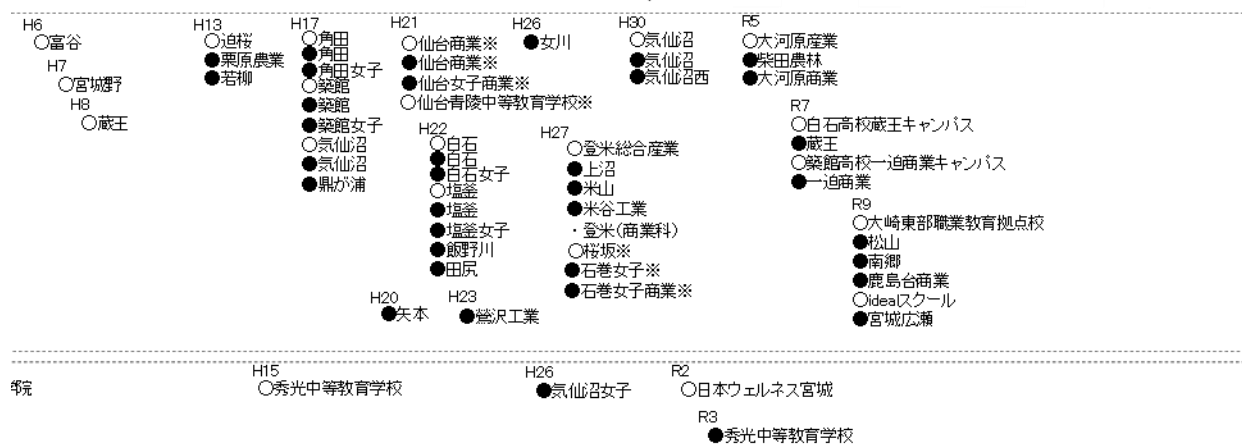
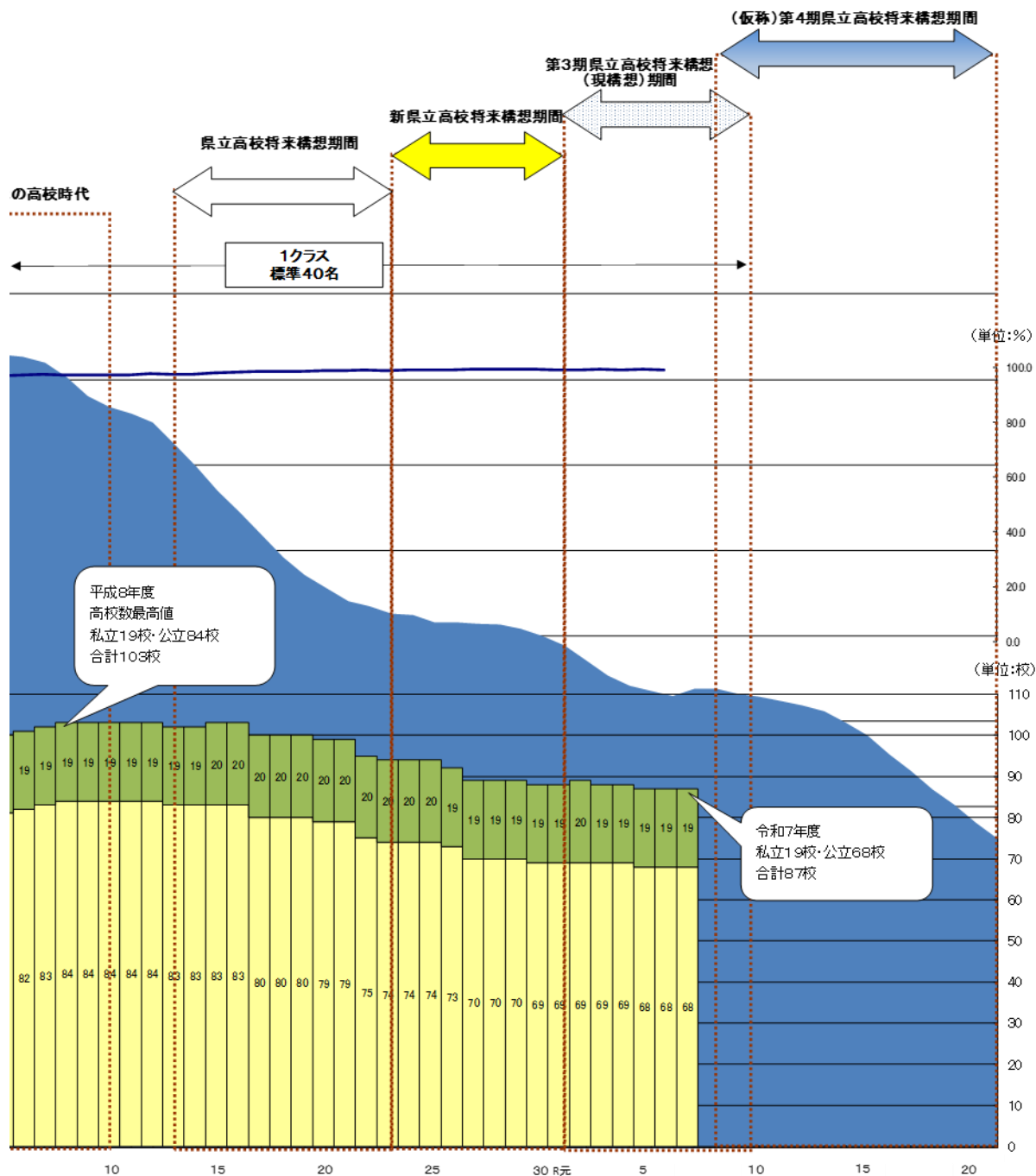
- 本構想は、14年後の本県の県立高校の姿をビジョンとして示すものであり、学校配置の在り方や再編に向けたプロセス、目指す姿の実現に向けた具体的な取組等については、本構想を踏まえて、別に実施計画を策定します。
- 本構想は、文部科学省が示す「教育振興基本計画」（令和5年6月16日閣議決定）、「学習指導要領」（平成30年告示）や、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月26日）等との整合性を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、探究的な学びの深化、普通科の改革、さらには地域との連携・協働の推進といった観点を踏まえつつ、本県の実情に応じた高校教育の方向性を示すものです。
- また、「第2期宮城県教育振興基本計画（改訂版）（平成29年度～令和10年度）」（令和6年3月）の目指す姿の実現に向け、高校教育における、豊かな人間性と社会性の育成や、確かな学力の育成、多様な進路希望の実現に対応する支援体制の充実など、その方向性を示すものです。
- さらに、宮城県産業教育審議会の「『今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方』について」（令和7年3月）において、急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方として、魅力ある新たな学びの方策や、専門高校と地域・産業界等の連携・協働の取組強化等について提言されていることから、その内容を踏まえながら、産業人材の育成等に向けた高校教育の在り方も示すものです。

- 加えて、「第2期宮城県特別支援教育将来構想（令和7年度～令和16年度）」（令和7年2月）で掲げる目標である、誰一人取り残さない学校づくりの中の「高等学校等における特別な配慮や支援を必要とする生徒の学びの充実」の実現に資する、県立高校におけるインクルーシブ教育の推進を図ることにより、様々な個性や能力、背景を持つ生徒一人一人が尊重され、全ての生徒が共に学び、共に成長できる教育環境の実現を目指しています。
- 本構想は、宮城県の総合計画である「新・宮城の将来ビジョン（令和3年度～令和12年度）」（令和2年12月）に掲げられている「活力に満ち、安心して暮らせる宮城の創造」の実現に向けて、高校教育の方向性を示すものです。

3 構想の期間

- 本構想は、社会経済環境の変化や生徒・地域の多様なニーズに的確に対応するため、構想策定時点で最大限推計できる中学校卒業者を元に14年先まで見通しが立つことから、令和8年度から令和21年度までの14年間を対象期間として設定するものです。
- 学校配置の在り方や再編に向けたプロセス、目指す姿の実現に向けた具体的な取組等については、本構想を踏まえて、別に実施計画を策定します。
- また、実施計画については具体的な取組を段階的かつ着実に進めるため、次の3つの期間に区分します。
 - 第1次実施計画 令和9年度から令和13年度まで
 - 第2次実施計画 令和14年度から令和17年度まで
 - 第3次実施計画 令和18年度から令和21年度まで





※○は開校(分校からの独立含む)、●は統合・廃校等による減少を示す。
※データ出典: 学校基本調査
※R7以降の生徒数については、推計値。

第2章 高校教育を取り巻く現状と課題

1 第3期県立高校将来構想に基づく取組の実施状況

- 第3期県立高校将来構想では、東日本大震災からの復旧・復興の進展、少子高齢化や人口減少とそれに伴う社会環境の変化などに対応し、「未来を担う高い志を持つ人づくり」と「未来を拓く魅力ある学校づくり」の2つの観点から本県高校教育の目指す方向性を示し、高校教育改革を進めてきました。

(1) 人づくりに向けた取組

- より良い学びの提供に向けて、地域進学重点校における生徒の学力と進路実績の向上を図るため、探究活動の推進のためのコーディネーターや、地域の将来を支えるものづくり人材の育成と確保等の促進を目指すための地学地就コーディネーターの配置などを通じて、生徒が自らの将来に向け行動できるよう、将来を担う人材育成に向けた取組を実施しました。
- また、国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、仙台二華高等学校での国際バカロレア・ディプロマプログラムの導入や、ICTを活用した海外在住外国人講師とのオンライン英会話、海外の高校生との対面・オンライン交流などの英語力エンパワーメントプログラムの実施などを通じて、国際社会に貢献する志を持つ人材育成に取り組みました。
- さらに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、生徒1人1台端末環境下におけるICTを活用した探究的な授業づくり等を進めるために、指導法に係る実践研究に取り組み、教員のICT活用指導力の向上及びカリキュラム・マネジメントに係る資質・能力の育成等を図りました。

(2) 学校づくりに向けた取組

- 高校再編については、適正規模を1学年当たり4～8学級と定め、適正規模に満たない学校については、基準を設け適切に再編を実施してきました。
- 柴田農林高等学校、大河原商業高等学校を再編し、南部地区職業教育拠点校「大河原産業高等学校」を設置するとともに、6次産業化を軸とした新しい学科である企画デザイン科の新設に向けた取組を実施しました。
- 大崎地区においても松山高等学校、鹿島台商業高等学校、南郷高等学校を再編し、令和9年度の開校を予定している大崎地区職業教育拠点校の設置に向けて取り組んできました。
- また、様々な背景を持つ生徒や、多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる新たなタイプの学校「i d e a l（アイデアル）スクール」では、単位制やチューター制により、生徒自らが高校生活をデザインし、夢や希望を実現することができる学校を目指して、令和9年度開校に向けた準備を進めています。

2 高校教育を取り巻く現状と課題

(1) 社会経済環境の変化

ア 急速な少子化の進展

- 本県の中学校卒業生数は急速に減少しており、令和7年度の19,265人から令和21年度には12,240人まで減少する見込みです。特に令和14年度以降は、これまでの年間100人から500人規模の減少を大きく上回り、毎年600人から1,000人規模にまで減少ペースが速まり、令和21年度以降も、減少局面は継続することが見込まれます。

イ デジタル化の進展

- 生成AIなどに代表されるデジタル技術の進展により、情報を適切に活用し、新たな価値を創造する力など、デジタル社会に対応した資質・能力が求められています。

ウ グローバル化の進展

- 価値観や文化などのグローバル化が進む中、国際的な視野を持ち、多様性を尊重しながら協働できる力がこれまで以上に重要になっています。

エ 成年年齢の引き下げ

- 平成28年6月には選挙権年齢が18歳に引き下げられ、令和4年4月から成年年齢が18歳に引き下げられたことにより、投票や契約などの社会的責任を伴う行為が可能となったことから、社会的自立に向けた教育の重要性もこれまで以上に増しています。

オ 価値観・ライフスタイルの変化

- 加えて、家庭や地域社会における価値観やライフスタイルの変化などの社会的・文化的背景も大きく変化しており、生徒が置かれる環境は更に多様で複雑なものとなっています。

(2) 県立高校の現状と課題

- 次に掲げる課題に対応しながら、全ての生徒が将来に希望を持ち、自らの可能性を最大限に発揮できる教育環境の実現が求められています。

ア 学習ニーズの多様化

- 生徒一人一人の興味・関心や進路希望、ライフスタイル等に応じた学びの多様化が進む中で、高校教育に求められる役割は、一層複雑化・高度化しており、こうした状況に対応した教育課程の編成や体制の整備が求められています。

- 本県における学校に登校していない生徒数は増加傾向にあり、在籍者比率（出現率）は全国と比べ高い状況が続いています。また、中途退学率についても全国と比べ高い状況にあり、その背景には学校生活や進路等に関する多様な要因があることから、早期の対応と継続的な支援が求められています。

- 学校に登校していない生徒や中途退学のリスクを抱える生徒への支援においては、予兆の

対応を含めた初期段階からの組織的・計画的な支援とともに、民間施設等と連携し、学校内外で多様な教育機会を確保していくことが必要です。全ての生徒にとって魅力ある学校を目指し、学校行事を含む特別活動の充実と学校教育の中核となる授業の工夫改善を進めるなどの学校づくりを進める必要があります。

○ 個に応じた教育ニーズの高まりや、特別支援教育についての理解が進み、特別支援学校への入学を希望する生徒が増加しています。また、多様化する教育的ニーズへの対応のため、学びの場の整備やＩＣＴ活用等の教育環境の整備とともに、卒業後の心豊かな生活の実現に向け、地域における支援体制の整備が求められています。

○ さらに、広域通信制高校への入学者数が増加する傾向が見られることから、県立高校における更なる対応が求められています。

イ 地域と連携した学びの推進

○ 地域産業を支える人材や地域課題の解決に主体的に関わる人材の育成など、これまで以上に実社会に通じる学びの提供が求められています。

ウ グローバル化への対応

○ グローバル化に伴い、自国の文化への理解を深めることをベースとして、異なる価値観や文化を理解しながら、国際社会で活躍できる資質・能力を育成することも重要な課題となっています。

第3章 高校教育の創造的再構築に向けた考え方

1 基本理念

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。

(1) 高校教育の創造的再構築

- 急速な少子化を踏まえ、各圏域に必要な学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。
- 高校教育を取り巻く社会経済環境の変化を的確に踏まえながら、従来の生徒数の減少に合わせた学級減や再編等ではなく、教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた抜本的な見直しを行います。
- その際には、デジタル技術やオンラインの効果的な活用により教育空間を拡張[※]し、物理的な制約を越え、宮城県全体を一つの「学校」ととらえる学びの環境を整えます。

(2) 生徒を主語にした高校教育の実現

- 「学ぶ主体」である生徒の視点から、教育課程や授業の在り方、学校運営等についてとらえ直し、生徒が学びたいと思える授業や教育活動を推進していきます。
- その実現に向け、教育を学校の中だけの閉ざされた空間でとらえるのではなく、デジタル技術等を有効に活用し、学校、学科の枠を越えた連携や、地域、市町村、研究機関、海外の学校などの外部機関など、多様な外部資源と連携した教育環境が重要です。
- 生徒が画一的な教育課程や教育環境に合わせるのではなく、一人一人が、自分自身のライフスタイルや興味・関心、将来の目標や進路希望に基づき、自らの学びを主体的に選択し、設計できる教育環境を整備します。
- これにより、生徒が学びに対してより高い意欲を持ち、将来の社会で自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現します。

(3) 質の高い高校教育の実現

- 全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。

※教育空間の拡張…教育空間の拡張とは、学校という物理的な教室や校舎の枠を越えて、学びの場や機会を広げることとを指します。具体的には、オンデマンド型や同時双方向型のオンライン授業の活用、複数校をつなぐ合同授業、地域の公共施設や企業・大学などを活用した学習活動などを通じて、生徒が場所や時間にとらわれず、多様な学びにアクセスできる環境を整える取組を意味します。

- 全ての生徒が自らの興味・関心や能力に応じて学びを深めることができるよう、学びの内容や方法を柔軟に選択できる個別最適な学びを推進するとともに、多様な背景や考え方を持つ他者と互いに学び合い、課題解決に取り組む協働的な学びの充実を図ります。
- 個別最適な学びと協働的な学びを相互に関連付け、一体的に展開することで、生徒一人一人の資質・能力を最大限に伸ばし、将来の社会で主体的に活躍できる力を育成します。

2 基本方針

- (1) 県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。
 - オンライン教育の活用や学校間・地域との連携などにより、生徒の可能性を広げ、県内全ての地域において、希望進路の実現を可能とする教育機会を確保します。
- (2) スクール・ミッション※の再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。
 - 各校が担う役割や目指すべき学校像を明確にし、社会的ニーズや地域の特性などを踏まえた学びを提供することにより、育成を目指す資質・能力の明確化を図り、生徒一人一人が自らの興味・関心や進路希望に応じた学びを深められる環境を整えます。
- (3) 少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整えます。
 - オンラインの効果的な活用をはじめとしたデジタル技術の活用と学校間連携の推進など、学校の枠組みを越えた学びの環境を整えることで、生徒が物理的に離れた多様な他者と交流し、互いに学び合い、刺激し合い、自らの可能性を引き出す学習環境を実現します。
- (4) デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。
 - オンライン教育などによる場所等にとらわれない柔軟な学びと、対面による直接的なコミュニケーションや実体験を通じた学びを組み合わせることで、教育内容の充実と学習内容の確実な定着を図るとともに、国内外の多様な価値観や文化に触れる機会などを通じて、より生徒の主体性が発揮される学習環境を充実させます。
 - これにより、異なる価値観や文化を尊重できるコミュニケーション能力を育みながら、情報を適切に収集・分析・活用する力や、課題を発見し、解決策を導くことによる新たな価値を創造する資質・能力を育成します。
- (5) 地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。
 - 地域の企業や関係団体、大学、市町村等と連携しながら、外部人材や施設・設備を活用したフ

※スクール・ミッション…教育委員会等が定める各高等学校に期待される社会的役割等のこと。具体的には、各学校の存在意義、役割、目指すべき学校像を指す。

ィールドワークや地域課題をテーマにした探究学習など、地域に根ざした特色ある資源や産業、文化などを教育活動に取り入れることで、専門性や応用力を高める実践的な教育環境を整え、知識の習得にとどまらない、実社会と結び付いた学習機会を創出します。

(6) 多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進めます。

- 生徒一人一人の状況や特性に応じた学びを保障するため、履修方法や教育課程の工夫、オンライン教育などのデジタル技術の活用などにより、個に応じた多様な学びと学習者を中心とした生徒の主体的な学びを実現するとともに、特別な配慮や支援を必要とする生徒を積極的に支援するなど、全ての生徒が安心して学校生活を送れる体制を整えます。

3 学校配置の考え方

(1) 圏域の考え方

- 第3期までの構想では、県内を7つの地区に区分していましたが、急速な少子化に伴い中学校卒業生数が大きく減少することから圏域を広くとらえ、各教育事務所の所管区域に基づき、南部、中部、北部、東部、気仙沼の5つの圏域へと再編します。なお、この圏域の再編の考え方においては、仙台市内にある県立高校は、中部地区に含まれます。
- また、学校間連携やオンラインの効果的な活用により、教育空間を拡張し、学校という物理的な教室や校舎の枠を越えた学びを実現し、宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整えていきます。
- さらに、生徒の多様な進路希望や学びのニーズに対応しつつ、市立高校や私立高校と協調しながら、県立高校としての果たすべき役割を整理し、地域全体で効率的かつ質の高い教育機会を提供できる体制を構築します。
- こうしたことから、以下の考え方にに基づき学校を配置します。

(2) 普通科の特色強化と進学支援の充実

- 普通科については、スクール・ミッションをこれまで以上に明確化していくとともに、普通科の改革の推進や、中部地区以外の圏域に設置する学力と探究を極める拠点校（以下「拠点校」という。）と中部地区の大学進学を重視する生徒が多い学校（以下「進学系高校」という。）間における国内外の難関大学等への進学に対応した教育支援の充実など、一層の魅力化を推進します。

(3) 専門学科における学科横断的な学びの推進

- 専門学科については、複数学科を統合した学びだけでなく、学科間の知識や技術を横断的に学べる学習機会を設けることで、生徒数の減少が続く中でも、生徒の興味・関心や進路に応じた柔軟な学びを保障します。
- また、本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる基幹校においては、他の高校や他の

学科、企業、大学との連携やオンラインの効果的な活用などにより、先端技術を含むこれからの専門学科に必要な教育を提供します。

(4) 多様な学びに対応した高校配置

- 地域バランスを考慮し、生徒一人一人の学習を支援できるよう柔軟な学習時間やカリキュラム設定など、生徒の多様な生活・学習スタイルに対応した i d e a l スクールや、多部制定時制高校、通信制高校を配置します。

(5) 地理的条件等に応じた教育環境の整備

- 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等（以下「通学困難地域」という。）では、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。
- なお、通学困難地域校については、入学者数が2年連続して募集定員の1／2以下となった場合には、翌年度からの募集停止を検討します。ただし、次の条件のいずれかに当てはまる場合、存続について検討します。検討に当たっては、所在市町村からの支援を含めた地域との協働が可能であるか等、所在市町村の主体的な関わり方を考慮します。
 - ① 通学困難地域校について、同一市町村内に当該校以外の学校がない場合に限り、所在市町村の主体的な関わり方（所在市町村からの支援を含めた地域との協働が可能であるか等）を考慮し、募集停止について検討します。
 - ② ①により存続となった場合にも入学者数の増加が見込まれない場合には改めて募集停止を検討します。

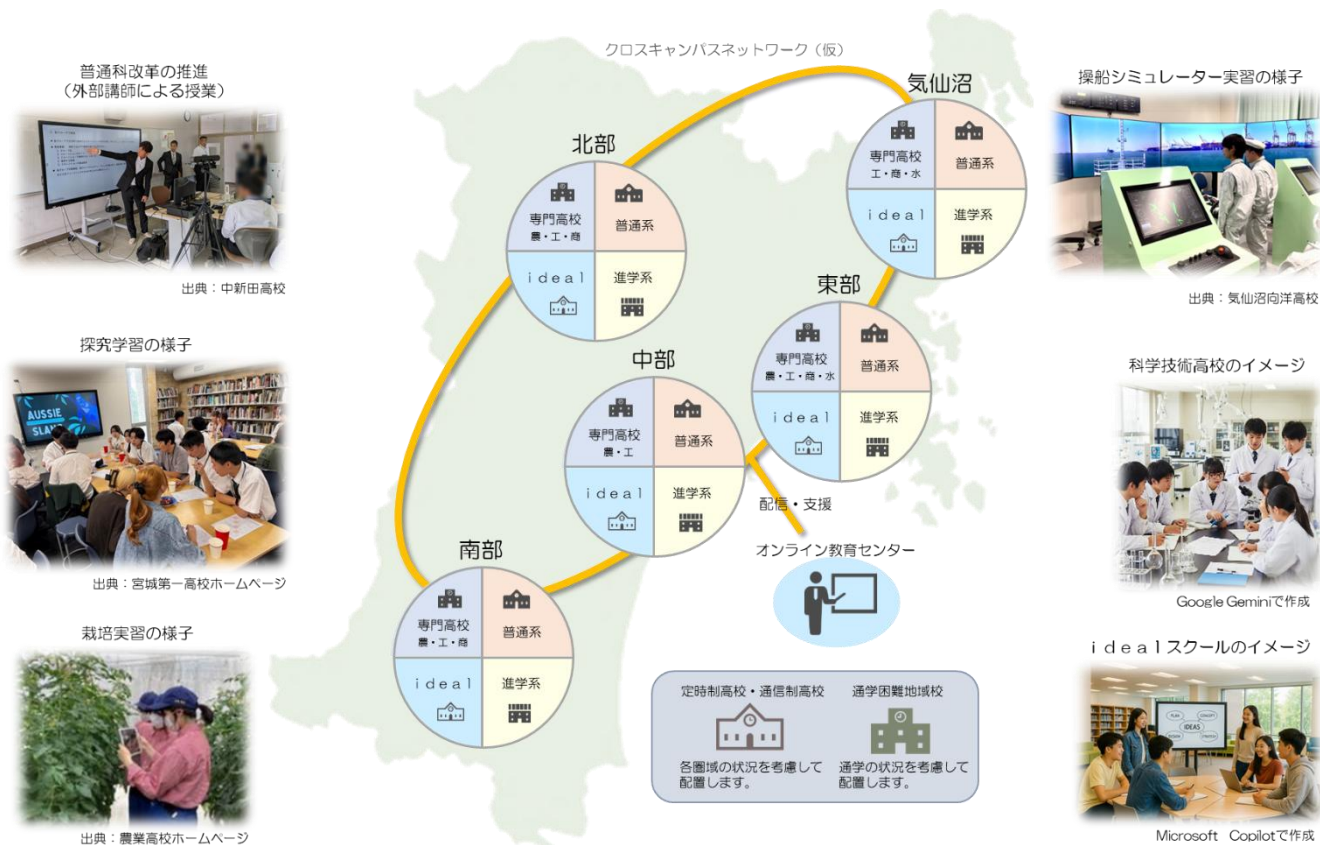
4 学校規模の考え方

- 第3期県立高校将来構想では、学習活動や学校行事の充実など、活力ある教育環境を確保するため、適正な学校規模として1学年4～8学級を目安とし、これを満たさない学校については、地域における高校の在り方を検討した上で、学習環境や課外活動の充実を図ることを目的として再編を検討することとしていました。
- しかしながら、これまでの県立高校の学級減や学科改編、再編のペースを上回るスピードで少子化が進行しているのが現状です。
- 本構想においては、1学年当たりの規模の目安は定めないものの、今後一層進む人口減少を見据えながら、圏域ごとに必要な学級数を設定し、学びの質の確保の観点から一定の学校規模を確保するものとします。
- 必要学級数の設定に当たっては、公立高校の役割を踏まえ、公私立における経済的負担の状況変化や各校の特色を踏まえた生徒の志望動向を考慮しながら検討を行います。

5 各圏域における再構築後の姿

- 「3 学校配置の考え方」及び「4 学校規模の考え方」を踏まえ、少子化のスピードを考慮し、各圏域における再構築後の姿は下記のイメージのとおりとなります。

<創造的再構築後のイメージ>



第4章 高校教育の創造的再構築に向けた取組

1 県立高校教育の質の向上の方向性

(1) 志教育の一層の推進

- 本県では、小・中・高等学校等の全時期を通じて、人や社会と関わる中で、社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていくことを理念として、志教育を推進してきました。
- これまで、各学校においては、小・中・高等学校との異校種間交流や、インターンシップ等の体験的な学習を通して社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成するとともに、他者と協働しながら、より良い社会づくりに参画するために必要な資質・能力等を育成するシチズンシップ教育などに取り組んできました。
- 成年年齢の引き下げにより、高校での学びが社会と直接的に結び付く可能性が高まっていることから、地域や市町村等と連携し、地域課題の解決に向けた探究的な学びを推進するなど、学校で学ぶ知識・技能と実社会や職業との関連を意識させ、生徒の主体的に学ぶ意欲や将来の生き方を考える態度の育成に向け、高校段階での志教育を一層進めます。

(2) 確かな学力の育成

- 生徒一人一人が自らの可能性を最大限伸ばせるよう、教科ごとの基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のほか、思考力・判断力・表現力等の多面的な学力の育成を図ります。また、生徒の学力や学習進度に応じた学習環境を整えることで、生徒一人一人の学びをきめ細かに支援します。
- 急速に進展するデジタル社会や高度化する産業ニーズに対応できる科学技術分野の人材や地域の産業の担い手の育成を目指した、これからの時代にふさわしい学びを教育課程に取り入れていきます。また、高度な技術や実践的な知識・技能の学びの機会として企業や大学等と連携した学びの環境を整えます。
- S T E A M教育※や教科等横断的な学習を通じて、特定の教科の枠にとらわれず、複数の教科の知識や技能を関連付け統合する力や、様々な情報を収集・分析・活用する力を育て、より深く、多角的に物事を理解し、実社会の課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成します。
- グローバル化の進展により、経済や情報、文化の面で世界との関りが密接になる中、県内にも多数の外国人労働者が在住し、他国の文化的背景を持つ人材と協働していくことが求められています。自国の文化への理解を深めながら、国際交流を通じて多様な価値観や文化的背景を理解し、外国人との協働に必要な知識や技能を有した、国際社会で活躍する人材を育成します。

※S T E A M教育…科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広義 (Art)、数学 (Mathematics) の諸領域・各教科等を横断しながら、実社会で課題発見・解決に必要な本質を見抜き考える力や新たな価値を生み出す創造力等を育む教育のこと。

- デジタル技術の一層の進展やオンライン教育の導入など、新たな取組が導入される学習環境においても、安心して学習が行える体制を整えるとともに、災害や感染症などのリスクにも対応し、変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、教育環境の充実を図ります。

（３）多様なニーズに対応した教育の推進

- 生徒一人一人の学習状況や興味・関心、進路希望などの教育的ニーズを的確に把握し、それに応じた最適な学習環境を整備するため、個々の能力や特性に対応した教育課程を編成します。これにより、実社会で必要な知識や技能の習得を図り、将来の社会的自立に必要な判断力・表現力・協働能力などの資質・能力を育みます。
- 生徒が持つ個性や能力などの様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供など、互いを尊重し協働できる環境を整備し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進します。

（４）教育ＤＸの推進

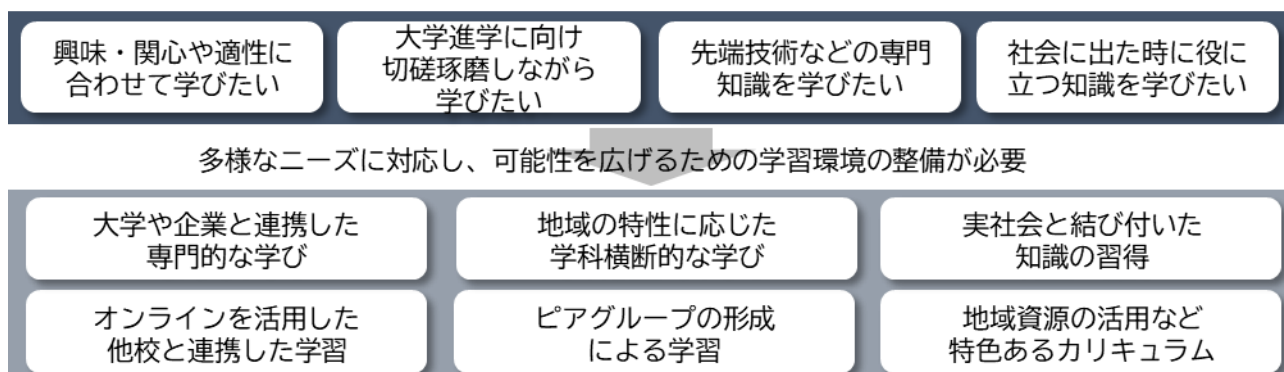
- 生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ＩＣＴやＡＩ等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルな学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。
- 人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を越えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。
- 学校に行きづらさを感じている生徒や、病気等により長期療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室と教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受けることや、オンデマンド配信を活用して学習を進めることなど、デジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組みます。

（５）地域と学校の連携・協働体制の推進

- 全国募集や特色ある教育プログラムの実施など、市町村や地域の関係団体と連携することで、地域の特性となる地域資源を活用した多様な学習環境や学習機会を設け、魅力ある学校づくりを推進し、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びを提供します。

2 時代のニーズに対応した高校の魅力化

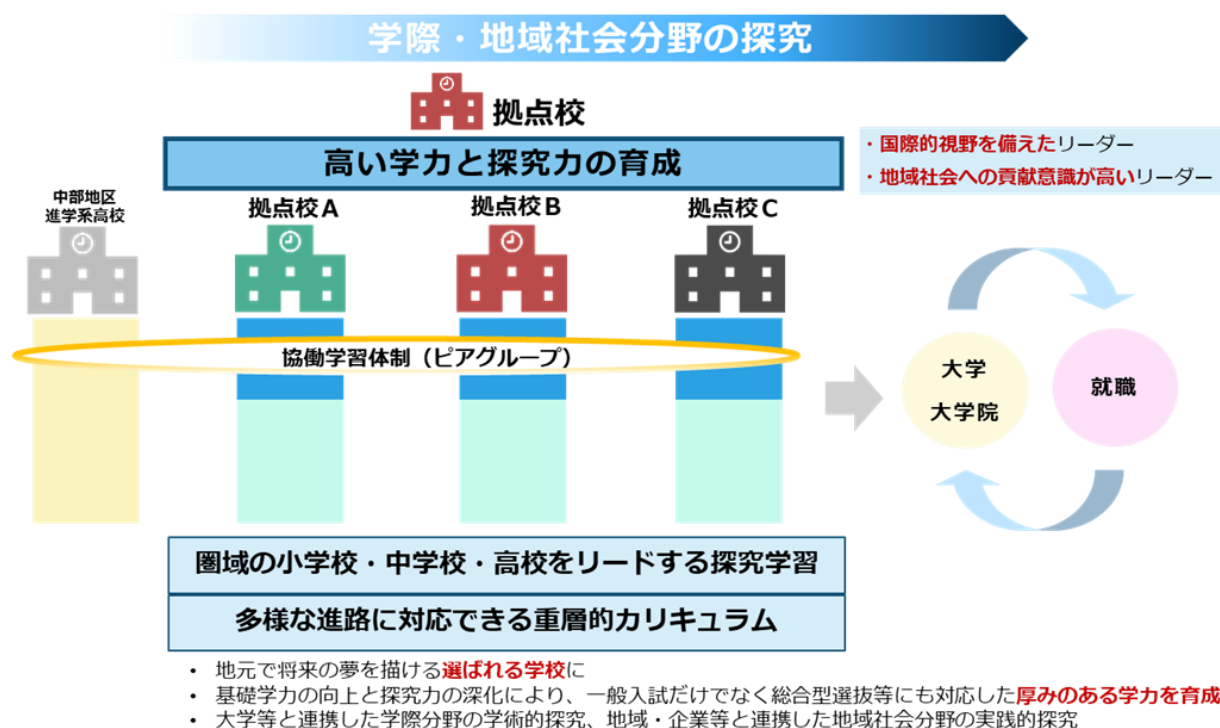
- 本県の高校教育においては、第2章で確認したような現状と課題があることを踏まえ、オンライン教育の活用や協働学習体制（ピアグループ）の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境や、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要があります。



（１）普通科系の学び

- ① 圏域ごとに高い学力と探究力を身に付けることを目指す拠点校等を配置し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備します。
- オンラインの効果的な活用により、希望する進路が同じ生徒同士が学校の枠を越えて切磋琢磨しながら学び合う体制（以下「ピアグループ」という。）を形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して相互に配信する授業や課外講習等を、ピアグループの生徒が受講することや、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むことなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。
- また、ピアグループの生徒同士が一堂に集まる合同での学習会や進路の実現に向けた相談の場を設定するなど、進路意欲の高い生徒や特定分野への進学を希望する生徒を対象とした指導の充実を図ります。
- これにより、進学意欲の高い生徒や特定分野に関心を持つ生徒が、切磋琢磨しながら主体的に学び、進路実現に向けた力を育むことができます。

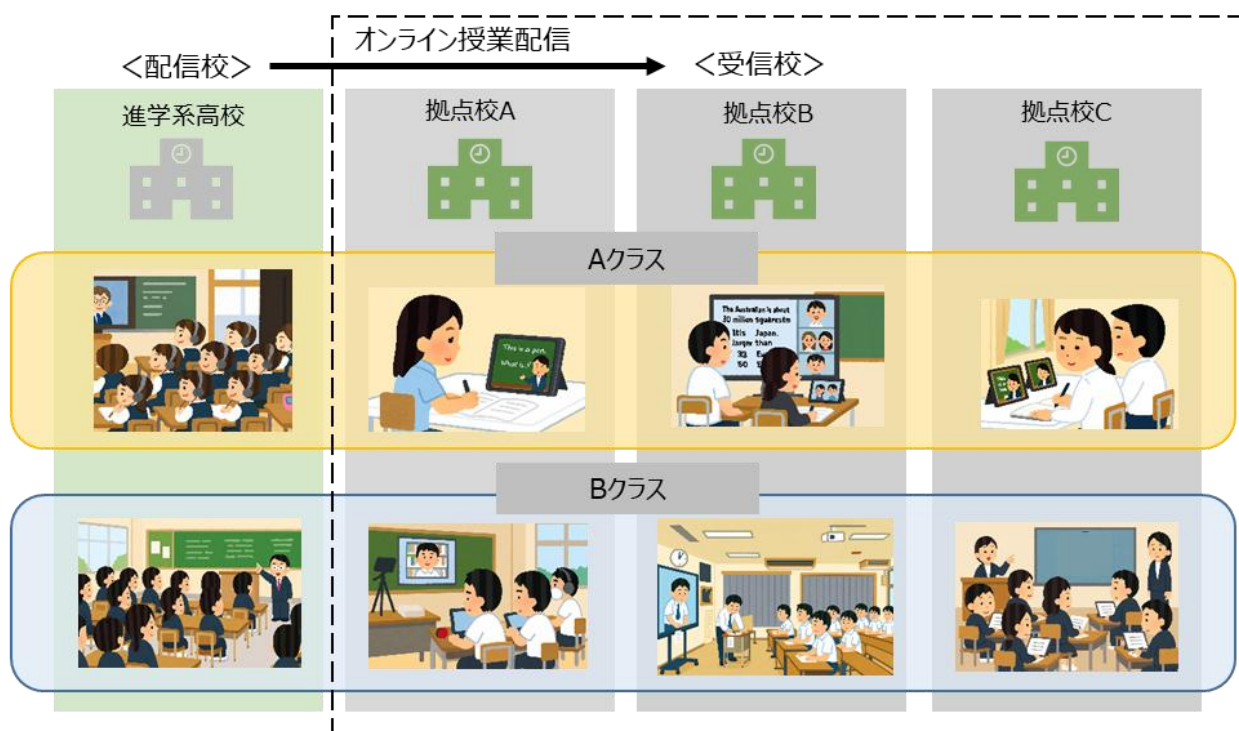
＜拠点校のイメージ＞



＜協働学習体制（ピアグループ）のイメージ＞

○希望する進路や学習状況に応じてグループを形成し、オンライン授業の活用により、学校の枠を越えた学習環境を整備する。

協働学習体制（ピアグループ）の形成の例



② 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。

○ 地域や社会のニーズを的確にとらえ、特色ある分野をはじめ、企業や商工会、大学等と連携した学びを展開します。また、デジタル技術や英語等の語学力などの社会的ニーズにも対応したカリキュラムの導入などによる、実社会で生きる知識・技能を身に付ける実践的な学びの充実を図ります。

○ 大学との連携を一層強化し、大学での特別講義の受講や大学生との合同探究活動などを通じて、高度な知識や最先端の研究に触れることのできる機会を設定し、学問への関心や探究心を高めます。

○ 小規模校をはじめとする高校間でのオンラインを活用した授業や地域との連携・交流により、協働的な学びの機会を創出し、社会と結び付いた実践的な学びの充実を図ります。

③ 中高一貫校については、6年間を通じた学習の効果を最大限生かすことができるよう、中等教育学校や併設型中高一貫校、連携型中高一貫校等の設置形態の転換も含めて、最適な在り方を検討します。

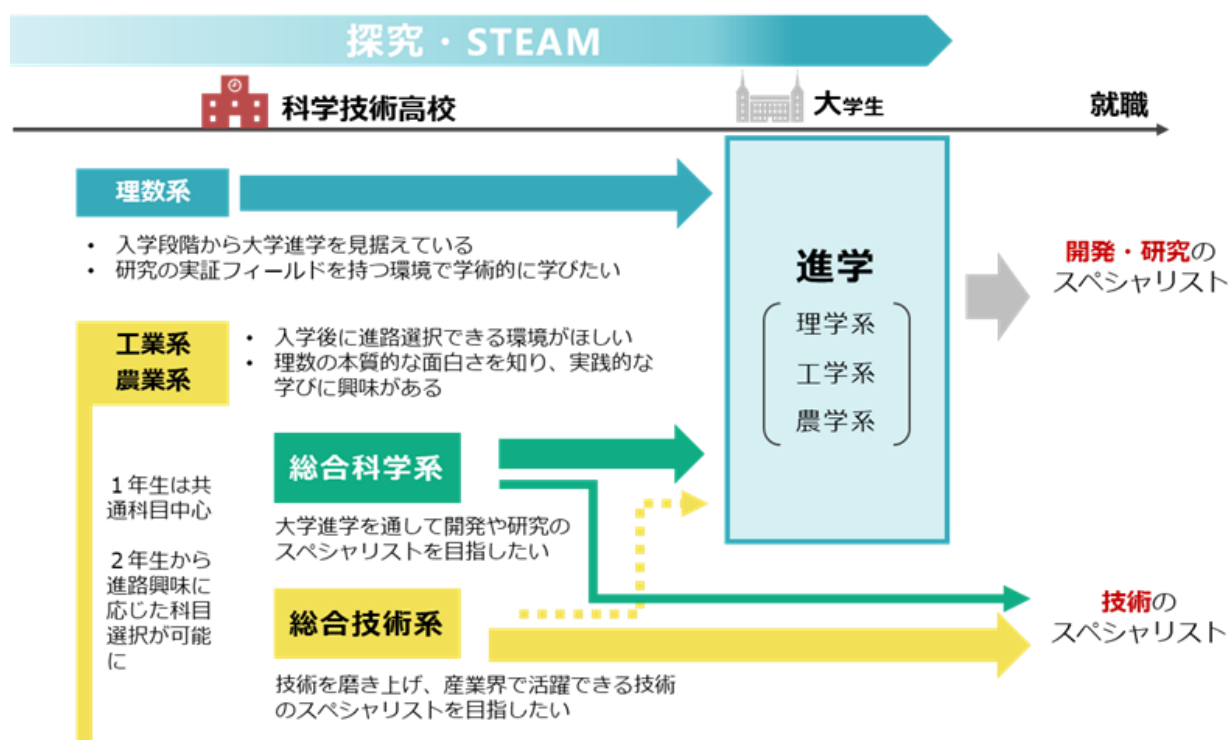
(2) 専門学科系の学び

① 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。

○ 開発・研究を志す生徒には学術的な学び、技術の磨き上げを目指す生徒には実践的で専門的な学びを提供することで、生徒の多様な進路希望に応じた知識・技能を総合的に育成し、生徒が自らの可能性を最大限に発揮して新たな領域を切り拓くことができる環境を整えます。

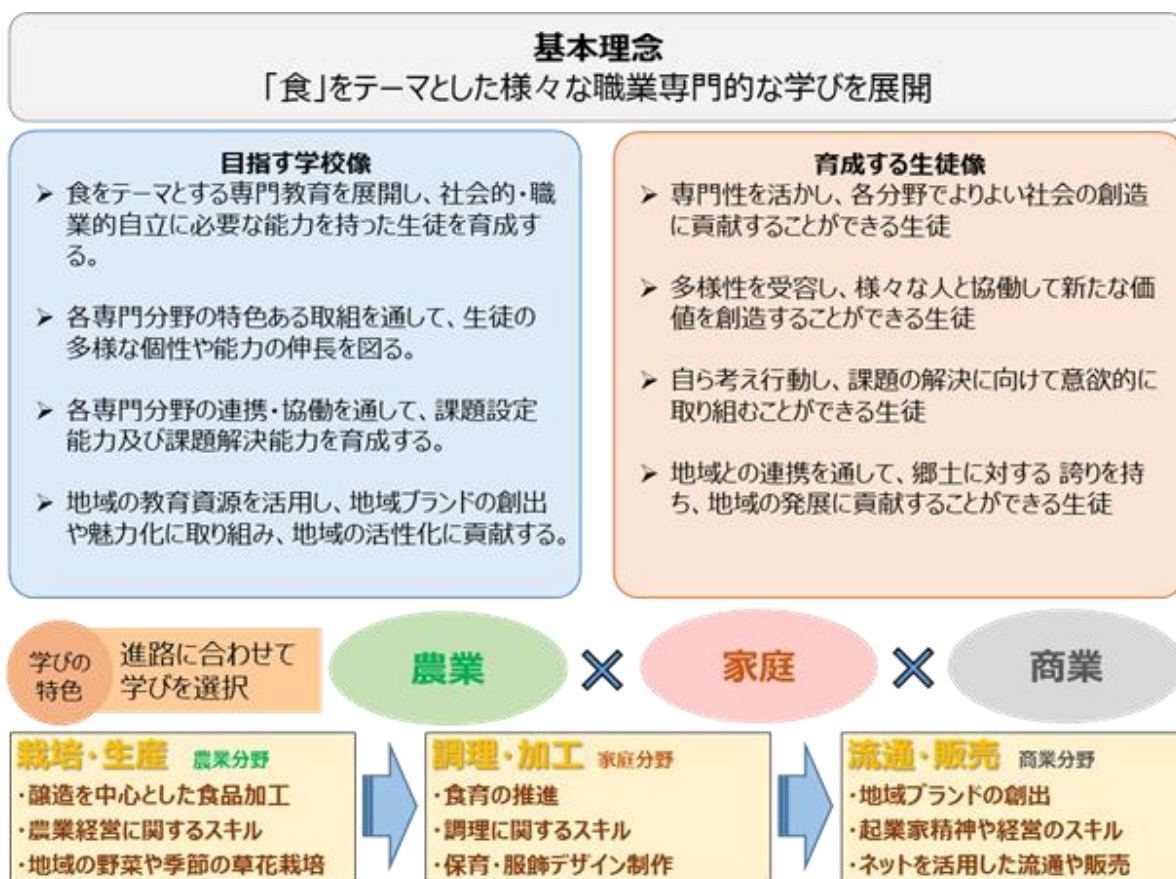
○ 工業系及び農業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的に行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討します。

＜科学技術高校のイメージ＞



- ② 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。
- 農業、工業、商業などの専門分野ごとの特色や地域資源を最大限に活かし、学校と企業の連携を強化しながら、地域の産業や課題解決に直結する学びの機会を創出するとともに、地域や学びの特性に応じた魅力ある教育環境を整備します。
- 実践的な学びの場として、キャンパス制による農場などの施設の活用などを通じて、分野横断的な学びや実践的な学びの機会を創出し、専門教育の充実を図ります。

<（仮称）大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校のイメージ>



<各専門分野の学び>

ア 農業系の学び

- AIやIoT、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れることで、実践的かつ高度な知識・技術を習得できる学びを充実させます。
- また、地域の産業・自然・文化などの特色を反映した教育課程を設定することで、生徒が地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組み、実社会で活かせる力を育成できる複合学科を設置します。

イ 工業系の学び

- 生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定します。
- また、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、AIやIoTなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備します。

ウ 商業系の学び

- 地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、農業や水産など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置します。

エ 水産系の学び

- 水産に関する基礎的な知識・技術に加え、AIやIoTなどを学びに取り入れるほか、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められる能力を身に付けるため、商業など他学科と連携し、水産資源の6次産業化を含む生産から製造・販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置します。
- また、地域産業や社会との結び付きを意識した実践的な学習として、海洋資源を活用した探究やフィールドワークなど、地域の特色を活かした学びの機会を提供します。

<水産系の学びの例>

食品加工実習



出典：水産高校ホームページ

操船シミュレーター実習



出典：気仙沼向洋高校

宮城丸 長期航海



出典：水産高校ホームページ

オ 家庭・看護・福祉系の学び

- 家庭や看護に関する学びは、地域の福祉や医療を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図ります。
- 福祉に関する学びは、介護福祉士としての実務者の育成だけでなく、介護ロボットやＩＣＴの利活用、介護食の開発など、福祉に関連する多角的な視野を身に付けることを目的とし、幅広く学べる学科を設置します。

カ 体育系の学び

- 実技によるスポーツの実践だけでなく、スポーツ栄養やトレーニング、健康増進など、幅広い分野の知識・技能を総合的に身に付け、社会の多様な場面で専門性を発揮できる人材育成を目指します。

キ 様々な専門分野の学び

- 美術や観光、災害等に関する学びについても、生徒の学習ニーズや希望する進路に応じた適切な選択科目や学校設定科目のより一層の充実を図り、時代の変化に応じた魅力ある学びを提供します。

③ 総合学科での学び

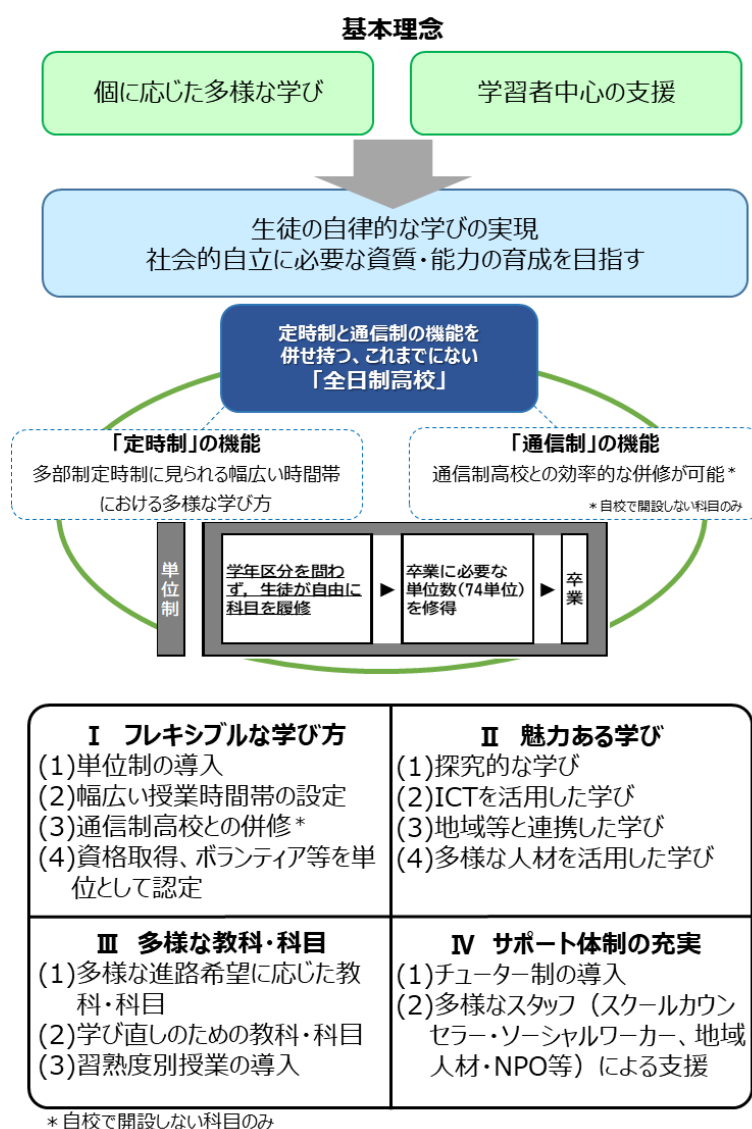
- 普通教育と専門教育を総合的に学習できる学科として、多様な系列や選択科目を設定できる柔軟性を活かし、生徒の多様な進路希望に対応していきます。また、地域の実情に応じた総合学科の配置についても検討していきます。

3 多様な学びの在り方

(1) i d e a l スクール

- 生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の i d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。
- i d e a l スクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。

< i d e a l スクールのイメージ >



(2) 定時制・通信制の在り方

- 定時制高校の現状を踏まえながら、i d e a l スクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況に対応できる教育の在り方を検討します。
- 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備します。

(3) 特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

- 障がいの有無にかかわらず、互いを尊重し協働できる環境の整備として、高校と特別支援学校の併置や連携等による、高校と特別支援学校の生徒の交流及び共同学習を通じて、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の推進を図ります。
- 通級による指導のほか、別室支援等による多様な支援体制を充実させ、生徒一人一人の学習や学校生活への適応をきめ細かく支援します。

4 小規模校の学びの在り方

- 小規模校については、生徒の人間関係の固定化により多様な価値観に触れる機会が少ないことや、教職員が少人数となることなど教育資源に限りがあるため、学校単独では個別最適な学びと協働的な学びの確保が困難な状況にあることから、オンラインや地域連携などを活用し、教育環境を整えることが必要です。

(1) オンラインの効果的な活用推進

- 小規模校においても、教科・科目の選択肢の幅を広げられるよう、オンライン授業などを効果的に活用することで、学びの質と学習機会を確保します。

(2) 地域連携や学校間連携の取組

- 小規模校単独では実施が難しい教育活動の機会の確保として、地域資源や地域課題に着目した、地域と密接に関わる探究的な学習機会の創出を通して小規模校ならではの学校の特色化や魅力化を図り、市町村や地域の関係団体等と連携・協働した学校づくりを推進します。
- 学校間の連携による学習機会を提供することなどを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会を充実させ、コミュニケーション能力や社会性を育む教育活動の機会を確保します。

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

(1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等

- オンラインの効果的な活用により、希望する進路等が同じ生徒同士で構成される協働学習体制（ピアグループ）を形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校や海外の高校と連携した授業や課外講習の相互配信を実現することで、自校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲 「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」）

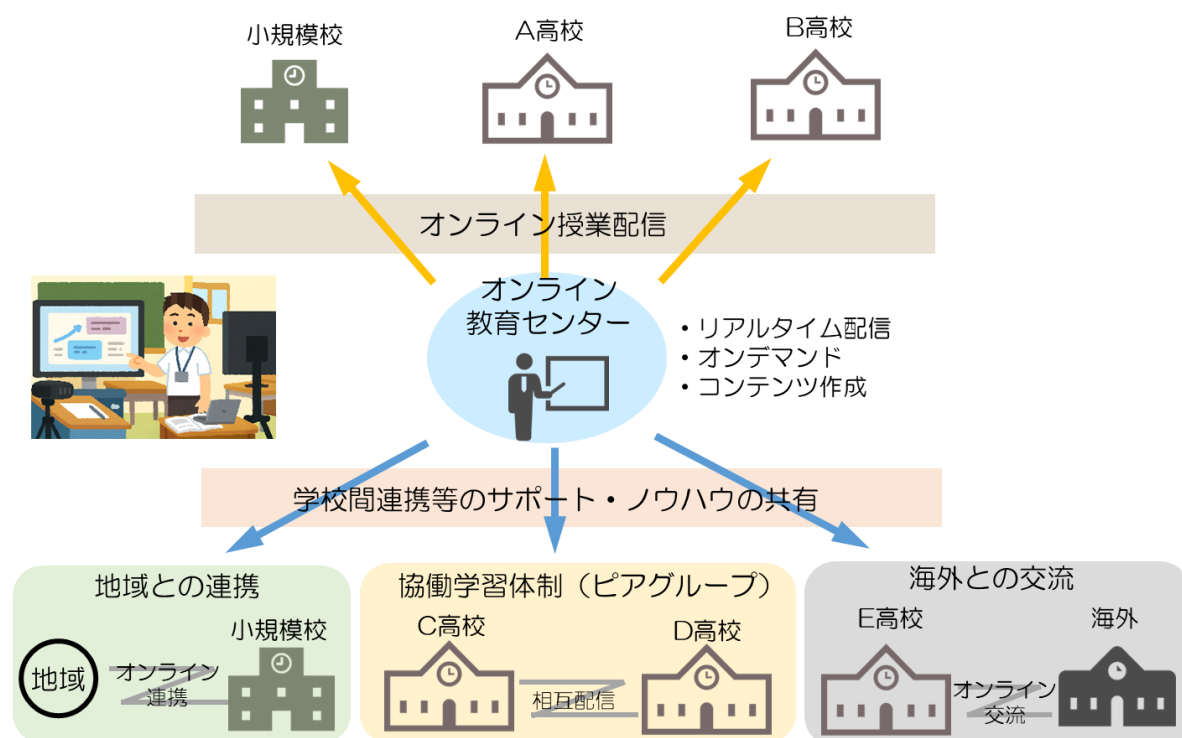
- オンラインを活用した学校間の連携により、探究学習や専門高校における学びの成果の共有を図るなどの学習機会を提供することや、海外の高校生等との交流などを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会の充実を図ります。

(2) オンライン教育センター（仮）の設置

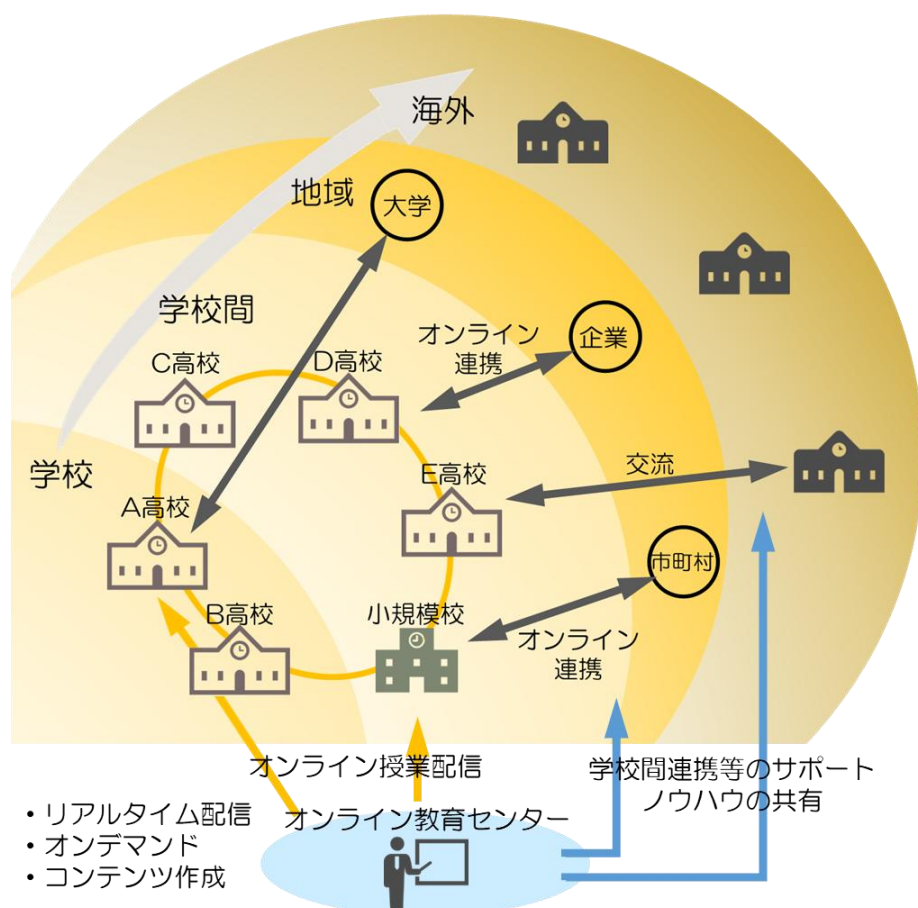
- オンライン教育センター※（仮）の設置により、学びの質を確保するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備します。
- オンライン教育センター（仮）を拠点として、県内の学校同士や地域等との連携、海外との交流などについて支援し、学びの機会の一層の充実を図ります。
- 従来の遠隔授業の実施を通じて得られた成果や課題を整理・分析し、その知見をもとに、教材の整備、教員間の指導ノウハウの共有、オンラインシステムの安定運用体制の構築などを行い、オンライン教育センター（仮）の効果的な運用を図ります。

※オンライン教育センター…複数の学校等に向けてオンラインで授業を配信する拠点。これにより、生徒の多様な学習ニーズに応じた教育課程の提供等が可能となり、小規模校をはじめとする各学校における学びの質を確保することにつながる。

<オンライン教育センター（仮）を設置した際の運用のイメージ>



<教育空間の拡張のイメージ>



<圏域ごとの今後の必要学級数の推移及び再構築後の姿>

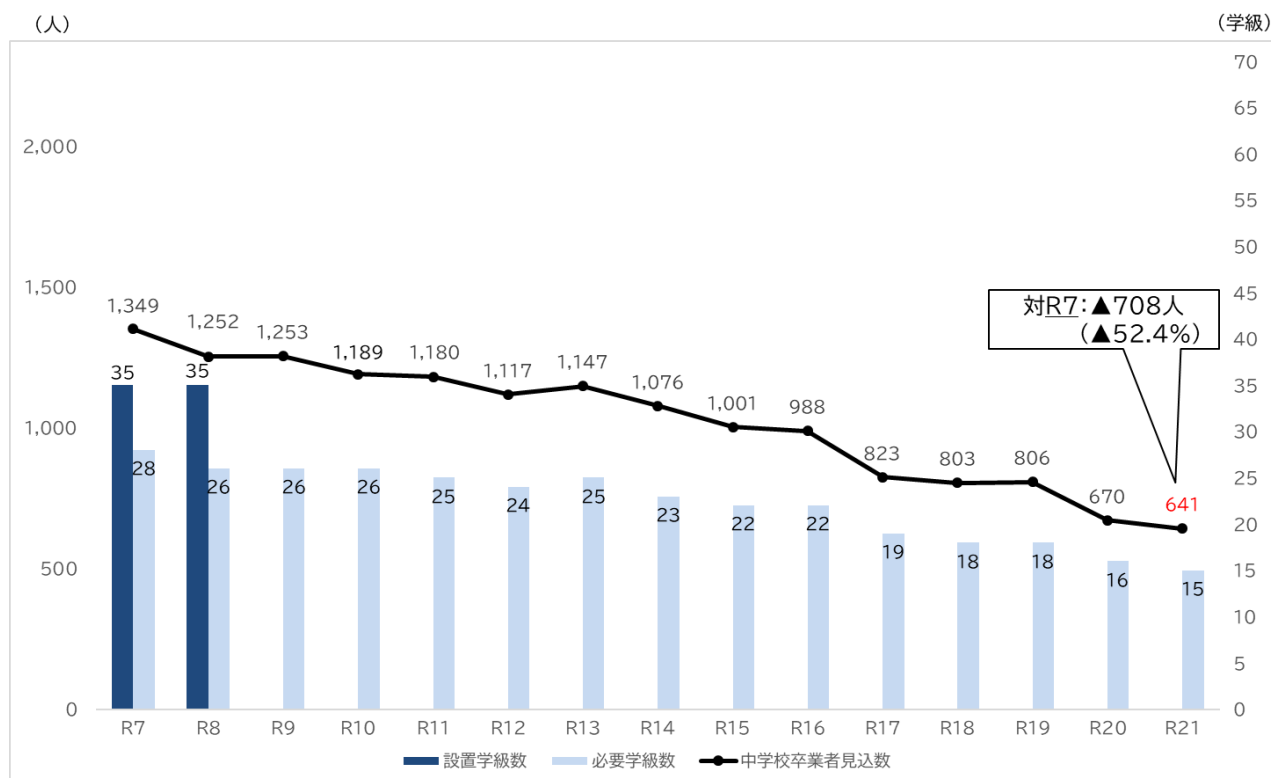
①南部地区

【現状】

令和7年度 1,349人（中学校卒業生見込数）／全日制35学級（設置学級数）

【令和21年度の姿】

令和21年度 641人（中学校卒業生見込数）／全日制15学級（必要学級数）



- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びを確保します。

※必要学級数…1学級当たり40人として推計している。

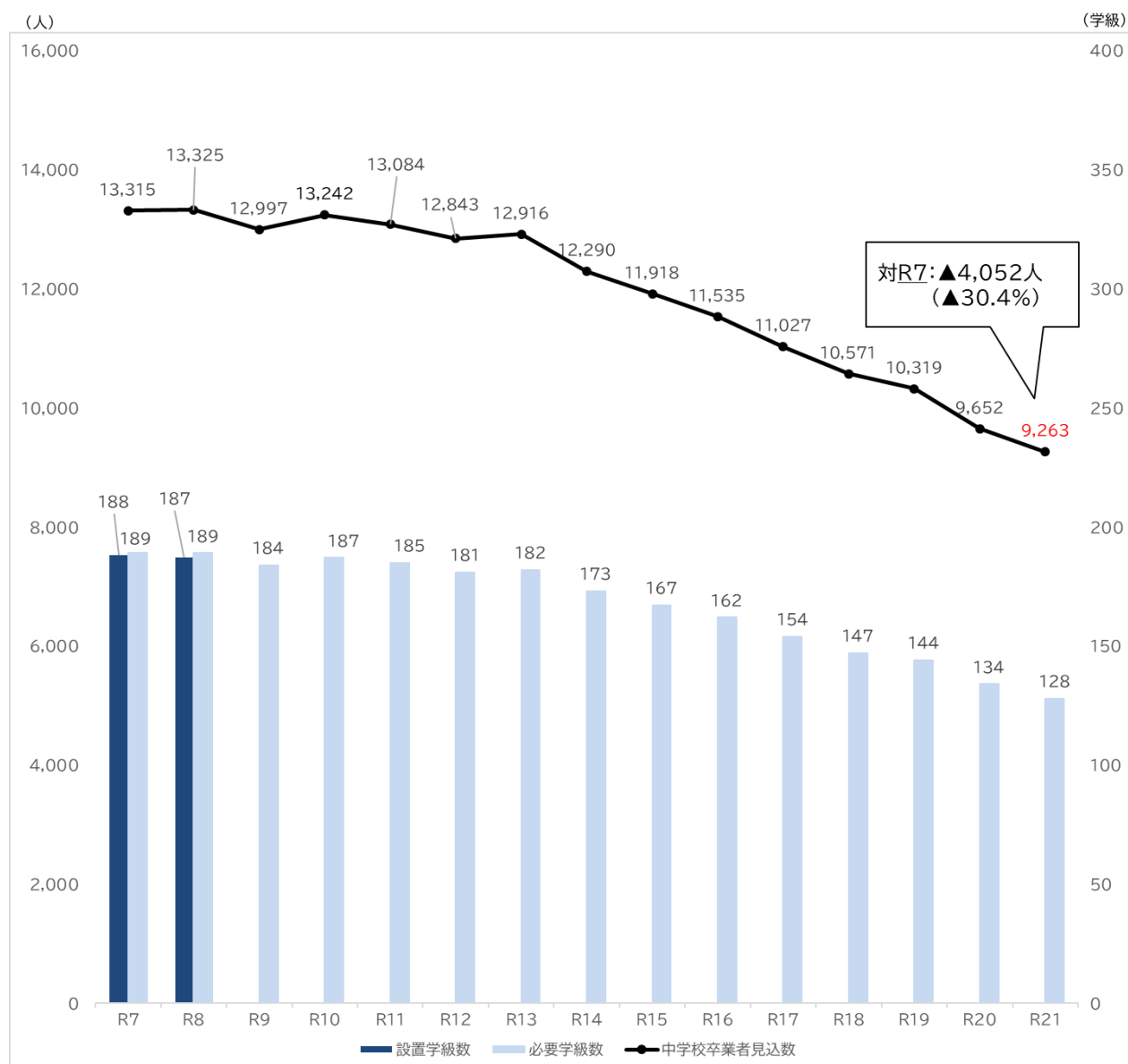
②中部地区

【現状】

令和7年度 13,315人（中学校卒業者見込数）／全日制188学級（設置学級数※）

【令和21年度の姿】

令和21年度 9,263人（中学校卒業者見込数）／全日制128学級（必要学級数※）



○ 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学びを確保します。

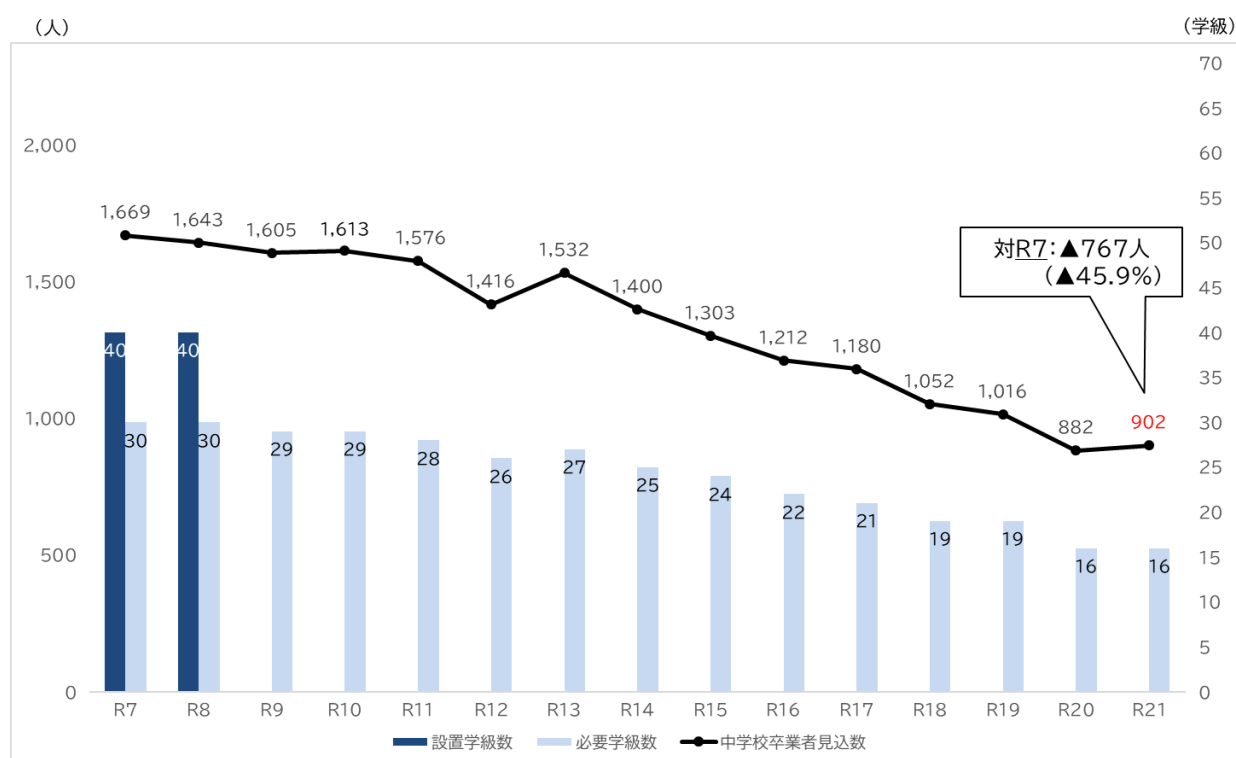
○ 大学や企業との連携による先端技術を学べる農業系、工業系の専門学科の基幹校を配置します。

※設置学級数、必要学級数…中部地区の設置学級数及び必要学級数には、県立高校のほか、市立高校の学級数を含む。

③-1 大崎地区

【現状】

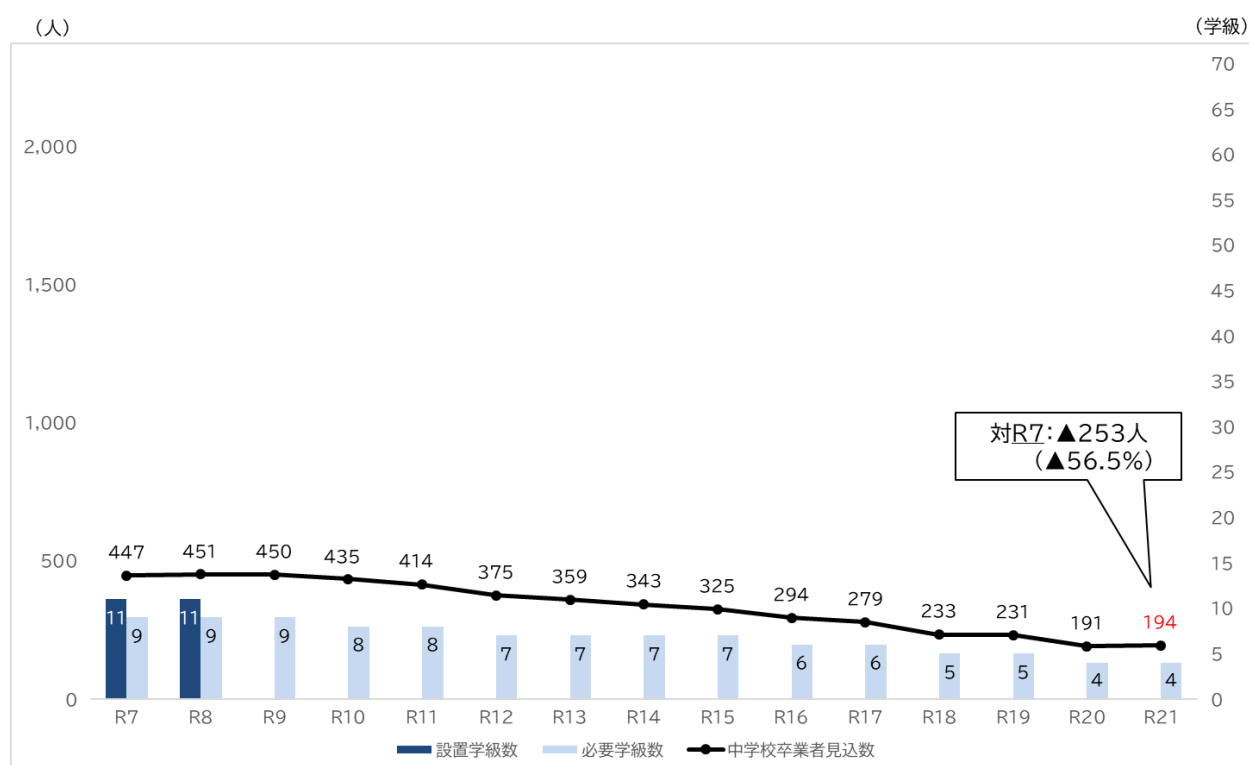
令和7年度 1,669人（中学校卒業生見込数）／全日制40学級（設置学級数）



③-2 栗原地区

【現状】

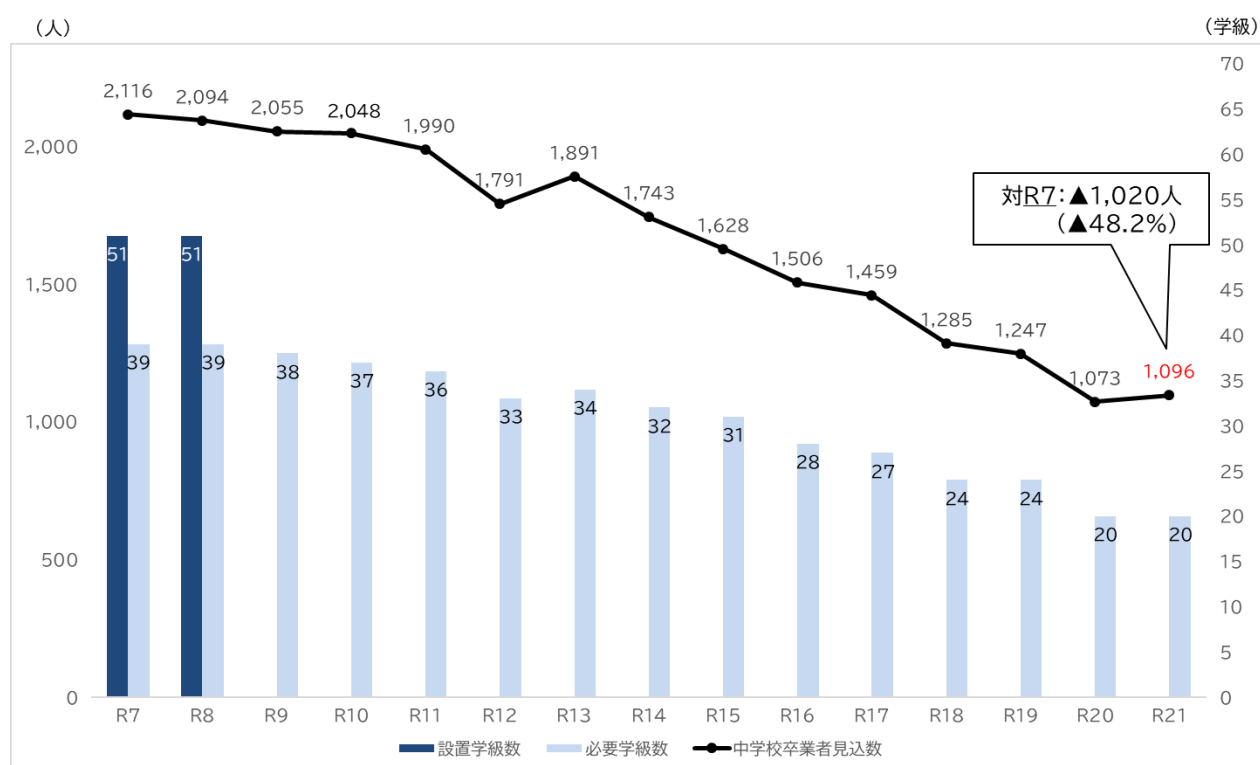
令和7年度 447人（中学校卒業生見込数）／全日制11学級（設置学級数）



③北部地区（大崎地区＋栗原地区）

【令和2年度の姿】

令和2年度 1,096人（中学校卒業生見込数）／全日制20学級（必要学級数）

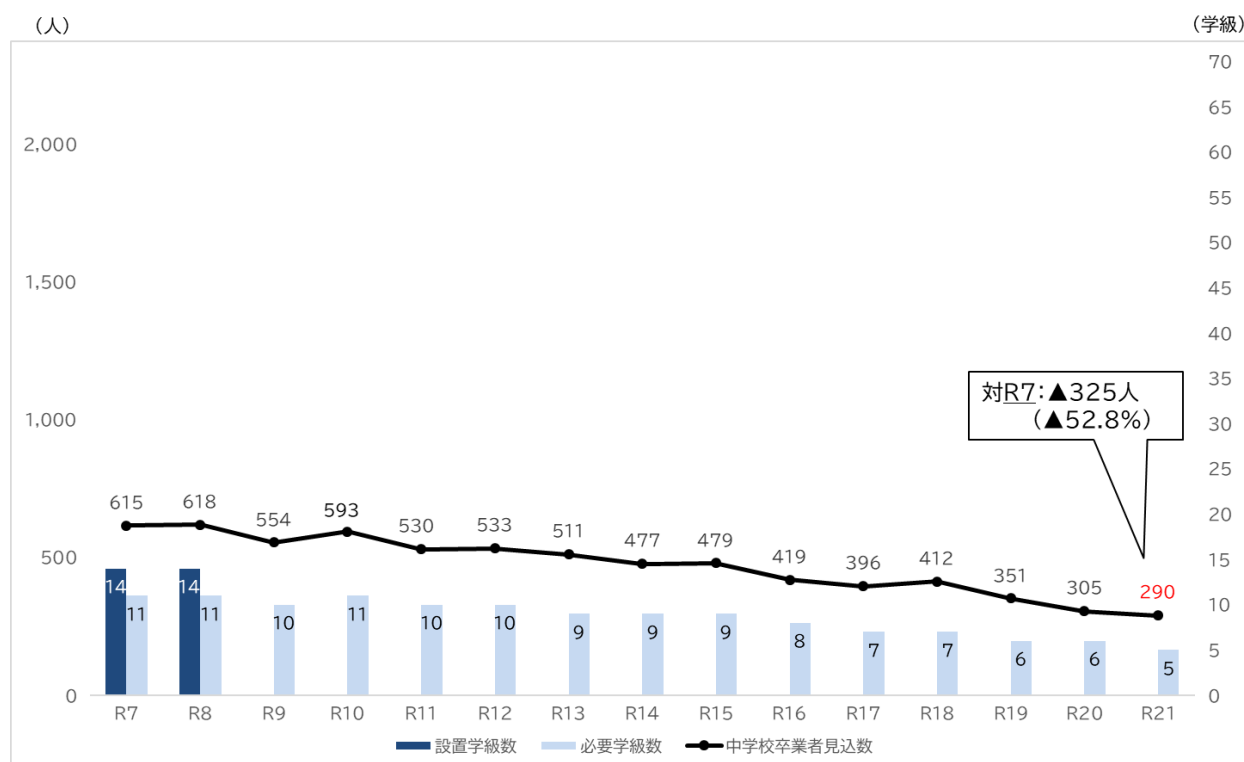


- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系や商業系の学びを確保します。

④－１ 登米地区

【現状】

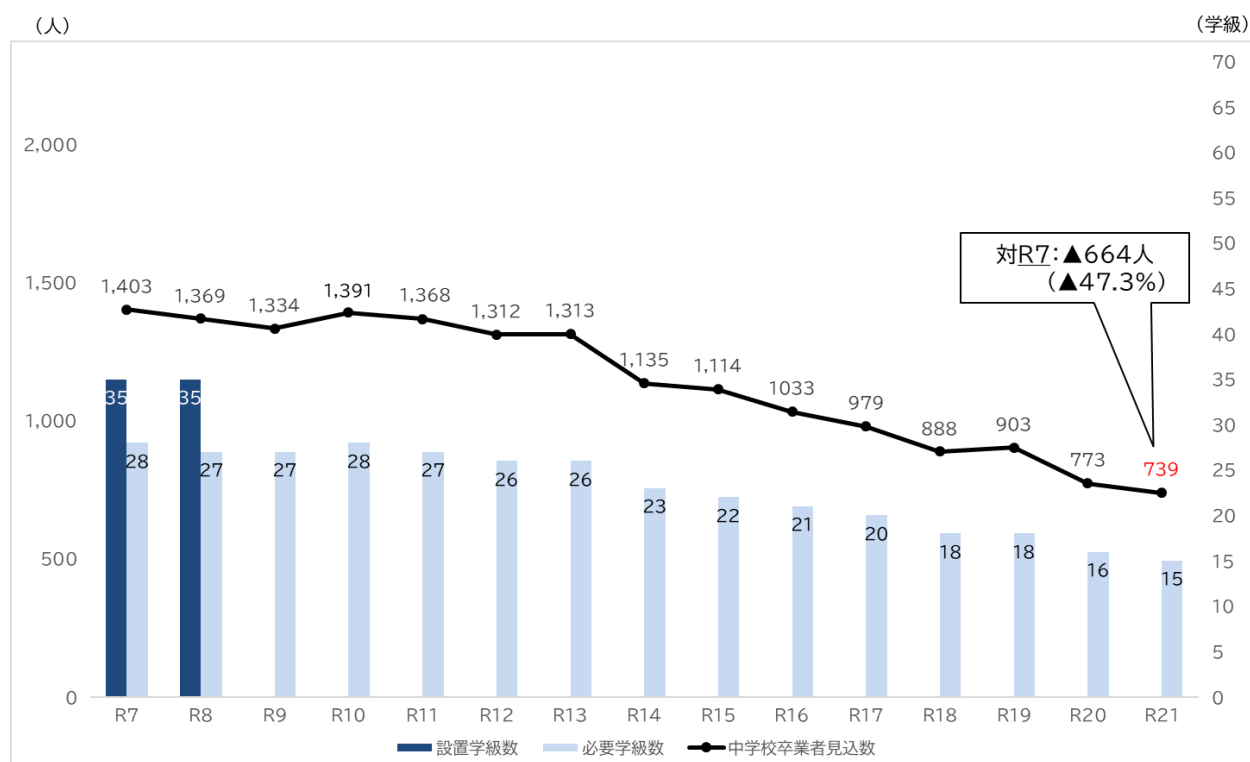
令和7年度 615人（中学校卒業生見込数）／全日制14学級（設置学級数）



④－２ 石巻地区

【現状】

令和7年度 1,403人（中学校卒業生見込数）／全日制35学級（設置学級数※）

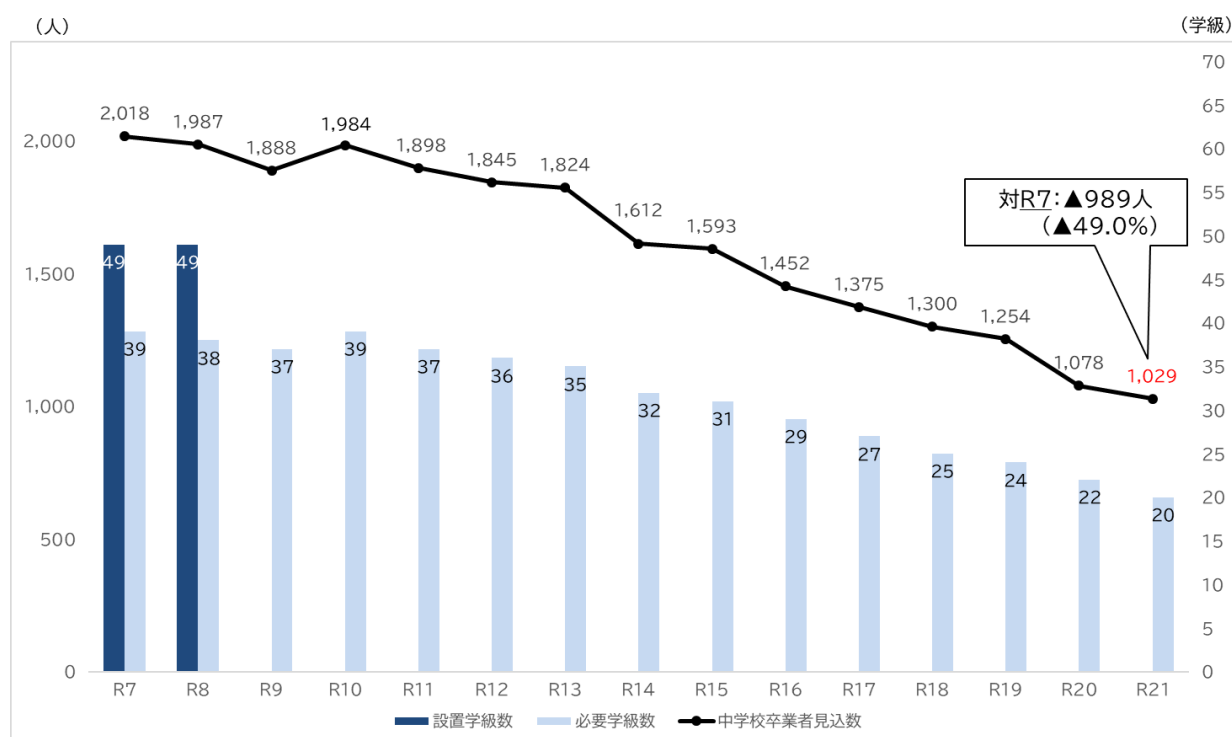


※設置学級数…石巻地区の設置学級数には、県立高校のほか、市立高校の学級数を含む。

④東部地区（登米地区＋石巻地区）

【令和2年度の姿】

令和2年度 1,029人（中学校卒業生見込数）／全日制20学級（必要学級数※）



- 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、農業系、工業系、商業系や水産系の学びを確保します。

※必要学級数…東部地区の必要学級数には、県立高校のほか、市立高校の学級数を含む。

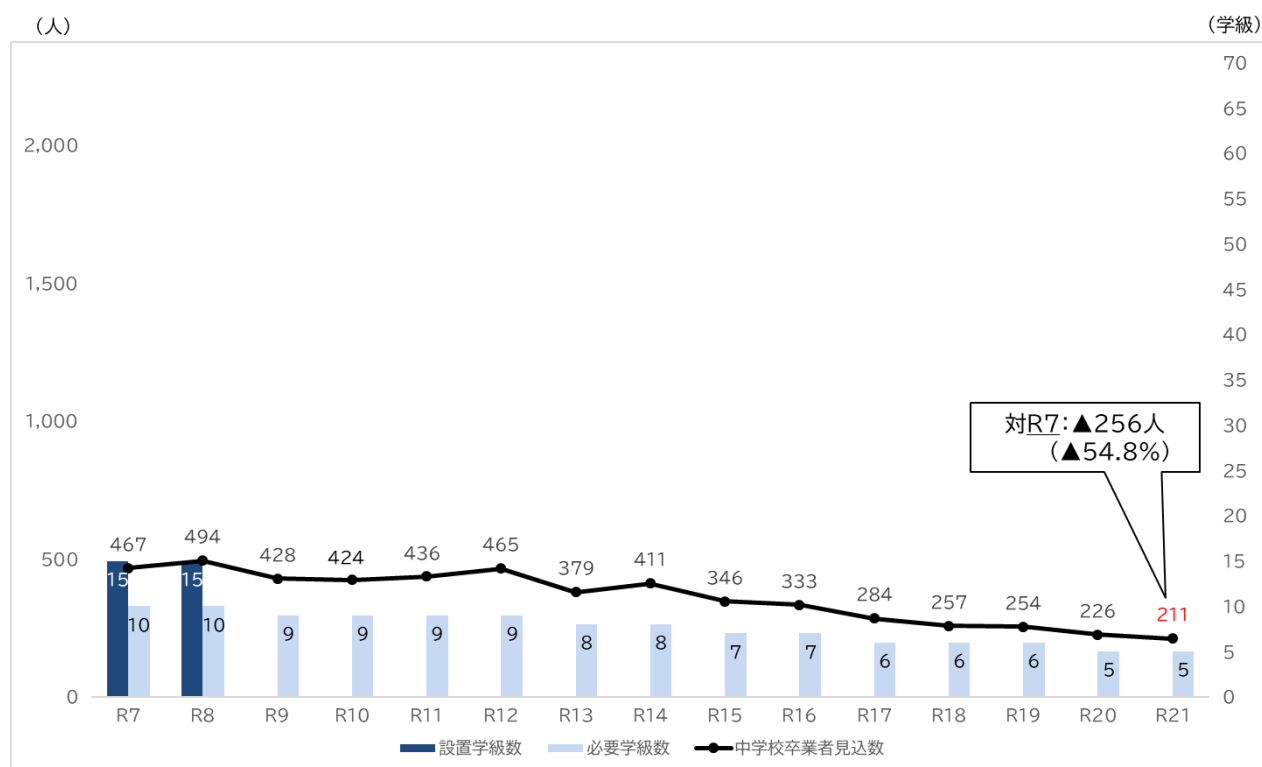
⑤気仙沼地区

【現状】

令和7年度 467人（中学校卒業生見込数）／全日制15学級（設置学級数）

【令和21年度の姿】

令和21年度 211人（中学校卒業生見込数）／全日制5学級（必要学級数）



○ 大学進学や探究的な学び、特色ある探究的な学び、工業系、商業系や水産系の学びを確保します。

第5章 将来構想の推進

1 学校・家庭・地域の協働の必要性

- 将来構想の推進に当たっては、コミュニティ・スクールの仕組みも積極的に活用するなどして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を分担しながら連携・協働することが重要です。
- 地域の特色や多様な地域資源を教育に取り入れ、実社会と結び付いた学びを展開できるよう、企業や関係団体等との連携体制を構築します。
- 地域の実情や生徒の教育的ニーズに即した魅力ある高校教育の実現に向けて、市町村との連携・協働を一層推進します。

2 持続可能な学校教育の推進

(1) 社会に開かれた教育課程の推進

- 学校が地域や社会との連携・協働を深め、現実の社会や地域課題、文化・歴史等を学びに入れることにより、生徒が地域への理解を深め、社会の一員として必要な資質・能力を身に付けられる教育課程を編成・実施します。

(2) 外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保

- 構想の実現に向けて、探究学習や専門的な学びなどに必要とされる地域や外部機関との連携・調整などを担う外部人材の任用などにより、教育環境や学習機会の充実を図り、国や市町村、企業、関係団体などの人材・資金・設備等の外部リソースも効果的に活用するなど、必要な体制を確保します。

(3) 教職員の支援体制

- オンライン教育などデジタル技術の活用による教育手法の変化や、生徒一人一人の学び方、進路希望など、多様化する生徒の教育的ニーズに応えるため、時代に応じて求められる資質能力の向上に関する研修や、教職員の学びを支える人材育成の充実などにより、教職員が安心して教育現場で活躍できるよう支援します。
- 教職員が教育活動に専念できる環境を整えるため、ＩＣＴの効果的な活用などによる負担軽減を一層推進するほか、相談体制の充実などにより教職員を支える体制を強化します。
- また、教職員の心身の健康保持と指導力の向上を図り、生徒に対して質の高い教育を安定的に提供できる環境を整備します。

（４）生徒の相談・支援体制の構築

- 生徒一人一人の多様な背景や状況に応じた支援を充実させるため、学習面や生活面、進路面などにおけるきめ細かな相談・支援体制の構築や、関係機関・地域との協働を通じて、生徒が安心して学び、将来への希望を持って成長できる環境の整備を図ります。

（５）教育環境の充実

- 生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実習施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。

３ 入学者選抜の在り方

- 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。

４ 将来構想の推進に向けた適正な進行管理

（１）社会情勢の変化に応じた進行管理

- 人口動態や社会情勢の変化、国の制度改正や新たな教育施策の動向を把握し、本構想に掲げる方向性や取組内容に変更の必要が生じた場合には見直しを行います。

（２）適正な進行管理

- 市町村や企業、関係団体のほか、教職員や保護者、こども※などの多様な関係者の意見を伺いながら、構想の実現に必要な実施計画の策定などを立案・推進する体制を構築し、各施策の進捗状況や課題を把握しながら進行管理を行います。
- また、構想開始から６年が経過した時点で、高校教育を取り巻く現状と課題や社会情勢の変化を踏まえて、検証を行うとともに、その内容が適切であるか確認します。

※こども…こども基本法第２条における「こども」のことを意味し、心身の発達の過程にある者をいう。